

八馬馱載或は騾馬
問題となる砲身は一三〇瓩の内管と
八一瓩の被套とに分解してゐる。八箇
に分解馱載してゐるが、一番重い荷物
は前砲架の一三三瓩である。

騎砲 各國共輕野砲に過ぎない。騎
砲として獨特の構造を有するものは見
當らない。輕野砲を一部分の構造の變
更に依つて更に輕量ならしめたもので
ある。但し近頃の騎兵が機械化せられ

つゝある傾向に應じて騎兵も亦單なる
馬四輓曳のみでなく機械牽引し得る様
になつて來てゐる。次に騎砲の諸元を
掲げる。

砲種	諸元	口径(耗)	初速(秒米)	最大射程(米)	彈量(瓩)	放列重(瓩)	全備重(瓩)	砲架	備考
蘇九〇二年式	騎一	76.2	593	8.750	6.4	1.210	1.670	單一箭材	
M米 I 騎砲		75	381	8.230	6.85	865		脚開	
佛シ ユナイダ		75	440	9.600	6.33	870	1.330	單一箭材	
英三封度騎砲		76.2		7.860	5.9	950	1.650		

野戰重砲 各國共に十加及十五瓩で
あるが之を師團砲兵としてゐる國と、
軍或は軍團砲兵としてゐる國とがあ

る。
野戰重砲は構造上自然重量の制限を
受けて一門を其の儘三駟輓曳せしめる

ことは不可能であつて、之を二車輛(多
くは砲架車と砲身)に分解して各々を
三駟で輓曳せしめるか、一門の儘なら

十五瓩 近年の十五瓩の特徴は之も
亦射程の延長に在り、一面彈量を増大
して單一彈丸の效力を増大した點であ

らう従つて榴彈砲と言ひながら砲身は
甚だ長大なものがあつて一見加農と見
誤らしめるものがあり、反對に前述の

十加は曲射彈道を得ようが爲に變裝藥
としてゐるものが大部分である。勿論
十加の場合最大射程附近を射撃するこ

砲種	諸元	口径(耗)	長身砲(口径)	初速(秒米)	彈量(瓩)	最大射程(米)	射界	放列重(瓩)	砲架	備考
蘇九〇一三〇式	十一	107	40?	580	16	16.000	高低 45 方向 30	2.200	單一箭材	更ニ新式ノモノアリ
獨ラ イ加メタル	十	105	53	890	15	20.000	-31 +45	5,700	脚開	
佛シ ユナイダ	十	105		735	16	17,000	0 +45	3.375		
英ビ ニッカ	十	120	37	707	22	14.700	-5 +42	4.877		

ば機械牽引とするのが普通である。我
が國に於て嘗て三八式十加及十五瓩が
四駟を以て輓曳せられてゐた時代もあ
つたが、火炮の性能増大に伴ふ重量増
加と機械牽引の進歩に因る牽引力の増
大と相俟つて、此の級の火炮を機械牽

引とすることが世界的の傾向の様であ
る。
十加 世界大戰以來火炮の射程が増
大したことは驚くばかりであつて、三
八式十加は當時長射程の中に入つてゐ
たのであるが、其の最大射程は一萬に

過ぎないのに反して、今日九〇式野砲
の如きは一萬三千を超えてゐる。従つ
て野砲中の長射程砲たるべき十加は今
日少くも一萬六七千から二萬位を撃た
なければならぬ。今各國の十加の諸
元を掲げると次の如くである。

以下必ずしも新式火砲のみとは限らぬが現用各種火砲の性能を記する。野砲及野戰砲之を口径から見ると七五耗、八三、八耗(三三三吋)(以上加長)、九四耗、一〇五耗、一二二耗(四・八吋)(以上榴彈砲)が先づ主なるものである。前者は即ち野砲で後者は

輕機と稱すべきものである。此砲は從來各國共に野戰に於ける主砲とも云はれる程多數に裝備せられて居たもので、六馬又は八馬にて牽引されて居たものである。今参考の爲我が國の制式野砲の諸元(公表)は次の通である。

九五式野砲	六、〇〇〇	一、五〇〇	最大射程 全備重量 (砲)
九〇式野砲	三、〇〇〇	二、〇〇〇	
改造三八式野砲	九、〇〇〇	二、〇〇〇	

次に輕榴彈砲に屬すべき各國火砲の諸元を表示する。

諸元	九四耗	一〇五耗	一二二耗	一三三耗
口径(耗)	105	105	105	122
長身砲(口径)		27.5		
初速(秒米)	145	220	450	221
彈重(耗)	442	610	16	335
最大射程(米)	16	15	16	23
射界(度)	11,000	13,700	10,000	7,700
方向高低	58	8-10	各2	各2
射界(度)	-6+50	6 床板上 360	-10+40	-8+45
重量(耗)	1,627	2,165	1,800	1,360
架砲	脚開	脚開	脚開	脚開
備考	最近制式ニ採用シタト 言ハレルモノ		現制式ハ脚開式デ更ニ 大ナル性能ヲ有スルモ ノト考ヘラレル	制式裝備

山砲 野砲に相當する口径六五―七五耗級の火砲を分解して駄載し得る様にしたことは各國軍とも共通してゐるが、野砲の様に口径増大の傾向が見えることは當然でもあり又注目すべきことである。即ち一般の七五耗級の山砲と共に十耗級の榴彈砲をも分解駄載して山地に使用しようとしてをり、更に十五耗級の山地榴彈砲も考へられてゐるが、之は砲身の重量が相當大となり、到底一部品として一馬に駄載することは出来ないで、各國とも考を進めてはゐない様である。

身は他の部分と異つて二つに断ち切るわけにもいかないで、せいゝ閉鎖機、藥室被蓋の部分と施錠部との二部分に分ける位である。そして一馬の駄載し得る重量は先づ一〇〇―一二〇位(鞍を除き)であるから砲身重量約一〇〇耗といふことが山砲の性能の限界を定めることになる。即ち砲身重量約一〇〇耗、口径七耗半といふ前提に依つて生れる性能は、砲身長概ね十五口径、最大射程五、〇〇〇乃至七、〇〇〇米といふのが現在各國の七耗級山砲に見られる所である。そして約一〇〇耗の砲身を載せた砲車の重量は約五〇〇乃至六〇〇耗、従つて概ね五馬或は六馬に駄載することになる。

度のもを各國が如何に製作し、裝備してゐるかは不明であるが、代表的なものとして、佛國のシユナイダーが作つてゐるものの諸元を掲げて見れば、

十九日	十一米
榴一	榴二
式	八 年 式
105	105
	473
	15
10,000	11,000
	45
	-5+45
2,000	1,700
脚開	脚開
公表諸元	

八馬駄載或は騾馬
問題となる砲身は一二〇呎の内管と
八一呎の被套とに分解してゐる。八箇
に分解駄載してゐるが、一番重い荷物
は前砲架の一二三呎である。

騎砲 各國共輕野砲に過ぎない。騎
砲として獨特の構造を有するものは見
當らない。輕野砲を一部分の構造の變
更に依つて更に輕量ならしめたもので
ある。但し近頃の騎兵が機械化せられ

つゝある傾向に應じて騎兵も亦單なる
馬匹輓曳のみでなく機械牽引し得る様
になつて來てゐる。次に騎砲の諸元を
掲げる。

砲種	諸元	砲種	諸元
騎一蘇 砲〇二年式	口径 (耗)	騎シ佛 ユナイ イダ イ	口径 (耗)
76.2	75	75	76.2
593	初速 (秒米)	440	381
8.750	最大射程 (米)	9.600	8.230
6.4	彈量 (呎)	6.33	6.85
1.210	全重 (呎)	870	865
1.670	全備重 (呎)	1.330	1.650
砲架	砲架	脚開	脚開
砲架	砲架	脚開	脚開
砲架	砲架	脚開	脚開

野戰重砲 各國共に十加及十五榴で
あるが之を師團砲兵としてゐる國と、
軍或は軍團砲兵としてゐる國とがあ

る。
野戰重砲は構造上自然重量の制限を
受けて一門を其の儘三聯輓曳せしめる

ことは不可能であつて、之を二車輛(多
くは砲架車と砲身)に分解して各々を
三聯で輓曳せしめるか、一門の儘なら

十五榴 近年の十五榴の特徴は之も
亦射程の延長に在り、一面彈量を増大
して單一彈丸の效力を増大した點であ

らう従つて榴彈砲と言ひながら砲身は
甚だ長大なものがあつて一見加農と見
誤らしめるものがあり、反對に前述の

十加は曲射彈道を得ようが爲に變裝藥
としてゐるものが大部分である。勿論
十加の場合最大射程附近を射撃するこ

砲種	諸元	砲種	諸元
蘇一 九一〇一三〇式	口径 (耗)	獨十 イ 加 メ タル	口径 (耗)
107	105	105	107
40?	長身砲 (口径)	53	40?
580	初速 (秒米)	890	735
16	彈量 (呎)	15	16
16.000	最大射程 (米)	20.000	17,000
45	高低	-31 +45	-5 +42
30	方向	55	50
2.200	全重 (呎)	5,700	3.375
砲架	砲架	脚開	脚開
砲架	砲架	脚開	脚開
砲架	砲架	脚開	脚開

ば機械牽引とするのが普通である。我
が國に於て嘗て三八式十加及十五榴が
四聯を以て輓曳せられてゐた時代もあ
つたが、火砲の性能増大に伴ふ重量増
加と機械牽引の進歩に因る牽引力の増
大と相俟つて、此の級の火砲を機械牽

引とすることが世界的の傾向の様であ
る。
十加 世界大戰以來火砲の射程が増
大したことは驚くばかりであつて、三
八式十加は當時長射程の中に入つてゐ
たのであるが、其の最大射程は一萬に

過ぎないのに反して、今日九〇式野砲
の如きは一萬三千を超えてゐる。従つ
て野砲中の長射程砲たるべき十加は今
日少くも一萬六七千から二萬位を撃た
なければならぬ。今各國の十加の諸
元を掲げると次の如くである。

とはそんなに履きはないので小射程の場合に砲身を愛惜するといふ意味のあることも勿論である。

砲種	口径(耗)	長身砲(口径)	初速(秒米)	弾量(斤)	最大射程(米)	射界	高低	方向	放列重量(砲)	砲架	備考
蘇一九〇九—一九三〇年式	152	20	600	40	11,000	射界	+45	3	2,700	単一箭材	更ニ新式ノモノアリ
獨五イ	149	32	600	42	15,000	射界	+45	50	5,700	開脚	砲架ハ前述十加ト共通
佛一九二九年式十五榴	149	21	635	38	15,000	射界	+45	40	5,175	開脚	
英十五榴	150	22	595	41	15,000	射界	+45	45	5,226	開脚	

大威力重砲(十五加、二十榴) 日露戦争迄は十五種以上の火砲は要塞のもので先づ野戦には使はれないものと相場が定つてゐた。然るに日本軍が旅順要塞の攻撃に二十八榴榴砲を使用したことは、近代戦に於ける大口徑砲の野戦的使用の嚆矢を爲すものであつ

て、正に兵器史上特筆すべきことであつた。世界大戦に於て獨軍が四十二榴榴砲を白耳義要塞に對して使用したのも、其の著意に於ては吾人の精粕を管めたものと言ふべきであつて、此の點は彼等も亦認めてゐるやうである。二十八榴と迫撃砲とは日露戦争の兵器

方面に於ける二大傑作と言ふべきであつた。さて旅順に於ける二十八榴は單に我が海岸要塞のものを取脱して使用したに過ぎず、其の構造に於て何等野戦的使用に適するものではなかつたが、世界大戦に於て獨軍の使用した四十二榴

砲種	口径(耗)	長身砲(口径)	初速(秒米)	弾量(斤)	最大射程(米)	砲架式	放列重量(砲)	接續砲車重量(砲)	備考
蘇チエコ	十五加					簡單裝材一輪	14.040	10.030	
瑞典	十五加					簡單裝材一輪	10.200	8.300	
和德里	十五加					簡單裝材一輪	10.060	6.250	
								6.250	
								6.250	

は最初から野戦に使用する目的で裝輪砲架とし、戰場を容易に移動し得る様にした點に於て近代、重砲の眞の先驅を爲すものであらう。今日有ゆる口径の重砲が移動性を附與され、思ひがけない大口徑の砲彈が要塞ではない野戦の戰場に於て吾人の頭上に落下し來ることのあるべきを覺悟しなくてはならぬ。

大口徑重砲に移動性を附與するには

二つの方法が採られた。一は列車砲とするものであり、他の一は自動車の發達に依つて重い火砲材料を適宜分解して強力な牽引車に依つて運搬しようとするものである。列車砲は大なる移動性を有するとはいへ、其の範圍は線路上に限られるので、寧ろ移動砲臺と稱すべきであるから、茲には省いて、後者に就て述べよう。

今日各國共に裝輪式十五榴榴砲 其のものを持つており、我が軍に於ても四五式の裝匣式に代つて八九式の裝輪十五加農の生れてゐることは周知の通である。そして裝輪式十五加の性能を通覽するに其の射程は概ね二〇、〇〇乃至二五、〇〇米、弾量は四五五乃至五〇五、放列重量十斤乃至十五斤砲身車と砲架車に分解し牽引車で牽引するのが普通である。今各國に於ける若干の例を左に表示する。

獨 ク ル ツ ブ 十五加	佛 シ ユ ナ イ ダ ー 十五加
155	155
50	50
900	900
50	50
26.000	26.000
開脚 裝軌 簡單裝材一輪	開脚 裝軌 簡單裝材一輪
17.400	10.140
9.000	6.000
12.000	8.200

二〇級榴彈砲 野戰重砲に於て十加と十五榴とが一對を爲してゐる如く、之より一段上の重砲に於ては十五加と二十榴とが一對を爲してゐる。而して裝輪式の大威力重砲は先づ此の程度が限度で、此の級迄の火砲は概ね砲身車、砲架車の二車に分解し牽引車で牽引して野戰的に運動することが出来るのである。此の級より大きくなると機械牽引が出来るとは言へ寧ろ固定砲架の火砲の材料運搬を機械力に依つてゐるといつた方が適當で、機動性のある火砲とは言へないであらう。

二十級級裝輪榴彈砲の性能を通過すると射程は概ね一〇軒を目途とし、放列砲車の重量も約一〇噸以内、榴彈砲である關係上十五加よりも寧ろ軽く、彈量は一三〇斤見當である。

砲種	諸元	口径(耗)	長身砲(口径)	初速(秒米)	彈量(斤)	最大射程(米)	砲架式		放列重量(斤)	接續砲車重量(斤)		備考	
							砲架式	砲架式		砲身車	砲架車		
英 ビ ツ カ ー ス 二〇榴	獨 一 九 一 八 年 式 二 一 榴						簡單裝材一輪	輪附履裝帶	9.093	6.800	10.500	10.500	

二伊	一	榴	210	22	57.0	102	16.000	開脚 裝輪	15.800	8.200	10.800	最近ノモノナリ
----	---	---	-----	----	------	-----	--------	-------	--------	-------	--------	---------

觀測機關の編制裝備 砲兵觀測機關の編制に於て著目されるのは、各國共に測地、火光標定、音源標定の様な比較的重い觀測機關は師團或は軍團に於て一總めにして獨立した部隊を形成する方法を採つてゐることである。即ち大、中隊などには輕易な觀測器材のみを與へて面倒な測地なんかは専門の部隊がやつて、其の成果を各隊が利用するやうにしてゐる。今此の方面の各國の編制を見ると概略左の様である。

蘇軍 師團砲兵の聯隊本部の中に指揮中隊があり、其の中に觀測小隊がある。軍團砲兵の野戰重砲兵聯隊には搜索大隊があり、測地中隊、地上標定中隊、音源標定中隊、氣象小隊等を有してゐる。

英軍 師團には野戰輕砲兵聯隊、重砲兵聯隊と共に砲兵觀測大隊があり、此の大隊は測地中隊、火光標定中隊、音源標定中隊より成る。

米軍 軍團砲兵の野重旅團に音源及火光標定大隊がある、大隊は本部、本部中隊、中隊二より成り、中隊には火光標定小隊、音源標定小隊、通信小隊等がある。

空中觀測に就ては尙未解決の若干の問題がある。其の一は飛行機、他の一は氣球である。飛行機の發達に伴つて空軍化し、或

は既に空軍として獨立したつた國も多いで、地上部隊と協力する飛行機を如何にすべきやは研究の餘地が大きい。如何なる飛行機を使ふべきか、編制を如何にすべきか、又高射機關砲、驅逐機の發達した今日如何にして觀測すべきかも皆問題である。オートガイロといふものも砲兵協力用として各國に於て相當研究されつつあるが、之もまだ海のものとも山のものとも決定し難い。

氣球は飛行機の發達した今日、専ら砲兵の觀測機關と化したことは我が國の氣球が航空兵から砲兵に移管されたことに依つても明かであるが、之も亦空中戦力の増大した今日、大いに研究の餘地がある。

三、空輸部隊、降下部隊(落下傘部隊)

空中降下部隊(落下傘) 本研究は前大戦頃より各國共多少の關心を持ち、特に米蘇兩國に於て盛であつたが、一九二七年頃より研究を始めたソ軍は、遂に一九三四年に到り正規の落下傘部隊を認め當時之をデッサントなどと呼ばした。

ソ軍の降下部隊は、多數の爆撃機にて輕機又は小銃に依り武装せる部隊を所望の地點に運搬し、落下傘に依り降下せしめ、地上に到着するや直ちに戰鬥行動に着手し、要點を占領し、次で後援部隊として戰車、裝甲車、火炮等を携行する部隊を運搬し、適當なる地點に著陸して、先遣せる投下部隊と協力し戰鬥行動を進捗せしめんとするものである。

併し此の如き方法による一種の奇襲戰術が果して幾何の實用性あるやは、尙疑問視せられて居て、本春のソ芬戰

争に於ても、ソ軍の此部隊の活躍らしきことも聞えなかつたが、本年五月獨軍の和蘭席捲に於て、各地に此部隊を使用し、其兵力は落下傘一師團、次に述べる空輸部隊一箇師團で、多大の効果を收むるに到り最早其の實用化は疑ふ餘地なきに到つた。(歐洲戰亂記事参照)

而して之に使用する飛行機は爆撃又は旅客機等各種のものを用ゐて居るが、其の主要具たる落下傘については次の如くである。

落下傘は絹又は木綿、米國では近頃頻りに喧傳せられてゐるナイロンをも用ゐる、中徑約七米、面積は三十五乃至四十五平方米、重量六、五五乃至八五、之を用ゐて人員一人が降下する時は毎秒五乃至七米の速度を以て降下し來るのである。

落下傘には飛行機より飛び降りる時自働的に開くものと、降下者が自ら環を引くなどの方法により降下後若干秒の後に開かせる二方式があるようである。

るが、何れも傘の中心に孔が開いて居る、此の孔は傘が開く時のショックを緩和し、又降下中の安定をよくし、更に又空氣が傘の中に良く流れ込むようになるので浮力を大にする効があるのである。

さて此の落下傘を自働式に開かせるか、降下者が開くかは、降下する高度にも關係し、ソ軍のものは後者を採用し、獨軍のものは自働式が多いと傳へられるのは次に述べる其の用法にもよるのである。

即ちソ軍の落下傘は概して千米或は以上の高空より白晝公然と降下する寫眞が示すように敵地の後方遠き奥地に降下するものの如くも見られるが、獨軍の和蘭戰線に於ては薄暮又は天明前地上二百米位から隱密に地上に降下した例が多く、其何れを問はず戰場の廣狹、戰術的使用方法の差異から來てゐるので、其の何れを有利とは判定せられぬ。唯ソ軍降下部隊が未だ其の實價を示さぬのに比し、獨軍の降下部隊は

已に確實に實戰實用化して居ることを注意すべきであらう。

降下部隊は獨軍では一機十五人から二十人位を乗込せしめ、各人輕量なる自働小銃、輕機等を携帯せるは勿論であるが、獨軍では重機、輕機迄も分解して一人別々に降下し、降下後集結して其の威力を發揮したことも傳へられて居るが、斯くの如き手段は前記の如く隱密且低空よりの降下に非ざれば困難であらう。

最後に降下中の兵員の射殺については獨國は英國及蘭國に對し抗議したことも傳へられたが、ソ軍式の高空降下者は敵影なき奥地に非ざる限り此の危険は免れざるべく、又將來國際公法陸戰法規に關する新問題となるかもはかられぬのである。

空輸部隊 先年のスペイン内亂に於て、獨逸がフランコ軍を援助した時、獨軍用機三十機を以てモロッコからスペイン迄、土民軍約一萬を一週間の間に輸送したのが、此の方法の最初の實

現と見るべく、落下傘部隊と同じく、それ迄各國軍事界で研究題目となつて居たものが始めて實用具體化されたのである。

従つて今次歐洲戰亂に於ても、波蘭戰場をはじめ各戰場で、各國共に多少共此空輸部隊を使用し、ソ軍は芬蘭に於て相當大規模に之を使用したやうであるが、眞に其の効果を發揚し勝敗の決に多大の寄與をしたのは、別項「歐洲戰亂記事」に見る如く、ノールウェー戰線に於て獨軍が行つたものである。

即ち海上の軍隊輸送が優勢なる英海軍に脅威せられて多大の困難を感じた獨逸は自國又は丁抹より一葦帶水のオスロに向つて空輸を行つたが、それよりも各個に孤立して英佛軍の奮闘を續けて居たトロントハイム、ナルヴィク等の友軍増強に大規模且つ有効に實行して戰局に重大なる影響を與へた。

當時軍事専門家の計算によれば、ドイツが此空輸に使用したと思はれる最

新エンカー機は三十人乗であるから、獨逸、南諾間なら一日三往復、ナルヴィクとしても二往復は出来るから一萬の軍隊空輸には、三十機を用ひて四日間と云ふことになるし、以て其有用なることが分る。駐日獨大使館グラナウ大佐によればドイツ本國より一週間に歩兵三師團を輸送し之に使用したのは二百機との事である。

獨軍は其他にも盛んに此の空輸部隊を使用して居るが、之に使用せる飛行機は、十六人乗の舊式一般旅客機でも差支ないし、又例のエンカー五二型の一機に三十人、又はコンドル機に五十人を乗せて輸送して居る。

以上の落下傘及空輸法は、兵器又は裝備上の新案としては第二次的のものに過ぎなく、唯今次歐洲戰亂に於て正に實用化し有力視せらるゝに到つたものであるから、今和蘭戰線に於ける此兩者の活躍振りを總一括すると、獨逸軍は和蘭では落下傘二師團、空中歩兵一個師團を使用し、兵員の武装として

は自動式輕機の外、折疊式自轉車を携帶、空中歩兵師團長も幕僚と共に自らロツテルダムに降下して之を指揮したと傳へられる、昨春バルカン方面作戦最終のクリート島攻略に到りては獨軍空輸及落下傘部隊の活躍は其の最高頂に達したと云つてもよいほど其實力を發揮し同島の攻略は殆ど此の戦法によると云つても過言でなく、更に破天荒とも稱すべきグライダーをも利用してゐる。

グライダー空輸其他に關しては本書航空篇冒頭に詳述してある。

四、軍の機械化及機械化部隊

(1) 軍機械化の理念と趨勢

四年の長年月と四千億圓に及ぶ國帑を消費し、各國其國力を賭して戦つた前大戦も、戦後久しからずして早くもベルサイユ條約調印、國際聯盟成立と背馳し、年々醸成された世界不安に對

しては、列強齊しく數次の陸海軍縮減議に出席しては陽に平和を主張し乍ら國內に於ては已に大戰直後より戰略、戰術、武器、器材は勿論新戰術、新兵器等の研究に着手し、如何にして「次の戦争」に於て勝利者たるべきかに苦心没頭しつゝあつたことは、今更隠れもない現實であつたのである。

而して此等研究の對象が先づ前大戰に向けられ、政略、戰略、戰術、兵器等各方面に亘つて検討のメスを振ひ、就中最後の決をなす戰術の研究が、生しい前大戰勝敗の由つて来る所以を第一に取り上げたのも亦當然の發足點であつた。

抑も前大戰が四年有半に亘る長期消耗戦となつた事は戰術上より翻れば確に退歩であつた。其は火力萬能の弊に陥つて軍の運動性を忘れた爲であつた。茲に大戰の尊き體驗に基き漸次作戦指導の思想に一大變革を齎らし、之に裝備を一致せしむる爲先づ大空軍の擴張と並行し、戰車及自動車に依り軍

に絶大の武力と卓越せる運動性と堅韌なる防護力とを兼備せしめんとする所謂軍機械化と云ふことが重要視せらるゝに至つたのである。

併し又其半面には此の革新的傾向に對する有力なる反對意見もあり、各國軍事専門家の間には可成り久しい間論議が續けられたことも事實であるが、結局今日に於ては、將來戰の形態としては國家總力戰が豫想せられ、各國民は持久長期の經濟戰を覺悟せねばならぬが、戰略、戰術上の觀點よりせば、少くも部分的又は一戦局に於ては依然速戰速決主義こそ千古變らざるべき鐵則である結論に到達したのであつた。

此の如き速戰速決主義なる戰爭の指導方針より觀るも、同じく「武裝」「防護」「速力」の三者を兼備せる軍機械化こそ最も此主義に合致する勝利の鍵であるとの歸結を見たのも亦當然であつた。

斯くの如き思想に基き各國共軍機械化に關する研究の爲至大の努力を續け

て來たのであるが、最近に於ける世界然りであり、其と同時に我全土の二倍半にも餘る廣漠たる我占據地域内に於ける治安の維持には、所謂敵の企圖する神出鬼没のゲリラ戰に對して我も亦神速果敢なる行動を必要とする、更に世界軍事界特に英、米、蘇軍の軍備の情勢を考ふる時、高度軍機械化の促進は我作戦上並に東亞新秩序の建設上より緊要不可缺の急務である。

此の如くにして今次事變の成果に鑑み國民の軍機械化に關する關心と熱意漸く昂まりつゝある際、一昨年秋に於けるドイツのポーランドに對する作戦及ノモンハンに於ける皇軍將兵決死の忠戦殊に昨年五月に於けるドイツの對英佛電撃作戦は、全國民の心に甚大の衝撃を與へ、軍民朝野の間に軍機械化促進の必要が痛感せらるゝに至つたが、此の如き高度軍機械化の促進には國軍全般の科學的裝備を軍の要望する程度に達せしむる必要があり、更に之に必要な工業能力の飛躍的發達及國

民の科學的機械的的智能の向上を圖る事が緊要であることは之も多言を要しないところである。

(2) 戰車及對戰車砲

一、沿革

大戰後列強の戰車研究熱は益々盛んで技術上翻期的な進歩をなし、列強は其の裝備數の多きを競ひ空には飛行機、地には戰車を骨幹とする機械化部隊が近代化した軍隊の要素となつてゐる。

最新式戰車の進歩は其の速度の早いことである。速度を早くする爲に構造技術は極めて困難となり、有ゆる點に於て翻期的の改善を必要とした。前大戰にはじめて出現した頃の戰車の速度は八軒以下を普通とし十四軒に達するものは高速度戰車と認められたが、現在では三十軒、四十軒は普通で特別の構造により七十軒、八十軒今大戰亂には九十軒を走るものすら出現した。大戰當時の牛歩遅々の戰車は敵彈の目標となつて損害を受けることが多かつた

が速度が早くなつたので、敵彈の照準は困難となり射彈を被らぬ内に敵陣に突入することが出来る。又低速度の戰車は陣地戰専用であつたが、高速度の戰車は自動車と行動を共にし機械化部隊の骨幹となつて大規模の機動戰に參加し得るのは、今次事變及歐洲戰亂の幾多の戰例が之を實證してゐる。

速度の要求が益々大となつた結果、無限軌道と車輪とを併用するもの、即ち高速度の路上行進には護謨輪帶附の車輪を用ひ、路外の行動を必要とする場合には此の車輪の上に無限軌道を裝するもの、或は車輪と無限軌道とを相互に轉換し得るものなどが考案され、又上陸戰闘、渡河戰闘などの任務に眼する爲に水上に浮び陸上を疾走する水陸兩用戰車がある。

二、概説

現在使用せられてゐる戰車を大別すると、輕戰車、中戰車、重戰車、超重戰車、巡航戰車等の種類がある。此の分類法は各國に依つて區々であるが、

先づ重量より區別してゐるのである。此の外、装甲師團の發達に従つて装甲車輛が出来、之と同時に装甲牽引車も必然的に我々の前に現れて來たが、以上の戦車及装甲車等が對戦車砲の獲物たり得るもので其の性能は次の如くである。

(1) 装甲及重量

戦車の運動性よりすると、成るべく装甲板を薄くし軽量とすることを要求されるが、一方砲彈の侵徹効力を減少させる爲には成るべく装甲板を厚くする方がよいので、装甲板の厚みを増すことと輕量にして運動性を増大することとの兩者を満足するやうに戦車を設計製作せねばならない。

現在の戦車装甲車の装甲板の厚みは大體次のやうである。

装甲車級の装甲部	約 一〇耗
輕戦車級 "	約 一五耗
中戦車級 "	約 二〇耗 乃至三〇耗

重戦車級

約三〇耗以上

超重戦車級

約一〇〇耗に及ぶ

近來優秀なる金屬材料が生産されるやうになつた爲に薄肉強靱なる防弾鋼板が出来、其の爲に重量を輕減する傾向となりつゝあるが、蘇聯邦には五〇噸戦車、一〇〇噸戦車があるらしく、佛國にも七〇噸戦車と云ふのがあることである。

(2) 裝 備

裝備兵器は、各國戦車に依つて區々であるが、機關銃一乃至二銃を有するもの又は機關銃、戦車砲を併せ有するもの、七五耗乃至一五五耗砲と云ふ大きい火砲を裝備してゐるもの、高射機關銃又は高射砲を裝備してゐるもの等がある。

(3) 運 動 性

戦車は普通キャタピラー即ち無限軌道に依つて馳驅し、如何なる地形にも適するやうに出来てゐて、四五度位の傾斜を攀ち登り、一・五米位の障礙物を超越し、二米位の壕を通過し、重戦車

に至つては直徑六〇乃至七〇徑位の樹木を平氣で倒して前進することが出来る。

行動範囲は輕戦車級で三〇〇耗位迄重戦車級でも一〇〇耗位迄行動することが出来る。勿論地形、貯油量、發動機の馬力、戦車の重量に依つて差のあるのは當然のことである。

速力も前大戰の頃のものとは時速一〇耗にも及ばなかつたが、現在では時速三〇乃至五〇耗が普通で、路上二〇〇耗位出せる戦車も出現して來た。

(4) 發 動 機

戦車の發動機は大體空冷式の自動車用ガソリン發動機と同一であるが、蘇聯邦の一部ではディーゼル機關を、米國には航空機用發動機を裝備してゐるものもあつて、出力は小は六〇馬力より大は三〇〇馬力に及ぶものがある。

(5) 其 の 他

以上の他戦車指揮に必要な無線通信装置を有して短波通信をなし、戦車相互間に連繫を保ちつゝ行動するやうに居ると云はれる。

佛軍の九十二噸戦車に至つては一五噸又は七噸半の砲一門、機關銃二、機關銃一〇を具へて居ると傳へられるから、正しく陸の甲鐵艦又は動く要塞とも見られる、従つて其機關も頗る強力なものが要求せらるゝのは當然であつて、ディーゼル機關に重油を用ひてゐるであらうと傳へられる。尙前記の獨軍に鹵獲せられた佛軍七十二噸超重戦車も獨軍の精良な對戦車砲又は高射兼用對戦車砲により穿貫せられて居るのを見ると、戦車と對戦車砲との拮抗は將來各國軍事技術家間の興味ある課題であらう。

快速戦車—超重戦車又は超々重戦車が前述の如く使用せられて居る一方、同じく今次戦亂に活躍を傳へられる獨軍の準戦車は機關砲一、機關銃一のみを具へる快速のもので指揮官一、射手二、操縦者一が乗込み、對戦車砲に對抗するには、著しく其高さを減じて一米五十位、又其の形状も敵彈の貫徹力

なつてゐるものが多い。
三、機 關 銃
輕戦車—重量二—八噸、乗務員二—三名、路外に於ける時速二〇哩以上、行動半徑一〇〇哩以上、装甲板の厚さ半吋以上、機關銃一—二(機關銃二の場合には砲塔上に同軸に裝置し旋回して全周射撃が可能とされてゐる)である。
中戦車(輕い型のもの)—重量一—八噸迄、路外時速三〇哩、行動半徑一二五哩、装甲板の厚さ一時以上。乗務員五—六名、砲塔に同軸に砲一、機關銃一を全周射撃が可能なやうに搭載し、車體中に機關銃二を有する。(或場合には側面に小砲塔を設け之を裝置してゐる)
重戦車(重い型のもの)—歩兵に協同するもの、重量三〇噸迄、路外時速一五哩、行動半徑一〇〇哩、装甲板は前述の中戦車より厚く、主砲塔に輕砲一側面の小砲塔に機關銃三を有する。
超重戦車—三十噸以上の戦車については最初の間は理論的可能性は成立す

る。

るとしても、製作及實用に關し難點あり、加ふるに列國共に秘密にしてゐるので不明であり、従つて今次歐洲戦亂の白佛戰場に獨軍の花形として出現した七〇噸戦車は當時専門家の間にも一時疑問視せられたのであつたが、其後其實在が明かとなり、又佛軍に於ても七十二噸超重戦車を使用し、獨軍に分捕られた其の寫眞迄到着したので、其の外貌も見ることが出来た。今獨軍七〇噸戦車及佛軍九十二噸戦車につき外誌の所載記を要約すると、獨七十噸戦車は時速十耗乃至五十耗で、其の装甲は、最有力の對戦車砲と云はれる七十五耗砲に對しても防護十分であり(此の装甲は戦車の重量と相關々保あり、二十耗火砲に對して八噸以上の戦車、四十七耗火砲に對しては三十噸戦車に非ざれば對抗し得ず、七五耗火砲に對しては約百噸の戦車を必要とする云はれ、之が今回超重戦車の出現を見た一因子である)武装は機關銃數門、野砲より幾分小口径の火砲數門を備へて

を弱める爲め表面に見事なカーブを持たせ、之と快速とを以て、戰場を車の如く馳驅して、對戰車砲の餌とならぬようにし、オートバイを同行して速に敵の要地を一時的に占領する等の任務を果したのであるが、輕量快速は一方には重量の制限を受け二〇耗以上の火砲には無力であると云はれる。

特殊戰車—其他獨逸「裝甲部隊」誌によると、特殊戰車として、次の六種を掲げて居る。

通信戰車は戰車隊内に於ける情報及命令の傳達及上級或は比隣司令所（砲兵及歩兵）への情報及命令の傳達に任ずる。通信戰車は無線電話及無線電信送信装置を裝備し、火器は自衛上必要なるもののみを裝備する。路外走行性は他の戰車と同様である。

工兵戰車は戰車隊の水路及斷絶地の通過を容易ならしめ、地雷地帯を破壊又は地雷阻絶を行ふ任務を有する。例へば架橋戰車は裝甲の掩護の下に起重装置に依り比較的廣幅の障礙物上に橋

を押し出される。

水陸兩用戰車は水深の十分にある水路を浮游前進し得る（此の場合の最大速度は毎時一五浬である）。水陸兩用戰車は渡河の場合に橋頭の構成を容易ならしむる任務を有する。陸地に於ては輕戰車と同様に戰闘する。

煙幕戰車は戰車を以てする攻撃を掩蔽或は欺騙する爲に裝甲の掩護の下に煙幕を比較的廣範圍に亘り構成し得る。煙幕戰車は就中戰車隊及其他の部隊の敵よりの離脱を容易ならしむる爲に使用し、其の一部は瓦斯發射裝置を具へて居る。

火砲發射戰車は掩護物に據る近距離活目標に對して効果を發揮する。

輸送戰車は戰車の戰果の敏速なる利用を可能ならしむる爲に、敵の効力射下に於て散兵を戰車隊の後方より追送するのみならず、戰車隊及最前線に在る歩兵にも最も重要な戰闘資材特に彈藥を追送する任務を有する。

各種自動車
裝甲車 快速力を有し偵察、搜索、警戒に任ずる所謂裝甲自動車と稱するもので、四輪、六輪、裝軌式等構造上種々の種類がある。

牽引車 火砲等重材料の牽引車には一部に六輪自動式のものもあるが、大部は裝軌（無限軌道を裝するもの）又は半裝軌式のもので牽引力の大小に依り種々の種類がある。

乘用自動車 指揮官用、偵察連絡用等種々の乗用車が使用せられてゐる。

自動貨車 用途に依り四輪の外六輪半裝軌等種々のものが使用せられてゐる。

特殊自動車 特殊用途の爲通信、觀測、修理、患者用、寫眞等各種の用途に使用せられる。

自動三輪車 傳令、斥候、連絡等に自動三輪車が使用せられ歐洲各國には其の部隊もあり輕機關銃も裝備せられてゐる。

千人、戰車及トラック四七五臺、機械化砲兵は三千臺の車輛より成ると云はれる。若し夫れ今次支那事變に引續く大東亞戰に於て、比島、マレー各戰線の我戰車快速部隊の痛快なる進撃振と其の偉大なる戰果は今更喋々の要なきものと信ずる。

次に參考として各國代表戰車一覽、獨逸裝甲師團及蘇軍機械化兵團の編制並に蘇軍戰車について掲げる。

各種自動車
裝甲車 快速力を有し偵察、搜索、警戒に任ずる所謂裝甲自動車と稱するもので、四輪、六輪、裝軌式等構造上種々の種類がある。

乘用自動車 指揮官用、偵察連絡用等種々の乗用車が使用せられてゐる。

自動貨車 用途に依り四輪の外六輪半裝軌等種々のものが使用せられてゐる。

特殊自動車 特殊用途の爲通信、觀測、修理、患者用、寫眞等各種の用途に使用せられる。

自動三輪車 傳令、斥候、連絡等に自動三輪車が使用せられ歐洲各國には其の部隊もあり輕機關銃も裝備せられてゐる。

千人、戰車及トラック四七五臺、機械化砲兵は三千臺の車輛より成ると云はれる。若し夫れ今次支那事變に引續く大東亞戰に於て、比島、マレー各戰線の我戰車快速部隊の痛快なる進撃振と其の偉大なる戰果は今更喋々の要なきものと信ずる。

次に參考として各國代表戰車一覽、獨逸裝甲師團及蘇軍機械化兵團の編制並に蘇軍戰車について掲げる。

各國代表戰車任務及性能概見表

型	主要任務	種類		重量(噸)	最大速度(浬)	行動半徑(浬)	裝甲(耗)	武裝	摘	要	
		種類	重量(噸)								
輕	步兵隨	ソ T 26 砲	六・一八	三五	—	五—一三	機關銃	—	—	—	
		佛 R 34	六・〇	三五	—	五—一三	機關銃	—	—	—	
		英 昆式	六・六	三五	—	八—一三	機關銃	—	—	—	
		英 MH	三・六	五・六	二〇〇	八—一三	機關銃	—	—	—	
		英、ソ 水陸兩用	三・一	九・七	二〇〇	七—九	機關銃	—	—	—	
	連搜 絡索	獨	六・〇	—	—	—	—	機關銃	—	—	—
		英、ソ 水陸兩用	三・一	九・七	二〇〇	七—九	機關銃	—	—	—	
		英 MH	三・六	五・六	二〇〇	八—一三	機關銃	—	—	—	
		獨	六・〇	—	—	—	—	機關銃	—	—	—
		英 昆式	六・六	三五	—	八—一三	機關銃	—	—	—	
型	主要任務	カーデンロイト	二・二	四八	二〇〇	九—二	機關銃	—	英ナルモ各國模倣本表ハ一例	要	
		英、ソ 水陸兩用	三・一	九・七	二〇〇	七—九	機關銃	—	ソハ模倣	要	

重	中										機動兵			
	破陣 壞地		突陣 破地						機動兵					
英 式	ソ T 32	佛 B	佛 A	佛 3C	チ 米 クリ ス	ソ bT	獨	米 T 28	ソ T 28	佛 R 35	英 式	獨	獨	米
三二〇	三三〇	三〇〇	九二〇	七五〇	一〇二	一二〇	一三〇	一八〇	一一〇	一六〇	八	六・六	一	
三二二	三〇	三〇	一五	一五	裝軌 六二〇	裝輪 一〇	四〇	四五	二五	五〇	三・五	三五	三七	
三二〇	三〇〇	一	一二〇	一五〇			一四五	二〇〇	一	三二〇	二四五	二四五	一	
二五	二五	四五	三〇一五五	三〇一五五	六・一六	六・一二	六・一二	二二一三五	一〇一三〇	三二〇九・五	五・一三	六・三一九・五		
機 關 銃	機 關 銃	機 關 銃	機 關 銃	機 關 銃	機 關 銃	機 關 銃	機 關 銃	機 關 銃	機 關 銃	機 關 銃	機 關 銃	機 關 銃	機 關 銃	機 關 銃
四 七 耗 砲	四 七 耗 砲	四 七 耗 砲	四 七 耗 砲	四 七 耗 砲	四 七 耗 砲	四 七 耗 砲	四 七 耗 砲	四 七 耗 砲	四 七 耗 砲	四 七 耗 砲	四 七 耗 砲	四 七 耗 砲	四 七 耗 砲	四 七 耗 砲
四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
					リ	リ								
					リ	リ								

○騎兵師團裝甲聯隊

(各騎兵師團に裝甲聯隊一あり)

裝甲自動車中隊

(一六輛)

水陸戰車中隊

(一六輛)

輕戰車中隊

(中隊は「ベーター」型一六輛)

防空小隊

對戰車砲中隊

(四五耗砲四門、自動車編制)

其他工兵、連絡兵、化兵若干

對戰車砲

戰車が戰場に其威力を振ふに到るや之を撲滅すべき對戰車砲の必要は愈々切なるものがある。戰車の速度が増大するにつれ、之に對抗して隨時隨所に其の奇襲を破擯する爲には、成るべく輕易で、常に歩兵と行動を共にし得るものが必要であるが、一方今日の進歩した裝甲に依つて十分防禦せられた戦

車を破壊する爲には侵徹威力の大なる火炮を以てしなければならぬ。此の運動性と威力とは火炮の構造上相反する要求であつて、此等を如何に調和せしむるかは各國の齊しく苦心する所であらう。即ち運動性と發射速度とを主とするものは英、米軍の口径十三耗級佛軍の二十五耗加農等で威力を主とするものは獨、英、米の三十七耗砲、蘇軍の四十五耗砲等である。

一、獨逸

獨逸は今次大戰に於て對英佛戰、對ギリシヤ戰及阿弗利加戰線其他に於て縱横無盡に對戰車砲を使用し、華々しい戰果を獲得してゐる。その爲には對戰車砲中隊乃至對戰車砲大隊を編成し歩兵聯隊、師團又は裝甲師團に直屬せしめて集團的効果を擧げるやうに用ひ、初めて功を奏したのである。勿論獨逸全軍に裝備された数は莫大なものであることは論を俟たない。

併し獨逸戰に於ては蘇聯が獨逸の意

表に出た超重戰車の出現に對し、從來獨逸に裝備してゐる三七耗級(四七耗級も裝備されあるものと思ふ)の對戰車砲を以てしては如何ともすること能はず、遂に野砲、高射砲を以て漸くその侵入を喰止めたと報せられてゐるが此處に對戰車砲の將來に關する問題が新しく提供されてゐるのではあるまいか。

獨逸の裝備する對戰車砲は主として三七耗級のものであつて、一部四七耗級のものも裝備してゐるやうである。

制式火炮はラインメタル式のものと同小異であるから、以下ラインメタル式三七耗及四七耗對戰車砲に就き概説しよう。

(一)ラインメタル式三七耗對戰車砲
本砲は歩兵又は騎兵の隨伴砲として使用され、開脚式砲架、輪板式車輪を裝着し乗用車又は六輪自動貨車型の牽引車で牽引する。本砲は外觀上の特徴として防楯は上方、下方に分かれ、上方防楯は上縁波形にして上半が前方へ

の折疊式となり視界を擴大し得るようになつてゐる。又輕合金製の管狀開脚式砲架を使用してゐることが特徴である。併し獨逸製の火砲の一般の特徴として同種の火砲に就き他國のものより較すれば大體に重量重く、又外貌より受ける感じが何處となく頑丈に製作されてゐるのも特徴の一つであらう。閉鎖機は自動閉鎖式を採用してゐるので、發射速度が大(一分間三〇發程)で方向射界約六〇度、高低射界負八度より正二五度の範圍を與へることが出来る。

次に主要諸元を掲げる。

- 口径 三七耗
- 砲身長 一、八五〇耗(五〇口径)
- 閉鎖機 自動閉鎖水平鎖栓式
- 駐退・復坐機 水壓駐退・ばね復坐機
- 砲架様式 裝輪開脚(管狀)式
- 高低射界 負八度、正二五度
- 方向射界 五八度(開脚)
- 榴甲彈 〇・六四五耗
- 重 量 〇・六九〇耗

初速 榴甲彈 八二五米・秒
最大射程 六、〇〇〇米
運搬様式 自動車牽引
放列砲車 四四〇耗
重 量 (一)ライオンメタル式四七耗對戰車砲
本砲は砲口制退機附四七耗對戰車砲で砲身長五五口径、構造は大體に於てラ式三七耗對戰車砲と同様である。即ち輕合金製管狀開脚式砲架、自動閉鎖水平鎖栓式閉鎖機、輪板式空氣入ゴム輪帶輪及防桶等の構造に於て三七耗砲と略々類似してゐる。

- 口径 四七耗
- 砲身長 五五口径
- 閉鎖機 自動閉鎖水平鎖栓式
- 駐退・復坐機 水壓駐退・ばね復坐式
- 砲架様式 裝輪開脚(管狀)式
- 高低射界 負七度、正二五度
- 方向射界 五〇度(開脚)
- 榴甲彈 一・六七耗
- 重 量 一・七耗

初速 榴甲彈 八三〇米・秒
發射速度 二〇―二五發・分
最大射程 約八、五〇〇米
運搬様式 機械牽引
放列砲車 約六三〇耗
重 量 (三)自走式對戰車砲
獨軍は今大戦の初期(昭和十五年五月)の西部攻勢作戦に於て初めて四七耗對戰車砲を搭載した自走式對戰車砲を使用した。本砲が果して如何程の成果を收めたかは疑問であるが對戰車砲將來の問題として興味あるものであらう。

- 重量 五、五〇〇耗
- 速度 五五耗・時
- 乗員 二名
- 裝甲 最厚部二〇耗

發動機 空冷四氣筒、六〇馬力又は一〇〇馬力
携行燃料 約一五〇立
砲 自走式對戰車砲裝載の砲はスコダ(チエコ)社製四七耗對戰車砲である。諸元並に性能の大略は次の通りである。

- 口径 四七耗
- 砲身長 二、〇四〇耗
- 高低射界 負八度、正二六度
- 方向射界 五〇度
- 彈 量 徹甲彈 一・六五耗
- 初速 七七五米・秒
- 放列砲車 五七〇耗
- 重 量

二、蘇聯邦

蘇聯邦はライオンメタル式の四五耗對戰車砲を主として裝備してゐるが、ライオンメタル式三七耗砲(獨逸の項を参照)も裝備してゐる。併し三七耗砲は漸次四五耗砲に代へられつゝある。

蘇聯邦は近年戰車、裝甲車等莫大な數を準備してゐるが之に對して對戰車砲も相當多數裝備してゐると考へられ

る。而もその裝備狀況は狙撃師團、騎兵師團等に統一使用を企圖してゐるがその裝備門數は全軍劃一ではない。

一九三二年式四五耗對戰車砲
本砲はライオンメタル式三七耗對戰車砲を模倣したもので、蘇軍對戰車砲及大隊砲の主力火砲である。四五口径四五耗砲で、外觀はラ式三七耗對戰車砲と殆ど同形の防桶、輕合金製管狀開脚式砲架であつて、閉鎖機は垂直鎖栓式(自動式)車輪は懸吊式空氣入ゴム輪帶車輪である。運搬は前車を附して輕裝甲車牽引車、豆戰車等に依る(大隊砲用のものは輓馬輓曳とす)。

本砲使用の彈丸は徹甲彈、榴彈の二種あつて徹甲彈は截頭假帽彈(彈量一・四五耗)彈體は特殊鋼を用ひ初速七六〇米・秒に及び其の徹甲威力は大である。

本砲の諸元は左の通りである。

- 口径 四五耗
- 砲身長 四五口径
- 閉鎖機 自動閉鎖垂直鎖栓式

砲架様式 輕合金製管狀開脚式
高低射界 負九度、正二五度
方向射界 左右各二八度
發射速度 二〇發・分
彈種彈量 截頭假帽附徹甲彈一・四五耗

- 初速 七六〇米・秒
- 最大射程 七、九〇〇米
- 運搬様式 前車附機械牽引
- 放列砲車 四四〇耗
- 重 量

三、英國

英國の裝備する對戰車砲は主としてピツカース四〇耗對戰車砲(對戰車二封度砲)である。此の對戰車砲を從來師團直屬の機關銃大隊に裝備されてゐたが、現在では對戰車中隊(自動車化)として分離獨立され、砲兵部隊の一部隊として活躍してゐる。

英國植民地に於ても本砲を裝備してゐる模様で、海峽植民地、濠洲、ニューシーランド等東洋方面の各植民地に多數裝備し、其の他の歐洲人部隊並に土民軍に對して教育してゐることは我々

の注目に値するものである。

尙英國は右の他に瑞典ボホース製の三七耗對戰車砲を裝備してゐることは確實で、本砲を前記のピ式對戰車砲と共にヨーロッパ戦線に、アフリカ戦線に使用してゐるのである。

又最近シンガポールに於て伊國三五式四七耗對戰車砲が見られるが、之はアフリカ戦線に於ての戦利品なるか否かは判明しないが、兎に角海峽植民地軍が本砲を裝備してゐると見て差支なからう。

其の他英國は數年前よりピツカース式自走式對戰車砲を裝備してゐるが、獨英戰に於て本砲が如何程の成果を収めたかは疑問とする所である。
左に各々の對戰車砲について述べて行かう。

(一)ピツカース式四〇耗對戰車砲 (對戰車二封度砲)

本砲には外觀の多少相違する二種がある。その主なる相違點は防楯であつて、其の他は殆ど同じ型式を採用して

る。

本砲の特徴は三箭材式三脚砲架にて射撃姿勢を安定にし得るやうになつてゐる。その際車輪は其方へ浮動して支持するか或は脱輪するかに依つて方向射界三六〇度を附與出来る。併し運行の際は三箭材を疊んで自動車牽引に便なる如くするが、火急の際には運行姿勢より直ちに射撃姿勢に移る爲に車輪を脱輪或は浮動するやうなことはしない。

英國の對戰車砲部隊は本砲を主力火砲として裝備してゐて、各師團に一箇大隊を配屬してゐる。自動貨車ブレンガンキヤリヤー、ドラゴン牽引車等で牽引するから、従つて車輪は空氣入ゴム輪帯を裝着してゐる。

- 口徑 四〇耗
- 砲身長 五〇口徑
- 砲架様式 三箭材式
- 高低射界 負一〇度、正二〇度
- 方向射界 三六〇度

彈種彈量 曳光徹甲彈 一・〇七疋

初速 七二〇米・秒

最大射程 六、〇〇〇米

全備重量 約八四〇疋

(二)ボホース式三七耗對戰車砲
本砲は瑞典製であるが、英國が之を裝備してゐるのでその寫眞(略)を掲げ、諸元性能等は瑞典の項(略)にて詳述する。尙アフリカ戦線で使用してゐるものは自動車に搭載したまゝ射撃し得るやうになつてゐる。

(三)ピツカース式自走式對戰車砲

英國は本砲を數年前製作してゐるが裝備してゐるかどうかは不明である。車體はカーデンロイド輕戰車、砲は四〇耗對戰車砲である。

其の性能諸元を左に簡単に掲げる。

- 重量 四・二噸
- 馬力 五六馬力
- 時速 五〇軒
- 裝甲 九一二耗
- 乘員 二名

砲

- 口徑 四〇耗
- 砲身長 五〇口徑
- 高低射界 負一〇度、正二〇度
- 方向射界 三六〇度
- 初速 七九二米・秒
- 彈量 〇・九一疋
- 射程 六、八〇〇米
- 鋼板侵徹量 一、二〇〇米にて三五
- 四、米國

米國に於ては前世界大戰後平射歩兵砲を改良して機動性を良好にし又射程を増大して對戰車砲としたが、列國の趨勢に刺戟せられて數年前新しくM-3型三七耗對戰車砲を制式兵器として採用した。本砲は實戰に使用せられたことがないから眞の威力は分らないが米國では著々本砲を裝備しつつある現狀である。

本砲は三單位師團の歩兵聯隊に對戰車砲中隊として、裝甲師團に對戰車砲大隊として裝備されてゐる。
新制式M-3型三七耗對戰車砲

本砲は前述の如く歩兵用として制式に採用せられたものであつて、砲架は開脚式で輪板式空氣入ゴム輪帯を裝し自動車を用いて時速六〇乃至八〇軒の高速牽引をする。射撃操作の爲には一名の砲手は彈丸を裝填し、他の一名は照準及發射の任に當る。彈丸初速大で徹甲威力が大と云ふことである。

- 口徑 三七耗
- 閉鎖機 垂直鎖栓式
- 駐退機 水壓駐退ばね復坐機
- 高低射界 負一〇度、正一五度
- 方向射界 左右各三〇度
- 彈量 榴彈 〇・五四六疋
- 初速 八四〇米・秒
- 發射速度 二五—三五發・分
- 發射車重 四—四四疋

米軍三七耗新對戰車砲は自動貨車を以てする高速牽引に適するやう砲架上に搭載されて居り、近距離に於ける牽引可能にして砲車は防楯を裝してゐる。

蘇軍は四十五耗對戰車砲を聯隊に裝備してゐる。此の火砲は四十五耗と同じものであるが、大隊砲が緊縮編制であるのに對し對戰車砲は全部機械化して迅速な對戰車戰闘の要求に適應せしめてゐる。尙佛軍は九門、獨軍は十二門の對戰車砲を聯隊に裝備してゐるのである。對戰車砲は目標が不意に現出し且其の移動が迅速であつて初速及發射速度の大を要する點に於て對空火器と似てゐる。従つて對戰車對空兼用砲は一時盛んに研究せられたものであるが、砲架、照準具、彈丸等共通ならざる點も亦多く現在兼用してゐるものは多くない。重量の多い對空對戰車兼用二十耗機關砲が輕量な同口径の自動砲に依つて代られようとしてゐるのも此の理由によるのである。

併し次に述べるやうに今次歐洲戰場では此兼用砲は可成り使はれてゐる。今次戰亂に於て戰車の多數が出現するや、對戰車砲は重要な兵器となり其口径も増加し高射砲兼用のものは八

コングスベルク	七五	九四〇〇〇	七五〇	二五
ピツカース	七六・五	八三六〇〇	六〇〇	三〇〇
ポフォース	八〇	九七〇〇〇	七五〇	八〇三、〇〇〇

五、理學兵器、電氣兵器

銃砲火力が益々威力を發揮する様になつたのは、火力の運用殊に射撃術の進歩に負ふ所頗る多く、適時適當なる地點に有效なる火力を集散離合し、最も有効に威力を發揮することが、今日進歩せる射撃術の眞髓であつて、之が爲には各種光學的電氣的測測、射撃指揮及照準用具を必要とする。即ち戰場に於て敵の未だ視えざるに我は十分敵情を偵知し、敵の距離測定等の精度不良なる際、我は速かに精密なる諸元を決定し敵に先んじて、有效火力を發揚することは精密なる理學兵器の力に俟たなければならぬ。又火光、砲聲に依り敵の位置を決定する。

火光測定機、音源測定機や、高所又は上空より窺見又は測量に依り、地理的位置を決定する光學的兵器等、理學兵器の進歩は寔に著しいものがある。今次歐洲戰亂に於ては、英獨空軍は赤外線探知機、テレビジョン、透視光線等を實用し、從來不可視とせられた雲霧も全然障碍とならざる迄も相當程度は克服して爆撃又は防空に資して居る。

電氣兵器は之を分類すると電氣應用兵器と電氣的威力兵器とに區分することが出来る。電氣應用兵器は通信器材警戒及測測器材、照準器材、照明器材各種動力器材等其の種類が多く、今や世界は電氣の世界と稱せらるるが如く兵器に於ても益々其の使用範圍擴大せられつつあるが、此等は寧ろ補助兵器

である、戰闘の主目的たる殺傷、破壊等の威力兵器として歐洲大戰後半期より列國に於て研究せられつつあるものに殺人光線、無線操縱、電氣砲等があると傳へられる。

物理的兵器 電氣や電氣現象利用のものとして既に新聞紙に報道されてゐるものに、強力な電波によつて神經を麻痺させ、人馬を殺傷する電磁光線、怪力線があり、電力によつて一日五十米も掘開しうる電氣穿孔器、無線による無人戰車の操縱、又は電氣利用の機械水雷、感度の高い飛行機探知機又は地雷探知機等がある。このうち、今次歐洲戰争に實用に供されてゐるものは磁氣機雷、飛行機探知機、地雷探知機等であると考へられる。

音響や音波利用の兵器はどうかとい

ふと、サイレン又は擴聲器、水中聽音器の利用、飛行機から投下する音響のみを發するスクリーム爆彈等がある。要するに科學の不斷の進歩發達に伴ひ各國共將來科學的新兵器の研究創造に多大の努力を拂ひつつあり、又我國に於ては曩に陸軍が科學者に呼びかけ科學兵器協會の結成を見たことは別項の如くである。

(附録) 放送戰

電氣通信協會々長 中山 龍次

ラジオ放送は第一次歐洲大戰後に發明された。従つて大戰中にラジオが利用されたのは今回が初めてで、斬新な應用が續々と現れて來た。即ち放送はこれを利用する者の智慧の問題であり現在の各國放送局は智慧競べの顯がある。この點が飛行機や戰車が主としてこれを操縦する者の手腕や使倆によるものとは違つてゐるのである。

その一例を挙げると、ソ聯では、一昨年のフィンランド戰にヘルシンキ放送局の電波を利用して夜襲を行つたし、また獨英戰においても、英國は同一波長の局を澤山作つて、何處がロンドンであるかを不明にしたり、これに對してドイツはラジオ・ビーコンを二條交又して、ロンドンの上空を知つたが、また英國ではこれに對して電波の反射によつて獨軍の飛行機を發見し、且その方向を知つたといふ生々しい事實も澤山ある。

それではこれら放送利用の實例は現在どれくらゐあるかといへば、第一が戰闘における利用、第二には謀略における利用、第三が宣傳における利用等が主要なるもので、次に、自國民の輿論を統一し志氣を鼓舞するため、敵國民心を攪亂し敵軍の戰意を喪失せしむるため、第三國を自分の味方に引き込むためなどにも利用されて大いなる成果を收めてゐる。

第一の戰闘における利用の例を挙げると、彼のアマゾンにおける獨佛戰車大會戰を行つた飛行機と戰車との無線連絡の成功や、獨英海戰におけるビスマーク號追撃の場合の飛行機と軍艦との無線連絡、または和蘭進撃やバイヤス灣上陸の場合の氣象と無線の成功がそれである。

第二の謀略(軍略)における利用の例は獨波戰において、愚かにもポーランド軍は無線によつて作戰命令を發したが、これが獨軍にとつては逆用の好機會となつてしまつたり、ポ政府の移轉先を國境三ヶ所に設置しておいた電波研究所で獨軍が完全にこれを探知し得た事實もある。またノルウェー上陸作戦や、オランダ侵入に際しては獨軍は虚偽の命令電報を發して敵軍を欺いたこともあり、これは落下傘部隊や第五列部隊によつて行はれたといはれてゐる。

敵軍、敵國民の戰意を喪失させるためにラジオが利用されてゐるといふことは、即ち戰爭が、戰はずして勝つこ

とが上策である以上、敵國民に對してその戰意を喪失させることは最も有效な策であり、これこそ數萬の生命と百億の戰費にも値するものであるといへよう。この例を擧げてみると、ドイツは一昨年九月から昨年五月までの九ヶ月間に亘り、佛國に對して、「ドイツは佛國を決して敵としない、打英を目的とするものである」云々の放送を毎日々々やつてゐた。また昨年九月、對英開戰前にもヒットラー總統は、ドイツの持つ新武器の無慘なることを海外諸國に豫告して、これがために蘭、白、佛の降伏を如何に早めたかを想像することが出来るのである。

最後に第三國に對する宣傳利用だが、ベルリン・オリムピック放送は全く今次歐洲大戰への準備であつたといへる。元來このオリムピック放送には一時間何千圓かの金を拂つて各國が自國へ放送するのだが、この金を無料でどん／＼各國に放送を許可したから、放送をやつた卅六ヶ國では大喜びであつた。

た。ところが、これでドイツは各國への放送電波の正確な知識を得ることが出来て現在ではその効果が靦面に現れてゐる。現在ドイツでは十四ヶ國語で一日五十三時間、英國では廿ヶ國語で一日四十二時間、日本では十六ヶ國語で四十二時間の海外向の宣傳放送を行つてゐる。

この他、技術と科學を利用してゐる例は、敵國と同一の波長を使用し、敵國の放送を邪魔し、或は眞似放送をして民心を攪亂したり、特別の妨害装置をして敵國放送を邪魔したり、敵國のアナウンサーよりも良い聲のアナウンサーを使用して耳を傾けしめるといつたやうな實例はいくらでもある。

今日のやうに對日包圍陣の緊迫を考へるとき、以上のやうな歐洲各國の實例ばかりでなく、わが國も同様にこれら通信問題の重大さを想へば、たゞただ頼るは無線！ 頼るは自國の力！であることを痛感せずにはゐられないのである。

戦艦の装甲 (新聞報)

ホノルル海戦及びマレー沖海戦において米・英の最新式主力戦艦がわが海軍の前に敢なく屈伏した。が主力戦艦に對してはその防備力を犠牲にして高速を與へるか、速力を犠牲にしても防禦に重點をおくかの二つの考へ方があり、傳統的に英海軍は前者をとり、獨ららびに米海軍は後者をとつてゐた。即ち、防禦に全重量の三四パーセントしか使はなかつたフッド號は開戦四分間にして撃沈され、全重量の四四・二パーセントも防禦に割いたビスマルク號は十數發の砲弾と十發以上の魚雷を命中させられ三晝夜の抵抗の後漸く撃沈されたのである。

六、海軍兵器

(昭和十六年版「海軍要覽」(有終會發行)より一部抄録)

目次

- 一、艦砲
- 二、高角砲
- 三、機銃
- 四、彈丸
- 五、指揮裝置
- 六、魚雷
- 七、飛行機魚雷
- 八、掃海
- 九、掃海
- 十、對潛兵器
- 十一、煙幕
- 十二、高速艇

附録、海戰兵器の話

一、艦砲

艦砲は軍艦の最も重要な攻撃兵器の一であつて、發射速度迅速なる爲短時間に克く大量の射彈を發し得るのである、従つて艦船の戰闘能力を計較するに方つては、其の主砲は固より、副砲、高角砲等も重要な要素となり、嘗つての軍縮條約等に於て、主砲の大小は艦の排水量と共に制限條項の主なるものであつた。

現在軍艦に裝備されてゐる艦砲の中で、最大なのは十六吋(四〇糎)砲であつて、砲身重量約百噸、其の長さ六十尺餘、彈丸約一噸の重さがある。之を裝備してゐるのは、世界各國中日本の長門、陸奥、英國のネルソン、ロドネー、米國のコロラド、メリーランド、ウエストバージニアの七戦艦のみである、併し今や十八吋砲も出現し米國の新計畫艦ケンタッキー級には搭載されるべしと言はれてゐる。

之に亞ぐ巨砲は十五吋砲、十四吋砲十三吋半砲、十三吋砲及び十二吋砲で

あつて列國海軍の主力艦に夫々搭載してゐる。此等の巨砲は華府條約の結果一時其の進歩を阻まれた形で、各國共其の後多少の改造は行つたとしても根本的大改造は行はれてゐないと見るのが至當であらう。併し乍ら砲架の改造による仰角の増進、或は彈丸の改良等は可能範圍内に於て進歩發達してゐるものと思はれる。

主力艦に亞で有力なのは甲級巡洋艦であつて、其の主砲は八吋砲に、又乙級巡洋艦の主砲は六吋砲に限定せられてゐるが、軍縮條約廢棄後は此の制限はなくなつた。

航空母艦には八吋砲を裝備せるものと、多數の高角砲のみを有するものとある。驅逐艦の主砲は四吋乃至五吋砲であつて、新式米國驅逐艦の五吋砲の如きは對空射撃を可能ならしめてゐる。

二、高角砲

世界大戰直後、海上戰闘に於ける航空機の積極的用法が未だ發達しなかつ

た時代には、大艦と雖も防空砲として僅かに三吋高角砲數門を有するに過ぎなかつた。又射撃指揮用具とても格別なるものなく眞に幼稚なものであつた。

併し乍ら其の後の進歩著しく、今日列國海軍に於ては各種の高性能を有する高角砲が艦種に應じて用ひられ、又其の彈丸及び信管に於ても極めて有效精密のものが用ひらるゝに至つた。更に之に加ふるに精巧なる砲火指揮裝置を具へて防空射撃の完備を期しつゝあるのである。

高角砲に要求せらるゝ條件を列挙すれば次の如きものである。

- イ、大仰角射撃可能なること。
- ロ、鞍耳は出来るだけ低いこと。
- ハ、旋回、俯仰迅速なること。
- ニ、發射速度大なること。
- ホ、初速大、彈道平低従つて彈丸飛行秒時小なること。
- ヘ、一彈の威力大なること従つて口徑成るべく大なること。

何れにせよ、任意の仰角に於て迅速なる裝填を可能ならしめんが爲等の見地より、高角砲は彈藥包使用の藥莖砲たるべきことには意見一致せるもの如く、従つて横栓式若しくは縦栓式閉鎖機を用ひたる半自動砲である。

尙ほ近代の艦船に於ては、其の攻撃諸性能増大の要求に應じてしめんが爲め、砲の裝備場所を制限せらるゝは止むを得ざる趨勢であつて、従つて重量軽減の必要上、兵器、人員を能率的に使用せんが爲めに、砲を防空射撃に用ふるのみならず、併せて對艦射撃にも使用し、又對艦射撃用砲を防空射撃用に併用せんとする傾向あるは當然である。

現今列國艦船裝備の高角砲としては口徑七糎半より十二糎七に至る各種のものがあり、初速六百米乃至八百五十米秒程度のもが多い。而して國によつて初速に重點を置くものあり、或は一彈の威力の大なることを欲して初速は、多少犠牲としても口徑の大なる

ものを採用せらるるものもある。

又裝備砲數に在りても、既成艦の建造當時には僅かに三、四門に過ぎなかつたが、改装の都度其の倍數若しくは其れ以上に及び、新に建造する艦船には成るべく多數の高角砲を裝備すべく努めてゐる。

日本海軍に於ても、其口徑八糎、十二糎、十二糎七等の高角砲を有し夫々周到なる独自の研究工夫が加へられてゐる。特に第一線部隊に裝備されたるものは信頼に値するものである。

三、機銃

來襲する急降下爆撃機又は掃射飛行機等に對し、比較的近距离に於て有效なる射撃を行はんが爲、多數の防空機銃が艦船に裝備さるる様になつた。之も海上戰鬥に航空機利用法の廣くなつたことに伴ふ新しい現象である。

此等機銃中口徑二十糎以上のものには炸藥彈を用ひ、鋭敏なる降發信管を装着し縦ひ飛行機の翼布に觸れても直ちに炸裂して之に大なる損害を與ふる

ことを得るのみならず、數發毎に曳光彈を混入し以て彈道を表示せしめてゐる。殊に四十糎程度のものには時限信管をも用ふる事が出来る。何れにせよ其の大發射速度と相俟つて缺くべからざる近代的防空兵器となつてゐる。

四、彈丸

徹甲彈 彈帽を有し、此の彈丸の主目的は重裝甲板を貫徹し且重要部を破壊するにある。従つて大口徑砲用彈丸に主用される。

通貫彈 概ね第二流以下の裝甲を貫徹し、且其の内部機關に大損害を與へんとするもので、徹甲彈に比較すれば炸藥量を多くしてあり中口徑砲用彈丸に主用される。

高爆彈 爆發威力により非裝甲板を破壊し人員を殺傷せんとするにあるので、多量の炸藥を有し小口徑砲に使用される。

機銃彈丸 之は對航空機用として使用され、襲撃し來る敵機を撃墜す爲には高角砲と機銃とを併用する必要を生

じ、列國軍艦は兩者を併せ搭載す。彈丸の大いさは昆式四十糎から留式七糎七に至る迄種々雜多であり、又同じ口徑の機銃彈でも用途により彈丸の種類が分れる。

五、指揮裝置

元來飛行速度甚大なる飛行機を射撃して命中せしめんが爲には、迅速に射撃諸元を決定し瞬時に有效射撃を送らねばならぬ。即ち飛行機を射撃し得る時間は一數分に數分間、天候によりて僅々數秒間に過ぎない、従つて其の射撃法も指揮用具も之に應じて得べき新形式のものである。

六、魚雷

英國戰艦ネルソンは六十一糎二門、米國戰艦ウェスト、ヴァージニアは五十三糎水中發射管二門、佛の戰艦マンケルクは發射管を有せず、獨逸の一萬噸型所謂豆戰艦ドイッチランドは五十三糎八門を有してゐる。但し近次主力艦は魚雷を有せざるを可とする議論英國に於て行はれ、伊太利に於ても戰艦

は勿論巡洋艦に發射管半減又は全廢を傳へられてゐる。米國に於ては一萬噸型重巡には水雷武裝を不適當と認め不搭載に決した。其の理由は大艦の魚雷發射は活用する事が稀で且使用困難なること、並に他に搭載を要する兵器増加したる等猶ほ又砲彈に對する防禦上の觀點から來て居るのである。

輕巡洋艦に於ては、米國オマハ級は五十三糎六門、英國のエメラルドは五十三糎發射管を十六門有してゐる。

潜水艦に於ては、佛のシュールクーフが五十五糎發射管十四門を艦首に六門、艦尾に四聯裝水上發射管二臺を裝備してゐる。

驅逐艦に於ては、英國の千三百噸級は皆五十三糎を四聯裝二臺として八門裝備してゐる。米國の新驅逐艦も五十三糎四聯裝二臺である。佛國は五十三糎三聯裝二臺、伊太利は五十三糎三の發射管を同様に三聯裝二臺として具へてゐる。

魚雷の遺體とする處は、その排氣の

氣泡を水面に噴出し即ち航跡を残す點である。故に機關を改良し遠距離に高速を以て航走し、而も航跡を残さざる點に研究を進められてゐる。

七、飛行機雷

各國共に熱心に研究を進められてゐる。英國に於ては高さ三十米以上より落射し時速百三十哩の魚雷に成功したと云はれる。伊太利に於てはパラシュートに魚雷を附して落下させ、着水と同時に傘を捨て、自力推進を始め弧圓形航跡を描く縦舵機を以て、雷速五十節を以て敵の大艦隊の集合する港内又は碇泊地に突入するものを研究中であると云はれてゐる。

八、機雷

昔は水上艦艇を以て機雷を敷設したが、歐洲大戰では潜水艦により、今次大戰には飛行機を以て敵地に積極的に敷設してゐる。機雷用兵の妙味である斯くの如く機雷は、その用法と共に斬新、新奇であることが必要條件で、どうゆうものがあると言ふことを知られ

ると、價値は半減する。各國が極秘中の極秘としてゐる所以である。獨逸の磁氣機雷なども、すでに一中尉の決死的行為に依つて其の分解に成功した。英國は其の對策を考へ出して、或る程度その脅威から免れてゐる。今度は獨逸は如何なる機雷を持ち出すか、寔に興味あるところである。

獨逸の學問と技術とは定評があるが併し乍ら、機雷に於ける米國の地位は恐るべきものがある。初めて機雷を使用したのが米國であり、獨逸潜水艦の暴威を救つた水中線機雷は米國の一人の發明である。金にあかした技術の國米國は今頃如何なる機雷を造りつゝあるか。

今次支那事變に於て、支那軍は長江に機雷を敷設して、我が軍の溯航進撃を妨げようとした。これは機雷として奇用したのではなく機雷を正攻法に使つた例である。幸に我が海軍の周到にして忍耐強き掃海により實害は少ない。支那軍の使用機雷は各國の機雷を

使用してゐる所に、寧ろ參考となつた所が多く、支那軍にして、機雷を巧みに使つたならと、彼の爲に惜むものである。

機雷 は防禦兵器の範圍に入るものであるが、近代本兵器の發達に伴ひ概ね何れの海面にも所要の深度、間隔を以て任意に敷設することを得るに至り、使用法の如何によつては多分に攻撃的性能を帯ぶるに至つた。

機雷種別には管制式、非管制式、無繫維式あり、管制式には感知發火式、電氣觸發式あり、非管制式には繫維式無繫維式あり、無繫維式には自動式、他働式あり、今各名稱に就き作働の大要を述べる。

電氣管制機雷 信號浮標、水中聽音機又はスモーク、ブイ等を使用して敵艦位置を探知し、陸上に發火する。

視發兼觸發機雷 陸上にて敵艦を視認發火するか、或は敵艦の觸雷により發火する。

普通機雷(角式機雷) 一般に使用さ

れてゐる標準機雷で、罐の外部に突出せる數本の角が艦船に觸れると内部のガラス罐が破壊し、其の藥液が電池の基板に作用し電流を起し信管に通ずる。

特殊機雷(アンテナ機雷) 機雷罐の上にて一定の長さのアンテナを附し、其の何れの部分が艦船に觸れても爆發する。即ちシーセルを應用したものである。

二重機雷 一箇が爆發するか又は敵に掃海されると、他の一箇が海底から上昇して有效な位置をとるもの。

潮流機雷 強潮流の海面では機雷が傾くので、流壓の少ない流線型にしたもの。

潜水艦用機雷 潜航中敷設するもので、筒の中より送り出すものと艦外搭載のものを離脱せしむるものとある。

連繫機雷 機雷二箇を繋いで沈置するもので、型式ではなく使ひ方による名稱である。

網機雷 防潜網に附けるもの。

時限機雷 敷設後暫く海底に留まり調定時限經過後適當な深度に浮上するもの。

浮流機雷 浮沈水雷の一種で潮上から敵艦へ流しかけるもの、又上下に浮沈して一定の調整深度を保つもの、二種がある。

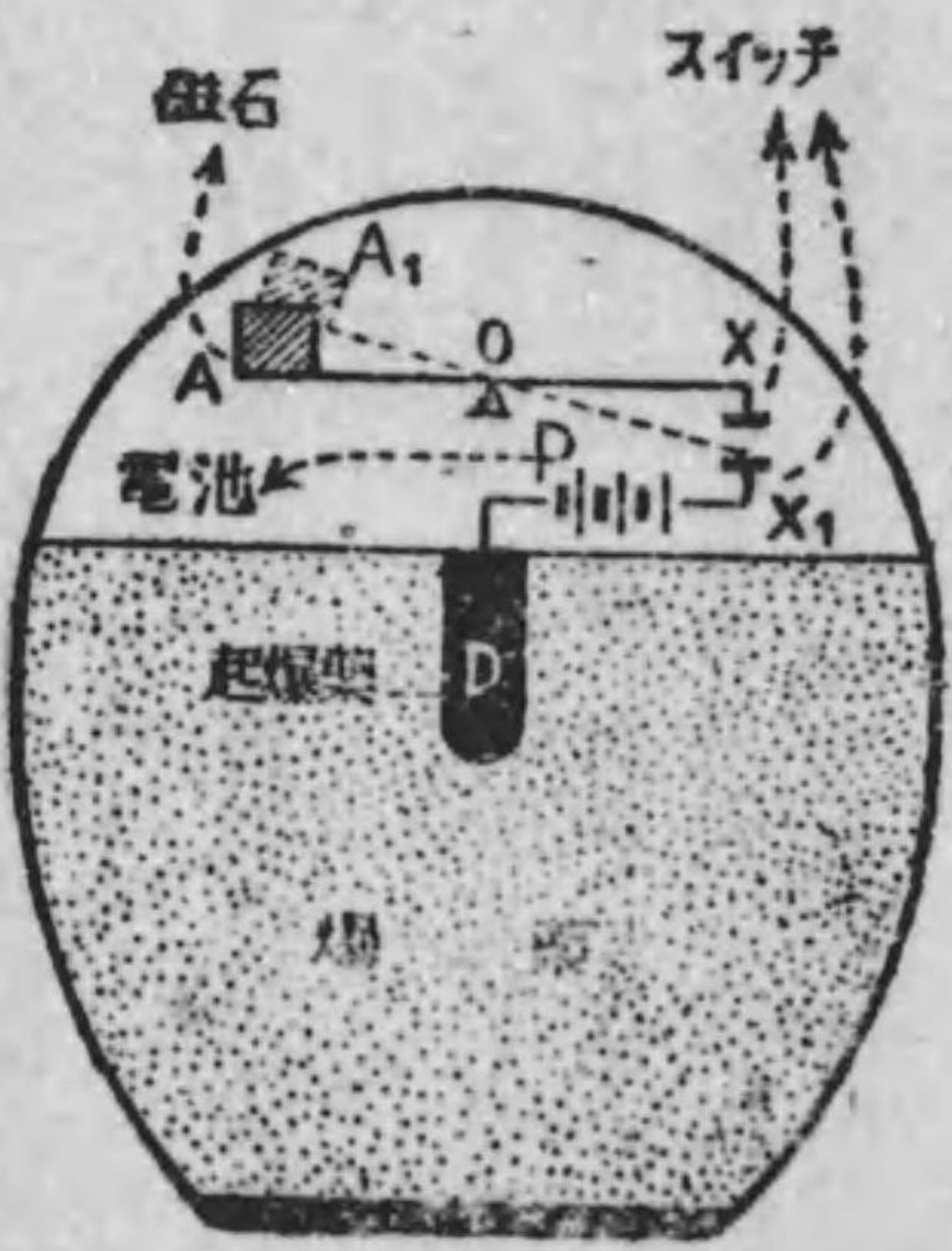
曳航機雷 機雷を曳航して之を潜水艦に衝突させ、爆破の目的を達する爲に用ひられる。

磁氣機雷 今次歐洲海上戦に初めて現出したもので、獨逸軍が昨夏以來使用したと云はれるものである。

長さ八呎、直徑二呎、重量千二百斤、裝藥量六百五十斤、外殼はジュラルミンの如き非磁性のものである。

本機雷は任意の海上に、飛行機によりパラシュートを附し落下され海底に沈下敷設される。

作用は上方海面に船舶が來ると電磁針の一端が上つて接觸器に觸れ、電液器に作用して電池を働かせ、切斷器を閉ぢ爆發するのである。



掃海機雷 實用價値は不明であるが掃海兵器新報を別掲してある。

九、掃海

掃海は、機雷の逆を行くものである従つて、敵の機雷の何たるかを知つた上でなければ有效な掃海は出来ない。普通の繫維索を持つた機雷の掃海は二隻の掃海艇で掃海索を張つて、繫維索を引懸けることが出来るが、海底に沈座して餌食を待つてゐる機雷、又は繫維索が切れて流れてくる根なし機雷に對しては、曳索は何の役にも立たない。

前大戰に考へたパラベーン(敷設水

雷排除機)は當時の機雷に對しては有效適切であつたが、現在の百鬼夜行的機雷に對してはその價値は確かに減少してゐる。しかし現在の電磁機雷に對しては、電磁掃海が成立してゐる。

長江の溯江掃海は戦史に見ない難遊執拗なものであつた、これは掃海の定石であつて、忍耐も根氣も亦常道である。長江は相當に流れが急で、従つて普通の機雷も掃海し難い状態となる。この流速に對する考慮は日本海軍に新しい掃海戦術を作らせるに役立つた。何しろ水中に没して眼に見えない機雷、しかもどんな状態でどんな形状かも分らない機雷を掃海するといふことは、極めて困難なことで一度や二度掃海しても安心の出来ない所に、掃海者の苦心がある。

十、對潜兵器

前歐洲大戰で潜水艦が登場した、之に對抗するものは爆雷であり、防潜網であつた。しかし現在の潜水艦は、水中音響を利用して針路を選ぶことが

水中聴音機

出現當初のものは潜水艦艇に從事する艦艇の艦尾より曳行し或は陸岸基地より水中に設置し、潜水艦推進器翼の回轉によつて傳播される音響を電氣的裝置を介して聴取するにあつたが世界大戰中幾多の實驗を経て漸次發達を遂げ、各種艦艇の艦腹に之を裝置するに至つた。米、獨、佛各國海軍に於ても用ひてゐる。

大東亞戰の一月十三日ハワイ西方沖で米航空母艦レキシントン屠つた我潜水艦も之を用ひて其成功を確認した。

潜水艦が潜航したまゝ敵艦の接近を知り、こつそり敵艦に肉薄する時艦長が敵情を知るために用ひるものに潜望鏡と水中聴音機がある、潜望鏡を潜水艦の眼とすれば水中聴音機はその耳のやうなもので水中の音波を捕へる捕音器によつてその音の來る方向を測定する。

捕音器は結局ラジオのマイククロフォンのことで、海中の使用に適するやう

出來るやうになつたから、潜望鏡をあげることなしに敵艦深く侵入できるそこで眼に見えない潜設潜水艦を探して、その所在をつきとめた上爆雷攻撃をせねばならなくなつた。水中聴音機水中測距儀等を大戰以來各國が競つて作つてゐるのも之が爲である。

水中に於ける音響の傳播速度は空氣中の約五倍である。従つて空氣中より遠くへ届くわけで、推進器の音を遠くから聴音機で聴くことに依つて、その艦の種類が判り、音の來る方向から、その艦がどの方向にあるかも分る、もし、こちらから音を出して、其の音の反響を聴けば、その時間差で距離が分る。佛國のランデューベンが水晶を發音體として創造したものは、大いに大戰末期に使用された。水中の音響を利用することは、今も尙一層研究されつゝあり、或は潜水艦の暴威を完全に妨げる時代が近く來るかも知れない。獨逸では船を建造するに際し、音の少い艦を作ることが一つの條件になつ

堅牢に造つてある。

音波の入り方で、つまり音波が正面から入つたか、側面から入つたか、その感ずる音に大小強弱ができて來る。

この性質を捕音器の「指向性」と稱しこの性質を利用して方向を測る、この測定方法にも種々あるが大體
一、二つの捕音器を適當に並べる方法
二、多數の捕音器を一定の形式で排列する方法
三、一箇の指向性の鋭敏な捕音器で音波を捕へ、それを旋回する方法
の三種が主に用ひられてゐる。

水中の聴音はなか／＼難しく推進器の音響の外に波や渦、艦體の震動まで聞えるので目ざす敵艦の推進器の音響をはつきり聴分ける一戰艦か巡洋艦かディゼル機關か蒸氣機關かまで判別するには生やさしい修業ぢや出來ない。従つて水中聴音員は忍耐強く音感の良いことが必要である、雑音騒音の中からは必要な音源を探せるのは一に平素の訓練によるが「絶對音感なくして雑音

てゐる。潜水艦は音を出す鐵で出來てゐる熱線を出してゐる。これ等を利用して潜水艦を見つけることも各國すでに研究に著手してゐる。

爆雷 圓錐形をなし、内部には爆薬と發火裝置とを包藏してゐる、發火裝置は水壓により作動する如き機構を有し、豫め調製された深度に達すると、擊發發火によつて爆薬を爆發せしめるのである。爆雷は艦艇の艙部投下臺に搭載し、直接人力によつて滑落せしめるか、又は臼砲をY字形に組立てたやうな爆雷投射砲を以て裝藥發火により投射を行ふ方法がある。爆雷砲の射程は約五十米で投射の方向は艦艇の操縱により目標指向せしめるのであるが、旋回俯仰自在の遠距離爆雷砲を裝備するものもある。

爆雷を搭載する艦艇は、専ら潜水艦特に使用する快速内火艇を始めとし、沿岸警備に任ずる哨戒艇、又は艦隊の護衛艇として其の前後左右に隨伴する驅逐艦等である。

感訓練は出來ぬ」といはれその絶對音感の訓練にまづ二箇年はかゝるといふ少國民時代から絶對音感を訓練し軍籍に入るまでに音感教育の完成を心懸けることこそ大東亞戰爭下最も必要なことだ。

十一、煙幕

煙幕は可成り以前より烏賊戦法として考へられてゐたもので、其の目的は二つに分けることが出来る。

(一) 自艦又は味方の艦の周圍に近く煙幕を張つて、優力なる敵の砲火の目標たることから逃れんとする場合。

(二) 敵艦隊の全部又は一部を煙幕を以て蔽ひ大砲の發射を不可能ならしめ、其の隙に乗じて自分有利なる位置を占めんとする場合。煙幕の展張法は或は艦の煙突から出した煤煙幕、或は艦の甲板に特別の發煙裝置を設けその中に、クロールサルフォニック・アシッドといふ化學藥品を或る瓦斯の作用により押出して濃煙

を發生させたのである。尙ほ其の外に發煙ボックス(函)がある。之は鐵製で、艦上より海中へ放り込むと、水中に浮ぶ函の中に發煙劑が入れてあるので、煙は函の上部の孔より出るやうになつてゐる。

以上は艦にて煙幕を張る方法なるも、更に行動の輕快迅速なる飛行機を以て煙幕を展張するの最も便利である。

軍艦の煙突より噴出する煙幕を煤煙幕と稱して黒色であり、發煙裝置で張る煙幕を藥煙幕と稱し白色である。何れが有效なるかは状況に依つて異なり、遽かに斷じ難い。

戰術上煙幕の使用は極めて慎重を要するのであつて、萬一これが使用を誤るときは、友軍の行動を阻碍すること甚大なることを忘れてはならない。

十二、高速艇
附録「海戰兵器の話」に詳述されて居るが、元來此の種のモーターボートは世界大戰の産んだもので主として潜

水艦の驅逐に使用された。従つて主兵器が爆雷である。現時は魚雷を主兵器とするモーター・トビド・ボートと改稱され、戰艦襲撃にも當る。

佛海軍採用のエスコルツールと稱するものは一種の對潜水艦用で驅逐艦類似の小艇ではあるが、船體の構造を強固にし凌波性を加へて大洋上の行動に適せしめ商船隊保護に任せしめんとするのである。

今次歐洲戰亂には此種快速艇は各國共活躍をなしつつあるが、其例として伊獨英の三國の快速艇の要項を掲げると次の通りである。

一、イタリアの快速艇(M.A.S.)
動力 ディーゼル機関 三、〇〇〇馬力
排水量 四六トン
武裝 機銃二
艦長 四五センチ水雷發射管二
艇幅 三二メートル
吃水 五・九メートル
一・四メートル

二、ドイツの快速艇

(シニェルボート、Eボート)

動力 不明
排水量 不明
武裝 機銃一
乗員 五〇センチ水雷發射管二
乗員 一二

更に最近イタリア筋からの情報によるとドイツ最近の快速艇は艇長一〇—三〇メートル、幅員三—五メートル、排水量一〇—四〇トン、乗員五—一九動力五〇〇—三、〇〇〇馬力、速度三五—五〇ノット、水雷發射管や高射砲の他に人工霧發生裝置や敷設水雷除去の掃海裝置などを持つ怖るべき威力のものだと記されてゐる。

三、イギリスの快速艇

英の快速艇に關する記載は詳細には分らないが、今次日支事變で我が軍が廣東攻略を行つたとき珠江の入口に現はれた時速約四十ノットの快速艇は英國よりの供給によるものだと云はれるから、英國快速艇の性能も略々想像が

四、米國の快速艇

「モスキー」(蚊)などと呼ばれるもの多數を就役、又は建造中であるが性能其他は以上の諸國と大同小異で本年三月其最初の公試を行つた USS は四六節を出し定員十名、航續二千哩、ピツカード型電動機千二百五十馬力、發射管爆雷及機銃を具へて居る。

海戰兵器(週報)

今次歐洲戰争の當初において、曠の入るすきまもないと言はれた嚴戒を突破して、イギリスのスカパーフロー軍港深く侵入、戰艦ロイヤルオーク號を沈没させたドイツの豆潜水艦の話はあまりに有名だが、英本土上陸作戦を前に、この豆潜水艦をはじめとして、高速魚雷艇、磁氣機雷その他研究を重ねた海戰兵器がドーヴァーの制海權を續つて盛んに活躍してゐる。次に、これ等の兵器についてその歴史や能力の大

高速魚雷艇

略を紹介することにしよう。
經濟軍備の見地から、小艇を軍用に使ふことは、特に小海軍國に早くから着眼されたが、前歐洲大戰ではこれと異なつた意味で、小艇が大海軍國間にも用ひられた。

即ち、英國は北海の機雷艇を乗り越えて、その奥にある敵國軍艦を襲撃するために高速魚雷艇を多數建造した。一九一五年ハンブデン大尉他二名の海軍士官によつて造られた高速魚雷艇がそれである。この艇は沿岸用發動艇と呼ばれ、排水量四・三噸、魚雷四五種のもの一本を搭載した。この艇は、競走艇に範を探り、その小型高速を利用しようとしたものである。

イタリアも前大戰中驅潜發動艇を二百隻も建造してゐる。一九一八年六月十日早朝、アドリア海においてイタリア海軍少佐ビゾー氏指揮の驅潜發動艇は、その魚雷でオーストラリア戰艦セント・イストララン號を撃沈して勇名を

轟かせた。これは英國のものより大型で、排水量十二噸、魚雷二本を搭載してゐる。小型高速を利用したことは變りはないが、地中海で使用しようとして型が大きくされてあることが注目される。フランスとドイツは大戰中この種の小艇を建造しなかつた。

大戰後これ等の高速魚雷艇が、いかなる發達をしたかを調べて見ると、その將來の方向を推察することができ

る。英國では、前大戰後此の使用を一時止めてしまつた。これはドイツの降伏によつて當分の必要がなくなつたためであらう。しかし商品としては盛んに諸外國に賣られた。従つて進歩發達の見るべきものがある。最近では名稱も發動機附魚雷艇となつてゐる。滿載排水量二八・五噸、機關馬力三〇〇〇、速度三五節、航續力は二〇節の速力で四五〇哩、魚雷五二種二本、二〇耗聯裝機銃一基、乗員一〇名となつてゐる。本艇は英國から地中海マルタ島ま

で航海した記録をもつてゐるが、日數四十日以上を費し、その海上の平穩な時を選び、陸岸傳ひに航海してゐる。即ち、洋上使用において未だ實用の域に達してゐないことを示してゐる。

イタリヤでは、大戦後この高速艇を海軍でいかに取扱つたかは明かでないが、イギリスと同様の進歩發達をなしてゐる。排水量二〇噸、馬力二〇〇〇、速力四七節、魚雷二、機銃一、爆雷六搭載のもの、また排水量五九噸、馬力三〇〇〇、速力三四節、魚雷四、機銃三搭載のものが最近現はれてゐる。この國でも商品として外國に送つてゐる。

イタリヤでも、大戦後イギリスの向ふを張つて高速魚雷艇を建造し、高速の記録をだしてゐる。最近のものでは、排水量一九噸、馬力二二〇〇、速力五五節、魚雷二、機銃二を搭載したものがあつた。

この種の艇の生命は確かに速力であ

るが、艇が小型であるため、海上の模様によりこの速力發揮が制限を受け、またその航続力の少いことがその使用を制限することは争はれない。

ドイツでも、大戦後高速魚雷艇の發達を見てゐる。その發達は大體イギリスのものに似てゐるが、最近になつて耐波性、凌波性と航続力を増加するため、排水量九〇噸のものを建造したことは注目する。ドイツでは、その機關としてガソリンエンジン以外に、重油エンジンを使用し、安全性と耐久性を増してゐる。

アメリカは最近蚊艇隊（モスキート・フソート）なるものを建造することを宣傳してゐる。恐らく高速魚雷艇を大量に建造するものと思はれる。

高速魚雷艇は、元來小型高速艇であるから、耐波性と航続力は一般の水上艇艇に及ばない。従つてその使用に方つては、母艇を造り之に搭載して戰場に運搬せねばならぬと思はれる。戰場に運搬されても、その時の海上に風浪

〇〇噸乃至三〇〇噸の大型潜水艇が大海軍國において建造使用されてゐる。

現在豆潜水艇といふべきものは、フィンランドの一〇〇噸潜水艇を除くと、ドイツの二五〇噸潜水艇を挙げねばならない。この型の潜水艇が今次歐洲戦争の初期において、イギリスのスカパフロー軍港に侵入し、英國戦艦ロイヤルオークに二發の魚雷を命中、これを沈没させて偉功を樹てたことは吾々の記憶に新たなところである。なほドイツでは小型潜水艇を商船に搭載し、その航続力を補つてゐるとの風説や、燃料彈藥魚雷の補給に當る補給船を伴つて活動してゐるとの噂もあるが、その當否は明かでない。

潜水艇の連續航行し得る時間には制限があるから、水上航行による移動性が附與されないと使用範圍が極めて局限される。水中の行動圏が小さいことは大型も小型も大差ないから、本來の特性である隱密性を最大に利用しよう

とすれば、その數を増すことが必要である。従つて今日の技術的進歩を應用し、小型であつて有力な潜水艇を多數造ることが、再び考究されるだらう。同時に、その補給の道について、更に新たな問題を提議することにならう。

機雷

機雷は奇雷である。兵器、用法ともに奇なる所に特長があり、奏功がある。従つて、一戦争毎に新しい機雷と新しい用法とが出現する。機雷が實戰に使はれた最初は南北戦争であり、奇兵器として突如出現したため偉功を奏した。日露戦争には、わが海軍はこの機雷を奇用して、敵旗艦ベテロパブロフスクと敵將を一時に屠つた。前大戦中アメリカは水中線機雷を北海に使用してドイツ潜水艇を悩ました。或ひは又今次大戦においては、ドイツは磁氣機雷を以て世界を驚かせた。これらは新しい機雷なるが故に奏功したのである。

昔は、水上艦艇を以て機雷を敷設し

があれば、速力は著しく落ちるから、凌波性と耐波性を持つやうに進歩するものと思はれる。

豆潜水艇

この艇などは、各國の工業力の進歩に應じて常に發達を續けるであらうことは疑ひない。

豆潜水艇とは、極めて小型の潜水艇をいつてゐる。潜水艇の發達は高速魚雷艇とはその趣を異にし、最初はみな極めて小型であり、今日からいへばみな豆潜水艇と云ふべきものであつた。潜水艇は水中に潜入し、その隱密性を利用して、よく大艦に近づき、魚雷を發射して、これを沈没させるのに使用される。その形が小さいことは經濟軍備の點から小海軍國軍備として恰適である。小海軍國ばかりでなく、大海軍國もこれを使用してゐるのは、その隱密性を利用してゐるのである。小型艇の缺點は、耐波性と航続力が劣弱であることで、この缺點を除去するため、小型から大型に進んでゐる。現今では二

たが、歐洲大戦では潜水艇により、今次大戦には飛行機を以て敵地に積極的敷設してゐる。機雷用兵の妙味である。このやうに、機雷兵器はその用法と共に斬新、新奇であることが必要條件で、どういふものがあると言ふことを知られると、價値は半減する。各國が、とりわけ極秘中の極秘としてゐる所以である。ドイツの磁氣機雷なども、すでにイギリスはその對策を考へ出して、或る程度その脅威から免れてゐる。今度はドイツはどんな機雷を持ちだすか、毫に興味あるところである。

獨逸の學問と技術とは定評があるが、機雷におけるアメリカの地位は最も恐るべきものがある。始めて機雷を使つたのもアメリカであり、獨逸の暴威を救つた水中線機雷は、米國の一素人の發明である。金にあかした技術の國、アメリカには警戒を要する又日露戦争ではじめて機雷を使用したソ聯も決して油斷がならぬのである。（下略）

米		英		國名	艦名	基準排水量 (噸)	速力	兵裝		起工竣工	
艦名	排水量	速力	機數	砲							
ワ ス ブ	アークロイヤル	アークロイヤル	二二、〇〇〇	三〇・八	六〇	二	昭一三、一一				
ホネ スト 他四隻	エスターライズ ヨークタウン エンタープライズ	ピクトリアス フォウミターブル インドミターブル イムブレカーブル インデファチゲブル	二二、〇〇〇 三〇以上	三〇・八	七〇 八〇	二 一・二 二種二聯裝八基 一・二種二聯裝八基 ボムボム砲七聯裝七基 機關砲七聯裝八基	昭一二、一一 昭一二、一一 昭一二、一一 昭一二、一一 昭一二、一一 昭一二、一一				
ヨーク タウン	エスター ライズ	ピクトリ アス	二二、〇〇〇	三〇・八	七〇	二	昭一二、一一				
エンター プライズ	ヨーク タウン	ピクトリ アス	二二、〇〇〇	三〇・八	七〇	二	昭一二、一一				
ホネ スト 他四隻	エスター ライズ	ピクトリ アス	二二、〇〇〇	三〇・八	七〇	二	昭一二、一一				

米		英		國名	艦名	基準排水量 (噸)	速力	兵裝	飛行機 カタバ ルト	甲裝 舷側 甲板	起工竣工
サ ウ ス、 ダ マ タ	ア マ イ ワ ノ	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世							
マ サ チ ユ ウ セ ツ ナ ン	イ シ ン ト ナ ン	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世
マ サ チ ユ ウ セ ツ ナ ン	イ シ ン ト ナ ン	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世
マ サ チ ユ ウ セ ツ ナ ン	イ シ ン ト ナ ン	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世	未 未 テ ラ ゼ ビ ヂ × キ ン グ ・ チ ョ ー ジ 五 世

米英戦艦、航空母艦建造竣工明細表

(造船協會調)

新報

(兵器、裝備、航空、化學等)

○陸海軍の技術有功章と
陸軍關係受章者

陸海軍では軍事技術の飛躍的向上を期し、之が發明、考案、研究等に從事し功勞顯著なる者の名譽を表彰する爲、技術有功章令を制定八月十九日官報を以て告示された。今回制定された技術有功章は徽章と賞状で部の内外を問はず又技術者と勞務者たるを問はず功勞顯著なる者に陸海軍大臣より授與されるので、陸軍技術有功章と海軍技術有功章の二種に分れ、陸軍の有功章は楕圓形内に齒輪、劍、楯を、海軍技術有功章は櫻花に楯を配した外廓内に矢と雲形を現はし、金、銀、七寶浮刻の立派なもので、何れも右肋に帯びるのである。而して陸軍では第一回

として左の如く十一月十四日發表された。

- △強力爆薬の製造に関する研究 陸軍 技師石田榮 (東京第二陸軍造兵廠)
- △無線に関する發明 囑託岡部金次郎 (陸軍技術本部、大阪帝大教授)
- △軍陣衛生に関する研究發明考案 軍醫少將石井四郎 (軍醫學校)
- △酸性電氣爐操業法に関する研究 陸軍技師藪内周三郎 (大阪陸軍造兵廠) (以上甲)
- △特殊フリップの實用化 松田敏夫、糸川英夫 (中島飛行機株式會社)
- △航空發動機不凍性潤滑油の發明 航技中佐鳥居敬文 (陸軍航空技術研究所)
- △輕機關銃 陸軍大佐銅金義一 (陸軍技術本部)
- △ピクリン酸製造裝置及製造方式の考案 陸軍大佐故安藤藤六郎 (東京第二陸軍造兵廠)
- △無線通信に関する考案 陸軍技師西岡敏二 (東京第一陸軍造兵廠)

△高層氣象觀測具の研究 陸軍教授湯淺光朝 (陸軍氣象部)

- △刀工檢に對する各種熔接法の考案並に普及、刀工檢製造方式の改善 兵技少佐藤富政海 (小倉陸軍造兵廠)
- △エチレンクロロヒドリン製造法の研究 陸軍技師井上盛義 (陸軍技術本部)
- △炊事自動車の研究ほか 主計中佐阿久津正藏 (陸軍糧秣本廠)

○陸軍の新軍刀

軍刀の改良について陸軍では今事變の多い經驗に鑑みつとに鋭意研究を進めてゐるが「軍刀は美術品ではなく飽くまで戰鬥を主としたる武器である」との建て前から、白兵戰鬥裡に遭遇すべきあらゆる場合を考慮した新軍刀を完成いよいよ實戰に使用されることになつた。從來不良刀匠や、惡徳ブローカーが外觀だけで賣りつけたものが危機一髪の實戰にボッキリ折れた例があつたり、傳家の寶刀と自負して携へた

ものが意外にも曲つたなどの例もあり陸軍で独自の研究を進める傍ら刀劍現地修理班として戰地で活躍した民間の刀劍研究家の報告もとり入れ、斬撃刺突の効果を十分に發揮し得る理想的な軍刀を陸軍戸山學校、陸軍技術本部の協力の下に小倉陸軍造兵廠で試作研究の結果、新軍刀の誕生となつたもので、今後毎年約三千口を製作、偕行社と軍人會館から戰地用として、發賣することになつた。新軍刀の特徴は先づ刀身については、

一、原料並に鍛鍊法―折れず、曲らず、又こぼれせず切味良好を第一條件とし之に白兵戰鬥の場合に於ける操作の容易、堅牢の點を考慮して硬く(曲らず切味良好) しかも軟かく(折れず又こぼれせず)といふ相反した條件を満足させるために、和鋼を鍛鍊する古來の日本刀式に機械力を利用する部分を折込んである。

先、先身幅、地肉半徑並に反りの調和をはかり「突き」及び斬撃の兩面を兼ね備へ、また地肉を十分保たせ、小鍋と松葉角支點の重ねを厚くして打ちおろしの張切つた姿にしてある、又渡りの寸法は二尺一寸、二尺二寸、二尺三寸の三種とし重量は百九十五匁乃至二百二十五匁である。

○米陸軍の熔接戰車

外電によると、米國の陸軍は最近、戰車を組立てるのに鉄打を極力避けて、殆ど熔接一點張りで行く方針を定めたやうである。それは、今次の歐洲大戰で戰車に砲彈が命中した場合、鉄の頭が吹き飛ばされて中の乗員を死傷させた例が多いからだといふ。つまり、戰車の鋼板をつぎ合せてゐる鉄の頭が、砲彈のために破壊してちぎれてしまふと同時に、鉄の残つた部分で戰車のなかへ猛烈な勢ひで叩きこまれ、丁度鋼板を彈丸が貫通したと同じことになつて内部の乗員を殺傷する

のであらう。

これまで米國では、戦車の鋼板をつぎ合すには、まづ戦車の胴體とか砲塔の裝甲板などに、鉄打するため錐で孔をあけ、その鋼板の縁を、お互の密着をよくするために平削りする。それが終ると鋼板の表面に炭素をしみこませ、硬化させ熱処理をする。これは、内蕊は粘りまゝで表面だけ硬さを増し、彈丸に對する抵抗力をつけるためである。

かくした鋼板は組立工場、治具といつて組立を容易にするための特別な型の上に置く。つぎに、鋼板同士をつなぎとめる鋼帯をつなぎ目にあて、はじめの鋼板の孔に合ふやうに上から孔をあける。これらの鋼板と鋼帯を、まづボルトで假りに緊めつけて摺れないやうにしてから、いよいよ鉄打ちに取りかゝるのである。

米國では、溶接部分が砲彈によつて損害をうけ易いといふので前の様な鉄打を盛んに行ひ、一臺の戦車には少く

も一五〇〇箇以上のニッケル鋼の鉄を使用してゐる。最新式のM3型二八ト

ン中戦車も、外見は鉄だらけである。これにくらべると獨軍の中型戦車などは、盛に溶接を採用してゐて、鉄打の箇所は非常に少く、従つて装甲を減らさないで重量を軽くすることに成功してゐる。

その外形も米國の戦車の様に不合理に角張つたり、無暗に砲塔を積み上げて高さを増すなどのことはないから敵彈による損害は非常に少い。また、佛のR三五型ルノー戦車になると、一二噸に近い車體が僅六箇の鑄鋼部分からできてゐてボルトで簡単に組立てられ、至つて大量生産向だといふが、かうなると鉄打どころか溶接の手数さへ必要としないのである。

思ふに、最近北アフリカのリビア戦線ではじめて實戰に参加した米國製の鉄打戦車が優秀な獨の戦車にうち負かされ散々その缺陷を暴露したので、これから漸く獨軍なみの戦車を造らうと

いふのであらう。

○獨ソ兩軍の戦車

昨春の獨ソ戰において有史以來未曾有の大戦車戰が展開され、露ポーランドのルツク地區だけでも四千臺の戦車の死闘が行はれたと報ぜられてゐる。現在ソ聯軍戦車の總數は恐らく一萬臺を突破してゐると思はれる。米國の軍事評論家はソ聯軍戦車數を二萬臺と數へてゐるが、それは過大評價ではあるまいか、今戦車の型についていへば小型戦車、輕戦車、中型戦車及び重戦車となるが、輕戦車(テ一三六)は重量九ト、時速卅七キロ、中型戦車は重量十一ト、なかんづくベ一・テ一戦車といはれる中型戦車は車輪と無限軌道とを有し車輪の場合の時速八十キロ、無限軌道即ちキャタピラーの場合は時速五十キロで、このベ一・テ一戦車はかのノモンハンに多數出動した戦車である。

重戦車にはテ一三〇、テ一三六の二

つの型があり、テ一三〇型は重量卅ト

ン、時速卅乃至卅キロ、テ一三六型は重量廿ト時速卅キロである。その他重戦車にして七十トンのものがあり、これはフィンランド戰に活躍したといはれてゐるが確報を得てゐない、なほソ聯戦車の特徴として水陸兩用戦車がある時速は陸上では卅五キロ、水中では九キロを出すことが出来る。これらは騎兵斥候用として各師團及び機械化部隊に十五、六臺配屬されてゐる。更にソ聯師團の機械化状態を見るに、各師團は戦車五、六十臺と、その他水陸兩用戦車と裝甲自動車各十數臺をもち、その上に獨立の戦車旅團及び獨立聯、大隊が編成されてゐる。機械化部隊としては戦車をもつて主力を構成し、これに自動車歩兵、自動車砲兵、自動車工兵が加へられる。一九三五年には機甲軍團が四十五軍團に達し一軍團のみの車數は裝甲自動車を加へて四、五百臺に達する。その他機械化部隊として自動車化旅團があるが、こ

れは歩兵三箇大隊と砲兵一箇大隊とを載せてゐる。

戦車砲口徑についていへば、小型戦車、輕戦車は四十五ミリ口徑のものを、中型戦車、重戦車は七十五ミリ口徑のものを具へてゐる。要するにソ聯戦車及び機械化部隊は相當に優勢なものと看做すことが出来る。

ドイツは一九三五年の再軍備宣言までは戦車は一臺もたなかつたが、平常より自動車工業を十二分に發達させることによつて再軍備宣言までには準備研究を終へてゐたのである。その精銳さは今次大戦における華々しい活躍が證明してゐるところであるが、ドイツでは最初に輕戦車として重量五ト(時速四十八キロ)を、その後同じく輕戦車として八トンのものを、次で十八トンの中戦車を作つたがこれは時速四十キロ乃至五十キロで、速力は揃つてソ聯のものより速くまた裝甲もソ聯のものより厚く、堅硬さに於てもすぐれてゐる。これに反してソ聯の方は裝

甲薄く新式舊式まち／＼でその上に速度も色々で、質においてはドイツの方が數等優秀であることが考へられる。機械化部隊 ドイツの兵力はポーランド作戦に裝甲師團を六個、自動車化師團を四個使用したといはれ、佛戰場では裝甲師團を十個、自動車化師團を六個使用したと報ぜられてゐる。現在では全體で二、三十個師團と算せられてゐるやうであり、ドイツでは寧ろその主力を機械化部隊に注ぎ以て機動作戰の實をあげつゝあるやうである。

○米軍の各種新兵器

(軍事と技術)

- 一九〇七年式三五・五六糧海岸砲
- 四〇・六四糧艦砲マークII (現在には海岸防禦に使用せらる)
- 七・六二糧高射砲
- 一〇〇封度投下爆彈
- 各種携帶火器
- 一八九七年式A四型七・五糧野砲
- M2七・五糧加農

のであらう。

のであらう。

○六〇耗迫撃砲

八一耗迫撃砲

三吋迫撃砲マークI

○三七耗對戰車砲

M1七・五糧野戰榴彈砲

○一〇・五糧瓦斯迫撃砲

T4型一〇・五糧榴彈

一九一八年式A1型一五・五糧榴彈

T4E1型一五・五糧加農

○M2A3輕戰車

○M2A4輕戰車

M1戰車

M1E3戰車

○T7型戰車

T5型戰車

○M2中戰車

○T4型中戰車

以上列擧せる各種新兵器中の若干に就き、諸元を示せば左の如し。

○新型六〇耗輕迫撃砲 歩、騎兵用に於て、彈量三・三封度、最大射程三、〇六〇米なり。

○三七耗對戰車砲 最近歩兵用として

採用せられしものにして、其の彈丸は九〇〇米の距離に於て三七耗裝甲板を侵徹す。

○瓦斯迫撃砲 本瓦斯迫撃砲は前大戰間に使用せられしものに比すれば著しく改良せられあり。即ち、例へば射程は七三〇米より二、一九〇米に増大せり。

○M2A3輕戰車 現に使用しあるものにして、重量二一、〇〇〇封度、時速三五英里、乗員四名、機關銃三を裝備す。

○新型M2A4輕戰車 陸軍用として採用せられ、既に其の三二九輛が注文せられあり。重量約一二噸、三七耗砲一及機關銃四を裝備す。

○T7型戰車 裝輪裝軌式なり。

○M2中戰車 T5型戰車を改良せるものにして、今回始めて供覽せられたり。重量約一八噸、乗員六名、火砲一及機關銃數挺を裝備す。

○T4型中戰車 裝輪裝軌式なり。

ない。組立、分解も極めて容易である。

彈倉には普通、廿發の彈を入れることが出来、擊莖（彈の雷管をつく針）の運動をレバーによつて自動的にするか、手動的にするかによつて自動銃ともなり機關銃ともなる。

彈の初速は一秒間に八二〇メートル、機關銃の場合には一分間に二百發の彈を發射することが出来る。と言つても、ラヂエーター（冷却器）の簡單な點から觀れば、連續射撃よりも、五六發づつの射撃を目的とするものであらう。最大の射撃範圍は大體二千四百メートル、連續射撃に必要な自動機構は、藥莖の内底に働く瓦斯の強い壓力を受け、遊底を後ろの方に引き下げて彈の入れ替へをする遊底壓利用の方式と思はれる。

銃身の取換へもネヂ一本で簡單に出来、輕くて便利な萬能銃として大いに注目餘地がある。

○米軍試作の迫撃砲

(七五ミリ砲)

口径七五ミリのこの砲は、最近米國で試作され、いろいろの長所を持つた斬新な工夫をこらしてある點、注目に値するものがある。架身が開脚式になつてゐないので、方向射界（据附けたまゝの状態で砲を左右に動かす角度）が極めて小さいと考へられるが、全體としての構造は極めて單純で、架身は輕合金を用ひたらし、車輪の間隔も極めて狭い。しかも分解が極めて容易で、山嶽地帯を移動する際には六頭の馬に分けて持ち運びが出来る。つまり重量を極めて軽く工夫したために、極めて移動性の大きい砲である。米國ではこれを騎兵聯隊に配屬させ、その攻撃力の増加をはかつてゐる。ところで構造をなほ詳しく調べて見るならば、砲身の肉が極めて薄い上に短くてしかも腔綫（螺旋）を切つてゐないらしい。この點から判斷するならば、こ

○無反動砲

全然反動のない大砲が出来れば、反動を緩和するための複雑な駐退機がいらなくなり、砲架（砲身を据ゑる臺）を軽く小型にする事が出来る。そればかりでなく命中精度も良くなつて對戰車砲、機關砲、高射砲等の威力は一段と増し、また構造が比較的に脆弱な航空機にさへ大口徑の砲を搭載することが出来るわけで、各國はその研究に大奮である。ところが過般のソ芬戰に於て、芬蘭側が鹵獲したソ聯の新兵器の中に素晴らしい無反動砲があつて、列國の専門家を驚かした。

もし五百疋の砲身から十疋の彈丸を初速千米で發射すると、その反動で砲身は十數米の秒速で後退する。この大きい砲身の反動力を減らすには從來砲口制限器といつて砲口に特殊の圓筒を取付け、その圓筒の中には砲彈の通る中央部分を丸く削り抜いた碗形の翼を植ゑたものが使はれた。

の砲は迫撃砲の一種ではないかと考へられる。
また砲身の上に載つてゐるカバーのやうなものは、恐らく砲身の上方に陽炎が立つて照準を困難ならしめることを防ぐため發射の際砲身の後坐を利用して換氣するものではないかと想像される。なほ砲身やカバーには、分解に容易で、また運搬に便利なやうに、前後に環がついてゐる。

○萬能機關銃

レバー（槓桿）を一吋押しただけで小銃にもなれば自動銃にもなり、或は機關銃にもなるといふ便利な萬能機關銃がアメリカの發明家ジョンソン氏によつて發明された。

彈倉を除けば重さがわづかに十二ポンド半（五・七キロ）、銃長一メートル、銃身の長さが六十糧。彈倉は銃の左側から挿し込み、彈を撃ち盡せば右側の方から五發づつ押しこむことが出来るので、彈倉を一々取換へる必要も

今、發射された彈丸が砲口を離れると直ぐ後から爆發した火藥瓦斯が猛烈な勢で噴出して筒形の翼に衝突し、それが筒形の丸味に沿って流動方向を變へ、砲身の後方へハネ返される。すると、その反作用で砲身を前方へ押し力を生じ、彈丸による砲身の後退力を二〇%—五〇%位減らしてしまふのである。

又他の方法は、彈丸發射と同時に、或は彈丸が砲口を離れようとする直前に、今迄彈丸を前方へ押し進める様に作用してゐた火藥瓦斯を砲身の後方へ吹き出す様にするやり方で、尙火藥瓦斯を後方へ吹き出させるばかりでなく、同時に散彈を後方へ發射して一層反動防止の効果を高めようとしたものもある。けれども此方法は火藥を無駄にするので餘り使はれてゐない。

さて、圖(省略)の無反動砲を見ると駐退機は全然なく、砲身の大きい割合に砲架やその他の附屬裝置が普通の砲よりずつと小さく出來て居り、如何に

も輕さうである。

また砲尾に、自由に横の方へ脱せる喇叭狀の管がついてゐるのが特に目立ち、彈丸發射の爆發瓦斯をこの管から後方へ吹き出させ、その反動で砲身の後退力を喰ひ止めるものと推定される。

尙この砲は、これ迄の駐退機の缺點とされてゐた、發射の際、砲身の横にゐる射手に火藥の殘滓や沙塵を浴びせかけて急齊射を困難ならしめた點を改良してゐる様だ。

○超彈丸

元來、砲彈の威力は發射の際の初速度を増せば著しく高まるもので、各國共その研究に汲々として來たが冶金方面の技術が火藥の進歩に後れてゐるため、高威力の火藥はあつても、それに耐へ得る砲身の材料が伴はず初速度を生命とする高射砲彈でさへ、秒速一〇〇〇米程度を出なかつた。

所が、獨逸のヘルマン・ゲルリツヒ

後の溝に押しこめられ、錫と錫の間の空室部の空氣は逃氣孔から外へ押し出される。そして砲口を離れる瞬間には從來の砲彈と何等變らない流線狀の外形になつてしまふ。

ゲルリツヒの實驗によると、この彈丸の初速は從來のものよりも五〇%以上増加し、毎秒一、二〇〇メートル以上に及び、その結果として、軟質の彈丸を使った場合でも相當厚味のある焼入れ鋼を打ち抜ける事が分つた。

獨逸の戰車砲彈が佛戰車の重裝甲を苦もなく貫徹し擱坐させてゐるのは、この前代未聞の「超彈丸」を使用してゐたからだといはれる。

○米の新銳機

飛行機のスピード競争は今次の大戦によつて拍車をかけられた觀があり、獨逸のハインケル、メッサーシュミットや英のホーカー・トーネード、ホーカー・ハリケーン、スーパーマリン・スピットファイヤなどは時速五百キロから

七百キロ近くでせり合つてゐるが、一方大西洋を隔てたアメリカでも、その昔リンドバーク大佐から「アメリカの飛行機はドイツより五年間おくれである」と指摘されたのに奮起して最近續々と新銳機を試作し世界一の榮譽を奪取しようとしてゐる。

現在の公認世界記録は獨逸のメッサーシュミット一〇九R型で時速七百五十キロであるが、これは無論瞬間的な最大速度であつて、メッサーシュミットと雖も何時間も續けてこんな物凄いスピードが出せるものではない。巡航速度で六百キロも出れば大したものである。

この記録に挑むべくアメリカが最近完成した飛行機には、陸軍のロッキードP三八E、海軍のグラマンF五F一、ベルP三九A(海軍)ベルFL一(陸軍)などがある。このうちでもP三八Eは一千五百馬力のアリソン液冷却式發動機二基をつけて四百五十八哩(七百三十七キロ強)の時速に達した

の發明した「超彈丸」は、彈丸の重量や徑を増さずに、砲腔内の火藥ガスの壓力や溫度を許し得る低い範圍に保ちながら多量の彈藥を使ふ事が出來、而も火藥エネルギーを極度に利用して素晴らしい初速を得た。その上命中精度も高く貫徹威力も大きいといふ。

「超彈丸」の構造は、彈體のまはりに二箇以上の錫があつて、そのすぐ後ろには錫を疊みこむ溝が用意してあり、一方砲身の内腔は尾部から砲口に向つて圓錐狀にすぼまつてゐるのが著しい特徴である。

裝填された彈丸は、火藥の爆發を、錫の背面を含む廣い面(從來の同じ口徑の彈丸の二倍以上の面積)で受ける事になるので加速度が非常に大きく、また、張り出した錫の外周はガス流れを防ぐピストンリングの作用すると同時に砲腔内面に刻まれた旋條に喰ひこんで確實に彈丸を旋回させる。

かうして彈丸が砲口に近づくと従つて腔の内徑がすぼまるので錫は次第に

と最近號のアメリカ誌は報じてをり、空軍省首脳部は、これに二千五百馬力のライト・トーネード發動機二基を附ければ五百哩(八百四十キロ)の時速を出せると豪語してゐるがどうであらうか。

スピードの公認記録のためには、三キロの直線コースを水平飛行で二回往復を行つて、その平均を出すのであるが、前記のロッキードP三八Eの記録は恐らく非公認記録であり、この飛行を行ふ際に水平飛行でなくダイビングをしてタイムをとればもつと早いスピードを記録できるから、この記録には全幅の信頼をおくことができない。

○航空機照影器

今度米國に夜間防空に一大革命をもたらす「航空機照影器」が發明され、數日前特許出願が行はれた。發明者はニューヨーク州のジョセフ・リーマンといひ、この夜間航空照影器は一種のテレヴィジョンのやうなもの、夜間霧や

雲をすかして航空機を照したす力もち、その原理は超短波を放射し、この電波が金属物體にあつると反射して来る作用を有してをり、その反射してくる拋物線電波を受信機にをさめ陰極光電球を利用してスクリーンに寫し出す仕掛けになつてをり、従つて夜襲機進行方向もわかるし時速も計算できるわけ地上のみならず飛行機にも裝備しうるといはれてゐるだけに、その性能は従來の照準器の比ではなく百發百中の照準ができ夜間空襲の強敵とされ異常の注目を惹いてゐる。

なほ昨冬、英軍總司令のダウディング將軍が來春からドイツ機の夜間空襲による被害は減るであらうと言明したことは英國にもこの種のものが發明されてゐるのではないかと觀られてゐる。

コントラ・プロペラーの出現

アメリカには今後一年以内にコントラ・プロペラー(二重反轉プロペラー)をつけて時速四百哩以上を出す試作機が少くとも五種は現はれるであらうと豫言してゐる者がある。

コントラ・プロペラーとは同じ回轉軸に二つのプロペラーが前後に相接して取附けられて、それが各々反對の方向に回轉する機構になつてゐるもので、今から十二年前イタリア・マツキの水上競速機が初めてこのコントラ・プロペラーを使つて、時速七百二キロの當時の世界記録を作つて以來注目されるやうになつた。

アメリカでも三年前同じくバツファロのカーチス分工場がこのシステムがカーチスP三六型に試みられたが、うまく行かず、暫く採用を見合せたといはれる。しかしバツファロの二工場が將來コントラ・プロップ・システムに轉向することは航空界の一致した意見だといふ。ではこのシステムが何故必要なのか、ウツド技師の説明をきくと、飛行機のスピードを増すためには

いろ／＼な條件が必要であるが、まづ強力な馬力のエンジンが取附けられねばならぬ。ところが現在の單獨プロペラーでは二千馬力が最大限度である。エンジンを運轉すると、その先につけられたプロペラーが大きな空氣抵抗を受けるので釣合ひ、ある一定の平均速度で回轉するやうになる。これをプロペラーが馬力を吸収するといふ。

大きな馬力を吸収するためには、プロペラーの翼の数を多くするか、プロペラーの直徑を大きくすればよい。ところがプロペラーの翼の数が増えれば、それだけお互の干渉が多くなり効率が悪くなる缺陷があるため、せいぜいで四枚までである。またプロペラーの直徑は、その五乗に比例して吸収する馬力がふえて行くが、一方プロペラーの翼が長くなればそれに働く遠心力が物凄く大きくなつて根本が破壊し易くなるのと、プロペラーの尖端速度が非常に大きくなり効率低下を來すのでその最大限度は十二フィートとされ

てゐる。コントラ・プロペラーはこの缺陷を補つて大きな馬力を吸収してくれる。

更にもう一つの利點はこのシステムではトルクを消すことである。トルク反力とは例へばプロペラーが右へ回轉すれば、その反力としてエンジンや機體全體が左の方へかしく力が働いてくる。このトルクはプロペラーの一分間の回轉數の二乗に比例するから、エンジンが強力になればますますトルクが大きくなつて、フロートをもつた水上機などは滑走中に左の方が水中に潜つてしまふやうなことになる。陸上機でも左の車輪の摩擦が大きくなつて左へ左へと廻り、直線コースをとることができない

ところがコントラ・プロペラーだと二箇のプロペラーが同時に反對の方向に回轉してトルクを消し、うまく釣合つて直線コースを進むことができる。二千馬力以上のエンジンに對しては絶対にコントラ・プロペラーが必要だ

とはウツド技師の主張であるが、さて理論通りに成功を収めるものか、コントラ・プロペラーの理論は今さらアメリカが騒ぎ立てるほど斬新なものではなく、各國ともぬかりなく研究してゐるやうだが、いまだにコントラ・プロペラーを取附けた飛行機が登場しないところをみると、これにはこれでまたいろ／＼な難點があるものと思はれる。

すなはち第一に同じ軸に反對に回轉する二つのプロペラーを取附けることは甚だ困難で、殊に現在の如き優秀高速機がつけてゐる可片ピッチプロペラーになるとその複雑さは倍加される。それにコントラ・プロペラーの效率が單獨プロペラーに比して果してよいかどうかは世界の航空界にもまだ疑問視されてゐるやうである。

プロペラーのない飛行機

(ロケット原理應用)

先日イタリアで「プロペラーなしの

飛行機」がミラノ・ローマ間四七四キロを二時間十五分で翔破した旨が傳へられた。これはこの種飛行機として世界最初のものやうに報道されてゐたが、實は同様の新型機はすでにドイツでも製作されてゐる。

ハインケルが特許をもつてゐるロケット式飛行機がそれで、その特長たる發動機は輕量、緻密、高速を目的として設計され、燃焼室およびガス・タービンで作動するエア・コムプレッサー即ち送風装置から成つてゐる。

ノズルから噴射したガソリンは燃焼室の内部で燃え、それを助けるために送風装置で空氣を吸込む。吸込まれた空氣は一部分が直接燃焼室へ行くほか残りは他の室に導かれて、そこで燃焼室から排出される白熱ガスの流れと混合される。

この混合物は非常な壓力でタービンの吸込口を通りタービンの羽根に當つてから、猛烈ないきほひで發動機から排出されるので、その連續的な「反動」

によつて機體が前進するやうになつてゐる。エンジン開始には、壓縮空氣をタービンとコムプレッサーの羽根に當てればよいといふ。

○言飛行と長距離砲

本格的に開始されたドイツ空軍の英本土空襲の跡を顧みると、さすがゲーリング元帥の指揮だけあつて整然たる計畫がうかゞはれる。即ちまづ最初の目的はドーヴァ沿岸の防空施設の爆撃に始まりついでロンドン市郊外に到りその周辺の飛行場、阻害氣球を完膚なくやつつけ、ロンドンへの空中攻撃路を啓いたと見るや今秋九月、あのロンドン中樞部の猛爆となつた。當時英國側では寺院、ホテル、宮殿のやうな非軍事的施設が損害を受けただけのやうに發表したが、無論その近くにあるべ

き政府及び軍事の建物、施設も同様の或はより以上の大打撃を受けたことは争はれない。

英國ではこの時こそドイツ陸上部隊の上陸が開始されるものと観て、ドーヴァを初め本土沿岸に鐵條網を張りめぐらし蘆藪を掘り、叢林の陰に大砲を隠して防備怠りなかつたが、ドイツは上陸戦をはじめなかつた。かくて英本土上陸戦はナポレオン以來の解決できぬ至難なものとして、ドイツの鋭鋒も一時鈍るやに傳へられたが、ドイツ軍の秘策は他から測り知るを得ない。果然英本土への制空權を掌握した空軍は今度は英國の軍需供給の本源を絶滅すべく、イングランド内地のコグエントリー、バミニングラム、リヴァプール、プリストル等の軍需工場、食糧倉庫、輸入港灣の徹底的破壊に向つて目下爆撃編隊を繰出してゐる。これら各地の被害はロンドンのそれと同じほどに大きいと傳へられてゐる。次なる目標は何處か、新たな計畫は何かといふのが

注目のまとなつて來た。

かかる空襲の順序立つた計畫と同時にその方法技術においても十分の研究がなされてをり、例へば悪天候、密雲にもかゝらず効果ある爆撃行をなすには「時計飛行」と稱される新工夫も採用されてゐる。密雲の上からドイツ機は的確にロンドン上空に飛來して爆弾を投下するが、これはドイツ空軍の優秀な技術によるものである。基地を飛び出した獨爆機は密雲を破つて雲上に出で豫め定められた方向と時間と速度により一定の距離を飛びロンドンを隔てる二、三十マイルの上空に來ると下降して雲の下に出で、地上の目標を見定める。そこで正確にロンドンへの方角と距離とを改めて測定し再び雲上に出で第二段の飛行を行ひ、時計をたよりにロンドン上空と推定される地點に出で雲上から投弾をする。この時計飛行に當るのはゲーリング空相えりぬきの優秀パイロット達で地平線さへ見られぬ彼らは、たと機上の機械のみを見

つめて直線水平に飛行し目標を見ずして投弾するが、爆弾は高度から落下するため非常に速度を増し、且つ大音響を發する、高射砲も効果はない。雲上から目標を見ずして投弾した爆撃の成果を確かめるためあとから再び偵察機を送つてやる。これは最近のプリストル爆撃にも例があるが、ドイツ空軍の縦横自在の活躍ぶりを示すものだ。

○獨、米、英の爆彈及爆藥

ドイツの爆彈はよく新聞や雑誌にあるやうに小は數十キロのものから、大は一・八トンの地雷爆彈にいたるまで、いづれも四枚の尾翼を植あつた圓錐尾部をもつ砲彈形が特徴である。

英國側にはせると、これは流體力學的に見て凡ナンセンスの形で、それに引きかへ英國の爆彈は理想的の流線型だから渦流による偏向や落下速度の低下がなく、命中率はドイツのものに較べて比較にならないと自慢してゐる。

る。

ところで米國では、最初熔接の技術が十分でないため、やむなく鋸接の爆彈を使用したのであるが、熔接が進歩してからは大量生産を狙つてドイツの様な圓筒型の爆彈を採用する様になつてきた。米國標準局の研究によると、この型の爆彈は流線型のものよりも遙に製造が容易で値段が安く、彈道學的性能も實用には何等差支へないといふのである。

その故でもあるまいが英國自慢の新型一トン爆彈などは、外形がドイツのものに非常に似通つてきたやうだ。

ドイツの爆彈のもう一つの特徴は強力な新爆藥を使つてゐる點である。米誌によると現在各國の爆彈に使はれてゐる火藥は大抵TNT（トリ・ニトロ・トリニエー）ださうであるが、これは前大戰當時すでにドイツが發明した火藥で、強力な上に安定度が高い。TNTをつめた爆彈は、たとひ機銃弾や高射砲彈の破片が貫通しても、全

然爆發しないから一方爆撃機にとつても安全なことはいふまでもない。

強力といふだけなら種々の火藥があり、たとへばニトロベンゼンを強い酸化劑の發煙硝酸に溶かしこんだものは、極めて強烈な爆藥であるが、安定度が少く、これを入れたフラスコをコンクリートの床に落してもしたら、轟然と炸裂してしまふし、また二酸化窒素に二硫化炭素を混ぜたものはアニリットといふ強爆藥で値段も非常に安い

が、これをつめた爆彈は小銃彈のカスリをうけても直ぐ爆發を起すなど凡そ爆彈用としては縁遠いものである。強爆藥の研究に腐心してゐるフランスでは、この二つの成分（二酸化窒素と二硫化炭素）を一つの爆彈の中へ別別に貯へ、投下してから自動的に混合させて目標に命中するまでにアニリットになる様な實驗をしたことがあるが實用には至らなかつた。さて、ドイツの新爆藥の正體は液體

酸素に硝酸アンモンや木炭粉などを混ぜたものであるといふ説もあり、一方アトマイトを改良したものではないかともいはれる。

このアトマイトはドイツの發明で、爆弾には以前から使はれてをり、TNTよりも遙に強力で安定なことや生産原價の非常に安いものであることは、英國の専門家も認めてすでに米國にも特許權が讓渡され、更に一千万ドルの會社がカナダにできてゐると傳へられる。

これから觀ても現在のドイツの火薬が英米よりも數段優秀なことが想像され、英國の新一トン爆彈の火薬の威力がこれまでの五倍にも達するといふのは結局宣傳程のこともないやうに思はれる。

○獨軍の新兵器

各方面の所報を集めると次の如くである。

(1) 小銃

射撃距離の短縮から獨軍の小銃は全く騎銃一式で一〇〇—二〇〇〇米の照尺である。

(2) 第一式機關銃

三四式と名附けられ、輕機も重機も同一機構を採用し、唯重機は堅固なる脚に照準眼鏡緩衝發條を装してある。發射速度毎分八〇〇發、命中程度良好、故障絶無と云はれて居る。

(3) 野戰用二十四種加農

五車分解自動車牽引式で、最大發射程約三十七杆であるが、火炮の構造外觀も舊套を脱し、彈丸には誘導ヒレが附いて居る。

(4) 戰車

各種戰車が快速と操作性の良い事が自慢である。

(5) 快速舟

スツルムボートと名附ける快速舟は實に輕快であつて水中で障礙飛越をなし河岸に乘上げる。渡河戰闘に於ては非常な威力がある。

(6) 戰車用無線

獨軍戰車は單車に至る迄無線を裝備して居つて手足の如く指揮が出来る。故に現在では最も指揮容易な兵種は戰車と云ふことになつて居つて、電撃戰の成功は一に無線の力によると認められて居る。採用されて居る様式は超短波であつて、其の能力を發揚する爲に車輛側に於ても、機械化部隊の全車輛に亘つて完全なる電磁遮蔽がされて居る。

(7) 爆發力應用の落下傘

爆發力を應用して落下傘を急速に開かせる特殊装置で、これによつて落下傘部隊は著しく低空から機體を離れることが出来る。

(8) 新型機雷

さきに發明した磁氣機雷が英國側の磁氣不感ベルト(ガウス船帶)で無効となつたため、さらに此の裏をかいて船のスクリュウの回轉の振動により爆發する新發明機雷を發明した。

(9) 飛行士救助用染料

低い射角で射撃出来るやうに設計されてをり普通の野砲にあるやうな防楯を具へてゐる。

ドイツがかうした變態高射砲を考へるやうになつた抑へは、第一次の大戦で一九一七年十一月、突如として現れた四〇〇臺からの英軍戰車隊によつて危くカンブレの陣地を殲滅突破されようとした時、咄嗟の機轉で獨軍の高射砲が砲門を開き、十數臺の英軍戰車を隣りうちに撃破したのが事の起りである。

これにヒントを得、その後新らしく萬能高射砲を設計して、さきのスペインの内亂で試験的に使用し、政府軍の機械化部隊を相當惱ましたものである。

この實地の經驗を逸早く採り入れて更に大改良を加へたので、今回の大戦ではアラス附近の戰闘で英佛側の戰車群の猛襲によく對抗し、一日で八二臺の戰車を破壊擱坐させたばかりでなく、フランダーズの海岸に

据ゑつけた萬能高射砲は、英海軍の驅逐艦を數隻撃沈し赫々たる戰果をあげてゐる。

(13) 地雷投擲戰車

同戰車は巨大な爆裂彈をうんと前方に投げ飛ばす装置を持つてをり、その爆發で砂囊や小防塞を一舉に粉碎する。

(14) 小型戰車輸送用大型飛行機

北阿戰線で使用された。

(15) 要塞撃破目的で訓練された落下傘兵

彼らは石綿製の防火服に身を固め火焰發射機を携へ低空から跳びおり直ちにギリシヤ軍要塞に發射機の筒先を突込み守備兵を黒燒きにした。右の報道を一層詳細に述べてパリソワール紙は左の如く報じてゐる。

特別訓練を受けた機關銃兵が火焰發射兵とともに飛行機から飛び降りる。火焰發射兵は要塞を乗取り各所のトーチカ破壊を敢行するのだが、機關銃兵はこれを掩護する役目を持

固形染料を飛行士の安全ベルトに裝置しておき、飛行機が水面から沈んだ瞬間、この染料は附近の水面一帯に擴がり、飛行士は直ちに之を目標として救助のため着水した僚機に救助される。

(10) 對防潜網裝置

潜水艦のスクリュウ裝置を改良し防潜網にぶつかつてスクリュウが纏れないやう船體に密着した構造とする。

(11) 擬裝望遠鏡

海面に望遠鏡を擬裝した浮標を澤山浮べて置き、敵がどれが眞物の望遠鏡か分らないやうにして敵の攻撃を混亂させる。

(12) 萬能高射砲

激烈を極めたスターリン要塞線の攻防ではソ聯の百二十砲超重戰車群に對し、獨軍は自慢の萬能高射砲を繰出して對抗撃破した。

この萬能高射砲といふのは、近づいて来る地上の敵に對しても極めて

つてゐる、これはユーゴ、ギリシャ
兩戦線で使用されたが地雷投擲戦車
はユーゴ戦線で使用されただけであ
る。ドイツの機械化部隊はダイナマ
イト部隊をその編成に加へてをり、
ダイナマイト部隊は煙幕にかくれて
行動するので、まづ煙幕は要塞の防
壁を下から上まで、トーチカならば
これを全面的に包んでしまふ。そこ
をすかさずダイナマイト部隊が突進
し防壁にダイナマイトを装置して爆
破するのである。この方法はメタク
サス線突破に用ひた。なほ地雷投擲
戦車は主として切り立つた河岸に對
し使用されるので、これで河岸を破
壊し機械化部隊の進撃を可能ならし
めるのである。

また各紙の報道によればドイツの
道路築造學界の泰斗フリッツ・ト
ット博士(軍需相)はバルカン進撃
部隊の後方に従軍して軍用道路保全
の監督に當つてをり、技師隊は機械
化部隊に従つて進み彼らの持参した

道具で破壊された道路や橋梁を忽ち
修繕してゐると。

○飛行機魚雷の効果

空中魚雷の効果は昨年の獨英海戦に
はじめて實驗に供せられ、大東亞ハ
イ海戦で偉大な効果を擧げたが、その
沿革を少したどつてみると——空中魚
雷とは俗の名で、軍關係では飛行機魚
雷と呼んでゐる。これは忽然と現れた
特殊な新兵器ではなく、従来の魚雷を
驅逐艦の代りに、スピードの速い飛行
機が使つたに過ぎない、といつてしま
へばそれまでだが、これにも多少の新
工夫はある。

魚雷は他の兵器、彈丸、爆彈などと違
ひ、水面に落ちてから自分の力で走ら
なければならぬ、その構造は恐ろしく
精巧で、一分の狂ひも許されない。高
い空中から落とすと水面におちた瞬間、
破壊され爆發してしまふ。そこでその
對策研究に先鞭をつけたのはイタリア
海軍で、パラシュート魚雷を實驗した

ことがある。

空中魚雷の狙ひは何處にあるかとい
へば——従来の魚雷は水上艇で運ん
だ。ところが、軍艦のスピードは最近
ます／＼向上してビスマルク號の如き
は三十二ノットもでるし、イギリスの
キング・ジョージ五世號も三十ノット
近く出て、魚雷を放す驅逐艦のスピ
ードとそんなに違ひはなくなる。

魚雷の射程距離内にまでこのろろと
近づけば魚雷發射前に巨砲で叩きのめ
されてしまふし、また魚雷を發射し得
たにしろ追ひつけない場合が多い。

飛行機なら、魚雷發射の絶好の位置
に飛んで行つて自由に放すことができ
る。勿論被害なしとしないが、驅逐艦
の場合にくらべたら、ずつと少くてす
む。こゝでもスピードが決定的な因子
となつてゐる。

飛行機に積込む空中魚雷はどれだけ
のものかといふと、英軍使用のものは
雷徑四十五センチ、全重量七百五十キ
ロ、駛走能力三十五ノットで二千メー

トルの航続距離、炸薬量は百五十キロ、
發射高度百フィート内外、落された魚
雷は重心が真中になつて水面に落ちた
は少し前傾の姿勢で水面におちて水の
壓力によつてレバーが動き、スクリュ
ウが廻つて、水面下十メートルを潜行
する。

驅逐艦が現在使つてゐる魚雷は雷徑
五十三センチもあつてその威力は空中
魚雷の殆ど倍に近い、つまり空中魚雷
そのものゝ威力は現在の魚雷の性能か
らいつて大したものではないことにな
る。

それに空中魚雷は驅逐艦から放つや
うに公算射法のごとき精密な魚雷列を
布くことができない。結局命中した威
力はそれほど大したものではないけれ
ど飛行機のスピードを利用してこちら
の被害が比較的少くて済ませることが
大きな特徴といへよう。

なほ戦艦が全速力で走つてゐる場合
はこの空中魚雷もなか／＼命中し難く
また命中しても六發以上喰はなければ

戦艦は沈まない。

魚雷が一發命中すると約八疊敷くら
ゐの大穴があく、しかし魚雷は砲彈と
違つて穿徹力はないから、近代の戦艦
のやうに防禦隔壁を幾重にもつくつて
あればさう簡単に水が浸入しない。し
かした魚雷は船の底を打つて水を浸
入させるから戦艦の沈没には何といつ
ても一番効果的である。今度の戦争で
空中魚雷を利用してゐるのは目下のと
ころ英海軍に限られてゐるやうであ
る。今後の興味は、ドイツがこれに對
していかなる報復手段にでるか、す
でに英國のよりも大きな全重量八百五
十キロの魚雷を積込める偵察兼雷撃機
を用意してゐる。

○獨伊の特殊潜航艇

昨年七月二十六日夜、イタリア海軍
は最近完成したばかりの新秘密奇襲兵
器を使つて防備嚴重なマルタ島の英海
軍基地を襲撃し赫々たる戦果を擧げた
と外電は報じてゐる。

その正體に就ては、嚴秘に附されて
ゐるが「海襲艇」とでも呼ばれるもの
で味方の基地から母艦に積み込んで輸
送し、敵地附近で艦上から放つて決死
の乗組員によつて敵艦に肉薄するので
あるが、高速魚雷艇の様な騒音も出さ
ず殆ど敵に發見されないのが特徴であ
ると傳へられる。

こゝで思ひ起されるのはドイツの雜
誌に奇襲兵器として潜水艇の隱密性と
魚雷艇の高速を兼ね備へた一人乗兵器
の計畫が發表されたことである。

これは普通の魚雷よりも少し大き
く、その胴中に腹這ひになつた操縦者
は手と足で舵を操縦し、眼の前の小型
潜望鏡で針路を定めて方向や浮沈を調
節する様にしてゐる。

機關はやはり壓縮空氣を使ふもので
あるが、イタリアの魚雷の速いことは
世界一で五〇ノット以上を出すといふ
から、イタリアの海襲艇がこれに似た
ものとするれば相當の高速力であらう。
先頭には約一〇〇〇キログラムとい

ふ多量の強爆薬をつめ、操縦者もろとも一發必殺を期して敵艦にぶつかるといふ。そしてこれは犠牲的精神の強い勇敢な日本人にもつとも適してゐると註釋がついてゐる。

○爆 雷

我が海軍艦艇は十二月八日パラオにおいて敵潜水艦を「爆雷」によつて撃沈したが之は潜水艦攻撃に用ひる爆雷の一種でデブス・チャードともいはれちやうどドラム缶を小さくしたやうな圓筒形の罐の中へ三百ないし四百ポンドの多量の火薬を入れたものである。

これは水雷を利用した装置によつて、この「爆雷」がある深度に沈んだ時に爆発するやうになつてをり(爆発深度は豫め調節し得る)敵の潜水艦が水中に逃げ込んだ時とか、あるひは水中聴音機で敵潜水艦の所在を探り當てた時に、この「爆雷」を潜水艦めがけて投下する。するとこの「爆雷」はたとへ潜水艦に直接當らなくとも、それに接近した水中で爆発するから、この爆発力は強大な水圧となつて四方八方に擴がり、潜水艦は、その強い震動のため破壊浸水し、あるひは傾覆する。爆雷を投射するには爆雷投射砲、あるひは發射砲といふ短い砲から火薬發射する場合と、艦尾の傾斜臺からころがし落す方法とがあり、また時には飛行機から投下する場合もある。

○音響機雷

ドイツが發明したもので船のエンジンの音響によつて爆発するため音響機雷と呼ばれてゐる。

この機雷が爆発する順序はまづ船がやつて来るとエンジンの響きが機雷の表面に取付けられた音響探知機にキャッチされる。その振動はつづいて振動機に傳はつて行く。すると振動機には一種のマイクローフオンが接続してゐて蓄電池の作用で振動が擴大される。マイクローフオンには火薬を爆発させる雷管が連結されてゐる。この雷管は一定の振動状態に達すると火薬を爆発させるといふわけだ。丁度船船がごく接近したときに爆発するやうな仕掛けになつてゐる。しかもこの機雷は普通のやうに觸角も持つてゐるから船が觸れれば勿論爆発するといふ怪物だ。

この音響機雷に對してはさきの磁氣性機雷に對するやうに英國側の船に安全装置を施す手もないと見えて、チャール首相は議會で二萬の人員と千隻の船が毎日機雷の掃海に従事してゐると悲鳴をあげてゐる。

列國軍備の概況

本篇は昭和十五年一月陸軍省刊行「帝國及列國の軍備」に據り昭和十六年版本年鑑に掲載せるものに多少の加除を加へたるものなり、時局の變轉に伴ひ其後の異動大なるものあるべきも資料を得難きを以て其儘之を掲ぐるものなり諒焉。

列國陸軍々備一覽

Table with columns: 國名, 總數, 平時兵員, 內兵員, 主要部隊數, 摘要. Rows include 蘇聯, 支那, 蔣政權, 中樞, 中心, 支那, 蘇聯, 正規軍, 內務人民委員部軍除, 步兵, 獨立旅, 騎兵, 步兵師團, 騎兵師團, 從來的國民兵師團の廢止は...

特輯記事

米國陸軍の全貌及其主要なる兵器
米國軍備の一大飛躍
米國軍備擴張計畫及空軍建設計畫
極東赤軍
伊太利の軍除
新生の中華民國軍
參考「蔣軍」に就て
(昭和十四年末訓)

伊	獨	佛	(考 參)
約 六十五萬	正規軍 約二百萬	武裝團體 十八萬二千	正規軍 約六十五萬四千
本國軍 約六十萬 內憲兵 五萬		委任統治領民兵 約三萬四千 警備隊 十三萬三千	在本國兵力 約四十四萬八千 在「アフリカ」 及「ルヴァン」 十四萬六千 在植民地 及那 六萬
「ザラ」兵團 「エルバ」兵團	步兵師團 自動車化師團 輕快師團 「アルプス」師團	親衛隊 突擊隊 騎兵旅團 機械化師團	本國に駐屯する部隊 步兵師團 植民地師團 移動師團 戰車旅團 砲兵旅團 工兵旅團 外駐屯部隊 海軍 騎兵旅團 步兵旅團
五箇師團 二箇師團 一箇師團	五十一箇師團 二箇師團 三箇師團	四十二箇師團 四箇師團 一箇旅團	二十箇師團 一箇師團 四箇師團 三箇師團 二箇旅團 四十三旅團
本表の外空軍約二萬六千を有する	歐洲最強の國軍建設を企圖しあるが如くである。		

國	英	國	米
本國外 約四十五萬七千	本國軍 約八十萬	約五十三萬	
愛南新印漆加本 爾阿西蘭度洲奈國 爾阿西蘭度洲奈國 外の兵力	豫備軍 約二十萬	護國軍 法定數 四十二萬五千 現在數 二十一萬	正 規 軍 法定數 約二十九萬八千 現在數 二十萬
約約約約約 三萬一千 一萬三千 一萬三千 一萬三千 六千	地方軍 約三十萬	編成豫備軍 約十二萬	正 規 軍 法定數 約二十九萬八千 現在數 二十萬
		步兵 騎兵	步兵 騎兵
		二十箇師團	九箇師團 三箇師團
		三十箇師團	十八箇師團 (一部未完成) 四箇師團 (現基幹部隊のみ現存す)
	以上の外外征に使用するは目下の所正規軍、地方軍、豫備軍、約七十萬にして今次戰爭に於ては少くも六十箇師團約七〇〇萬を動員し得べし本表の外に空軍兵力十萬を有す。		護國軍は最小限二十五萬と規定せられあり、著々其の實現を期してゐる。「ル」大統領は九月八日準戰時なる事を宣言國防強化に關し非常時權を發動した

國	獨	(考參)國
伊	獨	佛
機 千 三 約 (屬所省軍空)	機 千 六 約 (屬所省軍空) (んせ達に萬一約は數機總)	機百七千四約 (屬所省空航) (百二千二約機線一第内)
飛行機 約二二〇 中隊	對波戰當時 約 八五箇師團 約 一〇〇中隊 約 三五〇〇% 約 三〇〇% 約 〇〇%	飛行機 約一五〇中隊 偵察球 一四四 氣球 四二 砲 五 砲 四 砲 三 砲 〇
爆撃機 八〇中隊 驅逐機 六〇中隊 陸軍協同機 二五中隊 海軍協同機 二〇中隊 在「アフリカ」 三〇中隊	未詳	法萬九十五百千三位五十百
利萬六千九億一十二約 (度年〇四、九三九一) (算豫省空航)	對	五 聯 隊
野戰高射砲聯隊 五(十二大隊) 義勇軍に屬する 陣地高射砲司令 二五 砲 約數 一四〇門	空軍高射砲 約 八〇箇聯隊 右の外要地防空用 並各部隊獨自用と して多數の砲及高 射機關銃を有す。	戰車旅團三(六聯隊) 獨立戰車大隊 獨立戰車中隊 約 四 右戰車數 約 一、五〇〇輛 其他豫備戰車 多數 裝甲自動車中隊 約 二〇
裝甲師團 二 自動車化師團 二 輕快師團 三 右戰車數 約 一、五〇〇輛	重機械化師團 五 輕機械化師團 四 戰車數 約 四、〇〇〇輛	

米 國

第一節 概説

一、國防上の立場と環境

米國は比隣に接疆の強國を有せざれば開戦勢頭より大陸軍を發動するの必要なく、且資源豊富、工業力發達しありて戦時必要に應じては一擧に大軍を編成し得るが如き國防上の好條件を有しあるが故に、優勢なる海軍に保有しあらず平時より大陸軍を保持するの必要無かるべしとは理論上一般に認めらるゝ所であるが、一九三六年以來國際非常時に備ふる爲陸軍々備の擴充、特に太平洋沿岸の防備と空軍の充實を力説し且常備軍の兵役年限を延長せるが如き、恐らく現下の世界情勢に刺戟せられ、且其の積極的外交政策推進の爲此等強大なる武力を保持せんとするものたるや疑ひない所である。

二、軍備方針

米國は世界大戰の苦き經驗に鑑み、

戦後其の國防法に根本的改正を加ふると共に、教育組織の統一編制の確立並に護國軍及編成豫備軍の整備に努力したが、參謀總長パーシング大將は、一九二二年七月二十三日國防方針に關し左の要旨を發表した。

米國は開戦當初に於て平時常設の正規軍を動員して九箇師團とし、之に護國軍十八師團並編成豫備軍の一部を加へ、先づ之を以て國境、海岸を守備し、其の掩護の下に國內に於て大動員を行ひ、且此の間各軍の軍事教練を補足完成し、海軍は米本國に對する敵襲の防衛を陸軍に委し獨立して作戰する。元來國防は我が國土の保安のみを以て目的を達し得るものではない。従つて各軍の動員及訓練完成せば、陸軍は遠征軍を編成して攻勢作戰を敢行する云々。

既に戦時約四百五十萬の大軍を動員するの計畫を確立し、且戦時之が甚大なる要求に應ぜんが爲産業、資源及労働等諸般の事項を網羅する周密なる産

業動員計畫の基礎を策定し、銳意之が完成に向ひ官民齊しく大なる努力を續けて居るのみでなく、其の國防方針中には陸海軍共各々積極的に攻勢作戰を敢行すると述べてゐるのは、吾人の關心を大ならしめずには置かない所であつて、事實其の陸軍に關する準備を見るに強ち脅し文句でないことが明かである。

殊に最近其の海軍に於て華府、倫敦兩條約の規定せる兵力量迄銳意建艦を進むると共に、陸軍の兵力増加、陸軍自動車化並機械化、裝備の近代化、航空部隊の大擴張を以て軍備改善の根本方針となし、大戰以來の沈滞を破つて急速に近代的世界一流陸軍の實現を期し、將に飛躍的努力の緒に就き、一方又大規模強力なる國家總動員法の制定等と相俟つて著々戰爭準備の完成に進しつゝある。

第二節 軍備要領

三、兵役制度

米國は獨立戰爭以來志願兵制度を以て兵制の根本と爲してゐるが、其の建軍の主義は左の如くである。

1. 國防は擧國一致を以て行ふべく米國市民にして苟も體格適當なる男子は凡て米國民兵たるの義務を有す。

2. 然れども之が爲國家の強制を以て軍隊を構成することなく、其の建國の精神たる自由平等主義に基き、市民の自覺に俟つの趣旨に依りて志願兵制度を採用し、平時最小限度の精銳部隊を存置するに止め有事に際して所要の大軍を編成す。

米國は以上の主義に依つて獨立戰爭以來各種の戰爭を經過し、其の都度臨時募集の民兵に依りて正規軍を補充し兎も角も其の目的を達成して來たのであるが、此の種制度の通弊たる軍事能力の低劣、志願者の不足に依る、補充難等の爲可なり苦き經驗を嘗めて來た。

世界大戰參加と共に、遂に徵兵令を制定し、僅に十二萬に過ぎざりし正規軍より、一躍三百五十有餘萬の龐大なる國軍の整備を爲したることは周知の事實である。戦後、兵制問題の論議に方り、繼承し來つた志願兵制度、即ち祖國の爲至高なる犠牲心の本能的發露に期待せんとするの制度に危険性ありとして、徵兵制度の優越を認むる者多く、參謀本部は因より上下兩院軍事委員會は、一般國民軍事教練案を議會に提出すると共に、大統領に徵兵權を附與すべしとの案を提起したが、議會は國民の全力を擧げて經濟方面に傾注せんとすの政策を標榜して前述の提議を否決し、再び戦前の志願兵制度に復歸することとなつた。

陸軍の補充及服役は其の種類に應じて左の如くになつて居る。

正規軍 下士官は米國市民たる男子にして十八歳乃至三十五歳の志願者より體格検査の上採用する。其の服役は三箇年及一箇年の二種（一箇年

服役志願者は少數）であつて、再服役は三箇年を一期として居る。正規軍下士官兵は除隊後豫備役服務の義務はない。尙參謀總長「クレイグ」大將は一九三六年度の年次報告に於て「陸軍は精兵十五萬人の整備を目標に正規軍の兵役年限を五箇年に延長し、内三年を現役に二年を豫備役に振り當てる方針の下に具體案作製中」なることを發表した。

四、軍の構成
米國陸軍は其の本質に於て、正規軍護國軍及編成豫備軍より成る。

1. 正規軍
正規軍は常備軍であつて、平時は國內及屬領守備の主體となり、一部を以て護國軍、編成豫備軍及市

民の軍事教育訓練を指導し、有事の際には第一線出動部隊の骨幹となるのである。

2. 護國軍

護國軍は地方有志の志願者を以て編成せらるゝものであつて、平時は各州に屬し地方の守備並治安維持に任ずるものである。而して戰時又は事變に際しては、大統領に於て議會の承認を経たる上、合衆國の爲使用し得る如くなつて居る。従つて中央政府より毎年各州に豫算を補助し、定數の護國軍を維持して其の編成、裝備、教育等皆正規軍に準據せしめ、以て戰時國防軍の第一線を形成せしむるのである。一昨年以來合衆國護國軍なるものゝ編成を見て、大統領の護國軍使用は從來より一層容易迅速となつた次第である。

護國軍將校以下は平素定業に服し（但一部は正規軍將校以下と同様學校教育を受く）毎年百四

十時間以上の訓練並夏季十五日間の野營を行ふに過ぎないから軍事的訓練は正規軍に比し遜色あるを免れないが、比較的地位教養ある人士が入隊するから精神的素質が優秀なるのみならず、平時より各種火器、自動車等を有しある點は我が國の在郷軍人と大なる相異で、飛行中隊の如きも十九箇中隊を有してゐる。

3. 編成豫備軍

編成豫備軍は合衆國戰時兵力中平時志願に依る將校及若干の下士官兵を以て編成せられたもので、爾餘の戰時兵力は總て紙上の編制とせられ、戰時は郷土を中心とし將校以下の要員を召集して編成及教育を完了する。従つて精神的素質は優秀なるも、軍事教練の程度は言ふに足らぬ。

第三節 兵力及編制

五、平時兵力

1. 正規軍

歩兵九師團、騎兵三師團、總司令部航空隊及其他の部隊より成り其の兵力は國防法に依り其の最大限を定め豫算に依り年々の兵力を規定せらるゝのである。一九三九年十月末に於ける其の人員は左の如くである。但括弧内は國防法規定の兵力を示す。

米人隊

將校 111,000 (147,400) 人
准士官以下 120,000 (140,000) 人
計 231,000 (287,400) 人
比島土人隊
將校以下 7,000

2. 護國軍

歩兵十八師團（一部未完成）騎兵四師團（基幹部隊のみ現存す）より成る。國防法規定の兵力は四十二萬五千人であるが、此の如き大軍を維持するは經費之を許さないので從來より此の定員に充たざること

遠く、一九三八年十月に於ける現在兵力は約二十萬人である。

3. 編成豫備軍 約十二萬

右は殆ど全部豫備役將校(下士官兵現在約四千名)である。尙一九三八年四月豫備兵充實法が議會を通過し、今後四箇年間に七萬五千の豫備兵を得ることとなつた。此の豫備兵は正規軍の既教育者で除隊した三十六歳以下のものである。

六、戰時兵力

新動員計畫に依れば戰時約四百五十萬の大軍を動員せんとするものにして概ね左の部隊より成り、之を以て六野戰軍を編成する。

- 1. 正規軍
 - 歩兵九師團、騎兵三師團及軍團並軍の直屬部隊
- 2. 豫備軍
 - 歩兵十八師團及騎兵六師團及其の他若干
- 3. 編成豫備軍

歩兵二十七師團、騎兵六師團及特種部隊九箇
國防法に依れば、平時より二十七師團編成の企圖を有するも、護國軍と同様豫算其の他の關係により未だ之を實現するに至らない。

第四節 航空

七、要旨

米國政府は世界大戰の平和克復後鋭意歐洲交戰諸國航空の精神を吸收することに努め、又華府會議以來比律賓及布哇に於ける空中威力の増進に著目する等著々其の充實に努力して居る。其の他飛行新記録の樹立に、長距離の敢行に又は優秀飛行機の設計、製作等に所謂「アメリカ第一」を標語として邁進し、航空機工業の顯著なる發達と共に其の進歩は驚くべきものがある。又一九二七年以來實行せる其の第一次航空擴張五箇年計畫は其の完成を見たが更に將來に對する計畫策定の爲、元陸軍長官たりし「ペーカー」を首班とする航空調査委員會を組織して航空に關する諸般の問題に徹底せる意見を具申せしめ、之に基き一九三五年春以來陸軍航空の内容を獨立空軍に改め、現有勢力約千四百機を五箇年計畫を以て四千機に擴張せんとすの企圖は議會の承認する處とならざりしと雖、今後約三年計畫を以て二、三二〇機に擴張せんとする案は一九三六年六月法文化成立し今や此の第二次擴張實現に邁進しつつあると共に、米本國國境各要地就中「アラスカ」に一千機を收容し得る大空軍根據地建設を企圖し、既に著々進行中なる布哇の大航空根據地完成と共に陸軍航空勢力を積極的に使用せんとし、又本國の要所々々並「アリューシャン」群島の上空は民間飛行の禁止區域とした。最近同群島の「シトカ」港に海軍は航空根據地を設け「アリューシャン」列島にも建設の豫定である。

る航空調査委員會を組織して航空に關する諸般の問題に徹底せる意見を具申せしめ、之に基き一九三五年春以來陸軍航空の内容を獨立空軍に改め、現有勢力約千四百機を五箇年計畫を以て四千機に擴張せんとすの企圖は議會の承認する處とならざりしと雖、今後約三年計畫を以て二、三二〇機に擴張せんとする案は一九三六年六月法文化成立し今や此の第二次擴張實現に邁進しつつあると共に、米本國國境各要地就中「アラスカ」に一千機を收容し得る大空軍根據地建設を企圖し、既に著々進行中なる布哇の大航空根據地完成と共に陸軍航空勢力を積極的に使用せんとし、又本國の要所々々並「アリューシャン」群島の上空は民間飛行の禁止區域とした。最近同群島の「シトカ」港に海軍は航空根據地を設け「アリューシャン」列島にも建設の豫定である。

成り米海間の試験飛行を終り、其の他多數の器材及指導の爲の人員を入國せしめて直接勢力の伸展を圖ると共に、自國航空工業の高度維持に努めて居る。

八、航空兵力

空軍を獨立せしむることなく、陸海軍に夫々航空兵力を屬して居る。陸軍は航空隊及航空學校を有し、航空局に於て其の業務を管掌して居るが、一九三五年以來總司令部航空隊なるものを常設し、參謀總長の轄下に屬せしめ、其の内容を遠距離用重爆主體に改編し「アリューシヤン」、布哇、巴奈馬を連ぬる線以東の米本國沿岸防禦を擔任せしむると共に、更に獨立して空軍的に隨時各方面に積極的に使用し得る様にして居る。其の陸軍航空兵力は左の通りである。

- 1. 總人員
 - (一九三八年六月末現在)
 - 將 一、五〇〇
 - 校

准士官以下

合計	二〇、〇〇〇
2. 中隊數及機數	二一、五〇〇

(一九三八年末現在)

正規軍

偵察、戰鬥、其の他部隊に區分せられ戰鬥部隊は更に驅逐、攻撃、爆撃中隊に、其の他部隊は輸送、氣球、氣象、學校、基地勤務中隊に夫々區分せられて居る。

其の中隊數左の如し。

偵察部隊	二〇中隊
戰鬥部隊	四〇中隊
其の他部隊	七〇中隊
合計	一三〇中隊
機數	約二〇〇〇機
國軍機數	約三〇〇機

3. 航空根據地
如何に飛行機が整備せられても、航空根據地がなければ其の効力を

4. 航空豫算

航空關係豫算の概要を示せば次の如くであつて、逐年激増を示し、特に一九三九年度豫算に於ては、一九四一年度迄に六千機保有を目標とする航空擴張二箇年計畫可決せられ、尨大な航空豫算を通過せしめた。但俸給等の經費を除く。

米國航空關係算の概圖 (單位千弗)

陸	一九三四年度	一九三五年度	一九三六年度	一九三七年度	一九三八年度	一九三九年度
軍	六八、三六五	八三、八三六	九六、八七二	一〇一、八五一	一二四、〇〇〇	三六四、〇〇〇

第五節 化學戰準備施設

一、要旨

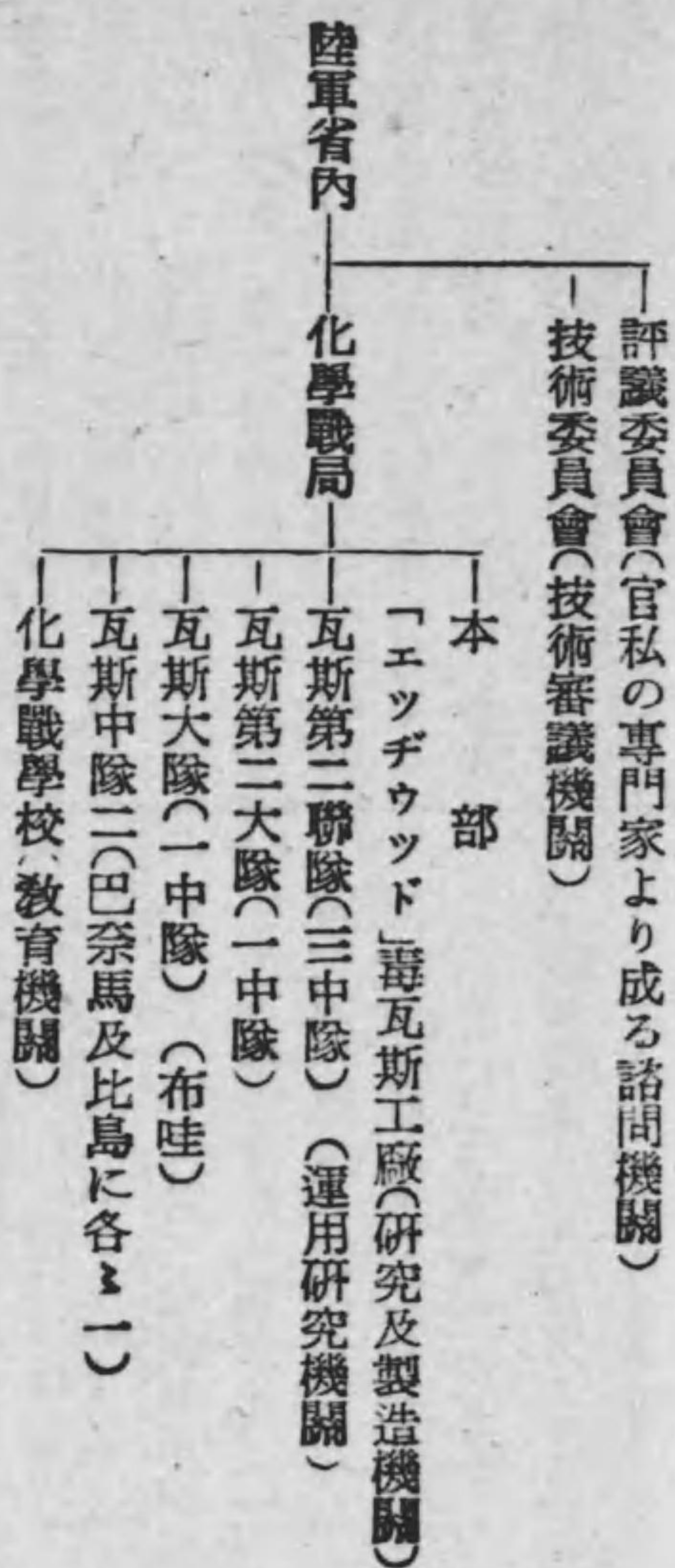
米國陸軍當局は將來戰に處する爲、毒瓦斯を主とする化學戰を以て最も經濟的且有效なる戰闘法なりと認め、官民協力して之が利用、研究、調査等に努力し、殊に平時に於ける之が教育施設及工業動員等に對しては、周到且大規模の準備施設を實施して居る。米國の當局者が、戰に勝たんが爲には毒瓦斯制限に關する條約の如きは一顧にだも値せざることと公言せる如く、本施設に對する米人の意氣込を十分に窺ふに足るものがある。

當局の毒瓦斯使用に對する見解

イ、化學戰部「ジョージ、ハント」大佐の口演要旨
 毒瓦斯は極めて有效なると同時に比較的人道的の兵器であつて將來戰に於ては國際間の諸條約の如何に拘らず、斷然之を使用しなくてはならぬ云々。
 ロ、前化學戰部長「フリス」少將の報告要旨
 現今及將來の戰爭は全く國民戰爭であつて、開戦と同時にあらゆる人員、工業を擧げて動員し國家の安危に關する秋に方りては、如何なる武器、如何なる交戦法と雖斷然之を使用し、勝利の獲得に努めなくてはならぬ云々。而して化學的國防準備は最も經濟的にして且最も有效である。

二、化學戰諸機關の概要

米國は、毒瓦斯の研究を公然と組織的、徹底的に行つて居る。其の編制は次の如くである。



之等の諸施設完成の爲に要せし費用は八千萬圓と稱せられ、「エッチウツ」毒瓦斯工廠は研究及製造の機關として諸設備が完備して居る。

三、化學戰教育施設

參謀本部には化學戰部將校を配屬して動員、教員、編制、裝備等に關する勤務に服せしめて居る。又毒瓦斯に關する教育施設としては化學戰學校主として之に任じ、陸軍大學校、參謀學校、步兵學校、及其他の特科學校に於ても夫々一部の教育教練を實施して居る。其他軍團及師團に於ても幹部以下に

對し瓦斯教育を行ひ、之が普及徹底を圖つて居り、運用研究の機關として常設瓦斯第一聯隊がある。

尙別に豫備瓦斯聯隊二個あり、毎月一回夏季約二週間召集し野營地に於て教育して居る。

四、民間に於ける化學工業施設

民間に於ける化學工業は平時に於ては製薬、染料、寫真用藥品、香料、調味品、人工纖維、食料色素等を製造すると共に、爆發物及毒瓦斯等戰用化學品の原料又は半製品を生産し、官民一致して本工業の助成、發達を圖ると共

に、將來戰に際しては、此の種工業に關するあらゆる人員、工場、設備、材料、製品等を擧げて動員し、必要に應じ大規模に之を行使するに遺憾なきやう準備を進めて居る。化學工業動員準備に關しては、化學戰部内に民間化學工業家との連絡を擔任し併せて情報蒐集に任ずる一課を設けて居る。其の任務は主として戰時所要の化學品の利用法を計畫し、尙民間に於ける各種化學工業家との協調を一層密ならしむると共に、其の製造設備並原料品、補給資源等を調査するに在る。又米國化學協會の委員中の若干名並専門家の化學者技師十五名を化學戰部の顧問として新知識の移入、改良、進歩に資して居る。斯くて米國に於ける瓦斯及防毒面の利用は各方面に發達し、毒蟲驅除、船舶の消毒、坑内労働者の炭酸瓦斯防護、警察、消防等に著く効果を擧げて居る。

第六節 國家總動員施設

米國總動員業務は其の軍備方針に明

示さるゝ「國內大動員」の準備の根幹を成すものであつて、陸軍省の擔任に屬し、陸軍次官主管の下に數箇の補給部局を設け、關係各省及民間團體之に協力して、専ら重點を軍需品の補給統制に置き、調査、研究、補給計畫並に戰時諸機關の編成等に關し徹底せる具體的準備を進めてゐる。

尙一九二六年上下兩院に提出せられた總動員法案は、大統領に資源統制の獨裁權を賦與せんとするもので、一九三六年の會議に提出したが、戰時獨裁制を誘致するとの理由の下に採用するに至らず一九三八年二月になつて始めて通過した。そして工業動員の要員と思惟せらるゝ豫備兵器將校の外特に産業大學を設置して産業動員統轄要員の養成に任じて居る。又一九二四年以來國防記念日を設けて一般國民に對する總動員演習を實施し、約二萬個の民間工場に對しては平時より教育註文制度に依つて兵器の製造に習熟せしめ、戰時之等の工場が命令一下直ちに軍需品

の製造に轉換擴充し得る如く周到なる計畫を準備して居る。

特輯

米國陸軍の全貌及其の主要なる兵器

(軍事と技術)

須藤 行義

第一章 編制及制度

米國陸軍は米國憲法の定むる所により、國會に屬し、大統領の統帥下にあり、次の系圖に示す如し。

米國憲法—大統領—陸軍大臣—

—陸軍次官

—參謀總長(陸軍現役將校)

(中の最高官)

一九一六年六月三日附發布の國防法

により米國陸軍を六區分す。即ち、

正規軍 (Regular Army)

米國護國軍 (National Guard of the United States.)

平時護國軍 (National Guard while in the service of the United States.)

豫備將校團 (Officer's Reserve Corps.)

在郷將校團 (Organized Reserves.)

登録豫備兵 (Enlisted Reserve Corps.)

豫備將校團 (Officer's Reserve Corps.)
在郷將校團 (Organized Reserves.)
登録豫備兵 (Enlisted Reserve Corps.)
されど通常は簡單に三大要素

正規軍 Regular Army.

護國軍 National Guard.

豫備軍 Organized Reserves.

に大別さる。而して(一)兵科、(二)部(三)局よりなる。

一、兵科

1、歩兵 2、騎兵 3、野戰砲兵

4、海岸砲兵 5、航空兵 6、工兵 7、通信兵

二、部

1、高級副官部 2、査閲總監部

3、法務總監部 4、輜重運輸部

5、經理部 6、軍醫部

7、兵器部 8、化學戰部

9、教誨部

三、局

護國軍局

正規軍

正規軍は米國陸軍の根本をなすものにして、國土の守備に任じ、自らの教育に當ると共に護國軍及豫備軍の教育指導に任ずるものなり。且又國民の軍事思想普及を圖り、又豫備將校養成隊 Reserve Officers' Training Corps 略して R.O.T.C.(後述す)の指導に任ず。一九三九年に於ける正規軍の兵力第二表の如し。

戦略上四つの軍管區に分けられ、行政上九つの軍管區に分けらる。

第一軍管區

司令部所在地 マサチューセツ

州ボストン市

第二軍管區

司令部所在地 紐育州ガヴァナ

ースアイランド

第三軍管區

司令部所在地 メリーランド州

ボールチモーア市

第二軍管區

司令部所在地

第二軍管區

第二軍管區

一般には兵科の任務は戰闘を交へるにあり、部の任務は彈藥、糧食、被服を輸送し、醫學的治療をなす等兵科の戰闘を間接に援助するにあり。されど工兵及通信兵の如き多少の例外はあり兵科は完全に將校及下士官兵を以て編

第一表

部	隊	單位	兵	長ノ階級
分	Squad	隊	三名以下	軍曹又ハ伍長
複	Section	分隊	二〇—三〇	軍曹
小	Platoon	隊	四〇—五〇	小中尉
中	Company	隊	八〇—二〇〇	尉
大	Battalion	隊	三〇〇—八五〇	少中佐
聯	Regiment	隊	八〇〇—一、一〇〇	佐
旅	Brigade	團	一、〇〇〇—一、五〇〇	旅團少將
Division	師	團	一、五〇〇—三、〇〇〇	三角編成歩兵師團
師	師	團	三、〇〇〇—四、〇〇〇	四角編成歩兵師團
兵	兵	團	八、〇〇〇—一〇、〇〇〇	騎兵師團
騎	騎	團	一〇、〇〇〇	少將

成されあも、部の中には將校のみを以て編成され、下士官兵を有せざるものあり。兵科の部隊單位を總括せば第一表の如し。

況概の備軍國列

第二表 一九三九年六月三十日に於ける正規軍各兵科及各部の兵力量

註一 第二欄の最大数は戦時兵力にして平時は其の凡そ三分の二なり。
 註二 三角編成歩兵師團は一名軽速歩兵師團とも稱せらる。

兵科及部	將	校	下士官兵	其他
歩兵	三、六一三	六五	五七、三四七	
騎兵	九一四		九、八六二	
野戰砲	一、六六二		二二、六三八	
海岸砲	一、〇六八		一八、九二一	
航空砲	一、六七〇		二〇、八三八	
通信兵	七八二		五、四八一	
高級信	二八八		三、六八七	
法務副官	八九			
輻射總監	八九			
運輸總監	六〇八		一〇、四三七	
經理器	一一九		四七八	
兵器部	二八六		二、七二九	
化學戰部	九八		八〇三	

軍團 (Army Corps)	兵力 (Number of Personnel)	規模 (Scale)	將 (Generals)
第一軍團 (Case I)	250,000 - 300,000	中	將
第二軍團 (Case II)	100,000 - 200,000	大	將

- 第五軍團管區 司令部所在地 オハイオ州コロンバス市
- 第六軍團管區 司令部所在地 イリノイ州シカゴ市
- 第三軍管區
- 第四軍管區 司令部所在地 ジョルジア州アトランタ市
- 第八軍團管區 司令部所在地 テキサス州サンアントニオ市サムヒューストン
- 第四軍管區
- 第七軍團管區 司令部所在地 ネグラスカ州オマハ市
- 第九軍團管區 司令部所在地 加州桑港市
- ワシントン州、オレゴン州、アイダホ州、モンタナ州、ワイオミング州、ユター州、ネ

況概の備軍國列

軍	教	特	陸軍士官學校教授	准士官 (別項に含ま)	陸軍士官學校生徒	陸軍看護婦隊	計 (フキリツピンを含まず)	合計 (フキリツピンを含まず)	フキリツピン駐屯軍
歩兵	一、五〇九	一二四	九				一一、九九三	一八三、四二六	
騎兵									
野戰砲									
海岸砲									
工兵									
通信兵									
輻射兵									
經理器部									
兵器部									
軍醫部									
計 (フキリツピン)									三九

一九三九年九月三十日には正規軍には歩兵五師團を有す。

- 第一師團 紐育州ブルックリン・フォートハミルトン
- 第二師團 テキサス州サンアントニオ市フォート・サムヒューストン
- 第三師團 ワシントン州フォート・リユーキス
- 第五師團 イリノイ州フォート・シエリダン
- 第六師團 ワシントン州フォート・リユーキス

その他ジョルジア州フォート・ベニングには一軍團あり。その他にも各所に軍隊を配置しあり。機械化騎兵及輕戰車兵は各所にあり。又高射砲隊は米國土中各所に分散しあり。一般に正規軍の大部分は國內各所に小兵力づつに分散しあり。之はアメリカン・インディアン等に對して防備する必要あり

合計(フキリツピン)	六、四〇六
正規軍合計	一三、〇三二
正規軍合計	一八九、八三二
其の他現役勤務中の者	
現役勤務退役將校	八八九
現役勤務豫備將校	七
囑託軍醫	八九六
合計	九二七
現役勤務者總計	一九〇、七五九

し昔日の遺習なり。現今歩兵一箇師團が一箇所に集中しあるは、ハワイ領シヨッフキールドのみなり。正規軍が現今まで斯くの如く分散し居ることは、其の集結を困難ならしめ、大部隊の演習に不便なるも一面市民の軍事訓練上著しく便利なり。正規軍の聯隊數は一乃至一〇〇師團數は一乃至二五にして平時と戦時とにて其の數量の伸縮は自由になしあり。此の正規軍の分散しある事の不利を

除く爲一九三四年に新規演習豫定を立案せり。本演習豫定案によれば毎年一回四つの軍管區の内一つづつ正規軍、護國軍及豫備軍を集合し演習を行ふ。其の演習の行ひ方に二種あり、或年に於ては高級隊長及參謀のみが國內の或地方に集合し演習を行ふ。之を指揮者演習 Command Post Exercise 略して C. P. X. と稱す。此の演習を行ひ置きたる後翌年實際に軍隊を動かし演習を行ふ。

護國軍は國民中の志願兵を以て編成し目下將校一五、〇〇〇、下士官兵二三五、〇〇〇あり。四八州デイストリクト・オブ・コロンビア、ハワイ、ポルトリコ及アラスカにあり、一、五〇〇箇所に分散しあり。正規軍と同様の各兵科及各部より成る。護國軍は元來各州及各地方に於て個

個に編成せられ、夫々獨立して統制しあり、唯一朝有事の際にのみ國家の統制下に入るものとす。従つて平時は服制に至るまで個々に制定しありたり。されど一九〇三年國會を通過せる法律により従前より餘程國家統制に近付き正規軍に類似の形態を取るに至り、服制、使用兵器、訓練等全く正規軍と同一になれり。而して同法律により、正規軍將校と同一將校が配屬せらるることとなり、同一兵舎に於て教練を受くることとなれり。其の後一九二〇年の國防法及一九三三年の護國軍規程により上記米國陸軍三大要素の一となれり。而して護國軍將校は正規軍將校と同一基準により銓衡せられ米國陸軍將校となり、國家より米國護國軍將校として配屬を命ぜらるることとなれり。而して護國軍將校は有事の際に直に大統領の命令により米國護國軍將校となるものなり。但し國會が宣戰布告をなさざる場合には護國軍將校の自己の承諾なくして一年度内十五日以上強制的

第三表

護國軍歩兵師團及其の所在地

管區	師團	州
I	第二六師團	マサチューセッツ州
I	第四三師團	カナチカト州、メイン州、ロードアイランド州、ヴァーモント州
II	第二七師團	紐育州
II	第四四師團	ニュージャージー州、紐育州
III	第二八師團	ペンシルヴェニア州
III	第二九師團	メリーランド州、ヴァージニア州、デイストリクト・オブ・コロンビア、ペンシルヴェニア州
IV	第三〇師團	ジョルジア州、北カロライナ州、南カロライナ州、テネシー州
IV	第三一師團	アラバマ州、フロリダ州、ルイジアナ州、ミシシッピ州
V	第三七師團	オハイオ州
V	第三八師團	インディアナ州、ケンタッキー州、西ヴァージニア州
VI	第三二師團	ミシガン州、キスコンシン州
VI	第三三師團	イリノイ州
VI	第三四師團	アイオワ州、ミネソタ州、北ダコタ州、南ダコタ州
VI	第三五師團	キャンサス州、ミズリー州、ネブラスカ州
VI	第三六師團	テキサス州
VII	第四五師團	アリゾナ州、コロラド州、ニューメキシコ州、オクラハマ州
VII	第四〇師團	加州、ネヴァダ州、ユター州

に米國護國軍將校として召集を受けることはなきものなり。
州知事は其の州の法律の定むる所に從ひ其の州の護國軍を召集し訓練其の他を命じ得。護國軍全員は米國及各自の州に對し忠節を誓ひ米國大統領及各自の州知事の命に服従することを誓ふ故に彼等は米國國家の有事の際に、國家に奉公するのみならず、又同時に各自の州の地方的有事に際しても奉公するものなり。第一次世界大戰當時各州各地方より總計五〇〇、〇〇〇の軍隊が召集せられたり。佛蘭西に派遣せられたる師團の内五分の二は護國軍なりき。

護國軍は毎年其の豫算の可なり大なる部分を國會より受け、之により兵器其他器材、制服、自動車、馬、飛行機を整備し、建築並に既建築物の修理を行ひ又將校を正規軍學校へ派遣す。州の豫算を以て建築及兵舎の維持、野外演習及有事の際の特殊支出其の他に當つ。護國軍は師團、旅團、聯隊等正規

第四一師團
アイダホ州、モンタナ州、オレゴン州、ワシントン州、ワイオミング州

第四表

護國軍騎兵師團及其の所在地は第四表の如し。

管區	師團	州
II III	第二一騎兵師團	紐育州、ペンシルヴェニア州、マサチューセツ州、カネチカツト州
V VI	第二二騎兵師團	ペンシルヴェニア州、オハイオ州、ケンタッキー州
IV VII	第二三騎兵師團	アラバマ州、ジョルジア州、ルイジアナ州、テネシ州、イリノイ州、ミシガン州、キスコン
VII VIII IX	第二四騎兵師團	コロラド州、アイダホ州、アイオワ州、キャンサス州、ワシントン州、ワイオミング州

軍と同様の編成を有す。各軍團管區に於ける各部隊は平時は各軍團管區司令官の指揮下にあり。而して國家有事の際には自動的に米國陸軍として其の司令官の指揮下に入るものとす。
護國軍歩兵師團及其の所在地は第三表の如し。
尙此の外にも上記各州及ニューハンプ

プシアイアー州、デラウエア州、アラカンサス州、ポルトリコ、ハワイ等に師團番號を附せざる各部隊あり。
護國軍の部隊は正規軍及豫備軍と同様番號を以て命名されあり。聯隊は一〇〇乃至三〇〇の數字、歩兵師團は二六乃至七五の數字を有す。其等數字の後に州名を附す。古き歴史を有する部

隊にては古名を其儘用ふるものあり。又或部隊にては古名と新名とを併用するものあり。例へば

第一歩兵聯隊(メリーランド州護國軍)
ワシントン砲兵聯隊(第一四一野戰砲兵聯隊(ルイジアナ州護國軍))
等の如し。

護國軍將校は軍事研鑽の爲陸軍各學校に通學し、又優秀なる將校は正規軍の實施學校へ派遣せらる。

護國軍軍人にして特殊事情の爲現役勤務に耐へざる事となる場合、又は個人的希望により退役し度きものは豫備護國軍に編入され、時に召集訓練を行ふことを得。但し豫備に編入せるものは戦時の他は再び現役に復することなし。平時に於ける護國軍兵力は第五表の如し。

護國軍局
護國軍局は米國全土に分散しある護國軍を全般的に統括する爲陸軍省内にある一局にして、陸軍大臣に隸屬す。

第五表

一九三九年六月三十日に於ける護國軍の兵力量

少將	旅團	騎兵	野戰砲兵	海岸砲兵	航空兵	航海兵	工兵	通信兵	高級副官	法務總監	輜重運輸部	經理部	軍醫部	兵器部	化學部	教育部	豫備護國軍
一七	六三	五、五一五	七九八	三、一九五	九二六	四六八	四九五	一四五	一三七	九七	六七三	四七	一、五三七	八六	二二	二三四	一四、四五五
將	校	准士官	下士官兵	計													
一七	六三	八三	一九	九一、九八〇	五七	二〇	一七	一、九〇八	一、八四八	一、四四八	一、八四八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八
一七	六三	九一、九八〇	一〇、九一九	三六、七一五	一三、七七四	一、八四八	一、八四八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	九七、五七八</															

下として正規軍及護國軍の各兵科、各部將校三十名を有す。
本局は平時に於て護國軍の諸事務をとり、豫算を掌り、各州、各地方及デ

豫備軍

豫備軍は戦時に於ける動員を遂行する爲に存するものにして平時は正規軍將校、豫備將校團、登録豫備兵より成る。
豫備將校團は軍事訓練を受けたる國民にして、定期的召集訓練を續行し

校養成隊及國民軍事教練隊 Citizens' Military Training Corps 略して C. M. T. C. (後述す)の卒業生及其の他特

して平時より動員計畫が立てられあり。其の最初に定められたる部隊に殆ど終生所屬するものとす。
平時は教育召集として一年に二週間國民軍事教練

Table with 4 columns: 正規軍, 護國軍, 豫備軍, 總計. Rows: 將校, 准士官, 下士官兵, 計. Data values include 13,032, 14,455, 104,375, etc.

一九三九年度に於ける米國陸軍三要素の兵力量
素の兵力第六表の如し。

一九四〇年に於ける總數は五八五、〇〇〇なり。(中略、第七表略)

第二章 兵科

兵科即ち戰鬥部隊單位は左記七種に分たる。

- 1、歩兵 2、騎兵 3、野戰砲兵 4、海岸砲兵 5、航空兵 6、工兵 7、通信兵

米國陸軍に於ても、我が陸軍と同様軍の主力は歩兵にありと考へられ、其の他各兵科の用法は我が國と同様である。

大なる戰鬥に於ては兵科(部も同様)の部隊單位は併せられて、師團、軍團、軍を構成す。併し各兵科は夫々特異の事情を有するを以て、各兵科を綜合し、一の統制下に置く。之が爲ワシ

研究を促進し、運用、使用兵器の改良、新兵器の補充を掌る。此等の事項は多く各兵科單獨に決定し得るものにあ

歩兵

歩兵は前述の如く戰鬥の主力にして徒歩兵及戰車より成る。
歩兵師團は他兵科及部を包含する大なる部隊單位で、三角編成歩兵師團

歩兵聯隊

三

野戰砲兵聯隊 工兵大隊 輜重運輸部大隊 軍醫部大隊 通信兵中隊
野戰砲兵旅團 (各二箇聯隊より成る)
步兵旅團 (各二箇聯隊より成る)
野戰砲兵旅團 (三箇聯隊より成る)
工兵聯隊 輜重運輸部聯隊 軍醫部聯隊 兵器部聯隊 通信兵部聯隊
戰時兵力 約一八、五〇〇
内 歩兵 一〇、六〇〇

騎兵、航空兵、化學戰部、戰車、野戰砲兵、工兵を更に適宜臨時に追加する。

況概の備軍國列

上記編成は一九三九年に改正せられた新編成なり。歩兵一箇聯隊は十四中隊より成り

聯隊司令部中隊 一
補助中隊 一
大隊 三
右の各大隊は、小銃中隊三、機關銃中隊一より成り、小銃中隊と機關銃中隊とはAよりMまで(Jを除く)の文字を以て銘名す。各大隊に於ける第四番目の中隊(即ちD、H及M中隊)は機關銃中隊にして、七・六二耗機關銃、一・二・七耗機關銃及口径八一耗臼砲(追撃砲)を備へる。

中隊より師團に至る各歩兵部隊單位の戰時兵力は、第八表の如し。
平時兵力は戰時兵力の約三分の二なり。

歩兵の主兵器は、小銃及銃劍、戰車機關銃である。

他の補助兵器は、手投彈、七・七二耗自動銃、拳銃、一三三耗機關銃、三七耗對戰車砲、六〇耗迫撃砲、八一耗迫

第八表

中隊より師團に至る歩兵部隊單位の戰時兵力

部隊單位	將校	下士官兵	計
小銃中隊	六	一六二	一六八
重機中隊	六	一四三	一四九
大隊	二七	六七二	六九九
聯隊	一一五	二、四二六	二、五四一
旅團(概數)	二二二	四、七二七	註一 四、九三九
三角編成(輕速)團			註二 一、二、五〇〇
四角編成師團			註二 一、八、五〇〇

註一 三角編成(輕速)師團は旅團を有せず
註二 他兵科及部を含む

擊砲。

軍裝は、野外制服として鐵兜、シャツ、ツボン、脚絆、靴、襪及季節に應じ雨具又は上衣、外套を有し、其の他兵糧囊、水筒及コップ、背囊、毛布、天幕、棒、防毒面、鉋壕掘り用圓匙、豫備糧食を持つ。

右の他に次の如き各自武器を所持す

小銃兵は、小銃、銃劍、彈丸一三六發、手投彈一
自動銃兵は、自動銃彈丸一八〇發、彈倉九(各二〇發)つ入
輕機關銃兵は、輕機關銃彈丸一八〇發、彈倉九(各二〇發)つ入
尙其の他輕機關銃兵、彈藥兵、連絡

況概の備軍國列

兵、戰車兵は、拳銃及拳銃彈二一發を所持する。
小銃兵荷重は凡そ二九砵、自動銃兵及輕機關銃兵は三四・五砵、上記拳銃を所持する兵は二〇・四砵なり。併し此等の兵は屢々機關銃其の他重量大なるものを相當の距離運搬するを要することもあり。冬季の服裝は更に三・二砵を増加するが屢々戰團に入るに先だち毛布其の他豫備被服を除去し、凡そ四・一砵を輕減し得る。
此等兵各自が所持するもの他に、歩兵聯隊の運搬車は一日分の糧食及飲料水及凡そ一日分の彈藥を運搬し、それ以上の分は歩兵師團の運搬車より補充する。尙其の他各種の補充に關しては後章に於て述べることにする。
戰車以外の歩兵兵器の性能は第九表の如し。
戰車は路上速度六〇軒毎時にして、野戰に於ても輕快迅速なる動作に適し又迅速なる部隊移動を考慮して設計せられてゐる。

第九表

歩兵兵器の性能

兵器	口径(耗)	最大射程(米)	發射速度(發/分)	彈藥一發の重量(瓦)
小銃 M1903	七・六二	五、五〇〇	七一〇	二八・四
小銃 M1 (半自動銃)	七・六二	五、五〇〇	一五・三〇	二八・四
自動銃	七・六二	五、五〇〇	一五〇	二八・四
機關銃	七・六二	五、五〇〇	五二五	二八・四
重機關銃	一二・七〇	七、五〇〇	五〇〇	一一・三四
三七耗對戰車砲	三七・〇〇	七、五〇〇	三〇	一・八一五(砵)
六〇耗臼砲	六〇・〇〇	一、三〇〇	三〇—五〇	一・〇九(砵)
八一耗臼砲	八一・〇〇	三、二八〇	三〇—三五	三・二七(砵)及七・一六(砵)
拳銃	一一・四三	一、六〇〇		四二・五
手投彈		五〇		五九〇

第十表

戰車部隊の戰時兵力

部隊單位	戰車數	將校數	下士官兵	總兵力
中隊	一七	六	一二三	一二九
大隊	五四	一一	五二二	五五二
聯隊	一六二	一一	一、八七〇	一、九九一

況概の備軍團列

戦車は別に獨立せる部隊を編成す。各部隊單位の戦時兵力第十表の如し。平時一箇中隊は戦車數八臺を有し、十一箇中隊を以て一箇聯隊を編成する。

一九三九年六月三十日に於ける歩兵兵力第十一表の如し。

戦時には直ちに動員により正規軍五箇師團、護國軍一八箇師團、合計二三箇歩兵師團を増設する計畫である。

騎兵

騎兵は輕快迅速なる移動に適する戰鬥兵力なり。大別して二種に分け、乘馬騎兵及機械化騎兵とす。乘馬騎兵は敵に遭遇せば通常下馬し歩兵と同様徒歩にて戰鬥を交へ、又若し敵兵小にして、奇襲の功を奏し得る場合には敵中に突撃す。機械化騎兵は装甲自動車又は騎兵戦車を以て移動し戰鬥する。

騎兵師團は其の主力を騎兵とし、歩兵を除き他のすべての兵力及部を具備す。其の編成は、騎兵旅團三、野戦砲兵聯隊二、工兵大隊一、輜重運輸部大

第十一表 一九三九年六月三十日に於ける歩兵兵力量

正規軍	護國軍	豫備軍	聯隊	將校	下士官兵
三九	八三	一二四		三、六一三	五七、三四七
				五、五一五	九一、九八〇
				三六、四三七	一、六四九

隊一、軍醫部大隊一、通信兵中隊一にして、戦時兵力一〇、〇〇〇である。

騎兵師團は乘馬騎兵師團、機械化騎兵師團の二種に分たれ、すべて輕快なる移動を目的とし、例へば乘馬騎兵師團の野戦砲兵は六頭馬車にして、全員乘馬し(野戦砲兵の部参照)尙他の兵力及部の兵員もすべて乘馬する。

戦時編成に於ける乘馬騎兵聯隊は、聯隊司令部中隊一、機關銃中隊一、特殊兵器中隊一、小銃中隊九の十二箇中隊より成る。

聯隊司令部中隊は運搬車、通信機關及機關銃と無線とを備ふる装甲自動車偵察小隊を有し、機關銃中隊の機關銃は馬背に架し、乘馬せる他の馬で牽

される。

騎兵の有する武器は、拳銃、小銃、七・六二耗空冷式機關銃、七・六二耗水冷式機關銃、一一・四耗トンソソソ機關銃、一二・七耗機關銃、三七耗對戰車砲、一〇六・八耗追撃砲で、此等の性能は歩兵のものと同様である。

機械化騎兵聯隊は八箇中隊より成り聯隊司令部中隊一、整備中隊一、偵察中隊一、機關銃中隊一、騎兵戰車中隊四である。

聯隊司令部中隊には、一〇六・八耗追撃砲小隊を有し、之は主として敵の對戰車砲に對する防禦の爲、發煙彈を射つ。

騎兵戰車四個中隊は其の騎兵戰車を

況概の備軍團列

以て機關銃又は機關短銃により敵兵、敵戰車及敵航空機と戦ふ。

指揮車は装甲自動車にして、機關銃を有し又無線電話電信機により部下戰車を指揮する。

現在米軍は二つの機械化聯隊を有し之に機械化野戦砲兵を附して一箇旅團を編成する。戦時には更に、航空兵戰鬥部隊を附加する計畫である。

正規軍は騎兵は、上記機械化騎兵聯隊二箇の他に、十二箇聯隊を有す。

フキリツピン駐屯軍には、一乘馬騎兵聯隊あり、護國軍は、十九箇聯隊から成る。前記及一九三九年六月三十日に於ける米國陸軍騎兵の兵力量を總括すれば第十二表の如し。

野戦砲兵

野戦砲兵は單獨には戰鬥せず、併し地上及空中よりする敵攻撃に對しては獨立して防禦する力を具備する。又其の強力な火器(野砲、加農砲、榴彈砲等)により他兵科を擁護する。

野戦砲兵の部隊は其の所有する砲の

第十二表

米國陸軍騎兵聯隊數及現有兵力

正規軍	護國軍	駐屯軍	豫備軍	聯隊		將校數	下士官兵數
				數	種類		
一四	一九	一	二四	二	三	九一四	九、八六二
				乗馬騎兵	機械化野戦砲兵(機械化野戦砲兵を附加し一箇旅團を編成す)		
				乗馬騎兵	乗馬騎兵	七九八	一〇、九一九
				騎兵	騎兵	四、九三五	二二四

口徑により

輕砲兵、中砲兵、重砲兵

の三種に分類し、其の運搬の方法により

乘馬砲兵、輓馬砲兵、駄載砲兵、自動車牽引砲兵

に分類する。

輕砲兵は先づ第一に敵軍の小部隊及輕易なる物體(例へば輕機關銃の如き)に對して攻撃する。中砲兵は敵軍の大部分隊及重要其の他野戦要塞の破砕並に

敵砲兵の攻撃に用ひ、重砲兵は敵の防禦構築物、砲、建築物、橋梁等を破壊する。

輕砲兵の兵器は、七五耗野砲、七五耗野戦榴彈砲、七五耗駄載榴彈砲、一〇・五耗榴彈砲、輓馬又は自動車牽引此等の兵器は移動極めて迅速にして、輕砲兵は主として歩兵、騎兵の直接擁護に當る。

中砲兵の火砲は、一五・五耗榴彈砲にして、自動車牽引により迅速なるこ

と輕砲兵と同じ。

重砲兵の兵器は、一五・五種野戰重砲、二〇三・二種榴彈砲、二四種榴彈砲此等の陣地設置には、地形により一時間乃至六時間(發射迄に要する時間)を要し、重牽引車により牽引する。

以上の諸兵器の性能は第十三表の如し。

七五耗駄載榴彈砲は六梱に分解し之を六頭に駄載す。一梱の最大重量は一・二・三種である。二四〇耗榴彈砲は四梱となし、一梱の最大重量七・三四〇種である。

野砲の砲手達は目標を直視し得ることが殆んどないので、觀測所を置き此所より有線又は無線電話にて連絡する此等の觀測所に於ては正確な照準及計算を行ひ、又彈著の觀測をなし、又は航空機或は繫留氣球よりの觀測により修正を加へる。最近制式となれるものにC-6自動觀測氣球がある。之は操縦並に移動すべて機械的で、取扱は簡易である。

第十三表

口徑(耗)	砲種	射程(米)	砲の重量(耗)	彈丸の重量(耗)
七五	榴彈砲(駄載)	九、五〇〇	〇・六七〇	六・七
七五	野砲 M2型	一三、六〇〇	一・六五〇	六・七
一〇五	榴彈砲	一二、一四〇	二・六一〇	一四・六
一五五	榴彈砲	一二、四〇〇	四・〇七〇	四二・一
一五五	野戰重砲	一六、〇〇〇	一三・六〇〇	四二・一
二四〇	榴彈砲	一六、四〇〇	二六・六〇〇	一五三・〇
二〇三(八吋)	榴彈砲	一八、七〇〇	一三・四二〇	八八・七

野戰砲兵は歩兵と異なり、單獨に戰闘することなく、殊に迅速に移動しつ

つある敵部隊に對しては一齊射撃に於てのみ威力を發揮し得る。其の一齊射撃の最小單位は四門一箇中隊、次の大なる單位は大隊である。砲兵大隊は輕、中、重共各二箇中隊より成り、輕砲兵及中砲兵聯隊二乃至三箇大隊より成る。一般に野戰砲兵一箇聯隊は、六箇乃至九箇中隊より成り、砲は二四門

乃至三六門を有する。

野戰砲兵の最大の部隊單位は旅團にして、之に二種類あり、其の一は師團砲兵旅團にして、之は四角編成歩兵師團に編入され、七五耗野砲兵聯隊二、一五五耗榴彈砲兵聯隊一より成る。三角編成歩兵師團は、砲兵聯隊二箇を有する。即ち輕砲兵聯隊一(大隊三より成り、各大隊は七五耗野砲中隊三)、中砲兵聯隊一(大隊二より成り、

各大隊は一五五耗榴彈砲中隊二)此等の聯隊は、嚴密に言へば四角編成歩兵師團に於ける如き旅團の形を有するものではない。

輕砲兵は戰闘に方り、攻撃防禦共に歩兵の掩護を目的とする。

他の一の砲兵旅團は、軍團砲兵旅團にして、一五五耗榴彈砲兵聯隊二、一五五耗野戰重砲兵聯隊一、砲兵陣地標定大隊(音源標定機及火光標定機を有す)より成る。此の旅團は軍團を編成する各師團内の砲兵の他に編成せられ主任務は軍團の前線に於て敵砲兵を沈黙させることにより、師團砲兵の主任務である敵小銃軍、機關銃軍の殲滅を容易にする。軍團砲兵は亦屢々師團砲兵の増強に用ひられることがある。

乘馬騎兵師團の野戰砲兵は、乘馬砲兵聯隊(輓曳七五耗榴彈砲)一である。又機械化騎兵旅團の野戰砲兵部隊は機械化砲兵大隊一(二乃至三箇中隊より成り、一箇中隊は七五耗榴彈砲四門半無軌道牽引車にて牽引する)

野戰砲兵の戰闘に於ける最重要なる問題は彈藥の補充で、七五耗野砲を有する發射速度を以て、三時間射撃を繼續せば、五〇〇發以上の彈丸を要し重量五噸以上に達する。従つて野戰砲兵は常に後方部隊より彈藥車列に依る彈藥の補充を要する。又砲兵聯隊相互間及歩兵聯隊間の通信連絡も極めて重要なれば、野戰砲兵の司令部中隊は必ず通信設備を有し、放列、觀測所、發射指揮中央部、歩兵司令部、騎兵司令部

第十四表
野戰砲兵の戰闘に於ける最重要なる問題は彈藥の補充で、七五耗野砲を有する發射速度を以て、三時間射撃を繼續せば、五〇〇發以上の彈丸を要し重量五噸以上に達する。従つて野戰砲兵は常に後方部隊より彈藥車列に依る彈藥の補充を要する。又砲兵聯隊相互間及歩兵聯隊間の通信連絡も極めて重要なれば、野戰砲兵の司令部中隊は必ず通信設備を有し、放列、觀測所、發射指揮中央部、歩兵司令部、騎兵司令部

種類	將校	下士官兵	聯隊
正規軍	一、六六二	二二、六三八	聯隊
護國軍	三、一九五	三六、七一五	聯隊司令部
豫備軍	一三、九一五	三八六	聯隊

海岸砲兵の主任務は、長射程の固定砲又は移動砲により海岸殊に大港灣を

防備し、敵の上陸並に空襲を防ぐこと、従つて國防動員計畫(後述す)に基き、海軍と密接なる協力をなし其の實

つある。他兵科部隊にありては、低空飛行する敵機に對して小銃、自動銃、機關銃等の一齊射撃を以て自ら防禦する。

一九三九年六月三十日に於ける海岸砲兵高射砲聯隊の数は、正規軍五箇聯隊、護國軍一〇箇聯隊であるが、一九三九年制定の軍備擴張計畫により、右一五箇聯隊の外更に二二箇聯隊を増加することとなつた。

一九三九年六月三十日に於ける海岸砲兵の兵力量は第十五表の如し。

航空兵

航空兵は敵航空兵と戦闘し其の航空基地を攻撃し、兵站部工場其の他すべての軍事施設を爆撃する。米國海軍の航空部隊は、艦隊と協力して敵艦船を撃沈し、沿岸に近接する敵を撃退す。之に反し陸軍の航空兵は、上述の如く空中戦と敵地の攻撃を主任務とするものだが、場合によつては海軍の航空部隊と協力して、敵艦船の撃退に參與することもある。

第十五表

海岸砲兵の兵力量

正 規 軍	護 國 軍	豫 備 軍	將 校	下 士 官 兵	聯 隊	數
一、〇六八	九二六	八、七五三				
一八、九二一	一三、七七四	二四四				
二九 (港灣防備 對空防備)	二五 (港灣防備 對空防備)	五七				
二四 (港灣防備 對空防備)	一九 (港灣防備 對空防備)	一〇				

世間では屢々米國「空軍」なる語が用ひられるが佛國、獨逸に於ける如き陸軍海軍と對立した獨立の「空軍」が存するのではなく、我が國と同様陸軍海軍各個々に航空兵科を有するのである。航空兵は三種の基本的職用機を有する。驅逐機(遊撃機、戰闘機)、爆撃機、偵察機。遊撃機は元來、味方の地域を攻撃する敵機を遊撃するのが目的で、戰闘機

は爆撃機と行動を共にし、之を防禦し敵の驅逐機を攻撃する。爆撃機には輕中、重三種ある。輕爆撃機は機關銃と爆彈を搭載し、友軍の掩護をなす。重爆撃機は長距離爆撃及長距離渡洋偵察に適した設計である。中爆撃機は中間距離の爆撃及偵察の目的にて、重爆撃機よりも稍々輕快に製作す。偵察機は目的は近距離の偵察、寫眞撮影、軍の指揮、傳令、軍團、師團間の連絡等をなす。此等各種の軍用機はすべて機關銃を備へ、發動機の許す限り最大の速度

を得る如く設計す。

非戰用機には練習機、輸送機、試作機の三種がある。練習機には初等型、基礎型等がある。輸送機は兵員及貨物を輸送す。試作機は改良新型研究中のものである。

一九三九年六月三十日に於ける航空兵力量は第十六表の如し。

第十六表 航空兵力量

正 規 軍	護 國 軍	豫 備 軍	其 他 軍	將 校	下 士 官 兵
一、五七〇	八四六	二、一八八	二、一八八		
二〇、八八	一、八八八	四〇三			

一九三九年制定の陸軍擴張計畫により、一九四〇年中に上記總計は四五、〇〇〇に増加した。

航空兵部隊單位の有する飛行機數凡そ次の如し。

航空兵小隊

三乃至五機

航空兵中隊

六乃至八機

航空兵大隊

一三乃至二八機

航空兵聯隊

六一乃至一一一機

航空兵旅團

一二五乃至二五〇機

航空兵科將校の出身に次の三種あり。

- 一、陸軍航空士官學校を卒業し、航空兵少尉に任ぜられたるもの。
- 二、陸軍士官學校卒業生にして、航空機操縦技術を修得し、航空兵科に轉科せるもの。
- 三、豫備將校(中等學校以上に於て豫備將校養成隊を卒業の後、豫備將校となりたる者の内、航空兵科に決定せられたる者は、操縦訓練を受け豫備航空兵將校となり、最大五箇年迄の短期現役勤務をする)

操縦技術優秀なる航空兵將校は、選ばれて一部は民間飛行學校に派遣せられ(米國に於ては、民間飛行學校に優秀なるものあり)一部はテキサス州サン・アントニオの陸軍飛行學校に派遣

される。

航空兵基地には數種あつて、基地(飛行場)を有する部隊單位は、航空兵大隊、航空兵聯隊、航空兵旅團である。基地に於ては航空機、航空兵部隊及整備隊がある。又航空兵學校、研究機關、豫備航空兵基地(此處にては航空機と指導者と整備隊とを備へ、毎年召集訓練を受ける豫備航空兵將校の基地となる)、護國軍飛行場、軍團、航空路分遣隊(此處には小整備隊があり、軍團司令部屬の航空機の保守及陸軍航空路を通過する飛行機の保守を行ふ)等あり。

一九三九年六月三十日に於ては、八三箇所の基地を有し其の内四一は正規軍飛行場にして(三五は米國本土内に六は米國本土外にあり)、又一九は護國軍飛行場、一七は豫備軍飛行場である。

テキサス州ランドルフには最新式設備を誇る飛行場あり。航空兵科はオハイオ州デイトン市ラ

イト飛行場に極めて規模大なる研究機
關及材料部を有し、陸軍のみならず、
民間航空技術にも大いに貢献し、此處
に於ける研究の目標は新型航空機、發
動機、部品の改良研究及其の試験飛行
にある。此處でなされる準成層圏飛行
の實驗は未來の航空術に大なる貢獻を
なすであらう。高層空気に於ける低き
氣壓により人體に支障を來さざるや
う、強固な壓縮空氣室の研究をなし、
又高層飛行に於ける航空醫學の研究を
なす等、研究項目は枚擧に遑がない。
尙又、此のライト飛行場に於てなせ
る重要な研究は、自動着陸裝置、二
〇〇馬力以上の發動機、其の他の部
品の材料、其の他航空の安全確實性及
速度増大の爲に必要な各種の研究等
がある。

於て地圖作製に當つては、寫眞測量を
なし助協力する。洪水等不慮の災害に
際しては其の偵察をなし、援護の指
導及必要なる通信、連絡、輸送等をな
し、化學戰部と協力して毒蟲驅除藥散
布をなす。又米國地理學會と協力して
成層圏の探検をなし、ビュロー・オブ・
スタンダードと協同しては航空機用諸
材料及合金類の試験をもなす。
航空兵科は常時氣象通報を行ふ。從
つて單に陸軍航空の爲のみならず、又
民間航空の爲にも大いに貢献する。航
空兵には氣象觀測大隊三箇あり、其の
他米國全土の各飛行場に分遣隊を有
す。此等各飛行場にて氣象豫報が發表
され軍用、商業用、個人航空に利用され
る。此等の氣象豫報は陸軍飛行場の附
近にあるラジオ放送所より一時間毎に
放送される。
主要なる戰用航空機は次の如し。
ボーイング B-17 重爆撃機
セヴァースキー 驅逐機
ノースロップ A-17A 戰闘機

ダグラス B-18 中爆撃機
ロックヒード XP-38 驅逐機
ペル XFM-1 驅逐機
カーチス A-18 戰闘機
カーチス P-36 驅逐機
カーチス XP-40 驅逐機
ノースアメリカン O-47A 偵察機

友軍の行動補給を容易ならしめ、敵
軍の行動を妨害する。戰時には工兵は
其の任務分擔により次の如く分類され
る。
工兵戰闘聯隊(主として前線に於て
行動し他の兵科を援助す)、工兵一般
聯隊、工兵分立大隊、工兵輸送中隊、
工兵舟橋部隊
尙其の他次の如き特殊部隊あり。
工兵裝裝大隊、工兵舟橋大隊、工兵
鐵道大隊、工兵給水大隊、工兵寫眞
(地圖)大隊、工兵貯藏及修理中隊
工兵部隊は著しく機械化され、すべ
て新式の能率良き機械設備を有す。す
べての工兵戰闘聯隊が可搬式空氣壓縮
機を有し、切断鋸岩石破壊用槌、杭打
機等に用ふ。
工兵は平時は單に其の戰時任務の訓
練を行ふのみならず國內の河川、港灣
の改築、洪水防禦、其の他公共事業の
指導を行ふ。

通信兵は陸軍の通信手を訓練するを
任務とする。
自動自轉車、飛行機、傳書鳩、電話、
遠隔打字機、電信、無線電話により陸
軍の通信を迅速に行ふ。又軍用通信器
材、氣象器材、寫眞器材の改良を行ひ、
訓練教育用及史料文獻用の寫眞並に活
動寫眞を作製する。
戰時には通信兵部隊は、師團以上の
部隊司令部相互間の通信をすべて掌
る。歩兵、騎兵、野戰砲兵は各獨立し
て前線に於ける通信機關を有する。
戰時に於ては通信兵は其の通信上役
立つ民間所有電話及電信架線は隨時之
を徵用する。
第一線に於ては架線は屢々切断され
ることがあるので、通信兵は此の第一
線の砲火の中にあつて架線の修理をな
す必要を生じ、場合によつては歩兵と
同様敵と戦戈を交へる、依つて通信兵
も亦一の戰闘兵科である。
通信兵は數種類の長距離用通信機材
を有し、貨物自動車にて運搬し、重要
な司令部の建築物又は天幕内で操作す

る、小型通信材は手で運搬し、野外若
くは塹壕内にて操作する。騎兵用通信
器材は駄馬に裝し、馬上若くは地上に
て操作する。又戰車用、裝甲自動車用
航空機用、無線電信電話器がある。航
空兵の用ふる特殊無線電話器は、ラジ
オビーコン、ラジオコンパスをも含有
し、飛行機相互間及飛行機地上間の通
信及インターフォンと稱し飛行機搭
乗者相互間の通話等すべて通信兵科の
掌る所である。
陸軍は自ら固定無線局網を有す。之
により陸軍省は直接國內各地の部隊と
通信連絡をなす。即ちワシントンには直
接各軍團管區司令部及ポストン、ニュ
ーヨーク、シカゴ、サンフランシス
コ、パナマ、ハワイ等の各司令部と通
信を行ひ得。マニラはハワイ中繼及サ
ンフランシスコ中繼の二線にて連絡さ
れ、アラスカはシアトル中繼にて連絡
さる。此等通信網は總計一四六の無線
局より成る。
目下米國全土に免許證を有する素人

無線家五〇、〇〇〇名あり。通信兵科は其の内優秀なるもの一二、〇〇〇名を選抜し、有志者團を組織し、軍團管区、州、在郷軍人區等を連絡し一團とす。陸軍素人無線家團隊を結成しあり此の團隊は現に洪水其の他の災害に際し、大なる貢獻をなしあるを以て、戦時大いに活躍する所あるを期待されてゐる。

通信兵は又敵軍の通信を妨害し、ラジオゴニオメーターにより敵無線局の位置を探知し、陸軍の全無線事務を管理する等の任務を有す。無線探偵中隊が之に任ずる。

通信器材に關する民間の發明改良を陸軍に取り入れるには相當の設計變更を行ふ必要あるを常とする。此等の業務の内航空無線器材に關するものはオハイオ州ライト飛行場にある通信兵航空無線研究所に於て行ふ。

電話、電信、氣象、無線及航空無線を除く一切の軍用通信器材に關するものは、ニュージャージー州フォート・マ

ソモスにある通信兵研究所に於て行ふ。

戦時に於ては傳書鳩は又他の通信手段なき場合極めて信頼性ある迅速なる通信法である。陸軍は戦時數千の鳩飼育家により多數の鳩の供給を受くるやう準備してゐる。

一九三九年六月三十日に於ける通信兵の兵力量は第十七表の如し。

正規軍	二八八	三、六八七
護國軍	一四五	一、九〇八
豫備軍	二、二六二	九
將校		下士官兵

正規軍 大隊	二
步兵師團所屬中隊	五
無線探偵中隊	二
騎兵師團所屬中隊	一
護國軍 大隊	一
步兵師團所屬中隊	一八

無線探偵中隊 一
騎兵師團所屬中隊 二

第三章 高級副官部

高級副官部は我國の考へ方よりすれば官衙の如きものであるが、米國陸軍では之を部として編成して居る。

主要任務は 1. 陸軍全般の統制、2. 教育、3. 操典教範の編纂、4. 補任、5. 軍團管區司令官を通じて豫備軍・國民軍事教練隊・國民防護隊等の教育指導、6. 賞勳、等である。

長は旅團少將にして部員將校は約一〇〇〇名より成る。

査閲總監部

當部も官衙の如きものであるが、部として編成せられ、主要任務は定期並に隨時檢閲である。然し査閲官は單に實狀を報告するのみで、所罰等の決定は行はぬ。

長は少將、部員將校准士官約一〇〇名より成る。

法務總監部

諸種の軍事的法律事務を専門に掌り裁判等をなす。

法務總監は少將、法務官約九〇〇名より成る。

輜重運輸部

當部は從來輜重部又は運輸部と譯されて居るが筆者は標頭のやうに譯した。我國の輜重兵とも運輸部とも稍異なるので、或は軍陣部とでも譯した方が適當かも知れない。

兵の生活に必要な衣食住の供給を任務とし、兵器、彈藥、其の他特殊物品の運搬供給は通例行はない。

當部は又鐵道及水路による軍隊輸送に任じ、現在紐育州ブルックリン及加州桑港の二州に軍用港を有し、又多數の軍用船を有する。

軍用自動車及軍用鐵道貨車の改良擴張及調達を行ふが、戰車其の他特殊自動車は兵器部の任務とする。

平時に於ては兵舎の建築、道路構築及修理を行ふ。(戰時戰場に於ては悉く工兵科の任務とする)尙又煙房、照明、

給水、燃料の補供に任ずる。其の他重要なる任務の一つは葬祭であつて、戦死者の慰靈も全部當部に於て行ふ。

長は總監、少將にして、副總監、旅團少將三名あり。總兵力約二五、〇〇〇、運輸大隊、貨車大隊(又は中隊)、整備大隊(又は中隊)、糧食大隊(又は中隊)、格納大隊(又は中隊)より成る。

經理部

任務は全陸軍の豫算を掌り、俸給、諸購入品、兵器材料、營繕等すべての支拂をなす。總兵力約一、五〇〇なり。

軍醫部

軍醫總監、少將一名、軍醫監、旅團少將四名(内一名は齒科醫)、將校團五下士官兵、文官より成る。總兵力豫備を合せて約四〇、〇〇〇である。

現在七箇の軍醫部大隊あり、内五箇大隊は歩兵師團に他の二箇大隊は騎兵師團に配屬せられて居る。

兵器部

當部の任務は砲、小銃、戰車、彈藥其の他各種の兵器の研究、設計、製作

及各兵科部へ分配補給を掌る。兵器部總監、少將、大監二名、旅團少將にして一九三九年に於ける兵力第十八表の如し。

正規軍	三〇〇	三、〇〇〇
護國軍	一〇〇	五〇〇
豫備軍	三、〇〇〇	
將校數		下士官兵數

其の他文官約一五、〇〇〇

工廠六、試驗場一、補供部一五を有し、各軍團管區司令部及士官學校には兵器部整備中隊各一あり、其の他全國に三十一の兵器中隊がある。兵器部は航空兵科に對する兵器の整備も行ふ。工廠は戦時には擴張するのであるが、其の全需要の十分の一を充し得るに過ぎず大部分は民間工場に注文する必要ありと考へられて居る。従つて兵器部は後述の如く工業動員計畫を立案

して居る。

製造された兵器、彈藥、各種兵器材
料の耐久力試験精度試験を行ふ爲、メ
リーランド州アバーディーン試験場が
あり、此處に於ては實戰と同一の諸條
件を實際に具現して試験を行ひ、之に
合格せるものは實際に信頼し得るもの
である。殊に試作兵器の試験審査に際
しては數回試験を繰返し最後に試験部
隊を編成して、十分なる實地演習試験
をなし確信を得たる後始めて制式制定
をなすものであつて、制定後不具合を
發見するが如きことがないやう細心の
注意を拂つて居る。

近來に於ける米國陸軍の兵器改良の
顯著なるものは、一九三六年に於ける
歩兵用半自動小銃の採用がある。之は
口径七・六二耗(〇・三〇吋)M1銃と
名付けられるもので、自動裝填式であ
る爲從來の小銃の二倍半の發射速度を
有し射手の疲勞僅少である。瓦斯利用
空冷式機構であつて重量四・一耗、彈
倉には八發裝填し得る。其の他三七耗

高射砲及三七耗對戰車砲、一九四〇年
の最新式九〇耗高射砲の改良がある。

化學戰部

當部の任務は敵軍の使用する毒瓦斯
煙幕等に對し防護並に除去を圖り、又
敵軍に對し瓦斯、燃燒性物質、煙等を
投射し、友軍の進撃を援けるにある。
主兵器は化學迫撃砲、ライヴエンス
投射器、携帶投射筒である。

化學迫撃砲は口径一〇一・六耗、腔
綫を有し彈丸の重量一・三耗(全重
量の三分の一は瓦斯)射程二、四〇〇
米、發射速度一分間に二〇發である。

ライヴエンス投射器は彈丸の重量二
七・二耗(全重量の二分の一は化學藥
品なり)、射程一、五〇〇米にして、之
を多數並べ一齊に發射し、大量の瓦斯
を敵に打ちつけるのである。

携帶投射筒は瓦斯壓により投射する
ものであつて彈丸の重量二四・九耗
(全重量の二分の一以上は化學藥品で
ある)友軍の前線に之を並べ一齊に噴
射する。従つて之は風向が敵の方向に

向ひ適當なる時期に限り使用し得るも
のである。一九三九年に於ける化學戰
部の兵力第十九表の如し。

第十九表

	將校數	下士官兵數
正規軍	一〇〇〇	一、〇〇〇
護國軍	三〇	
豫備軍	二、二〇〇	

其の他多數の文官を採用す

他兵科部將校中一部は化學戰學校に
派遣せられ勉學の後各自の兵科部に歸
り主として瓦斯防禦に關する指導をな
す。之を瓦斯將校と呼ぶ。

當部の兵器製造研究改良の中心はメ
リーランド州エッチウッド工廠であ
る。此處には又化學戰學校、貯藏部及
化學戰部々隊がある。(歩兵學校内にも
亦化學戰部の小部隊がある)化學戰部
部隊は尙其の他米國土内外各地の部隊
所在地に分遣せられて居る。

海軍は特別に化學戰部を有せず、陸
軍化學戰部は常に海軍並に他官廳と良
く協力する。(海岸砲兵の項に述べた如
く陸海軍の協力は相當緊密であつて、
兩者に於て同様のことを重複研究し、
相對立することを避けて居る)

教護部

陸軍全員を宗教的並に道徳的に善導
し人格の向上を圖るを任務とする。

大學専門學校の神學部卒業者中より
詮衡の上中尉に任じ最高を大佐とす。
總數豫備を合せ一、四〇〇である。

第四章 民間に對する軍事

思想普及事業

陸軍は民間軍事思想普及を圖り色々
の事業を行つて居るが、其の内最顯著
なる一例は國民防護隊 Civilian Con-
servation Corps 略 C. C. C. を編
成し、正規軍將校、聯邦官吏中の豫備
將校、海軍及海兵團豫備將校其の他合
計五、〇〇〇名が其の指導に當つて居
る。中隊を以て單位とし編成は凡そ陸
軍に準じ、現在全米國に約一、五〇〇

中隊ある。然し之は陸軍の一部ではな
くて防護隊長は政府の官吏が任せられ
て居る。

第五章 軍需工業動員計畫

米國陸軍の工廠の製造能力は全能力
を擧げたる状態に於て、戰時兵器計畫
の一割を充すのみであると云はれて居
る。従つて殘部九割は何うしても之を
民間工場より供給を受けなければなら
ぬ。兵器部に於ては軍需工業動員計畫
に基き、二萬の工業會社につき其の生
産品の種類及生産高につき調査せる結
果、其の内一萬は動員計畫に適當する
こと判明し、又會社も快諾し計畫に協
力しつゝある。依つて全國を十四の
「供給地方」に分割し、其の各々に司令
部を置く。司令官には其の地方の生産
能力に通曉せる人を任命する。戰時需
要の總量より工廠の生産量を差引き、
其の残りを上記十四地方に配當する。
各地方司令官は其の地方内の會社と接
渉して其の生産し得る量を決定する。
此のやうな順序により第一次の計畫は

進捗して居る。

然し兵器計畫と云ふものは常に情勢
に適應する如く改良して行かなければ
ならぬ爲、工業動員計畫其れ自身も亦
之に伴つて變化して行かねばならぬ。
従つて民需工業會社も常に此の如き軍
需の變化に即應し、遲滞なく之を供給
せねばならぬ。又陸軍と海軍の工業動
員計畫が互に干渉し合ふやうなことが
あれば、此の計畫の遂行は期せられな
いのであつて、之を統括する爲陸海軍
兵器計畫統制委員會が設立された。兩
省計畫の細部遂行に至る迄此の委員會
が統制する權限を有し極めて圓滑に行
はれるやうになつたと云ふ。

此の様に計畫に最善の注意が拂はれ
民間各工場が最善の努力を以て、民需
工業から軍需工業に轉換したとしても
完全に豫定計畫通りの能率を擧げ得る
に至る迄には、動員計畫發令後少くも
一年以上は要するものと考へられて
居る。従つて此の間の供給は何うして
も貯藏に俟たねばならぬ故、工廠には

十分なる倉庫を準備して萬全を期して居る。

○米國軍備の一大飛躍

一昨年五月獨逸機械化部隊に依りマヂノ要塞線が突破されて佛國の運命が決定した時、ルーズヴェルト米大統領は米國の國防強化を宣言し「世界第一の絶對國防」の實現に乘出したが、今や米國の軍備は僅々一年にして左表の如く一大飛躍を遂げ、陸軍では昨年五月現在既に百三十萬以上の軍隊の徵募、編成を終へ、海軍も亦三萬五千噸十六吋巨砲積載の超弩級戰艦ノースカロライブ號及びワシントン號の二隻を完成して刻々參戰準備を整へてゐる。

△陸軍々備狀況

- 一、將校及び下士官兵數
 - 四〇年五月 二六〇、七八〇
 - 四一年五月 一、三二〇、〇〇〇
 - 四二年一月 一、五二五、四六八
- 一、輕戰車(九トン乃至十五トン)
 - 四〇年五月 四四六

- 四一年五月 一、〇〇〇—一、五〇〇
- 四二年一月 三、〇〇〇—三、五〇〇
- 一、中型戰車(十七トン乃至二十ト
ン重戰車を含む)
 - 四〇年五月 一八
 - 四一年五月 一〇〇—一五〇
 - 四二年一月 四二五—五〇〇
- 一、高射砲
 - 四〇年五月 四四八
 - 四一年五月 五六〇—五七三
 - 四二年一月 八四八—一、〇四八

△海軍々備狀況

- 一、士官及び水兵數
 - 四〇年五月 一四六、四三九
 - 四一年五月 二四二、四三七
 - 四二年一月 三二〇、〇〇〇
- 一、主力艦
 - 四〇年五月一五、他に建造中八、四一年五月一七、他に建造中一五、四二年一月一七、他に建造中一五
 - 一、航空母艦
 - 四〇年五月五、他に建造中二、四一年五月六、他に建造中一二、四二年一月六、他に建造中一二

造中一二

- 一、巡洋艦
 - 四〇年五月三五、建造中八、四一年五月三七、建造中五二、四二年一月三七、建造中五四
- 一、驅逐艦
 - 四〇年五月二一九、建造中四〇、四一年五月一六四(對英讓渡によつて減少)建造中二〇〇、四二年一月一七四、建造中一九〇
- 一、潜水艦
 - 四〇年五月九五、建造中一九、四一年五月一〇七、建造中八〇、四二年一月一〇八、建造中七九
- 一、各艦合計
 - 四〇年五月三六九、建造中七七、四一年五月三三一、建造中三六一、四二年一月三四二、建造中三五〇

△空軍々備狀況

- 一、操縱士
 - 四〇年五月 六、二四六
 - 四一年五月 一〇、六三九—一一、六三九

(陸海軍合算)

月十五日現在十四萬七千五百九十三名
しかして目下進行中の計畫、もしくは將來計畫されるものを檢討すれば次の通り。

一、國防資金

ドイツの蘭白佛侵攻當時米國議會においては陸海軍の通常豫算は審議中であつたが、ドイツの電撃戰の成功に刺戟されて米國政府はいはゆる「綜合再軍備」を決意した、即ち通常豫算においてさへ平時における記録的巨額に達したが、ルーズヴェルト大統領の要請によつて更に倍加されて五十億ドルに上りさる六月議會の承認を得た、すでにフランスの降伏を機會にルーズヴェルト大統領は前述の如く更に五十億ドル餘の追加豫算を議會に求め通常豫算及び追加豫算を綜合して國防費は百四億九千六百萬ドル(約四百三十億圓)の老大なものとなつた、このうち大體三分の二は陸軍費、残りは海軍費である最初の五十億ドルはすでに過去二ヶ月間にわたつて支出されてゐるが、その

- 四二年一月 二二、〇〇〇
- 一、飛行機
 - 四〇年五月 五、一〇〇
 - 四一年五月 八、二五〇
 - 四二年一月 一五、三〇〇—一八、三〇〇

一、一箇月間の飛行機生産數

- 四〇年五月 五〇〇
- 四一年五月 一、五〇〇
- 四二年一月 二、三〇〇—二、五〇〇
- 一、主要軍事工業労働者數

(航空機關係)

- 四〇年五月 一二五、〇〇〇
- 四一年五月 三二〇、〇〇〇
- 四二年一月 五〇六、〇〇〇
- 製鐵關係
 - 四〇年五月 四四三、四〇〇
 - 四一年五月 五四七、八〇〇
 - 四二年一月 五六〇、〇〇〇

○米の軍備大擴張全貌

米國は昨年總額五十二億五千六百萬ドル(邦貨約二百二十三億九千萬圓)に

上る新追加國防豫算修正案を可決したが以下はユービー通信の調査を根據にせるもので數字は多くの場合、米政府の發表による、正確なる數字の得られないものは専門家の推定による。
一、陸空軍勢力 一昨年一月現在において約二千臺、本年八月十五日現在約三千二百臺、注文中のもの五千二百四十五臺
二、海空軍勢力 昨年七月一日現在一千六百四十八臺、本年八月十五日現在一千八百九十七臺、注文中のもの二千四百二十九臺
三、陸軍兵力 昨年七月一日現在現役兵十七萬四千七十四名、本年八月十五日現在二十八萬九千名
四、海軍艦艇數 昨年七月一日現在艦艇數三百六十四隻、本年八月十五日現在四百八隻(但しそのうち驅逐艦五十隻は英國へ讓渡された)建造中のもの百三十二艘
五、海軍兵員數 本年五月二十三日現在現役兵十三萬六千六百四十四名、八

間、國防委員會の手によつて行はれた注文契約は二十一億八千七百三十一萬二千ドルに上つてゐる(一口五十萬ドル以上の契約は國防委員會の承認を要する)このほかに陸海軍は各自に數百の小口注文を發してゐる、以上の注文契約のうちには飛行機、戰車その他兵器、彈藥等の契約を含んでゐるが、ただその多くは早急に生産されることは不可能である、例へば飛行機製造會社は現在外國向け及び國內向注文に對して全力をあげてゐるが、國內向のものは昨年の議會で計上された豫算に基づくものである、現在及び將來の注文に應ずるための新しい工場の増築には時日を要する。

二、空軍

なほまた本年八月十五日現在の陸海空軍勢力は約五千九百七十七萬であり、これを一九四二年には三萬五千臺にまで増加する計だ、注文中の飛行機は總數七千六百七十四臺でその内譯左の通り。

△陸軍練習機二千七百三十一臺△戰鬥機二千五百十四臺合計五千二百四十五臺△海軍練習機一千四百一臺△戰鬥機一千七十七臺△その他十一臺合計二千四百二十九臺このほかに假契約の済んでゐるものが二千九百六十七臺ある。これは目下議會で審議中の増税案及びそれに關聯した諸問題につき製造家との間に諒解が成立すれば直ちに本契約を結ぶ段取りとなつてゐる。

上述の如く八月十五日現在の陸軍機は三千二百臺、海軍機は千八百九十七臺であるが、國防追加豫算は陸軍機一萬四千三百九十四臺、海軍機四千二十八臺の追加經費を計上してをり、一九四二年末には陸軍二萬五千臺、海軍一萬臺の大空軍の完成を目標としてゐる現在までに注文された飛行機は練習機を主にしてゐるが、これは操縦士養成の急務なることを物語るものである、飛行機製造能力は現在のところ一ヶ年に一萬臺であるが、明年一月には一萬三千乃至一萬四千臺となり明年中期に

に關して私立飛行學校と契約し陸軍の訓練所も擴張してゐる、陸軍は更に三千六百の爆撃操縦者と航空士の養成を計畫してゐる。

三、陸軍

陸軍は常備軍三十七萬五千人を限度としてゐるが實際の數字は昨年七月には十七萬四千七十四人、本年五月には二十三萬七千七百七十二人、更に現在は二十八萬九千人である、新入隊は一週平均約八千人だ、最近ルーズヴェルト大統領は護國軍を含む豫備兵を現役に編入する権限を附與されたが現在の豫備兵を全部編入すれば陸軍の全兵力は六十七萬二千七百七十二人となる、現在の豫備將校は十二萬人を算するがそのうち八千人はすでに現役に加つてゐる護國軍は總數二十三萬五千人でそのうち六萬五百人は来る九月十六日に應召することになつてゐる、護國軍の方は志願兵の募集によつて三十二萬五千人となし、その後は徴兵によつて四十一萬の限度にまで強化する計だ、現在

の陸軍兵制は九個の歩兵師團、二個の新設機械化師團、及び二個の騎兵師團(たゞし一個師團は未完成)から成つてゐる、陸軍の目指す百二十萬の兵力に達した時は各七百臺の戰車を有する機械化師團十個と四十五個の歩兵師團が完成する、マーシャル陸軍參謀總長に從へば陸軍は百二十萬の兵力を訓練し得る武器を現在有してゐるが、この大部分は舊式だといはれてゐる。

陸軍の非常に不足してゐるものは新式の對戰車砲、大型高射砲、新式迫撃砲、彈藥、戰車及び飛行機探知機などである、現在陸軍の保有する最大の戰車は二十二トンのものである、今や陸軍は戰車六千臺を目標としてその完成に向つて邁進してゐる、クライスラー自動車會社は一千臺、アメリカン・カー・アンド・ファウンドリー會社は一千五百五十六臺の注文を受けその他未發表の注文が幾多ある、最近ポールド・ウイン機關車會社は大型戰車の注文を受けたがこれは七、八十トン級のもの

は二萬四千臺、一九四二年初めには三萬六千臺に上る見込である、機械専門家の推定によれば一ヶ年間の發動機製造能力は昨年一月には七千二百七十個(一千馬力以上のもの)であつたが、本年三月には一萬九千二百八十個となり本年末までには二萬九千二百八十個に達するといふことである、國防委員會はすでに七つの發動機注文契約を結んだが、そのうちで最高のものは一萬七千臺のプラット・アンド・ホイットニー・ワスプ型エンジンである、その金額は一億六千萬ドル、これがためコネツチカット州のハートフォードにある工場の大擴張が必要となるであらう、デトロイドのバツカードの自動車會社は三千臺の發動機を四千四百萬ドルで契約した、その外陸軍は陸海軍用として二萬臺の發動機をライト飛行機會社に注文した、海軍は明後年七月一日までに操縦者一萬八千五百名の増加を目指して訓練施設を擴張しつゝあり、また陸軍は毎年操縦者七千人の豫備訓練

四、海軍

米海軍は最近まで四百八隻の軍艦總トン數百三十四萬四千トンを保有してゐた、ルーズヴェルト大統領は三日英領の軍用根據地と交換に艦齡超過の驅逐艦五十隻を英國に譲渡する旨發表したこの譲渡が決定する前までは米國海軍は戰艦十五隻、航空母艦六隻、巡洋艦三十七隻、驅逐艦二百一隻、潜水艦百三隻、このほかに考朽驅逐艦で他の種類に改装されたもの四十六隻あつた五月十日以來海軍は金額において十一億四千萬ドルの建艦契約をなしたがこれは軍艦八十七隻、總トン數四十七萬八千二百八十五トン、補助艦五隻、總トン數二萬千五百五十トンに分類されてゐる、新契約の軍艦は四萬五千トンの戰艦二隻、巡洋艦十五隻、航空母艦四隻、驅逐艦三十八隻、潜水艦二十八隻、なほ海軍は昨年七月以來巡洋艦一

隻、航空母艦一隻、驅逐艦十九隻、潜水艦九隻、補助艦十一隻、合計四十一隻を新たに建造した。

このほか中立法に基く海上巡視その他の目的で前世界大戦當時の古い驅逐艦百十隻を編入し、民間所有船を巡視用、運搬用或は補助船として徴發した現在海軍造船所十ヶ所、民間造船所七ヶ所が軍艦建造に従事してゐる、海軍造船所の報告によると軍艦建造に従事してゐる職工は一九三九年七月一日現在では五萬九千九百七十一名であつたが本年七月一日には八萬七千八百八十一名に増加してゐる、また民間造船所の職工数は同期間に一萬六千七百七十三名から二萬四千四百九十名に増加した。

五、陸軍

これは五月二十三日の二萬五千四百五十五人に比すれば現在は三萬二千四百六十九人を有してゐるが、なほかつ最高限度より三千五百の不足を見てゐる、現編成は四個大隊で各七百五十人の兵力から成りその特徴とするところは迅速なる移動能力である、西半球で問題が起れば如何なる地點へも急行出来るやう特殊輕戰車、高射砲、機關銃、上陸用のポートなどを持つてをり更に高速度の運輸船として六隻の驅逐艦を有してゐる。

六、軍需産業

陸軍は二百萬の軍隊に要する兵器彈藥を製造し得る六十餘の連鎖工場を七億ドルで建設する計畫を有し、その内一部に對してはすでに豫算をとつてゐる、これらの工場は民間會社が一定の手數料を基礎に經營の任に當るのだが所有權は聯邦政府にあるのだ、なほ陸軍はインディアナ州チャールストンに千五百萬ドルで無煙火藥工場の建設を計畫したがこれはデネポントでメモアリス會社が經營する筈だ、またヴァージニア州ダットフォードにおける同二千五百萬ドルの火藥工場はハーキニール・パウダー會社によつてオハイオ州ラヴェンナの千四百二十一萬五千ドルの彈藥工場はアトラス・パウダー會社

によつてそれ／＼經營されることになつてゐる。

この外クライスラー自動車會社はデトロイト附近に二千萬ドルのタンク工場を建設經營の契約をしてをり北米航空會社はテキサスのダニスに六百五十萬ドルの飛行機工場を建設する契約もした、一方復興金融會社は民間軍需工場擴張の資金融資に當つてをりすでに四十一の會社に對して合計四億九百五十三萬八千ドルの貸附を行つた、その中で最大のものはライト飛行機會社に對する九千二百萬ドルである。

○米の空軍建設計畫

米國は今や國內に高度の戰時體制をしき、ルーズヴェルト大統領は二十五年前の大戦にウイルソン大統領さへも氣がねしたやうな露骨な挑戰的政策を獨伊兩國に對し未だ宣戰布告もしない中から矢つぎ早に斷行してゐる、このルーズヴェルト大統領の大膽極まる政策の陰には米國陸、海軍の大勢を左右

する急進派ならびに主戰派の推進力をみのがしてはならない、そしてこれらの強硬分子の開戦論はすべて高度の米國の軍備擴充計畫(昨年来總額四百五十億ドルに達する)特に飛躍的な海軍航空勢力の擴張實現にかゝつてゐるのだ。

すなはち現在の米國最高政策はすべて歐洲戰爭における英國援助と獨伊打倒に集中されてゐるのでルーズヴェルト大統領の在米樞軸國資金凍結令にも特に日本を除外して太平洋には暫らくの間出来るだけ刺戟を避けて全力を大西洋に傾注するにある、したがつて没落の危機にある英國を蘇へらせ、かつ歴史的なる獨逸軍と雌雄を決する唯一の道は無敵空軍の急速實現のほかないのだ、果して米空軍は現在世界無敵の獨逸軍に對抗することが出来るであらうか、これこそ目下世界の軍事専門家の最大の關心事である、今ここに米國側から蒐集した最新の情報を基礎にして米國空軍の擴張狀況を研究してみよ

五、

甚大な擴張計畫

米國がルーズヴェルト大統領の命令に依つて陸海軍の航空勢力の大擴張を實際に開始したのは昨年七月からであつて、最初の目標は軍用機三萬五千臺だつたがその後空軍擴張特別豫算をドン増加し、現在ではすでに總額七十億ドルに達しその目標も五萬臺になつた。ところが最近米議會はさらに軍用機大擴張の追加豫算として二十六億五千萬ドルを下院で可決し目下上院で審議中である、これによれば實際の軍用機建造数は豫定の五萬臺を突破し五萬六千臺におよぶといはれてゐる。

一方急進派ではこの際米空軍を陸海軍より獨立させて一舉に八萬臺建造を實現すべしと主張してゐる。米軍部の計算によると五萬臺の軍用機が實現次第陸軍四萬六千臺、海軍四千臺の割合で配分することに内定してゐる。

軍用機生産能力

しからば米國の軍用機擴張の狀況は

昨年七月以來如何なる數字を示してゐるかといへば、民間に洩れた限度内において最も的確なる調査、統計を綜合すると次ぎの通りである。

米國軍用機生産高	昨年	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	本年	一月	二月	三月	四月	五月	總計(十一箇月間)
		五四七	五八六	六七〇	七四二	七七九	九〇〇	一、〇三六	九七二	一一一六	一、三八九	一、三三四	一、三三四	一〇、一七一

このうち軍用機の種別は一切嚴秘に附されてゐるが、大體半數は第一線用の爆撃機と戦闘機であるといはれてゐる、この一〇、一七一といふのは既存の陸海軍航空勢力にあらたに増加された新建造機であるからこれら米國軍

用機生産能力が推定される。

しかしこの一覽表でも判るやうに、軍用機を生産能力は生産設備に比例して幾何級数的に増加するものであるから本年五月の一、三三四臺といふ數字が決して米國の最高生産能力と思つてはならない。

すなはち最新の情報によれば六月現在の生産力は早くも月産一、四〇〇臺の水準を突破し年産一六、〇〇〇臺の目標を越えてをり、さらにこの秋の末には月産二、五〇〇臺すなはち年産三〇、〇〇〇臺に達するものと見られてゐる、そしてこの軍用機大擴張設備の偉力を發揮する來年半年頃には年産四萬臺といふ驚異的水準に達する豫定である。

本年一月より五月にいたる五箇月間の生産高五、九四七臺は、丁度昨年十二箇月間の全生産高とほぼ同じである。

生産設備も飛躍

この擴張ぶりを生産設備について見

ると次ぎの通りとなる。

全米の飛行機機體製作會社 四七
發動機製造會社 一一
プロペラー製造會社 六

工場設備總計

一九三九年一月一日 一九四一年四月一日
九、四五四、五五〇 三二、七八六、三五一

内 譯

機體製作工場 七、四七八、八三二
發動機製作工場 一、七二六、〇三七
プロペラー製作工場 二四九、六八一

すなはち生産設備はこの二年間に、二四七パーセントを増加したわけである。

以上の統計は全米の飛行機機體エンジン、プロペラー製造業者の團體である米國航空商業會議所會頭ジョン・ジュエツト大佐の發表したものであるから信用してもよからう、注目すべきことは飛行機用エンジンならびにプロペラー製造會社の設備擴張であつて、本年四月中にライト、プラット・アンド・

この工場設備は一九三九年一月一日現在と本年四月一日現在の總計數を比較すれば左のごとくである。

(單位平方フィート)

ホイットネー、アリソンの三大エンジン製造會社では合計三千四百萬馬力のエンジンを完成した、この調子だと全擴張計畫が完成したときは飛行機用エンジンの月産七百萬馬力の實現を見るだらう、またプロペラー製造は四月中に二千六百本に達したが、これまたハミルトン、スタンダード、カーチス各専門工場の設備大擴張によつて近くさらに生産激増の豫定である。

アラスカの米空軍部隊 増強 (新聞報)

(一)米國は國防計畫の一部としてアラスカ空軍基地強化、カナダに新飛行場を建設してアラスカへの飛石となす等アラスカの防衛強化に努めてゐるが米陸軍省は二月十五日「空の要塞」四機を以て編成する新鋭爆撃中隊を、アラスカに増強する旨次の如く發表した。

陸軍省は今般「空の要塞」四機を以て編成する第三十六爆撃中隊をコロラド州デンヴァーのローリーフィールド飛行場よりアラスカ、アンカレッジのエルメンデルフィールド飛行場に移送せしめる事となつた。右はアラスカに増強豫定の三飛行中隊中最初のものであるが、今後爆撃機中隊一、戦闘機中隊一を増強し、アラスカに於て三中隊を以て第二十八混成飛行團を構成せしめる筈である。尙現在アラスカにはフェアバンクス、ラッドフィールド飛

行場に一小分遣隊が駐屯、寒中飛行訓練を行つてゐるのみである。

(二)スチムソン陸軍長官は二月二十七日記者團に對し陸軍は目下アラスカの米空軍部隊を増強しつつある旨次のごとく發表した。

一、陸軍は目下アラスカの米空軍の増強を圖りつつあり。
(イ)第十八追撃機部隊は、二月八日西部海岸より輸送せられ、同二十三日アラスカのシーワードに到着した。

(ロ)第二十八混成空軍部隊本部及び第二十三空軍部隊も既に西部海岸を出發、本二十七日にはアラスカに到着の豫定である。

(ハ)第七十三空軍部隊地上部員は三月十五日、同爆撃隊員は三月二十二日、同操縦士は四月十五日、それれ、西部海岸を出發アラスカに向ふことになつてゐる。
一、陸軍落下傘部隊の試験は成功であつたので、落下傘部隊を四倍に増加

しようと考えてゐる。
一、現在の武器生産額は大體陸軍の期待に背いてゐないが、軍需品生産計畫の大半は未だ完成の域には達してゐない。

一方バタソン陸軍次官は軍需品生産狀況に關し次の如く言明した。
戦車・機關銃・小銃・小武器・彈藥等の生産狀況は極めて満足すべき状態にある。飛行機の生産状態も次第に改良されつつあり、小・中型戦車の製造は豫定の計畫よりもやゝ進捗振りを示してゐる。併し大型戦車の陸軍への引渡しは未だ早急に出来さうもない。

米國の自動小銃と短銃(談)

米國の自動小銃にはガランド式、トンプソン式、ピタソン式などがあります。現用のはブローニングの自動小銃でこれは目方が重く彈倉を除き約十五、五ポンドで、相當重い、小銃はその約半分位です。それで最近ガランドから出發いたしました自動小銃が出来

たのですが、重さが約九ポンドで大體小銃に匹敵するものです。

この自動小銃をM一式自動小銃として制式にして、歩兵部隊の個人裝備に採用するやうにしました。自動小銃はロシアその他でも狙撃用または火力増加のために一部裝備してをりますが、一般歩兵の個人裝備としたのは米國だけだらうと思ひます。制式になりましたM一式自動小銃の實包は挿彈子に入發入れます。普通の小銃でしたら一々射手が遊底を開かなければならないが自動小銃は藥莢が自然に飛出してしまると云ふ式のもので非常に火力の發揮にも效果があります。また自動的に裝填されますから射手が疲れないといふ特典があります。

尙アメリカでは警官が使用するトンブソン自動短銃を軍でも戦車、装甲自動車、騎兵偵察車の自衛用に使用して居ります。

英 國

第一節 概説

一、國防上の立場と環境

英國は其の地理的位置上、特に國際情勢極めて混沌たる現歐洲に於ける安定勢力としての存在、廣く世界に分布せる植民地及既得權益の確保並海外通商貿易の保護等の爲に相當強大なる海陸軍を必要とするも、優勢なる海軍力に信賴し得る關係上從來小規模の陸軍を以て満足してゐたが、世界大戰の苦き教訓及最近に於ける國際情勢の變化即ち一九三五年獨逸の再軍備、伊太利の勃興、「スペイン」の内亂等引續く西歐情勢悪化、就中伊「エ」紛争に於て英國の舐めたる苦杯、聯盟機構の無力化及軍縮會議の失敗等、幾多の相繼ぐ苦き經驗により從來の態度より急轉向し、外交の背景を爲すべき軍備擴張に乗り出し特に一九三七年二月十六日向五箇年間に於ける軍事費十五億磅（内

四億磅公債に依る）の甚大なる國防計畫を發表して世界を驚倒せしめたがこれ亦當然の歸結たると共に吾人の注目を要する點である。同年五月「ジョージ」六世陛下の戴冠式直後倫敦に開催せられた帝國議會に於ては特に國防強化の必要が強調せられ各自治領も本國政府の國防方針を全面的に支持したのである。

一九三九年—四〇年度國防豫算は約五億八千萬磅で、昭和十四年七月の追加豫算を合すれば七億三千万磅で、前年に比し更に三億八千七百萬磅の増加を示し、特に空軍及民間國防は飛躍的增加を示してゐる。

二、軍備方針

英國々防の大方針は「領土を保有し其の結合を鞏固にし對外權利を維持し且通商貿易の保護を主とし特に歐洲の現狀を維持する」に在りとし、之が爲必要なる外交の背景を保持し、必要なる範圍の制空及制海權の確保、屬領各部の獨立防禦及相互援助を策するを以

て綱領として居る様である。右方針に基く軍備整備の要領は次の如くである。

1. 海軍政策 略す。

2. 陸軍政策 英國陸軍は國防の要求及國際義務履行に適應するを以て其の建軍の本旨となし寡兵機械化主義の徹底を以て之が解決の關鍵としてゐる。

陸軍の任務は（イ）英帝國海外領土の防衛（ロ）本國の防空、海岸防禦及治安維持（ハ）戦時に際し必要なる方面に優良裝備の軍を送ることである。

之が爲に必要な限度の陸軍を整備し、且國民の軍事豫備教育の徹底を圖る等、各種の施設に依つて戦時陸軍の増大を準備する。

世界大戰後志願兵制度に復歸せるに伴ひ、地方軍を改編して正規軍同様にし、又戦時兵力の増強に努めて大陸に於ける活潑な運動戰を準備し、特に軍の機械化を促進し

其の能力を向上せしめる。

3. 空軍政策 空軍の任務は本國及海外に於ける利益を保護するに在り。

而して英國に對して空中攻撃を加へ得べき列國中最強一國を標準とする航空隊を本國に備へ、以て其の防空を完全ならしむるのみならず、陸海軍及植民地の要求に應じ得る獨立の空軍を整備する。尙民間航空を補助獎勵して戦時の擴張に應じ得る準備を爲す。

三、軍備の擴張

英國は一九三五年來空軍の擴張に著手して居たが、更に一九三六年近年稀な甚大豫算を計上して三軍全般に亙る擴大強化に乗出した。其の理由として特に英國政府の擧げる處を見るに。（イ）聯盟に對する責任の分擔と（ロ）英國の利益保護を掲げ（ハ）併せて列強の軍備擴張の狀況並（ニ）伊「エ」紛争にて英國が著しく軍備の不足を痛感せる事實に基くもので、特に強力なる

指導外交の背後には強大なる軍備の必要なるを感ずるに至つた點等の様である。

之が爲陸軍部隊の増設機械化の促進、海軍の新艦代艦の建造、空軍の擴大、三軍協調の強化、工業の統制に著手した。

英國政府は昭和十二年二月十六日向五箇年間に於ける軍事費十五億磅（内四億を公債に依る）の甚大なる國防計畫を發表した。その大要左の如くである。

1. 海軍 主力艦三、巡洋艦七、航空母艦二の建造、現用艦船の近代化、艦隊空軍及び兵員の増加。

2. 陸軍 歩兵四箇大隊及び戦車二箇大隊の増設、各兵科の近代化及び機械化、地方軍に對する優良裝備、作戰資料の充實、兵營施設の改善。

3. 空軍 飛行場の増設、本土及び海外を通じ飛行根據地七十五の新設、兵員器材の増加、防空施設の

近代化

本計畫は爾後に於ける世界の情勢特
に獨、伊の勃興に對處する爲、逐次改
變又は促進せられ、昭和十四年度(第
三年度)に於て前記總豫算の三分の二
即ち十一億磅餘を費消することとなつ
た。特に昭和十三年の九月危機以來戰
争準備は本格的となり、陸軍正規軍の
増強、地方軍の倍加、整備編成の改變
促進、徴兵制の實施、空軍擴張の促進
植民地軍の増強等々實施中昭和十四
年九月三日對獨開戦となつた。

第二節 陸軍要領

一、兵役制度

英國は從來平時は志願兵制度を採用
して居る。之は同國古來傳統の強制を
好まざる自由思想と、過去に於て義勇
兵制を以て世に誇りたる自尊心とに依
るの外、同國が平時より大なる陸軍兵
力を必要としない特殊の國防條件に依
るのであつて、平時は志願兵制度を以
て最も其の國情に恰適しありと認めて

居るが、世界大戦間は徴兵制度を採
せざるを得なかつた。然るに昭和十四
年四月に於て一部徴兵制を實施し、又
同年九月開戦と共に全般的に徴兵制を
施行した。

正規軍兵は十八歳以上二十五歳以下
の壯丁より募集し、其服役期間は十二
箇年である。之を現役、豫備役の二期
に分ち、志願に依り其の全期間を現役
に服し、又服役期間二十一箇年に達す
る迄再服役を爲すことが出来る。現役
豫備役の各期間は募兵の状況並海外勤
務の爲派遣、交代等の關係を顧慮し、
各兵種に依り多少の差あるも、大體現
役七年、豫備役五年を通常とする。而
して此の現役七年は當初一年を教育に
爾後六年を三年宛海外及本國に交代服
務せしめんとするものである。

又地方軍兵は十七歳以上三十八歳以
下の者より募集し、其の服役期間は四
年であつて、爾後一年乃至四年の延期
を志願することが出来る。而して服
役最終の年齢を三十八歳と規定して居

第三節 兵力及編制

其の一 陸軍

1. 本國軍兵力

一九三九年現在兵力	
正規軍	六師團(二〇萬)
地方軍	二六師團(二六萬)
地方軍防空部隊	七師團(一〇萬)
豫備軍	約二〇萬
計	約八〇萬

右の内、外征に使用するは目下の
所、正規軍、地方軍、豫備軍七〇
萬なるも、逐次徴兵法に依る將兵
の獲得、海外英國人部隊の召還、
植民地、自治領部隊の増援等に依
り之を増強すべく、前世界大戦に
於ては斯くして約八〇〇萬を召集
七〇師團を動員せる經驗を有する
を以て、今次戦争に於ては少くも
六〇師團を動員し得るであらう。

二、本國外の兵力

る。

二、軍の構成

英國陸軍は之を正規軍、地方兵及豫
備軍の三種に大別することが出来る。

1. 正規軍

正規軍常備團體は野戰軍の骨幹を
爲し、主として外征に使用せらる
るものであつて、平時本國に駐屯
するの外、印度其の他の海外植民
地等の守備に任じて居る。

2. 地方軍

地方軍は戰時必要に應じ議會の協
賛を経て外征に使用するものであ
つて、平時教育訓練の爲基幹部隊
を有し、時々召集して各種の訓練
を行つて居る。其の訓練の回数は
左の如くである。

第一年度	四十五回
外に野營八日乃至十五日	
第二年度乃	
至第四年度	毎年二十四回宛
外に野營八日乃至十五日	

而して其の募集、維持は全然州協

海外自治領及植民地は別に左の如き
兵力(土民軍等を含む)を有して居る。

加奈陀	約一六六、〇〇〇
濠洲	約三一、〇〇〇
印度	約二一〇、〇〇〇
新西蘭	約一三、〇〇〇
南阿	約三一、〇〇〇
愛蘭現役軍	約六、三八〇
計	約四五七、三八〇

其の二 空軍

一、空軍省所屬兵力及編制

總人員は一九三六年度には五萬五千
人であつたが、一九三七年には一躍七
萬に増加し、飛行機數は一九三九年四
月に於て左の通りである。

本國第一線機	約二、〇〇〇機
(爆撃五七中隊、戰鬥二五中隊其 の他)	
海外派遣	四〇〇機
艦載	二二〇機
計	約二、六〇〇機
別に補助空軍	二〇中隊

3. 豫備軍

正規軍豫備、將校補充豫備及補充
豫備、民兵又海峽諸島及植民地民
兵、地方軍豫備に區分する。正規
軍豫備は現役を終了せるもの、將
校補充豫備及補充豫備は動員に方
り補充及技術兵の補充に充つるも
のであつて、一九二四年の創設に
係り、民兵は正規軍豫備使用後正
規軍の補充に充てらるゝものであ

る。

生産數月産 約 三〇〇機
右の外、第一線機以外に約同數の第二線機を保有してゐるが、爾後特に開戦後、機數及生産力は飛躍的向上を示してゐるものと認められる。
二、海外自治領及植民地の兵力
海外自治領及植民地に次の兵力がある。

濠洲	約	二〇〇機
加奈陀	約	一七〇機
南阿蘭	約	一〇〇機
新西蘭	約	三〇機
愛蘭	約	二五機
印度	約	二〇〇機
計	約	七二五機

三、艦隊空軍の海軍轉屬
一九一八年空軍の獨立に依つて總ての航空機は空軍省の所管となつたが、其の後海軍方面から屢々異論があり遂に一九三七年七月三十日艦隊空軍は空軍省から分離して、軍令、軍政の兩方面に互り完全に海軍省の所管に移ることとなり目下之を終つた。

第四節 航空

一、要旨
英國は世界大戰の末期即ち一九一七年來陸海軍の航空軍の建設を決すると共に、翌一九一八年春空軍省を設置し名實共に完全なる空軍を編成して戰場に活躍したのであるが、平和克服と共に強大なる航空兵力の維持困難となつた爲之を整理し、他の交戦國と同様に民間航空の發達を奨励し有事の日に備ふるの方針を執つた。

然るに近時各國に於ける空軍擴張の推移、特に獨逸の再軍備と國際不安、伊「エ」紛争に於ける失敗等各種の原因に依り大なる刺激を受け、危大なる擴張を計畫するに至つた。一九三九年度に入つて再軍備計畫は更に補強せられ特に獨逸空軍の異常な發展により、空軍及防空に關して銳意之が促進を圖せるに至つた。飛行隊の増設は概ね豫定通り進捗したが、器材の整備及人員の補充は意の如くならず、爲に計畫の遂

行に圓滑を缺き、軍需資材補給の統制に當らせる爲軍需委員會設置せられ、又軍需品急速整備を圖る爲米國及加奈陀に使節を派し、飛行機購入の契約を爲さしめた。而して現在では地方軍五箇師の防空部隊を有して居り、更に七箇師團に増加中である。

二、民間航空

空軍擴張を必要とする一方經費の點より平時に於ける民間航空事業を奨励發達せしめ、以て戦時總豫備たらしむ可く企圖し、之が補助には多大の注意を拂つて補助金を交付して居る次第であるが、一九三七年度の民間航空補助費は二、三二五、〇〇〇磅で前年に比し一、五五五、〇〇〇磅の増額である。一九二九年四月より帝國航空會社（イムペリアル、エア・ウエス）を創設し小會社を之に合體して政府の監督下に空輸業務を遂行し逐年成果を向上してゐる。政府は一九二九年から一九三九年まで年々補助金を交付してゐたが一九三七年に補助金交付協定を更新して一

九三八年より向ふ十五年間多額の補助金を交付することになった。

而して一九三五年來商業機數五八九機、個人所有機及輕飛行機俱樂部所有機一、五三五機を有し、民間操縦者數は一萬に近い多數と謂はれてゐる。

其他一九三六年二月民間操縦者を以て結成せられたる操縦者聯盟が創立せられたのであるが、之には多數の青年加入しありて將來政府の補助後援を得るに至る可く、非常の際には軍事上大なる役割を果し得るものと見られて居る。

三、防空觀念の徹底と航空施設の完備
開戦と同時に敵の空襲を豫期せねばならぬ英國に於ては、國民一般の防空觀念を徹底し防空に關する諸般の設備は眞剣で、著々具體的施設として實現しつゝあるのである。

其の一、二の例を挙げれば左の通りである。

1. 空襲警報施設

有事の日國內の防空は地方軍の任

務である、内務省内に内務次官の下に空襲警備局を設け、地方官憲を指導して空襲に際し地方勤務隊を編成し市民の防護に當らしむることとし、尙各所に公設の防護團を設けてゐる。

更に防火機關の整備、船渠の防備燃料の貯藏、發電所の防護等に關し詳細に研究せられ著々と實行してゐる。

2. 國民用防毒面の整備

内務省空襲警備局に於て豫て計畫中の防毒面製造工場は、一九三六年一月より愈々作業を開始し、其の生産能力一週五十萬、年産三千萬である。

政府の計畫では全國民に應ずる防毒面を整備し、之を各地に分割貯藏して、空襲といへば直ぐに之を配給することになつてゐる。

3. 婦人義勇防空團の創設

第五節 化學戰準備施設

一、要旨

英國は戦後に於ける軍備革新の根本方針を科學應用に置き、之に對する研究は眞に緊張を極め技術研究費の如きも逐年増加して、戦前の六倍以上に達して居るが、就中化學兵器は特に之を重要視し、技術研究費の三分の一即ち毎年約數百萬圓を之に充當して居る。

二、施設

化學戰準備機關は陸、海、空軍の共同事業とし陸軍之を主宰し、左の機關を設く。

1. 調査部

陸、海、空軍の爲、化學戰に關する諸調査を行ふ。

2. 化學研究所

本部を倫敦に置き、「ポルトン」及「サットンウオーク」に實驗所を有する。

本部には、陸、海、空軍代表者並科學者を以て組織する化學戰委員會を設け、化學戰に關する顧問機關たらしむ。兩實驗所は、共に化學兵器應用の

3. 諸研究並試験を行ふ。

「ポルトン」に在り、一九二二年より開校し、陸軍附校、下士に對し毒瓦斯防護法の教育を行ふ。

第六節 國家總動員施設

其の國民性と國情とに依り、國民の行動を統制する法律其の他を平時より公布するが如きことなきも、其の軍備方針に鑑みると、有時の日に必要な陸軍軍備の擴充を行ふ爲には、完備せる總動員施設に依るの外なきこと、

國民全般の能く理解知悉しある處であつて、所要の準備施設は著々として整備されつゝある。即ち法律的に表面に現はるゝ施設は顯著ならざるも、實質的には緊要なる施設を完備しつゝありと見られるのが、英國總動員施設の特色である。

國防大學は、參謀次長又は軍令部次長を以て校長とし、陸、海、空軍の優秀なる佐官級將校と行政官廳要路の有爲なる事務官級官吏二十數名を年々研究員として召集し、所要の研究を行つて居る。

國 (地名)	年	度	金額	摘要
歐洲聯邦	一九三四—三五年	度	約 一九、〇〇〇	
加奈陀	一九三五—三六年度	度	大約 二、二〇〇	一、二五二、〇〇〇非を換算
印度	一九三五—三六年度	度	大約 三七、四〇〇	セリ 磅=4.9非
新西蘭	一九三五—三六年度	度	約 一、三〇〇	四九九、〇七七、〇〇〇の磅
南阿聯邦	一九三五—三六年度	度	約 一、三〇〇	600 マーバーとして換
愛蘭自由國	一九三五—三六年度	度	約 一、五〇〇	

「ソ」聯邦

第一節 概説

一、國防上の立場

「ソ」聯邦の國防上の立場に於て最も重大なる意義を有するものは、其の國家の理想として建國の始めに標榜せる世界革命の遂行である。

近來例へば

- 1 スターリン憲法條文中に舊憲法に、所謂「世界の帝國主義を破滅する」等の激越なる文辭を削除した點。
- 2 現在「ソ」聯邦は専ら所謂一國社會主義國家の完成に邁進して居る點。
- 3 「ソ」聯邦が最近頻りに愛國主義的宣傳に大童になつてゐる點。
- 4 對外的には從來の仇敵關係にありし獨逸と提携したかの如く見ゆる點。
- 5 國際共產黨の活動狀況が如何にも消極的に見ゆる點。

等の外貌から即斷して、「ソ」聯邦が今や世界革命理論を放棄して國家主義へ轉向したのではあるまいかとの樂觀的言辭を弄する向もあるやうだが、それは結局「スターリン」の現實主義的な政策に眩惑せられたものに過ぎないものであつて、誤りも甚だしいものと稱すべきである。

抑々「ソ」聯邦が國內建設に寧日なく邁進してゐるのは、世界革命の祖國としての實力を養成し、他日の實力行使に備ふる爲であり、又外觀的に如何にも非革命的な對外政策を實行してゐるかの如く見ゆるのは、寧ろ世界革命の爲により好き環境と地位とを獲得せんとする「スターリン」一流の戰術に外ならないのである。支那事變に對する彼の態度、特に今次歐洲戰亂に於ける傍若無人な遺口はよく彼の本心を暴露したものと稱すべきである。國際共產黨の如きは全く「ソ」聯邦國策遂行の一機關に過ぎないのであつて、其の活動に消長のあるのは本機關がよく

「ソ」聯邦の現實政策に同調してゐるものと觀るべきであらう。

要するに「ソ」聯邦は依然世界各國を革命に導き、之を共產主義化することを最高の對外方針と爲して居る點は變化ないのである。

「ソ」聯邦が以上の政策を遂行せんが爲、強大なる軍備を必要とするは固より言を俟たない處であつて、あらゆる困難を克服して只管軍備の充實に邁進して居るのも全くこの點に基くもの以外ならない。

二、「ソ」聯邦軍備の實相

赤軍の軍備は「ソ」聯邦の建國精神たる唯物史觀を基礎觀念とし、豊富な人的及物的資源と第一次五箇年計畫策、逐次面目を一新しつゝある國防工業能力とを背景として打ち立てられた謂はゞ數と量との物的軍備と稱すべきもので、數次に互る劃期的擴充による兵力並編制裝備の飛躍的増大と向上とは正に刮目に値するものがある。今や赤軍は二百二十五萬の常備兵力

考

- 三 第一、第二豫備を通じて年齢三十五歳迄を第一種とし年齢四十五歳迄を第二種とし年齢五十歳迄を第三種とする。
- 四 醫師、獸醫及特種技能の教養ある女子は赤軍及海軍に登録服務せしむ、又召集することあり。右の服務年限は満十九歳乃至五十歳迄で兵役区分は第二豫備役である。

「ソ」聯邦の兵役制度は徹底せる國民皆兵主義であつて、列強に比し在營年限の長期に互る如き、中等學校上級三學年（第八、第九及第十學年）専門學校、大學、工場實習所等の學生に對する軍事訓練を義務化する如き、軍需工業を義務化し兵役化する如き、皆「ソ」聯邦の軍備整備の努力の現れを物語るものである。

尙茲に特記すべきは、一九三六年より徵兵適齡期を従来の二十一歳より一學十九歳に引下げ、之に依り四年間毎年一年半分に該當する壯丁中より服役者を入營せしめて居つたが、一九三九年の兵役法に依り、更に若い者を入營せしめる様に至つたことである。（從來は徵集年の一月一日迄に滿十九歳になつた者を探つて居たのを、今度は徵集

年の翌年一月一日迄に滿十九歳に達するものを探ることになつた。兵役の滿十九歳とあるのは徵集の翌年からの勘定である。）

二、軍の構成

「ソ」聯邦防軍は勞農赤軍、勞農海軍及特別軍隊より成るものである。

從來の赤軍は之を正規部隊と民兵部隊との二種に區分せられてゐたが、民兵部隊は作戦及訓練上幾多の危険と不安とを藏して居たので、國力の充實に伴ひ、逐次之を改編して今や全く正規部隊のみとなつてゐる。

特別軍隊とは國境及國內警備隊並護送部隊であつて、前者は國境の守備警戒、國內及反革命運動を監視、鎮壓、交通線の守備警戒等に任ずる共産政權維持の旗本とも稱すべきもので、各兵

科を有し、一般軍隊に劣らざる精練なる軍隊で、内務人民委員部に屬してゐる。後者は囚人輸送、強制労働等の監視及輸送物品、主要倉庫等の護送、警護等に任ずる部隊である。

第三節 軍備全般の狀況

一、要旨

東西兩正面同時獨立作戦の遂行が依然「ソ」聯邦軍備擴張の最終目標であることは、固より喋々を要しないところである。

殊に西、歐洲戦は益々深刻化し東、我が對支處理が著々其の歩を進めて居る現下の狀態に於て、彼は當然全正面同時作戦發生の可能性を否定し得ないであらう。

其の軍備擴張の狀況は寔に目覺しいものがある。

二、軍備擴張の狀況

1 總兵力の擴張狀況

「ソ」聯邦は前述の如く一九三六年及一九三九年再度に互り、徵集年齢を各一年宛低下して極力常備兵力の擴充を實行中であるが、昭和

2 各單位部隊の増加狀況

十四年末に於ける總兵力は既に二百二十五萬に達し、之を昭和十三年末に比すれば約十一萬の増加となる。

區分	年次	昭和十二年末	昭和十三年末	昭和十四年末
狙撃師團		九七	一〇五	一一〇
騎兵師團		三二	三三	三五
飛行機數		五、五七〇	六、五〇〇	八、〇〇〇
戰車臺數		一七、〇〇〇	七、五〇〇	八、〇〇〇
軍直重砲聯隊		四五	五〇	五八

右に依れば飛行機、戰車、軍直砲兵等近代兵器の増加が特に顯著であつて、「ソ」軍が如何に物質戦力の強化に腐心して居るか、明瞭に看取し得るのである。

3 歐洲戰亂に於ける「ソ」聯軍の

動向

歐洲情勢の紛糾特に獨波開戦するに至るや、一九三九年九月初頭より約百五十萬の豫備兵を動員し、同月十七日には獨軍に呼應して波蘭進入を敢行し更に隣接諸邦に對する武力制覇を企圖

三、裝備一般の狀況

唯物主義を信奉する「ソ」軍が物的戦力を重視するのは當然過ぎる程當然であるが、此の根本觀念に基いて「ソ」軍の裝備は逐年充實向上の一途を辿つて來た。之を火力裝備に就いて觀ても、第一篇第四章中に比較表示した様に、列國陸軍中の優位を占めて居り、機械化裝備に就て觀ても、戰車約八千を保有して殆ど他列強の追従を許さないものがあるのである。此等が今度のノモンハン事件等で相當物を言つたのは周知の通であらう。

次は航空裝備に就いて言ふと、飛行機は約八千を算し、之亦列強の一、二位を争ふ數を示してゐるし、化學戰裝備に於ても、其の徹底してゐること列國軍隨一である。裝備の如何が軍の戦力の全部でない

ことは勿論であるが、其の重要な一因子であることは多言を要しないと思ふ。斯く観ずる時、國軍として今後層一層裝備の充實向上を図るの要を痛感する次第である。

第四節 極東に於ける戰備増強の狀況

一、「ソ」軍兵備増強の重點
「ソ」聯軍が如何に東西正面同時獨立作戦の遂行に邁進して居るかに就いては前述の通りであるが仔細に其の充實

状況を觀察すると、其の重點は極東兵力の増強に指向されてゐることが判るのであつて、其の眞意に關しては吾人の注目を要する處である。今之を昭和十四年度に就いて觀察すると次の通りである。

Table with columns: 區分, 年次, 昭和十三年末, 昭和十四年末, 増加數, 比率. Rows: 極東, 全蘇.

二、極東「ソ」軍の増強狀況 最近數年間に於ける極東「ソ」軍の増強狀況は左表の如くである。

Table with columns: 區分, 年次, 昭和十年末, 昭和十一年末, 昭和十二年末, 昭和十三年末, 昭和十四年末. Rows: 狙撃師團, 騎兵師團, 飛行機, 戰車, 潜水艦, 飛行機中.

考 (浦鹽、東京間は直距離約千二百軒である)。

三、最近に於ける極東軍備

在極東兵力は前表に示した如く、逐年擴充の一途を辿つて、今や狙撃師團は約三十を算し其の總兵力は四十萬に達してゐる。

此等は赤軍、赤海軍及内務人民委員部軍隊の三種に大別することが出来るが、其の内の主體を成す赤軍は更に獨立第一赤旗軍(司令部「ウオロシロフ」)獨立赤旗第二軍(司令部「ハフ」)及「ザバイカル」(軍司令部「チタ」)及在蒙「ソ」軍に區分せられて、各々國防人民委員部に直屬してゐるのである。

從來第一、第二軍は極東軍として「ブリュッヘル」の一指揮下にあつたのであるが、逐次其の兵力が尨大となるに及んで、彼の獨立能力の餘りに強化するの危険を感じた「スターリン」は張鼓峰事件の責任に藉口して斷然「ブリュッヘル」を罷免すると共に、前記の如き分割を行つたことは周知の通りで

ある。斯くして其の要職には悉く「スターリン」に忠實なる分子が充當せられ、中央の統制力は彌が上に強化せられて、茲に對日戰爭準備は遂一步完成の一途を辿つてゐると言へやう。

第五節 航空

一、要旨

兩年次五箇年計畫に伴ふ「ソ」軍航空勢力の擴充は眞に目覚ましいものがあつて、彼等建軍の本旨である唯物史觀に基礎を置く量的絕對優勢は決して輕に見逃すことは出来ない。就中軍事航空に在つては、最近の「イスパニヤ」戰爭、日支事變及滿「ソ」國境事件による幾多の苦い經驗を味つたのであるから、此等によつて將來益々向上進歩を圖り、名實共に世界に冠たる航空國の育成に全力を注いでゐる模様である。一九三九年初頭に於ける航空製産力は月産五〇〇機内外である。

二、空軍

1 編制及指揮系統

全航空部隊は重爆隊の主力を以て軍團に編成せられて居る特別任務空軍と、各軍(軍管區)直接協力空軍との二つに區分せられ、前者は國防人民委員に直隸する空軍長官之を統帥し、後者は教育訓練に關しては前記空軍長官の、又運用並補給等に關しては各軍(軍管區)司令官の指揮を受けて居るもの如くである。

2 兵力及器材

(イ) 其の量的優勢は「ソ」聯空軍の自負する所であつて、逐年擴充を以てし、就中爆撃隊の増強は目覚ましいものがあり、今や六十餘旅團、八千餘機に達してゐる。

(ロ) 在來の各種飛行機の粗惡拙劣な設計製作、外國機の單なる

模倣から漸次質的改善に鋭意努力して技術的方面に於ても多大の向上を來し、今日に於ては既に其の製作機の一部は列國優秀機と比肩するに至つた。目下重爆の主力として「デーバー」型に代つて整備せられてゐる「デーバー」三型や「エスパー」改造型重爆は、何れも其の性能は立派なものである。就中「デーバー」三型機は沿海州附近より優に我が國土を爆撃し得る性能を具備せるものである。

3 空輸挺身隊

本部隊は「ソ」聯空軍特色の一つであつて、戦闘部隊を敵地著陸により或は落下傘によつて敵背後に侵入せしめ、直接背後よりの脅威、飛行場、交通線、兵站線等の攪亂及謀略の支援等に任せしむるものである。尤も之には實施上色々困難も伴つては來るが、一八三六年秋「モスコ」附近の演習にあつ

ては約五千二百名が此の任務に服したのである。

三、民間航空

民間航空は「ソ」聯交通人民委員の轄下にある民間航空本部長に依つて統率せられ、民間航空隊及國防飛行化學協會(オソ・アビアヒム)とに大別することが出来る。此等は何れも國營であつて、國防上の考慮を第一義として總てがなされて居るため、頗る軍事的色彩が濃厚であることが其の特色である。

1 定期航空状況を述べれば左の如くである。

(イ) 昭和十三年度に於ける航空路延長は約七萬軒にして、之に不定期の地方線を合すれば、優に十萬軒を突破するものと認めらる。而して其の輸送人員は昭和十二年度に於て貨物量は二萬六千噸に及び、旅客人員数は列國に比すれば流石に未だ少ないが、貨物量に於ては輕視するこ

とが出来ない現況である。
(ロ) 國內線はモスクワ「浦鹽」線を第一にして有力なるもの約十五線、別に國際線として支那外蒙、沿バルチック諸國に到る數線を有してゐる。

(ハ) 使用飛行機は國産「ペーエス三五、同四〇、同八九」並に同八四(米國製ダグラスD.C三型)型を主力とし、何れも新型で性能も良好である。而して現用のもの約五百機内外と云はれてゐる。

2 國防科學飛行協會(オソ・アビアヒム)
國防飛行協會に關しては後述する。

第六節 化學戰備施設

一、要旨

「ソ」聯邦が一九二一年頃から、將來に於ける化學戰の重要性を認識して、之が研究施設に努力し軍部及民間共に化學戰準備に關する諸般の施設を整備

之努めて來たのは周知の通りである。即ち化學戰に任ずる専門部隊を有するのみでなく、一般部隊も亦小單位部隊に至る迄、皆化學部隊を附屬せられてゐる徹底振りは寧ろ驚異に値する程であり、更に一般民間に於ても化學戰に關する知識普及の爲に、國防飛行協會を參加せしめてゐる状況であつて、其の活動は刮目すべきものがある。

二、軍部内の施設

平時から化學戰に關する中央統轄機關として國防人民委員に直隸する化學本部があり、又化學戰専門教育機關として化學大學等が常置されてゐる。化學戰部隊としては各軍管區司令官に直屬する化學聯隊(大隊)等がある他、各兵部隊にも夫々小單位に至る迄、化學部隊が附せられてゐる。此等の部隊は瓦斯防護及煙の使用を主務とするを稱してゐるが、瓦斯攻撃に任ずることも勿論である。

三、民間の施設

「ソ」聯邦に於ける民間の對化學戰準備が、對空防禦即ち對化學戰防護なる一體の觀念に基いて指導されてゐるのは周知のところであるが、當局者の熱意と大衆の之に對する關心並訓練の徹底に關しては注目を要するものがある。特に國防化學協會(オソ・アビアヒム)は國民の對化學戰訓練並組織上重要な役割を演じてゐることは後述の通りである。

四、細菌戰準備
「ソ」聯邦に於ても、將來戰に於ける細菌戰の重要性を認識して、著々之が研究並準備施設に努めつゝあることは明瞭であるが、其の内容は明かでない。

第七節 國家總動員施設

國家總動員準備の見地から「ソ」聯邦を眺めるに方つては、制度組織と運営の實況との二つの視野からする事が必要である。

一 制度組織

「ソ」聯邦の制度組織を見るに、

1 政治的には、寡頭獨裁制であつて、政權は他の掣肘を受くる事なく思つた通りの事が出来る。
2 經濟的には、前記の政治權力下に全經濟行爲を計量的に統制してゐる。

「ソ」聯邦に於ては、生産及消費の手段が社會化されつゝあつて土地、鑛山、天然資源、工業諸企業、凡ての銀行、運輸、商業企業等々は國家社會の所有に歸して居る。従つて國民經濟の全行程、即ち生産、分配、消費の各領域に互り人為的計量作用を加へ、此等の國家的統制を徹底的に行はしめる事が出来る。

3 人的要素に就いても之が統制分配を主眼とし、前述政治經濟上の獨裁と相俟つて國家的統制の下に勞働力の分配を適當ならしめやうとしてゐる。

4 「ラヂオ」、新聞、雜誌其の他各種印刷物、言論集會等は一切政府

の手に握られ、國家の統制下にある等に依り、現在既に徹底せる一種の總動員の組織制度に在ると云へる。即ち「ソ」聯邦は總動員の組織制度を常態とする國であつて、換言すれば非常時總動員下に在り戦時の爲には單なる計畫内容の變化、即ち平時の産業中心計畫を軍事的内容に盛りかへる丈で十分なのであつて、平時状態から戦時總動員形態への轉移も亦極めて容易に行はれ得るのである。

機關 以上の如くであるが故に、國家機關の總てが既に總動員業務を行つて居ると謂ふべきであるが、今此等の計畫機關の内主なるものを擧ぐれば、概ね左の如くである。

1 政治經濟上の大方針は、先づ共產黨に於て之を定め政府に要求する。

即ち國防はどうせよとか、個人消費は大約幾何にせよとか、生産は如何にせよとか、總て大方

針に基くものは大略ながら或る數字を以て其の要求の程度を示される。右に基いて政府は更に具體的の計畫を立案し、之が實行に任ずる。

但黨首腦者も政府首腦者も大體同一人であるから要するに此の兩者の關係は圓滑といふより全く同心異體である。而して、此の際國防と勞働即ち生産との調和を計る爲には、特に勞働國防會議なるものがあつて議長は「ソ」聯邦人民委員長（首相に相當す）が之を兼任してゐる。

3 中央並地方府内及各下級官廳に於ける計畫立案の當事者は左の如くである。

イ、國家の中心指導計畫機關及計算機關は「ソ」聯邦國家計畫委員會であつて、聯邦人民委員會直屬である、
ロ、行政管區の中心指導機關は各

家生活上に於ける領域は之により殆ど大部分を占められて居る。以下二、三其の實況を述べる事とする。

1 五年計畫

本計畫の主眼が豫、想敵國の聯合勢力に對し勝利の獲得に必要な國防組織の完備にあること、及前記の主眼を達成するに必要な一切の技術的經濟的前提條件を作り出す爲、國防力増進に關係ある工業部門の發達に全力を傾倒しある事實を究めたならば、本計畫は戦争遂行力重視の見地に立つて行はれて居り、戰時的内容を既に多分に有して居ることが理解されるであらう。即ち「ソ」聯邦に於ては、五年計畫の名の下に、總動員の運営が著々として進みつつあるのである。尙一、二細部に就いて述べれば

イ、重工業

五年計畫の産業上に於ける骨子は重工業に存し、其の主眼とす

る所が軍需工業にあるは前述の通りである。

而して、各種生産工場擴張と共に軍事關係工場が著しく増築せられ、且平時工業から戦時工業への轉移に應ずる人員の配當諸施設の準備、動力轉移の關係等も規定せられてゐる。

元來彼等の産業が國家企業であり且利潤を目的とするものでない爲、此等の施設は容易に且徹底して行はれ、我が國に於ける軍需工業動員法の如きものは全然之を必要としないのである。

ロ、農業

農業の社會化即ち「コルホーズ」(集團農化、「ソ」フォーズ(公營農))化に依り農民の九〇%以上を社會化した。之に依り農産品に對する國家統制は著しく其の威力を増加し人員馬匹の所在と現況を明ならしめて此等の召集徴發を容易にしたるのみならず

共和國、自治共和國、各州各地方大都市の「ソ」ヴァイェト」執行委員會の計畫委員會である。

ハ、經濟機關及企業の事業に於ける計畫中心機關は、「ソ」聯邦及其の各共和國の各人民委員部に地方執行委員會の内部に在る特別計畫委員會である。

ニ、各經濟機關(協同組合、「トラス」(鐵道、海運等))並個々の企業(工場、驛站等)にも計畫機關を有し、個々の工場の計畫機關内には更に其の勞働の種類に應じ計畫班を有してゐる。

以上の如く、其の計畫機關は凡ての企業、經濟、機關、中央及地方の諸機關中に存在して居る。而して、その他職業組合とか、國防飛行化學協會とか萬般の國家社會機關も各其の範圍内に於て計畫を樹てる事は謂ふ迄もない。

二、運賃實況

計畫萬能的政治經濟施設は、社會主義的なる辭句の許に現實に行はれ、國

勞働力の分配調節貯蔵を容易ならしめてゐるのである。

2 五年計畫以外に於て總動員の施設と見るべきものに、左の如きものがある。

イ、民間飛行機は全部國家的統制下に在りて、「民間」といふより「軍事以外の用途に充つる飛行機」と謂つた方が適當であるが此等は國防の見地に基き豫備空軍、經濟的空軍をなし、戦時は直に軍用に使用し得る事を目的として其の機種配置等を計畫せられ、飛行技術員操縦者の如きも軍人若は直に軍用に供し得る如くせられて居る。

ロ、空襲の恐ある主要都市の住民には防毒面を購入せしめ、防空演習には一部の瓦斯を使用して之を裝せざれば市中の行進はもとより執務勞働も出来ない様な事もしてゐる。

ハ、穀物其他戰時用物資材の貯

職は、特に一九三七年度の豫算に計上した所であつて、目下盛に此等の貯蔵を行つてゐる。

ニ、軍事工業用豫備技術員の養成
兵役法に依り、高等諸學校學生中産業關係の兵役に服せしむるものを定め、専ら之に軍事工業幹部たるの技能を實習せしめてゐる。

ホ、工場配置は戦時の顧慮が十分拂はれてゐる。殊に國境附近に在りては國境より離隔せる所に分置して之を設け、戦時に於ける作業の妨碍無からしめんことを期して居るのみならず、交通輸送關係原料地と生産地の配置關係等には特に注意せられてゐる。

ハ、馬匹は全部登録せしめ、軍用に適する犬も亦登録せしめあり
國防飛行化學協會會員でなければ飼育する事が出来ない。
以上の如き事例は獨り物質方面のみならず、人的資源の統制にも徹底して行はれてゐる。

第八節 國防飛行化學協會

(オソアヴィアヒム)

國防飛行化學協會は蘇聯邦に於ける第二線の國防擔任機關として極めて重大なる意義を有し看過する事の出来ない特殊の存在である。

本協會は國家及國民の軍事化を目的とする半官半民の團體であつて、目下會員少くも千八百萬人を算し其の中に「婦人をも國防に近づけよ」との標語の下に六百萬の婦人會員を擁してゐる。其の經費は會員の入會金並會費及各方面よりの寄附等によるの他國庫より補助金を仰いでゐる。而して其の事業は軍事訓練軍事宣傳航空事業の發達普及對化學戰防護並防空・體育・馬事・軍用犬並傳書鳩の養成、海事・農業等頗る廣範圍に互り直接間接國防に關係ある殆ど一切の事項を包含してゐるが、其の内主要なるものを挙げれば左の如くである。

一、軍事教育

大衆に對する軍事訓練の機關として數萬の射擊團體並軍事技術團體等を有してゐる。

射擊團體は各々射撃場を有し射撃技術を訓練する他射撃に關する學理の普及に努め、技術優秀にして狙撃手の規定に合格したる者には「ウオロシロフ射手」の名譽を授與しつゝありて現在此の名譽を有する射手は約百三十萬人に達してゐる。

軍事技術團體には各種あるも自動車「トラクター」工場内には裝甲戰車團體、化學工場内には軍事化學團體等の如く生産機構と密接な關係を有せしむるやうに努め、在郷赤軍幹部又は被後援軍隊(赤軍内各部隊は夫々某工場某地方等に一定の後援團體を有しあり)の將士に依つて指導せられてゐる。

其他競技會・軍事訓練的行軍・軍隊見學・集會・短期軍事教育等を屢々催し軍事技術の普及を計つてゐるが、協會には所屬の騎兵學校・射手學校等各種

軍事特業學校・海事教育訓練所並帆船隊等を有しあり、最新軍事技術修得者は數百萬に及んでゐる。尙召集前の壯丁に對する軍事豫備教育並在郷赤兵に對する復習教育等隊外者の軍事教育を行ふ爲二千餘の軍事教育訓練所を有し特に在郷者の資質向上に努力してゐる。

二、航空事業

航空事業の發達普及は特に力を用ふる所であつて、協會が民間資金を以て赤空軍に獻納せし飛行機は既に六、七百機以上に達し、更に國民の航空教育の爲現在全國に約三百個の飛行俱樂部がある。此等は各々飛行場・航空學校・機關學校並飛行機等を有し、其の所屬機數總數三千機と推定せられ、「吾等は速に十五萬人の操縦士を養成せざるべからず」との決議に基き多數の操縦士機關士等を養成してゐる。尙航空要員養成に關して「模型飛行機より「グライダー」へ、「コグライダー」より輕飛行機へ」、「輕飛行機より軍用機へ」な

る標語の下に兒童青年に呼びかけ、系統的に著々其の効果を收めてゐる。目下「グライダー」學校二五〇、所屬「グライダー」少くも二千五百其の操縦教育を受けたる者少くも三萬あり、各學校には模型飛行機團體を設け屢々競技會を催して其の發達を計つてゐる。其の他「ベラシユート」俱樂部少くも千五百其の修業者數十萬に達し、主要都市に於ける「ベラシユート」練習塔一〇〇〇箇以上上つてゐる。尙航空發明事業に對する熱意亦旺盛で、各種研究機關並多數の工場等を有し、飛行機飛行船の研究設計製造を行ひつゝある。

三、化學防禦事業

國民に對する對瓦斯並防空教育も亦協會の力を入れつゝある所であつて、防空地區及防空團體の設定・對空監視及連絡の教育等を實施するの他、防毒衣の賣出・特殊防空團體の定期的防空演習・雜誌映畫に依る宣傳等を行ひ、更に進んで瓦斯原料の研究・化學工業

の擴張化學工業品製造所の設置・農業の航空化學化等を実施し、各種研究所並研究會等を設置し且多數の瓦斯避難所を管理してゐる。

○ソ聯陸軍の概貌 (週報)

まづソ軍建設の目的とするところを見ると、ソ聯邦の防衛に任ずると共に全世界におけるプロレタリアの闘争を支援するにあることが第一の特色である。最近スターリンの現實政策よりして、世界革命から國家主義的方向を轉換したのではないかと思はれる位であるが、これは寧ろ國內建設に邁進し、徐ろに實力を養成して、他日世界革命の祖國としてよりよき地位を獲得せんとする遠謀深慮があるものと、世界一般は見てとつてゐる。従つてこの大目的達成のために強大な軍備を必要とすることは、レーニン、トロツキースターリン等が革命戦に身を以て體驗したことであつて、あらゆる困難を克服して、ひたすら軍備の充實に努力し

て来つた。今日においては世界一の龐大な數量を擁する大陸軍國といふことが出来る。以下にこのソ聯陸軍の概貌を窺つて見ることにしよう。

先づソ聯軍建設の指導精神なるものを見ると、唯物史觀を基礎觀念とし、豊富な人的、物的資源と、第一次五ヶ年計畫以來漸次面目を一新しつゝある國防工業能力とを背景として打ち樹てられた、いはば數と量との物的軍備と稱すべきものである。數次に亘る劃期的擴充による兵力並びに編制裝備の飛躍的増大と向上とは、正に刮目に値するものがある。

昨年頃までの赤軍兵力は百八十師團五百萬、飛行機、戰車各々八千以上を保有してゐた。また最近はフィンランド戰爭、ソ滿國境における張鼓峯、ノモンハン事件等累次の實戰の經驗に鑑み、精神的要素の充實強化に大いに力を用ひてゐた。一九三七年赤軍建設の功勞者トハチエフスキー元帥以下、幾多優秀と思はれる赤軍首腦部を反逆者

として銃殺の刑に處して以來行はれた赤軍の肅清工作により、帝政露軍時代の將校はもとより、革命戦時代の戦士さへも殆んど悉く葬り去られてしまつた。

猛烈を極めた血の肅清工作も、世人の豫想を裏切り却つて安定を見た。即ち赤軍の要職にはすべてスターリン直系の尖鋭分子が配せられることとなつたため、軍に對するスターリンの統制力は、急角度に強化されることとなつた。しかもその後におけるスターリン

の現實政策は極めて順調に經過し、赤軍もまた質、量ともに日に／＼整備せられてゐたことは事實である。

ソ軍の兵役制度は徹底した國民皆兵主義で、列強に比し在營年限長く、中等學校上級三學年以上の諸學校の學生に對する義務的軍事訓練、軍需工業の義務化等、軍備整備に多大の努力を拂つてゐる。また、最近さらに兵役法を改正し國防強化を斷行してゐる。現役勤務年限は次ぎの通りである。

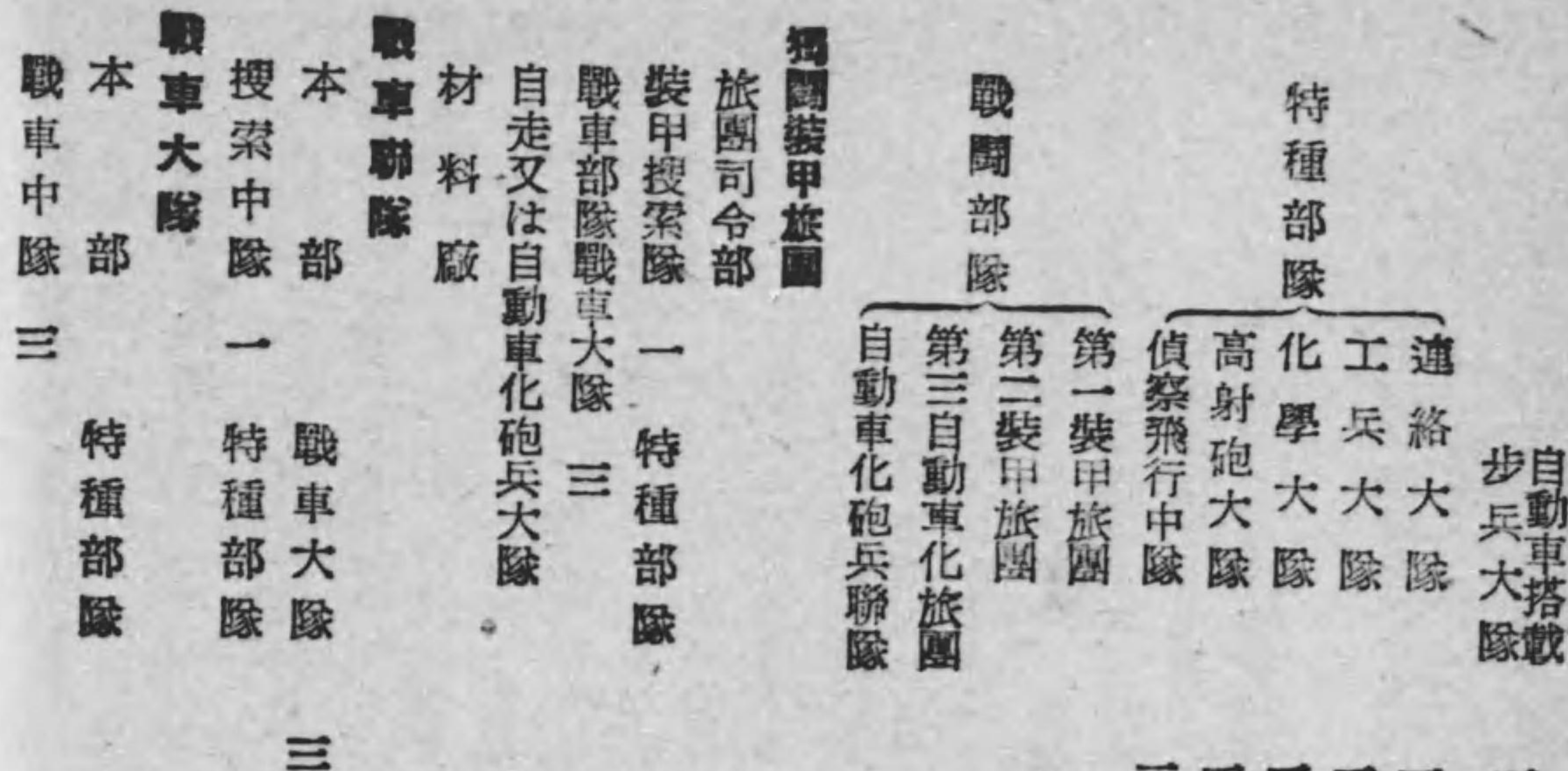
- 一、勞農赤軍陸軍部隊兵卒……………二年
- 二、同 下級幹部員……………三年
- 三、陸海軍空軍部隊兵卒及下級幹部員……………四年
- 四、國內警備隊兵卒……………二年
- 五、同 下級幹部員……………三年
- 六、國境陸上警備隊兵卒及び下級幹部員……………三年
- 七、勞農海軍部隊及び艦上乘組の水兵並びに下級幹部員……………五年
- 八、國境海上警備隊兵卒及び下級幹部員……………四年
- 但し特業水兵……………四年
- 一般水兵……………三年

九、海岸防備隊兵卒及下級幹部員……………四年 海岸防備隊員 (同 二年)

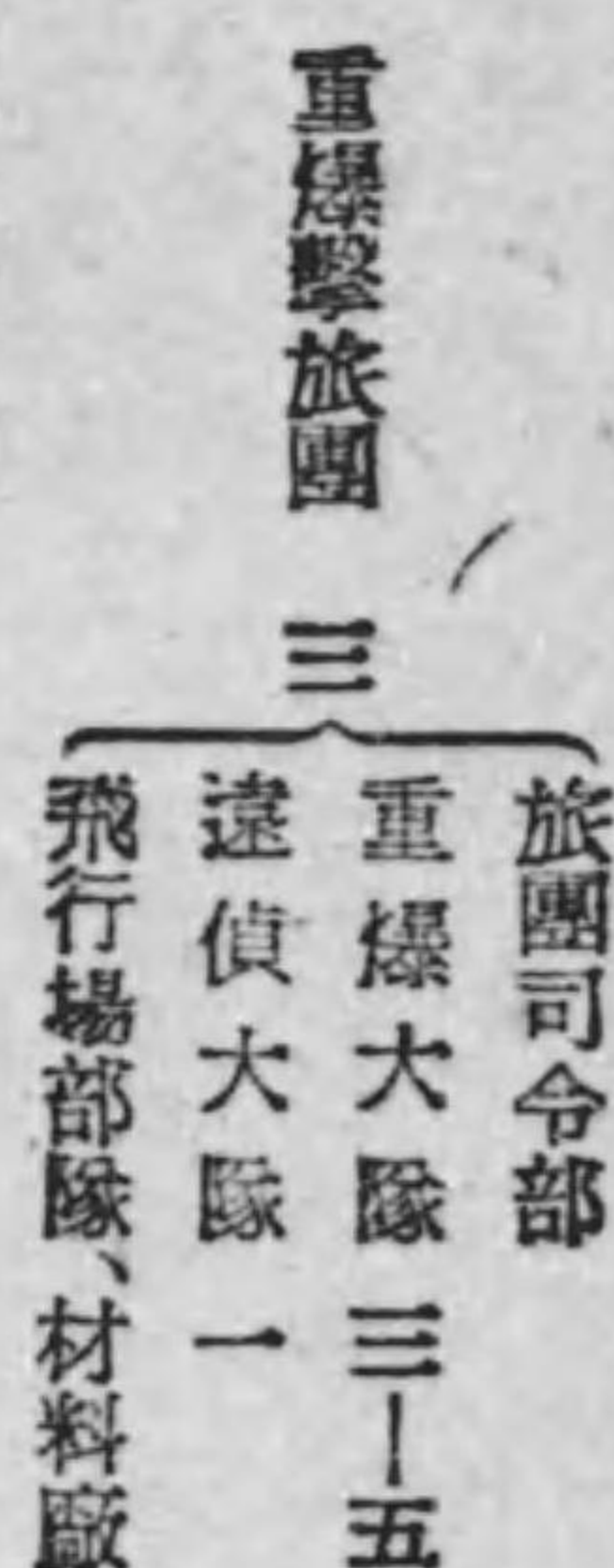
編成と裝備

ソ聯國防軍は勞農赤軍、勞農海軍、國境警備隊及び國內警備隊から成る。空軍は獨立してゐないが、空軍の使用即ち獨立的作戰を重視してゐる。赤軍統帥の特色は、從來二元的で指揮系統と政治指導系統とが併立してゐたことであつた。即ちソ軍内にある軍事委員(コミサール)は軍隊指揮官に比肩する地位にあり、當該部隊の作戰(指揮)及び政治活動の全般に亘つてこれを監督する立場にあつた。これはソ聯政體から生れた特異の現象であつたが、作戰上統帥權の混亂を招く恐れがあるため昨年コミサールを軍隊指揮官の轄下に入れることに改めて、その缺陷を是正した。





飛行師團司令部



獨立飛行師團

一、重爆、輕爆、偵察、驅逐大隊又は各種大隊の混合から成る。
二、編成は三―五大隊を基幹とし概ね右重爆撃旅團の編制に準ずるが中隊の機数は概ね次の通りである。

機種	機数	中隊機数	大隊機数
小型機	九	約三〇	
中型機	六	約三〇	
大型機	三	約一〇	

化學戰關係

一、平時から化學戰に關する諸種の機關並びに化學戰部隊を常置する

且つ各部隊に専門の瓦斯毒將機と化學小隊を有する。
二、化學戰部隊は勉めて機械化しその機動力と資材の輸送力を増大する傾向にある。

三、化學戰部隊は一般に投射と撒毒を主として編成、裝備されてゐるが、なほ瓦斯放射、火焰放射及び煙使用の裝備を有する。

四、砲兵には瓦斯彈、飛行機には投下瓦斯彈と瓦斯雨下の裝備を有し又狙撃師團及び騎兵師團の工兵には撒毒裝備を有す。狙撃師團は更に毒煙、手投瓦斯及び擲彈銃用瓦斯彈を裝備する。

○極東赤軍の解剖

一、極東赤軍發展の歴史
極東に特別赤旗軍なる獨立兵團が置かれる様になつたのは一九二九年八月の事である。

當時の滿洲の主權者張學良は東支鐵道の實力回收を企て兵力を國境に集結

し七月十八日にはソ聯國內に侵入した。當時のシベリヤ軍管區司令官クイビシエフは黨中央委員會の訓令に基き兵力を集中して對支宣戰布告を行なつた。かくて兩國間の軍事行動は開始され滿洲内にあつた白系ロシア將軍セミョーノフ、メルクノフ、ホルワット等は、白系軍を組織して支那軍と共同行動を執り赤軍攻撃に移つた。之に對してソ聯政府は八月六日に軍事革命委員會の名を以つて極東特別赤旗軍組織を聲明し、ブリューヘル將軍をその司令官に任命して支那軍に對抗するに至つた。是が今日の強大なる極東赤旗軍の濫觴である。此當時の極東特別赤旗軍の兵力は僅かに十二三萬に過ぎなかつた。

然るに滿洲事變に依り我軍が滿洲に進出してロシアの勢力圏内にあつたハルビン及び東支鐵道沿線は云ふまでもなく、黒龍江の滿洲國境にまで其威武を輝やかす事となつたので、驚いたソ聯政府は五ヶ年計畫の實施に伴ひて軍備の大擴充を行ひ、極東兵力を逐年増大して行つたのである。極東兵力増加

のテムボが如何に早かつたかは次の數字に依つても判る。

種類	昭和八年	昭和十一年	昭和十三年
狙撃師	九	一二	二〇以上
騎兵師	一・五	三五〇	四五
飛行機	三五〇	七五〇	一、〇〇〇
戰車	三五〇	六五〇	九〇〇
		一、〇〇〇	一、五〇〇

(陸軍省發表内閣週報)

にあつては同一兵力をモスクワから浦鹽に送るためには二億噸を必要とするであらう。従つて所謂内線作戰の大兵力を迅速に移動する事に期待をかけるのは甚だ困難である。是がため東西國境に確實なる獨立保證を要し、獨立作戰の準備が必要なのである。

かくの如くして情況は極めて航空機戰車、砲兵其他の兵團の完全なる獨立部隊を編成すべき餘儀なくせしめたのである。

即ちト元帥は一萬噸を距てゝある東西兩正面で同時に作戰し得る部隊を常置する事を赤軍の基本戰略とする事を

言明した。従つて極東兵力の擴充が一
九三三年以來飛躍的に行はれた事も自
づから諒解された。肅清工作前のブリ
ューヘル元帥は三十萬以上の兵力を一
手に指導し、極東のナポレオンの異名
を取るまでに勢威の隆々たるものがあ
つた。陸軍の増強に對應し海軍も得意
の潜水艦の数を年毎に増加して、一九
三八年頃には其數八十隻に達してゐ
た。

かくて軍備が増大するにつれて滿ソ
國境における衝突事件は年毎に其數と
規模を大きくして行つた。一九三八年
夏初めての日ソ兩軍の大規模なる衝突
が起きた。即ち張鼓峯事件である。此
時極東赤旗軍總司令官ブリューヘル元帥
は失脚して、軍は第一赤旗軍、第二赤
旗軍の二つに分割され、前者はウラジ
オストツク、後者はハバロフスクに其
の司令部を持つ事となつた。更に其後
一年を経て第一、第二の赤旗軍を統轄
する極東戦線司令部なるものが出來て
今日に至つてゐる。

二、極東赤旗軍の現状

現在の極東赤旗軍は極東戦線と稱し
本據をハバロフスクに置き、第一赤旗
軍司令部を浦鹽においてゐる。極東戦
線の司令官は去年までは我が國にも名
の知れてゐるシテルン大將であつたが
今年になつて軍大將で先の中央アジア
軍管區司令官であつたアバナセソコ將
軍が任命されてゐる。シテルン大將は
獨ソ戦に参加のために歐羅巴にある事は
外電の報ずる所である。第一赤旗軍司
令官は中將ポホフである。

米國軍部の評價に依ると獨ソ開戦後
の極東赤旗軍の兵力は次の通りであ
る。

極東第一赤旗軍	
狙撃師團	二 兵員 四〇、〇〇〇
騎兵師團	七 同 五一、〇〇〇
戰車師團	三 同 一〇、六〇〇
空軍師團	三 同 一〇、五〇〇
計師團數	一五 同 一一二、一〇〇
極東第二赤旗軍	
狙撃師團	二二 兵員 四四〇、〇〇〇

騎兵師團	三 同 二一、九〇〇
戰車師團	八 同 三八、〇〇〇
空軍師團	七 同 二四、五〇〇
計師團數	四〇 同 五二四、四〇〇

第一、第二兩赤旗軍を合計すると極
東兵力のみで師團數五五、兵員六三萬
六千六百人となる。兎に角極東にある
ソ聯の兵力は七十萬に近い事は明らか
である。又飛行機、戰車等も一九三七
年の日支事變勃發以後急速に増加され
特に一九三八年の張鼓峯事件はソ聯を
して一層極東赤旗軍の機械化に拍車を
かけしめた事として、今日では飛行機、
戰車とも各二千以上に達してゐる事は
明らかである。その他の機械化兵器に
は高射機關銃積載の裝甲自動車、強力
なる照空燈、特に火力には意を注ぎ大
小の口径を有する牽引火炮、一對戰車
砲より遠距離砲、重砲等が相當多數配
備されてゐる事がハバロフスク、ウラ
ジオストツクの今年のメーデー示威行
進にそれらの機械化兵器が参加した事
に依つて明らかである。

三、極東海軍の現状

極東海軍は太平洋艦隊と黒龍江小艦
隊とよりなつてゐる。太平洋艦隊の根
據地はウラジオストツクで司令官は海
軍中將ユーマシエフである。ソ聯の軍
備擴充方針は最近まで陸軍を中心とし
てゐたが、陸軍が數的、量的に先進國
のそれを凌ぐ程度に達した昨年頃から
ソ聯は大海軍建設を目指して邁進する
事となつた。併しながら多額の經費と
日數を要する主力艦を簡單に相當勢力
保有する事は不可能であつて、現在ソ
聯海軍は總噸數三十八萬噸、主力艦は
殆ど舊いものを近代的に改装したもの
で、只一隻三萬五千噸級のものが極く
最近完成されたものであるとの事であ
る。現在極東の水域にあるソ聯海軍の
勢力は次の様なものである。

巡洋艦	一隻、驅逐艦	八隻
潜水艦	九〇隻、同母艦	一隻
海防艦	一隻、水雷艇	一隻
魚雷艇	八〇隻、其他の補助艦艇	
河川用砲艦(黒龍江上の)		は千噸級大

型砲艦一〇隻、二百噸級小型砲艦一〇
隻、砲艇約四〇隻、

以上に依つても判るやうに現在のソ
聯の太平洋艦隊は主力艦一隻もなく巡
洋艦として僅かに一隻に過ぎない。従つ
て主力の海戦に依つて雌雄を決するも
のではなくて、九〇隻以上もある潜水
艦にものを云はせて海上におけるバル
チザン戦を展開して敵を苦しめる事を
戰略としてゐる事が判る。海上輸送路
の襲撃、敵艦隊への奇襲等には九〇隻
を越える潜水艦は適當に活躍する事が
豫想される。

海軍の根據地は第一にウラジオスト
ツクがある。
黒龍江艦隊の根據地であるハバロフ
スク、其の北方のコンソモリスクは共
に黒龍江に面する河港であり、特にコ
ンソモリスク市はハバロフスクより黒
龍江の河口に至る中間に位し、海陸共
に要害の地であつて重工業都市である
と共に海軍作戦の基地たり得る資格を
備へてゐる。

四、軍需補充に統後の

ソ聯政府の方針が東西兩正面同時獨
立作戦を遂行し得る軍備を極東に持つ
事にある事は前に擧げた通りである。
現在の極東赤旗軍の第一線兵力はソ聯
の此の目的を達成し得るに足るものと
見られるが、近代の大消耗戦を戦ひ抜
くためには軍の背後に強力なる兵站基
地を持たねばならぬ。此の點になると
極東赤旗軍は尙其の基礎薄弱なりと云
はねばならぬ。先づ第一に人的資源で
あるが現在の極東二三〇萬、バイカル
以東を加へて四〇〇萬の人口では、七

十萬を越える大軍の兵員補充は困難である。更に近代戦に必須不可欠の石油は北樺太から一箇年約四百萬噸産出されてゐるが、それだけでは極東消費量の三五%を満たすに過ぎない。食糧穀物は極東並に東シベリアを合しての消費量一三萬噸であるのに、生産高は六〇萬噸でその自給率は五五%に過ぎない。鐵鋼の供給は殆ど西シベリア、ウラルに仰いで居り極東の生産高は極めて少なく近い将来に自給自足に至る事は到底覺束ない。

獨逸

前世界大戦に敗れたドイツ軍は、ヴェルサイユ條約の桎梏の下にはゆる「十萬軍隊」として緩かにその存在を保つたが、幾度か潰滅の危機に瀕したのをヒンデンブルグ將軍などの苦心努力によつて潰滅一步手前に支へられ、ヒットラー總統の政權獲得までを經過し

た。

ヒットラー總統は政權掌握後數ヶ月内政は確立した後その主張である國家自主權の確立を遂行するため、これが國外闘争の必須軍備を整へんとしたのである。然し軍備の充實自體がヴェルサイユ條約において禁ぜられてゐるので、こゝに已むなく、いはゆる「秘密軍備」なるものを指導することとなつた。幸ひフォン・ゼークト將軍の卓見により十萬軍隊時代軍政の根本着眼を將來の再建擴張に置き、軍隊の配置を初めその他一切を、全軍を以て歴大軍備の基幹要員とする着想の下に建制された。こゝにおいて統制ある國家諸機關の全力を擧げての協力の下に、財政を鞭撻して支出を惜まず、大なる決意と努力とを以て各種の秘密整備を行ひ、遂に一九三五年三月十六日、今より僅か六年前、中外に向つて突如としてヴェルサイユ條約を無視した再軍備の宣言を行つた。

第一節 概説

一、獨逸軍備の充實

獨逸總統「ヒットラー」は一九二〇年其の運動を開始して以來、次の三要綱を以て獨逸の對外政策の根本を爲すものと提唱してゐる。

一、民族自決の原則に基き大獨逸國を鍊成す

二、獨逸民族の他民族に對する同權を獲得す、之が爲、「ベルサイユ」

「サンゼルマン」兩條約を破棄す

三、獨逸民族の生活及過剩人口移植の爲に、國土及植民地（大戦後奪取せられたるものを指す）を取得す

一九三五年政權を掌握してよりは熱意を以て之が實施に奮進して來た。

而して第一段の目的は一九三五年に於ける再軍備宣言及之に次ぐ「ラインランド」進撃により、「ベルサイユ」條約の破棄を以て達成され、現在は第二段を解決して第三段に入らんとする時期にありと見るべきである。

而して此の第二、第三段の目的達成

の爲に、(一)強力なる軍備と(二)前歐洲大戦に苦杯を舐めたる資源戰的整備の兩者の缺くべからざるは明かであつて、第一段の目的達成以來此の兩者の整備の爲に盡されたる努力は異常なるものがある。

其の詳細は夫々の項目に於て述ぶるが、其の軍備の一部として設けられたかの「ジーンフリード」線なる國境築城地帯の如き、火器を有つてゐる「ベトン」體の數は左の通りと云はれてゐる。

- 一九三六年 一一九個
 - 一九三七年 五〇〇個
 - 一九三八年秋 一七、〇〇〇個
 - 一九三九年夏 二二、〇〇〇個
- 殊に一九三八年五月「チエッコ」問題險惡となつてから、其の強力な組織と統制の力に依つて、莫大の人員資材を運営して之が強化に努力を集中したことは周知の事實である。

第二節 獨逸軍備

一、現獨逸國防軍成立の経緯

「ユ」條約の桎梏の下に、所謂「十萬軍隊」として緩かに其の存在を保つて居たが、「ヒットラー」の政權獲得後、遂次「秘密軍備」を整備し、一九三五年三月十六日「再軍備宣言」に依つて公然之が再建を開始した。爾後銳意擴張整備に努むると共に、一九三八年二月四日に至り、軍最高人事の更迭に伴ふ最高統帥部の組織の變更を斷行し、國防軍を軍最高統帥者である總統兼首相の直接統率する所となして今日に至つた。

二、獨逸國防軍構成の基礎法である「國防法」

獨逸國防軍の組成、使命、最高統帥部の組織等、軍に關する根本的基礎事項は國民の兵役、義務服役の原則と共に總て「再軍備宣言」に伴ひ一九三五年五月二十一日發布された、「國防法」に明示されて居る。

三、獨逸國防軍の構成大要

國防法に基く獨逸國防軍の構成大要左の通り。

イ、兵役の義務

總ての獨逸男子が兵役の義務を有するばかりでなく、戦時に於ては總ての女子も祖國の爲應役する義務がある。

註 本義務は單なる成文的規定であるばかりでなく、壯丁得員數と國防軍要員數との關係から事實に於て特別な不具者等を除き殆ど總ての壯丁が現役に服役してゐる状態であつて國民皆兵の實が擧つてゐる。

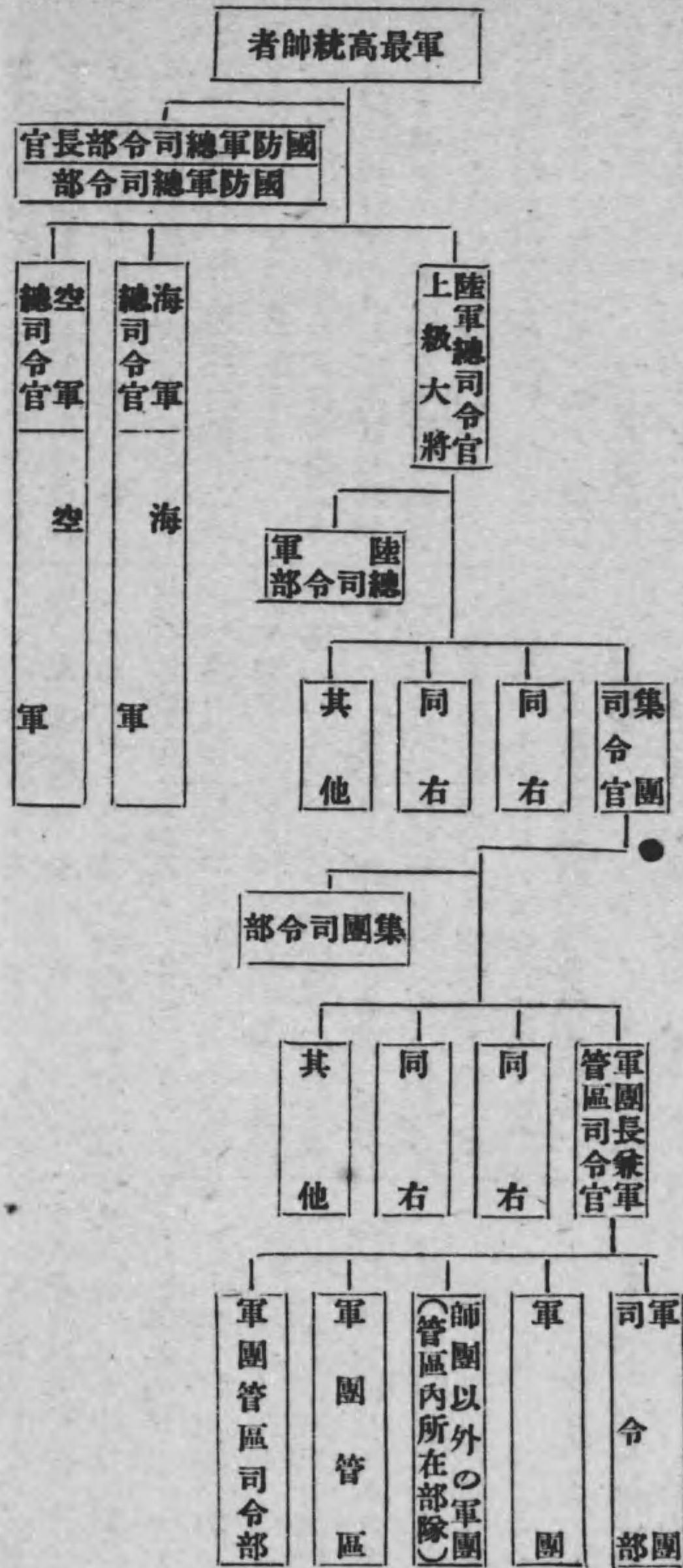
ロ、國防軍の使命

國防軍は獨逸國民「武器の擔當者」として外戦に當るものであることを明らかにし、且國防軍が獨逸國民の軍人的訓練の道場であることを示す。

註 他面に於て、黨が軍の任務に觸れることを戒肅し、兩者各明示された夫々の任務に邁進し、相犯すことのない様にする周到な用意が窺はれる。軍人の政治參與を禁じ、黨員と雖も眼

役又は召集間其の黨員であることとの屬性を停止することを國防法中に規定されてゐる。
註 一九三九年六月郷軍大會に於ての「ヒットラー」の演説にも窺はれる通り、「軍人的國民」鍊成の要を頻りに説かれてゐる。

國防軍平時組成概見表



「統後の備」以上の「國民總て戦士」であるとの思想を以て指導されてゐる。
ハ、國防軍の組成
陸、海、空の三軍から成り總統兼首相である「ヒットラー」は又最高統帥者として親しく三軍を統帥してゐる。(國防軍平時組成概見表)

參照)
ニ、國防軍總司令部
三軍統率の爲の「ヒットラー」の軍事的幕僚部として國防軍總司令部がある。同長官は國防軍全般に關する軍政軍令の萬般に亘つて依命執行する權能がある。同長官は國防大臣である地位を與へられ、

關議其の他に於て他の各相及各長官に對し軍を代表してゐる。但空軍大臣の職域に觸れることはない。國防軍司令部は「ヒットラー」の指示に基き國防全般の統一ある準備を完する責がある。
註 一九三八年二月の改革以來國防省は廢止されて内閣に國防大臣なく、軍は行政組織の外に不覇獨立してゐる。
*、戰時國防軍の特殊地位
戰時若くは非常事態に際し、國防軍總司令部長官は兵役義務適用の範圍を必要に應じて擴大しうるばかりでなく、動員に際し、總ての兵役義務者の充用を決定し、之に指示を與へる權限がある。
戰時國防軍の要求は總てに優先してゐる。

第三節 兵力及編成

一、陸軍兵力
イ、平時兵力(一九三八年一月公表)

軍集團司令部 六
軍團司令部 一八
步兵師團 四二(内三は山)
自動車化輕師團 四
機甲師團 五
騎兵旅團 一
別に西部築城地帯守備兵團がある。
ロ、一九三八年十月「ズデーテン」問題解決の際に、九十八師團を動員したことは既に公表せられたところであるが、對波蘭作戰の際に動員した兵力は西部國境守備の兵力及總豫備兵力を合して約百二十箇師團であつたと判斷せられる。
ニ、空軍兵力
空軍は先年「チエッコ」併合以後、其の組織を改め、爆撃機を主力とする空軍攻撃兵力を以て四航空艦隊に編成し、此等の航空艦隊司令部は平時に於ては防勢兵力たる防空用驅逐機及高射砲通信等の部隊並陸海軍協同の爲の航空部隊をも統轄訓練して居るが、戰時には此等の部隊は攻撃兵力と分離して

夫々の指揮系統に入る様に編制した。各航空艦隊は二個以上の飛行師團より成り、左の如く配置されてゐる。
第一航空艦隊(東部)伯林
第二同 (西部)ブラウンシュ
第三同 (南部)ミュンヘン
第四同 (オスト)ウキーン
尙外に
ケーニヒスベルヒ獨立航空兵團 (東普)
キール獨立航空兵團(沿岸)
教育飛行師團(伯林)
而して陸軍の軍團管區司令部に準じ全國二十空軍管區司令部を置く。空軍の現有兵力に關しては確實な數字を擧げることには大ツケ敷いが、前述攻撃の兵力のみでも約六千機に達し、總機數に於ても英佛を合したものを遙かに凌駕してゐることは明かである。

第四節 民間航空

一、民間航空

民間航空は航空省の航空局に統制せられ地方に十四の航空事務局を設置して其の管理に任せしめて居る。

一九三七年四月「ナチス飛行團」(「エヌ、エス、エフ、カー」)が設立された。

これは「ナチス」獨逸の他の諸團體と歩調を併せる爲従来の獨逸「スポーツ」飛行協會並其の全所屬機關、團體等を統合して出来たもので獨逸民間航空の指導發達を任務とし空軍在郷軍人操縦、偵察、氣球操縦、「グライダー」飛行の教育を受けた者。「ヒットラーユーゲント」航空部に屬し十八歳を越した者、從來獨逸航空「スポーツ」聯盟の飛行及「グライダー」部に所屬せる者を以て國家的に組織し空軍に關する入營前の軍事教育及在郷軍人教育をも擔當してゐる。全國を十五の管區(「グルッペン」)に區分し「スポーツ」飛行學校六校、「グライダー」飛行學校七校及飛行機模型工作「グライダー」製作に關する學校等を備へて空軍第二線の養成に邁進しつゝある。

航空技術進歩發達の爲には航空省技術局の指導監督下に獨逸航空技術研究所「ゲツチンゲン」航空力学研究所其の他十餘箇所の研究所「リリエンタール」航空研究協會、獨逸航空科學院等が眞摯な研究に著々實績を挙げつゝある。

獨逸航空工業は周知の如く「ハインケル」、「ユンケルス」、「ドルニエ」、「フオツケ」、「ウルフ」、「バイエルン」、「ヒルト」、「ダイムラー」、「ベンツ」等の飛行機及發動機會社によつて世界に著聞し參加會社百餘社を擁する獨逸航空工業聯盟等の手を経て器材及技術の外國進出が年と共に隆盛の度を加へて居る。

二、航空輸送と其の國外發展

獨逸航空輸送は一九一九年開始せられたが一九二六年に至り獨逸「ルフトハンザ」株式會社を創立し商業航空を此の一社に統一し政府の指導補助と相俟ち著々實績を挙げ其の航空路は遠く國外に伸展して居る。

同社は尙支那の歐亞航空公司「フラデル」の「コンドル」、シンヂケート」航空會社、「ツエツペリン」飛行船會社等と密接な關係にある。

「ルフトハンザ」の主要線は歐洲線を除けば南米線、北米線及極東線の三線で南米線に於ては一九三四年以來定期郵便飛行を實施し一九三七年度の大西洋横斷回數百四回(前年八十八回、最初よりの合計三百五十回)で人員千五百名、手荷物三十二萬三千疋、貨物十二萬二千疋を輸送した。北米線では定期郵便飛行を計畫し一九三六年度に入回、一九三七年度に十六回の横斷飛行に成功したが目下試験期間中である。極東線は「シリヤ」、「イラク」、「アフガニスタン」、「ペミール」高原經由の線を豫定し一九三七年概ね其の試験飛行に成功したが沿線諸國の許可關係からして目下は伯林「バグダット」間の郵便飛行(一九三七年十月開始)だけ實施され未だ全線の開通を見て居ない。「ルフト、ハンザ」の一九三七年に於

ける輸送成績を見るに飛行距離約千六百九十萬軒、旅客約二十七萬七千(前年二十三萬)、貨物約三十九萬五千疋、手荷物七百噸、郵便三百三十五萬疋である。

ツエツペリン飛行船ヒンデンブルグ號が一九三七年五月南大西洋横斷十四回北大西洋横斷二十一回の後「レークハースト」に於て爆發後中止されて居るが當時建造中であつた姉妹船「ツエツペリン」第三百三十號も既に候成して居る。中止にいたる迄に「ヒ」號の前に出來た「ツエツペリン」伯號は實に百三十四回の南大西洋横斷、七回の北大西洋横斷、一回の太平洋横斷無事故の輝しい記録を残して居る。

三、防空

獨逸は再軍備以前より「ベルサイユ」條約は防空を制限禁止しあらずとて防空設備に非常な力を注いで來たが積極的防空機關として多數の高射砲聯隊を有する外民間防空としては獨逸防空團があつて十五の支部を有し整然たる組

織を確立し防空學校、婦人防空學校等を設立して防空教育をなし又屢々且各所に防空演習、防空講習會を催し防空思想と施設の徹底とを圖つて居る。

第五節 化學戰準備施設

獨逸は一九一九年一月以來「ヴェルサイユ」條約に依り、毒瓦斯の研究、製造を禁止せられ、世界大戦中の諸施設は破壊されしも、平時化學工業特に染料工業の發達著しきものあるを以て、有事の場合多量の毒瓦斯を製造すること容易である。且現在に於ても秘密裡に研究を繼續しあることは明にして、殊に防護法に就いては工場衛生に關聯し「アウエル」、「ドレーガー」等世界著名の防毒面會社を有し、軍隊、消防隊は勿論、市民に對しても其の訓練を怠らず、將校以下全員に防毒面を供給しある外、職用貯藏品を整備し、尙馬四、犬鳩に至る迄防毒具を備へて居る。近時各所に瓦斯防護學校の設立を見、又政府は化學戰を準備する技術

化學會維持に莫大なる經費を支出して居るやうである。

第六節 國家總動員施設

獨逸に於ける國家總動員施設は其の國家組織が既に之に好適なる形態を有つてゐるので恐らく世界に類例を見ざる迄に發達して居ると言ひ得るであらう。

國民の何人も何れかの黨組織の中に含まるゝが故に其の特性技能等の調査登録等は徹底して行はれあり、人的資源の統制運用は極度に發達してゐるし第二次四箇年計畫長官たる「ゲーリング」は其の目的達成の爲の全權を「ヒトラー」より委任されて行政各省及黨各機關に對する命令權を有し一九三七年以來全機能を擧げて獨逸民族生存の爲自給自足、資源整備に眞摯なる努力を續けて居る、此等の組織施設は此の小文に於て能く盡し得る所ではないが獨逸合邦以來數次の實際訓練を経て其の能力は著しく向上されてゐる。

伊 國

第一節 概説

一、國防上の立場と環境

現在の歐洲形勢に處する軍備の特種的擴張は別として、最近の伊太利膨脹國策の根幹は羅馬、伯林樞軸を強化して、地中海に於ては英國に代つて其の覇權を握り、中央「バルカン」及近東に於ては政治的經濟的地歩を確立して其の勢力伸張を策し、又毎年七十萬以上にも及ぶ人口増加對策として植民地擴大を希望し、現狀を打破し積極的經濟政策を遂行しやうとするにあつた。

初め獨國に「ナチス」勃興し中歐に對して其の銳鋒をあらはすに至るや、必然的に伊國の政策と正面衝突を惹起した、時恰も佛外相「バルター」及之に代りし佛首相「ラザアルノ」植民地提供と交換條件に獨國包圍陣參加の勸誘があつて、伊國は之を棄つべき機會

と考へて欣然應諾した（一九三五年一月羅馬協定）。斯くて獨國再軍備（一九三五年五月）後の善後處置たる「ストレーザ」會議頃までは本關係は堅持せられて居たが、伊國の膨脹發展策が武力に迄進み、伊「エ」紛争勃發するや急に形勢は變化を來した。即ち本紛争に初期伊國に同情を表して居た佛國が伊國の對立者たる英國側に轉向したので、伊國は從來の行き懸りを捨て斷然獨國と共同態勢をとるに至つた。

然るに伊「エ」紛争一應結末を見、「エ」國合併を既定の事實として認めらるゝや伊國の外交は漸次平和主義に傾き、先づ英國と事を醸さざる如く周到なる注意を拂ふ様になつたが、元來對英地中海爭覇は現實の問題なると、又「ム」首相生來の野望との爲、伊國は軍備充實に汲たると共に、萬一の場合英國が地中海を封鎖せんことを顧慮し、「バルカン」近東諸國との親善關係促進に努力したのである。

第二節 軍制

一、兵役制度

伊國の兵役制度は國民皆兵義務の平等を原則として徵兵制度を施行して居る。其の新徵兵令は一九二三年の改正に係り、在營年限を一年半と規定されて居るが、此の在營年限決定の経緯には國防上の要求と社會政策上の主張と相錯綜し、可成り興味ある経過を示して居る。

在營年限變更の経緯、大戰前各兵種共二年在營制を採用して戰役を経過し休戦後一九一九年十一月一度在營制を採用したるも、遂に實施するに至らずして止んだ。次で一九二〇年四月社會黨出身「ボノミ」が陸相に就任するや、國家財政の狀態と大戰の教訓とに鑑み最少の經費を以て最大の戰時兵員を得んがため、在營八箇月制を定めて壯丁全部の入營を企圖し、下士學校の新設入營前軍事豫備教育の普及工卒雜役勤務の免除等の施設と相俟つて武装國民

の實現を圖つた。然れども軍隊の實際的勤務、平時警備に對する處置及軍事豫備教育普及の困難等、實行困難の事由續發し、其の都度勅令を以て數箇月の在營延期を行ひ、辛ふじて軍備の缺陷を糊塗して經過し、終に翌一九二一年再び一年制に復したが、教育の困難と戰鬥力の不十分は依然たるものあり、其の結果十四箇月制とするに至つた。

次で一九二二年秋「ムツソリーニ」内閣の成立と共に、依然全壯丁の入營を主義とし、新に軍隊教育上の顧慮並戰鬥力の保持上、一年六箇月制を定め新徵兵令の發布を見るに至つたのである。

其の後一九二七年八月徵兵令の一部に改正を加へ、家族の狀況に依る特殊の者に對し在營期間を短縮する恩典を與へた。然れ共此の恩典は一九三一年一月より實施せられたる軍事豫備教育の義務制度に依り、該教育を受けざる者には之に制限を加ふるの制とした。

二、兵役年限

現 役 十八箇月

全兵役 合計三十四年

三、軍の構成

伊國陸軍は本國軍、植民地軍より成り、其の他に武裝的團體として其の性質上殆ど陸軍軍隊と見るべきものに、護國義勇軍、税關兵團及警察隊がある殊に護國義勇軍は陸軍には屬せぬが國軍の一部と認められて居る。

即ち護國義勇軍は當初は「ムツソリーニ」内閣の黨勢擁護、治安維持の爲に創設せられたる謂はゞ「ムツソリーニ」の政治的私兵であつたが、一九二三年一月勅令を以て其の合理的存在を與へられ、次いで漸次其の任務を擴張せられ、一九二四年國軍の一部を形成することになり、其の經費も亦正規軍同様國庫の負擔する所となつた。

今や治安の維持、國土防空及軍事豫備教育並青少年訓練に任ずるの外、作戰軍にも直接参加し、經濟的軍備の見地よりして大なる役割を演じて居る。

部隊は滿二十一歳以上の黨員たる志願者より採用し、將校下士兵に區分し、軍隊組織と爲し、常時は高等司令部、聯隊本部の幹部のみを常置し、治安維持の爲出動の必要ある場合に大隊長以下を召集し、之に武器被服を貸與して勤務に服せしめ、又教育、觀兵其の他の儀式の場合に於ても同様に召集して居る。而して義勇軍が戰時に於て幾何の能力を示すかは疑問とせられて居るが、對「エチオピア」戰に於ける黒襪衣師團の成果は、其の人員の大なるに相俟ち、決して之が存在を無視する事は出来なかつた。今や内政の確立と共に、正規軍、黒襪衣軍を打つて一九となし、益々純軍事的に指向せらるるに於て愈々然りである。

尙「ムツソリーニ」首相が陸、海、空の各大臣をも兼務するに至れるは、彼が將來國防省建設に一步を進むるの前提なりやとも見られ、彼がファシスト國家完成の爲、本國軍隊と護國義勇軍並「ファシスト」黨を益々緊密に融

合せんとする方針に出ずるものと観測せらる。

第三節 兵力及編制

(空軍は第四節航空に)

最近列國の軍備擴張及自國國運の發展に伴ひ、逐次軍備の充實に努力しつゝあつたが、一九三八年九月五日緊急勅令を以て、更に左の如く陸軍の編成を公布した。

軍	團	一七
步兵師團	團	五一
自動車化師團	團	二
騎甲師團	團	二
快速師團	團	三
「アルプス」師團	團	五
「ザーラ」兵團	團	一
「エルバ」兵團	團	一

以上の外、國境守備は自轉車步兵聯隊、師團編成外の騎兵聯隊等、其の總兵力合計十二師に相當する部隊を有す之に依れば師團數に於ては從來の約二倍の擴張を見たのである。而して此の

編成は未だ完成せられあらざるも、現情況下に於て之が急速完成に努力しつゝあるは想像に難からず。

植民地軍

伊國人は將校以下現役及豫後役の志願者より採用派遣し、土人は志願者を募集する。

「リビヤ」 伊國人及土人

約四〇、〇〇〇

「ユリトリア」 同右 約四、〇〇〇

「ソマリヤ」 同右 約四、〇〇〇

其の他 約二、〇〇〇

計 約五〇、〇〇〇

尙ほ伊國政府は「エチオピア」征服後肅正工作の進捗に伴ひ、最近植民地軍の編成を決定した。同軍は將校三、五〇〇兵六〇、〇〇〇より成る大部隊で、内土民軍を十七旅團に分け、他に機械化、機關銃隊、騎兵等の特科隊を置く方針と傳へられる。

三、武裝團體としての陸軍的色彩を帯びるもの

約四三〇、〇〇〇

(此の内三十八萬は常勤せず、必要に際し何時なりとも召集に應ず)
税關兵團 約二六、〇〇〇
警察隊 約一五、〇〇〇

第四節 航空

一、要旨

現首相「ムッソリーニ」は在野當初より伊國航空界の不振を慨しつゝあつたが、一度政權を得るに及び、一九二三年航空高等委員會を設け、陸、海軍及植民地航空を統轄するの制度を立て自ら其の長となり、次で一九二五年空軍省を設置して空軍を獨立せしめた。

二、空軍兵力

伊國空軍は一九三〇年六月末迄に、平時飛行中隊一八二(約二、八〇〇機)氣球中隊は飛行船中隊九を整備すべき計畫にて、著々之を實行したが、豫算の關係上計畫を完成するに至らざりしも、獨空軍の擴張に刺戟せられて空軍充實を圖るに決し、一九三四年度より十二億利の豫算を以て空軍整備六箇年

計畫を樹立したるも三箇年に之を實現し、伊「エ」戦争初期には師團司令部三箇襲撃團司令部一箇を創設し、更に一九三八年末新に軍團を編成し、同種戰團機又は爆撃機二箇以上の師團或は旅團並に一管區司令部を之に屬するの主義を執れり。即ち從來の管區司令部を師、旅團と並べて軍團を隷下に入れ、之をして地上勤務萬般を整備せしむると共に、師、旅團は専ら明日の戰鬥に備ふる空中訓練に専念せしめ、以て空地兩勤務の調整統一と作戰用兵の輕快迅速を計り、空軍活躍の能率増進を期しつゝある。

空軍師團、旅團は夫々同機種之二箇又は三箇聯隊以上を以て編成する空軍大部隊とす。一九三八年初め完成の分

爆撃	八〇中隊
驅逐襲撃	六〇中隊
陸軍協同	二五中隊
海軍同	二〇中隊

在「アフリカ」

計 三五中隊 二二〇中隊

ロ、飛行機

第一線 一、七二〇機

内譯

爆撃機	六〇〇
驅逐機	四五〇
襲撃機	一三〇
陸軍協同	二三〇
海軍同	二一〇
艦載機	一〇〇
豫備機	七八〇

豫備機

尙一九三六年の計畫に依れば、一九四一年迄に三〇〇中隊、第一線機三、〇〇〇機となし居るも、前述の如く急迫せる現時局に於て之が完成を急ぎ居るは勿論、尙多量の飛行機を整備せんとしてつある次第である。

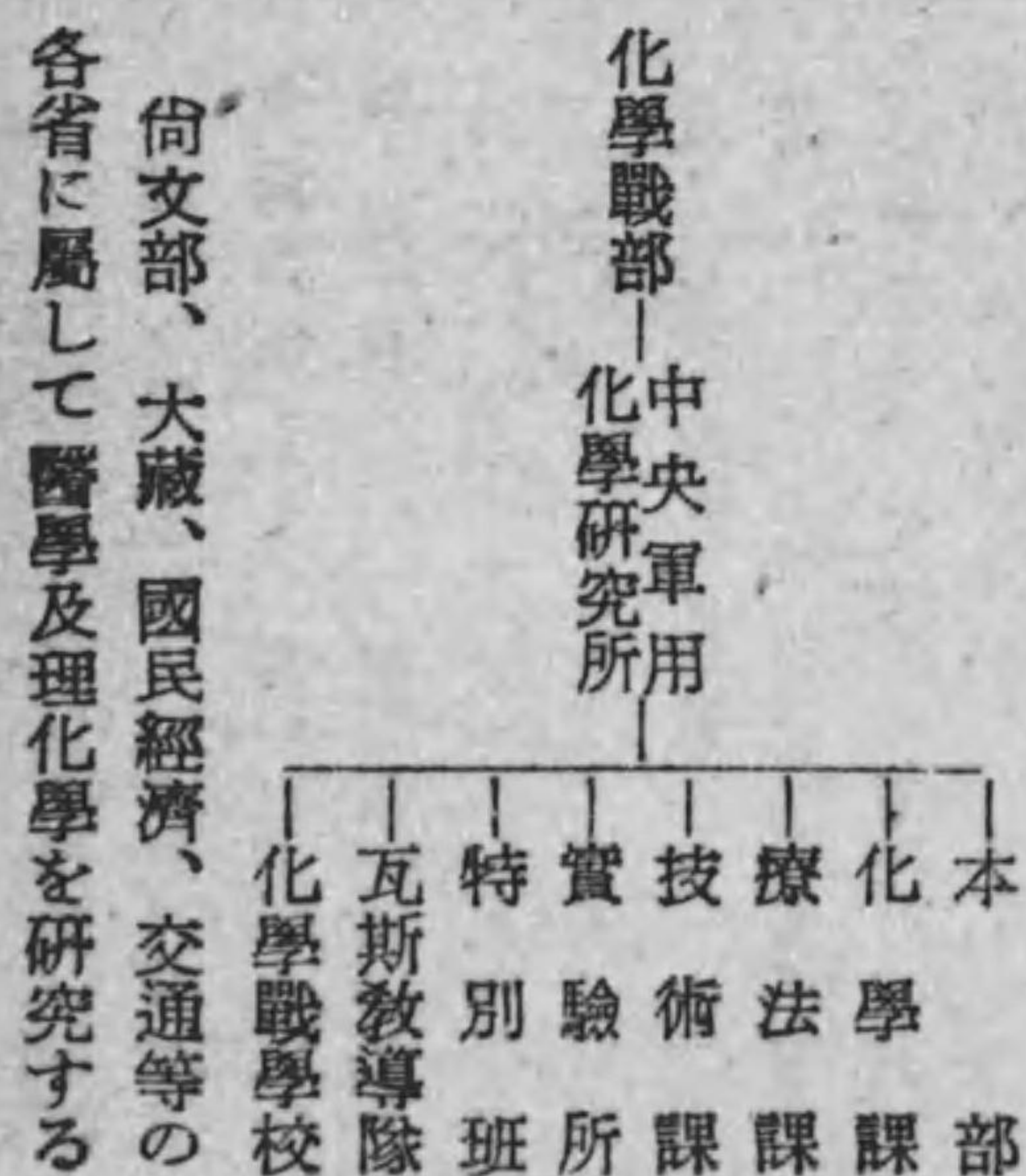
三、民間航空

伊國に於ける民間航空は他の歐洲列強に比し從來遅々として振はなかつたが、今や當事者の異常なる努力に依り

其の面目を一新諸列強に比肩しつゝある。

第五節 化學戰準備施設

伊國に於ては、將來殘されたる唯一の戦法は毒瓦斯に在りとの議論熾烈にして、熱心に研究を行つて居る。其の施設は陸軍大臣に隸する化學戰部ありて、陸、海、空軍の化學戰勤務を統一し、中央軍用化學研究所に於て化學戰攻防に關する事項の研究を行ひ、且教育機關として化學戰學校及瓦斯教導隊を同研究所に附屬して居る。之を表示すれば左の如くである。



諸機關は、軍部の研究、實驗に協力すべきものとして居る。

第六節 國家總動員施設

一、施設

戰爭に必要な機關の編制準備並國家諸機關の協力上緊要なる諸問題を審議する爲、國防最高會議を設け、總理大臣を議長とし、外務・内務・大藏・陸軍・海軍・植民・國民經濟の各省大臣及航空高等委員を議員とするのみならず、軍事參議官會議々長・海軍將官會議々長・空軍總司令官・空軍經理總監も亦此の會議に列席して發言し得るの制として居る。

○伊太利の軍隊

(譯文)

一、陸軍の編制

現在、陸軍は五箇の本國軍(十六の軍團管區に配置されて居る)より成る。各軍團管區は二箇師團若しくは其以上を含む。その他、島嶼や要塞には獨立の司令官が居り、之に全兵科を包含す

る部隊が從屬して居る。例へばエルバ島、ザラ市及エーゲ海の諸島は然りである。

各軍團は方面軍一箇を有し、後者は師團に分割され夫々少將の隷下に置かれる。軍團は又義勇軍をも含むらしい。國境防禦聯隊支隊(歩兵聯隊一、砲兵聯隊七)は國境地方の軍團に配屬されて居る。其の兵數及編制は秘密にされて居る。

本國軍の輕師團、自動車化師團、裝甲師團は輕軍團、自動車化軍團、裝甲軍團を構成する。山嶽部隊に關してはアルプス軍團と稱する部隊が存在する。北アフリカに於ける編制も大體同様である。アフリカ部隊(白人諸師團と有色諸師團が集まつて軍團(複)を構成する)は長距離の行軍に適當な裝備を有する。而して殆ど自動車化されて居る。

東アフリカ(伊領東アフリカ)には白人師團一箇以上植民地旅團一六箇及若干の特殊部隊が存在する。

(一) 大單位は先づ二箇聯隊編制の師團である。但し一九三八年以前は歩兵聯隊三箇を含んで居た。一九二六年に效力を發生した舊編制は一九一五乃至一八年の經驗から生れたもので且革命の影響を受けて居た。

此の師團は現在、兵數一〇、六〇〇馬一、二〇〇頭、發動機附車輛四〇〇臺より成つて居る。師團の編制は次の如くである。

- 師團長—本部、軍憲兵小隊三、自動車化車輛隊一、野戰郵便群一
- 三箇大隊編制の歩兵聯隊二
- 義勇軍一(黑シャツ黨)—二箇大隊編制
- 擲彈筒大隊一—三箇中隊編制
- 對戰車砲中隊一
- 師團砲兵聯隊—三箇大隊及高射砲中隊一箇より成り總計砲四四門
- 工兵中隊一—四箇小隊及器材運搬車輛四臺
- 通信中隊(自動車化)—一電信、信號機及無線電信小隊(複)を有す

衛生 隊—擔架小隊一、看護小隊一より成る。

後方諸部隊

- 步兵師團の裝備兵器は次の如くである。
- 輕機關銃 二八八
- 重機關銃 五四
- 四五耗加農 一七一
- 八一耗加農 二四
- 四七耗步兵砲 二四
- 二〇耗高射砲 八
- 七五耗加農 一二
- 七五耗榴彈砲 一二
- 一〇〇耗榴彈砲 一二

(註)

- 步兵聯隊の編制は次の如くである。
 - 聯隊本部 一
 - 指揮中隊 一
 - 自動車隊 一
 - 小銃大隊 三(約九〇〇名)
 - 馬 七〇頭
- 大隊の編制は次の如くである。
指揮中隊(指揮小隊、通信小隊、

斥候分隊三箇より成る搜索小隊)

- 小銃中隊三—各中隊は指揮小隊、兵一八名、輕機關銃二の分隊二箇より成る小隊三を以て構成される
- 小隊は輕機關銃四、中隊は一二を有す
- 隨伴中隊一(第十三中隊)—輕機關銃八を有する二箇小隊と四五耗加農一八門を有する二箇小隊を含む
- 豫備大隊一は歩兵大隊と同一の編制より成り、戰時に於ては軍團司令官に屬す
- 加農中隊一—八一耗加農二を有す
- 小隊三、計六門
- 歩兵砲(加農)中隊一—四五耗加農二門を有する小隊四

(註)大行李は自動車化車輛より成る。大隊は最早晩馬車輛を有しない。唯衛生材料及手榴彈のみは兵器並に重兵器中隊の彈藥の

一部と共に晩馬車輛に依つて輸送される(中隊毎に馬二頭)

- 故に聯隊の裝備は次の如くである。
 - 輕機關銃 一〇八
 - 重機關銃 二四
 - 四五耗加農 五四
 - 八一耗加農 六
 - 四七耗步兵砲 八
- 步兵師團の他に全自動車化師團、部分的自動車化師團が存在する。
- (二) 自動車輸送師團は完全に自動車化された砲兵及兵團を有する。歩兵は其の駄馬と共に自動車化車輛に搭載される。後者(自動車)は軍團から配給される。現在、北伊太利には此の種の師團が二箇ある。北アフリカに駐屯する師團も同種のものである。

(三) 自動車化師團の編制は一般に次の如くである。
大隊四(二箇聯隊を構成するもの如し)
機關銃大隊一(自動車搭載中隊四)

- 自動自轉車大隊二
- 自動車化砲兵聯隊一
- 高射砲中隊二
- 自動車化工兵大隊一
- 自動車搭載火焰放射機中隊一
- 自動貨車隊一(二乃至四縦列より成る)

- (四) 輕師團(快速師團)の編制は次の如くである。
- 騎兵聯隊二(重機關銃八の騎兵中隊二より成る)
- 自轉車聯隊(狙撃兵聯隊)一
- 自轉車大隊三
- 自動自轉車大隊一
- 自動車搭載機關銃中隊一
- 輕戰車大隊一
- 自動車化歩兵砲中隊一
- 輕砲兵聯隊一(七五耗榴彈砲大隊)
- 三(鞍馬大隊一、自動車化大隊二)並に二〇耗高射砲中隊一
- 自動車化工兵中隊一
- (五) 裝甲師團の編制に關する研究は一九四〇年春まで續行された。推定

- に依れば次の如くである。
- 狙撃兵聯隊一—三箇大隊(自轉車大隊一、自動車化大隊一、自動自轉車大隊一)より成る
- 戰車聯隊一—三箇大隊編制にして二大隊—突破戰車小隊三より成る一大隊—突撃戰車大隊にして各小隊は戰車四臺を有す
- 各中隊は砲戰車小隊一と火焰放射戰車小隊一を有す。
- 自動車化砲兵聯隊一—七・五種或は一〇種の三箇大隊より成る
- 二〇耗高射砲(恐らくは其以上の口径のものあらん)
- 中隊二乃至三
- 自動車化歩兵砲中隊二—各中隊は四七耗加農入門を有す
- 化學戰中隊一
- (六) 伊軍獨特の山嶽師團の編制は次の如くである。
- 山嶽歩兵聯隊(アルプス聯隊)二又は三—各聯隊はアルプス大隊三又は四箇より成る

- 各大隊は三又は四箇中隊より成り八一耗加農六門の小隊一を有す
- 各中隊は重機關銃二の小隊一四五耗加農三門の小隊一、各輕機關銃一の三箇分隊から成る戰闘小隊三より成る
- 山嶽砲兵聯隊一—師團が有する山嶽歩兵聯隊と同數の大隊より成る。大隊は山嶽歩兵聯隊が有するアルプス大隊と同數の中隊より成る。各大隊には彈藥隊一、糧秣輸送隊一がある
- 化學戰中隊一—三箇小隊編制
- 山嶽工兵中隊一—工兵小隊、電信隊及無線電信隊を有す
- 山嶽衛生中隊一—休養室、擔架小隊(兵六〇名)、駄馬隊を有す
- 野戰檢疫所四(又はそれ以上)—山嶽聯隊一箇毎に一
- 山嶽糧秣大隊一
- 山嶽輜重大隊一—二或は三箇中隊編制(山嶽聯隊一箇毎に一箇中

- 隊) 每中隊は駄馬三〇〇頭を有し三箇小隊に各一〇〇頭づつ配される。その他に中隊自身の必要とする馬若干頭あり
- 山嶽自動車大隊—各二・五種自動車各二四輛より成る輕縱列四乃至五
- 實效積載量八〇〇噸自動車二四輛の縱列一
- 混成縱列一—給水自動車一二輛、衛生輸送車一二輛、肉類冷藏車四輛より成る
- 山嶽師團と呼ばれる若干の歩兵師團の編制は大體以上の如くである。尙其の他に多數の駄馬を有して居る。陸軍は現在

- 各師團は番號と名稱を有する。本記事の冒頭に述べた如く此の番號と名稱は夫々歴史的傳統を持つて居る。諸歩兵聯隊は一聯番號を有し、砲兵聯隊は往々にして師團番號を有する(新設師團)。
- 空軍は一九三七年の法律に據つて次の如く區分されて居る。
- 空 中 部 隊
- 航空工兵部隊
- 空 軍 省
- 航空衛生勤務
- 空軍諸學校
- 空 中 部 隊
- 空 軍 省
- 航空衛生勤務
- 空軍諸學校
- 空 中 部 隊は次の如く分たれる。
- 各兵科空 中 部 隊
- 後者の内では先づ、軍團空中觀測大隊、海岸海軍航空兵管區(四)の飛行隊が見出される。
- 空軍は絶えず飛行兵團四箇を含む。各兵團は飛行師團二、飛行旅團(複)戰略的運用大隊(複)より成る。
- 飛行師團は一般に三箇聯隊若くは其

- 以上を含む。旅團は二箇聯隊を有する聯隊は同種の大隊二乃至三箇より成り大隊は中隊二乃至三箇より成る。中隊は爆撃機聯隊にありては七機、戰闘機隊にありては八機、追撃機隊にありては一二機より成る。
- 今日では落下傘大隊が喧ましく論ぜられて居るが、既に北アフリカでは之が存在して居る。伊太利本國でも最近に誕生した。但し其の編制は未詳である。
- 地上編制は飛行軍團に相當して四地域に分たれて居る其の上、シシリー、サルデーニユ、エーゲ海諸島は獨立管區を成し固有の兵力を有して居る。
- 飛行地帯は有ゆる設備(飛行場、工廠、倉庫等)並に固定對空防禦設備を有する。
- 後者(對空防禦)は主として義勇軍の特殊編隊に依つて管理されて居る。
- 海軍は防禦の三管區に相當する海軍管區三から成る。
- 伊太利は運動戰の爲に二艦隊を有し

て居る。艦隊を構成する艦の種類に關しては最近次の数字が發表された。

戰艦	五
巡洋艦	二二
驅逐艦	六〇
水雷艇	三二以上
潜水艦	一一七
小機艇(小水雷艇)(MAS)	四〇

伊軍には以上の外に各諸省に屬する特殊部隊が含まれて居る。それは次の如くである。

(1) 職業的軍隊

憲兵(C.C.R.R.)は其の數約五二、〇〇〇で、常設師團三箇及若干の植民地部隊("Legion"一聯隊を成す)を構成する。此の軍隊の一部は兵營に駐屯し、少數の管區に分られた全領土に配置されて居る。

國境警備兵は約二六、〇〇〇であつて、聯隊及中隊を構成する。伊太利に赴く人は皆、彼等の黄色の襟章と軍服に依つて彼等を認めることが出来る。

(2) 義勇軍

黒シャツはファシスト黨の表示である。彼等は現在、其の義勇軍編隊に依つて正規軍の補助及豫備を構成して居る。彼等の常設部隊は首相護衛隊であつて、其の外に輸送及森林事業の監視を司る。即ち

港灣義勇兵	九一八名
鐵道義勇兵	二九、五二五
郵便、電信義勇兵	一、〇一九
道路義勇兵	一、〇三一
森林義勇兵	四、二一六
首相親衛兵(豫備役將校を充つ)	二〇一

非常設部隊(少數の現役將校の指揮する)は黒シャツ義勇軍であつて、其の兵力は約五四八、〇〇〇である。特殊義勇軍は次の如くである。

(1) 義勇軍大學—學生の中から選ばれた豫備役將校の爲の軍事教育機關である。各學生は軍事教育を受けるやうに命ぜられて居る。義勇軍大學は九箇の Legion 獨立せる一二箇の Cohorte 及三箇の Centurie (本來は

古代ローマの百人隊)を含む。

(2) 防空義勇軍

(3) 海岸砲兵義勇軍

此の二つは領土防禦の爲の特殊部隊である。原則として前者は高射砲、後者は海岸砲を擔當する。併し此等の部隊は若干の移動性部隊をも有して居る。防空義勇軍は五箇のグループ或は二二箇のレギオンを構成し、別に八箇の獨立コホルテがある。防空義勇軍の本部はローマに在り、特別實施學校はアンチオに在る。海岸砲兵義勇軍は八箇のレギオンより成り主要港灣に配置されて居る。

(4) 國境義勇軍—は二、四〇二名を數へる。此等の兵士は國境地方の住民より山嶽に適する者を選抜して作られたものである。トリノ、コーム、ボルゾノ、トリエストに本部があり、合せて四箇のレギオンがある。必要に應じて是等のレギオンは國境地方へ支隊を派遣する。

(5) ボンザ大隊はナポリ灣に在る同

島の領土防禦に當る。其の兵員は約三五〇である。

概説 滿洲國軍

滿洲國軍の統帥權は組織法第十二條に「皇帝は陸海空軍を統率す」と明かにされてゐる。そして統帥權の委任を受ける者は治安部大臣で、元首に對しては幕僚長であると同時に軍に對しては總司令官であつて參謀司、軍政司は幕僚群である。國軍は陸軍及江上軍を以て之を直轄軍としてゐる。直轄軍は主として國防の任に當ると共に、これまで必要に應じて、國內の治安肅正に協力し來たが、日本軍隊の援助によつて國內の治安はもとより國防の備へも

日を遂うて充實を見せてゐる。しかも康徳四年十一月三十日には日本帝國關東軍司令官兼任特命全權大使と滿洲國國務總理大臣との間に「滿洲國內に駐屯する日本國軍の軍事關係法規適用等に關する件」に關して公文を交換し、同年十二月一日に勅令を以て右に關する法令を公布、即日實施するに至つたので、日滿の共同防衛は一層の全きを示すに到つた。

治安部は康徳四年七月一日の政治行政機構改革に伴ひ、これ迄統軍の最高機關であつた軍政部に、民生部の管下にあつた警務司の中の治安警察の事務を統合して斯く改稱されたものである。治安部は官房の外に軍政關係の部門として參謀、軍政の二司と警察行政を擔當してゐる警務司とからなつてゐる。國軍の編成は、中央直轄軍と第一から第十に至る軍管區司令部と江上軍(康徳六年二月江防艦隊を改稱)を以て組織せられ、又別に軍事顧問部が設けられて國軍の指導の任に當つてゐる。

尙ほ討匪遊動軍として武名を馳せた靖安軍、これまでの警察隊、保安隊を改編した治安隊の各部隊がある。

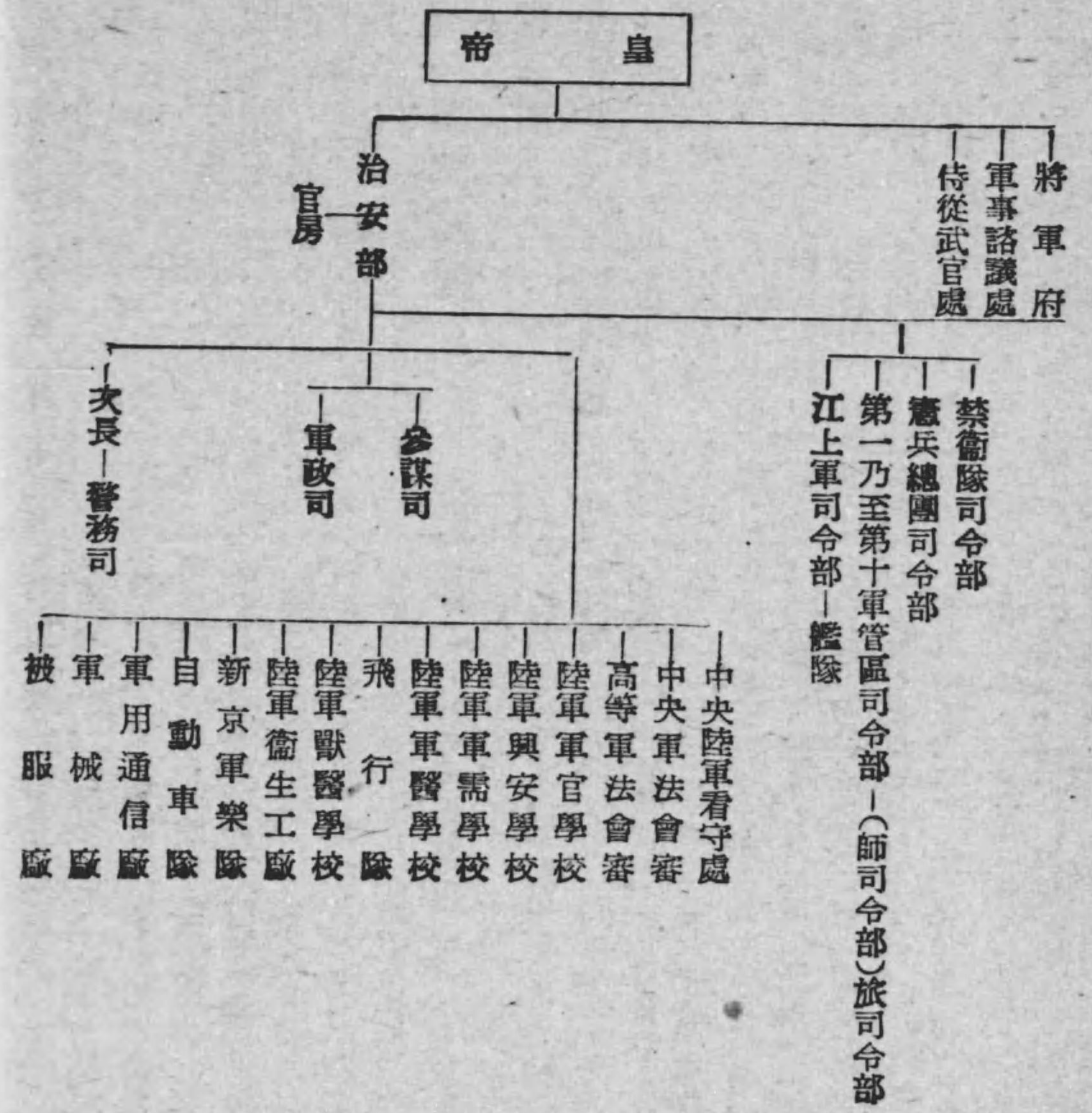
直轄機關には軍用通信廠、軍械廠、軍需廠、陸軍衛生工廠の各本支廠を、軍隊としては禁衛隊、憲兵總團、防空部隊(高射砲隊、飛行隊等)、通信隊、自動車隊、軍樂隊等、學校としては奉天陸軍軍官學校、陸軍興安學校、憲兵訓練處、陸軍軍需學校、陸軍軍醫學校、陸軍獸醫學校等を統轄し、馬政局、測量局(近く設置)、造兵所等を監督する外、各軍管區所在地その他主要地に治安部病院を持つてゐる。これを系統的に示せば別掲の表の通りである。

滿洲國軍の編成

一、滿洲國軍—は日滿議定書に基づき日本軍と協同一體となつて國家の防衛に任ずる滿洲帝國の軍隊である。
二、構成民族—民族協和の滿洲國では軍は在住民族によつて構成する特殊性を有し、日本人は志願制に依る滿軍將校として軍の核心的存在となり、その

部			科 兵									兵 科 部 別	
隊	醫	軍	輜	航	江	工	砲	騎	步	憲	上	將	
務	生	需	重	空	上	兵	兵	兵	兵	兵	中	官	
部	部	部	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	少	將	
			陸軍上將 陸軍中將 陸軍少將									上	將
中陸軍醫	中陸軍司	中陸軍醫	中陸軍需	陸軍輜重	陸軍航空	陸軍江上	陸軍工兵	陸軍砲兵	陸軍騎兵	陸軍步兵	陸軍憲兵	中	將
將少	將少	將少	將少	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	上	校
將上	將上	將上	將上	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	中	校
校中	校中	校中	校中	校中	校中	校中	校中	校中	校中	校中	校中	少	校
少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	上	校
校上	校上	校上	校上	校上	校上	校上	校上	校上	校上	校上	校上	上	尉
尉中	尉中	尉中	尉中	尉中	尉中	尉中	尉中	尉中	尉中	尉中	尉中	中	尉
尉少	尉少	尉少	尉少	尉少	尉少	尉少	尉少	尉少	尉少	尉少	尉少	少	尉
尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉

陸軍(武官官等表(軍官))



清軍隸屬系統表

發展進歩の根幹をなしてゐる。

三、兵種(兵科) 憲、歩、騎、砲、工、航空、江上、輜重、軍需、軍醫、司藥、衛生、獸醫、獸務、技術、軍法、軍樂の兵科部から成り、その官等階級は別掲の表の通り日本軍と略々同様である。

四、編成(配置) 軍隊編成は師(師團)旅(旅團)團(聯隊)營(大隊)連(中隊)排(小隊)班(分隊)から成り、歩騎兵團には軍旗を親授せられ、軍隊士氣の中心である。部隊は歩、騎、機關銃、迫撃砲、野山砲、高射砲、通信、自動車、飛行機部隊を集成、又は混成し、その戦力は國內警備と一部の外戦に堪え得る。憲兵團は満軍獨特のもので憲兵業務のほか精銳な戰鬥部隊として活動することが出来る。その他にも各種の特種又は特設部隊がある。

五、江上軍 江上軍は國境河川の警防に任ずる艦艇部隊である。

六、兵役制度 建軍以來募兵志願制を實施して來たが、國運の隆昌と國民の

技	軍	軍
術	法	樂
部	部	部
陸軍技術	陸軍軍法	陸軍樂
將少	將少	將少
將上	將上	將上
校中	校中	校中
校中	校中	校中
校上	校上	校上
尉中	尉中	尉中
尉少	尉少	尉少
尉	尉	尉

總意は次第に滿軍を認識し來り遂に昭和十六年から必任義務的徵兵制度を實施することに決定し、■兵法（別記其之項参照）公布、滿洲國在住男子の大部は兵役に服することになり、これによつて滿軍が更に兵員素質に格段の精強を加ふるにいたつた。建國後僅か十年で國民皆兵制度を行ひ得ることは滿洲國の驚異的發展を示すものである。

七、教育訓練 從來國內討匪に寧日のみなかつた滿軍は、近年、國內治安の確立に伴ひ討伐第一主義から訓練第一主義に大轉換を行ひ、専ら將校以下の素

質の向上と軍事能力の向上に全力を傾注してゐる。勿論多少遺憾の點が少いとはいへぬが近年に於ける内外各種の軍事要素は滿軍の健全な向上發展を推進せしめるものである。

學校教育は國內軍事學校で教育訓練するだけでなく優秀な幹部將校は日本士官學校、陸軍大學その他實施學校等にどしどし派遣留學させ、専ら優良軍隊の練成に努めてゐる。

八、軍隊給與 從來比較的簡素な給與にあつた滿軍は之に依つて遺憾な事件も發生したが、近代戦力の要素は給與

陸軍武官官等表（准尉官軍士）

兵科別	准尉官	軍	士
	尉		
	上		
	中		
	少		
	士		

に依る培養にあることと、最近滿洲國國富の膨脹は今次の陸軍給與令の公布となり、大改善を加へて滿軍給與を引上げるに至つたので、今後は滿軍將兵は安んじて不借身命、任務に邁進し得ることとなつた。昭和十三年公布の陸軍武官令と今次の陸軍給與令の制定に依り、軍人の身分、待遇が確保され、軍事恩給、褒賞勳位、武功等それ〴〵定められ軍事保護法に依り家族及び遺家族にまで國家の恩恵が徹底することになつてゐる。給與令による武官俸給は別掲の表の通りである。

九、滿軍の戦力 現在の滿軍は精強無比なる日本軍には絶對比較すべきではないが、建軍以來の軍自體の努力向上と日本軍上下の誠心よりする指導援助は舊軍閥的存在であつた滿軍を今日に

部					科																								
軍樂部	軍法部	技術部	獸務部	衛生部	軍需部	輜重兵	航空兵	江上兵	工兵	砲兵	騎兵	歩兵	憲兵	陸軍憲兵	陸軍歩兵	陸軍騎兵	陸軍砲兵	陸軍工兵	陸軍江上兵	陸軍航空兵	陸軍輜重兵	陸軍軍需兵	陸軍衛生兵	陸軍療養兵	陸軍獸務兵	陸軍技術兵	陸軍軍樂兵		
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少
士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士	士

らしめたもので、その戦力に於ては 尙ほ指導向上を必要とする點も少くな

いが、滿軍自體にも各種の良い特性があり、その異常なる忍耐力、行軍力、給養方面に於ける簡易性等美點長所も決して少なくない。今後に於ける日本軍のよりよき指導と、日滿國民統後の後援及び滿軍自體の向上精神はやがて東亞協同體としての滿洲國の持つ國防力として日本軍との共同作戦に充分の戦力を發揮するものと期待し得られるのである。

（別記）國兵法

滿洲國政府では康德六年四月以來、人民總服役制度に關する審議委員會を設置して、實施準備に關する主要事項の調査研究を續ける一方、慎重審議を重ねてゐたが、康德七年二月十五日の最後の審議委員會で國兵制度に關する決定案を得、更に四月十一日には國兵法及び國兵施行令を公布して、同月十五日から之を實施することになつた。人民總服役制度は計畫の當初、人民總奉公の精神を根柢として兵役制度と公

兵役制度の二制度を並行的に実施しよう
と、その研究に着手したのだが、その
結果公役制度は時期尚早といふことにな
つた。それは公役制度實施の前提條
件である公役に服するものの訓練機構
訓練態様、訓練指導者の養成など、各
部門に互つて研究整備すべき點が認め
られたからで、一應兵役制度だけを康
徳八年度から實施することになつた。
國兵法の大綱は次の如くである。

- 一、兵役服務義務者の範圍
- (イ) 滿洲帝國內に住すなはち生
活の本據を有する帝國人民たる男
子は法の定むる處により兵役に服
務する義務を有す
- (ロ) 在滿日本人(朝鮮人を含む)に
つては志願による服役を認む
- (ハ) 六年の徒刑または禁錮以上の
刑に處せられたるもの及び壯丁適
齡をすぎ帝國人民となつたものは
服役せしめず
- 二、壯丁の適齡は滿十九年とする。
(すなはち前年十二月三十一日よりそ

の年の十二月三十日までの間において
年齢十九歳に達する壯丁)

- 三、服役の種類を現役のみとする
- 四、服役期間は三年とし在役期間の
短縮に關しては左の如き特例を設ける
- (イ) 現役三年を要せざる兵種にあ
るもの
- (ロ) 教養あり在隊間の成績優良な
る者に對して一年以内の短縮をす
る、現役三年を要しない兵種とは
例へば看護兵、自動車隊、工務兵
その他軍に於て教育上その年數を
短縮しても差支へない兵科にある
もので、教養あり在隊間の成績優
良なるものは大體中等學校以上
の卒業生で軍隊の成績優秀なるも
のをいふ。これらに對しては出來
る限りその教養を活す方法を講じ
たもので兵役義務者が學校教育を
受けたことによる特權ではない。
- 五、徵集
- (イ) 壯丁適齡に達した時は原則と
して家長が徵兵適齡屆を當該市街

村長またはこれに準ずるものに提
出することを要し壯丁検査は本籍
(生活の本據)所在の徵兵區に於て
行ふが、他の徵兵區に於ても行ひ
得ることとし適齡者の便宜を考慮
してゐる。犯罪者は當然その犯罪
の決定あるまで徵集を延期する。
國民高等學校およびこれと同等以
上の學校に在學中のものは徵集を
延期することが出来る。

- (ロ) 徵集の決定を受けたものとい
へども家族中同時に二人以上現役
兵として入營し家事上支障を生ず
る時は一人の在營期間中この者の
入營を延期することが出来る。
- 六、免除、現役兵に徵集されぬ者及
び在營期間中兵役に耐へぬ疾病その他
身體若くは精神に異状を生じた者は當
然兵役を免除されるが、その他特に本
人がなければ家族の生活困難の者に
も兵役免除の特權が與へられる。
- 七、特典
- (イ) 現役兵に關する交通費の減免

農牧繁期休暇の附與
(ロ) 除隊兵に對する名譽證の交付
就職優先權の附與、公式祝祭典に
おける優遇
(ハ) 家庭に對する名譽章の交付
遺族徽章の授與、就職優先權の附
與、各種生計補助、公式祝祭典に
おける優遇
斯様に建國八年で兵役制度を實施し
たことは、世界の建國史上に未だ嘗て
見ないことであつて、國防國家として
の劃期的な躍進を誇り示すものであり
日滿國防一體化の力強い發足として注
目すべきことである。

日系軍官(日本人武官)
滿洲國軍には多數の日系軍官(日本
人武官)が軍の核心的存在として滿軍
練成とその向上發達に努力し、國策遂
行の花形として活動してゐる。滿軍強
化のためには軍内に優秀な日系軍官を
持つことを絶対必要とし、既にその或
る者は師長(師團長)旅長(旅團長)の要
職に就き國軍の中堅又は高級幹部とし

て活動してゐる。

新生の中華民國軍(新聞報)

「建軍は建國の手段であり、建國は建
軍の目的である」これは新支那の輝け
るリーダー汪精衛氏が昨年一月五日中
央陸軍軍官訓練團の學生達に説いた言
葉であるが、まことに軍隊こそは和平
建國運動の力強い推進力であらねばな
らぬ、還都後早くも八ヶ月、野にも山
にも理想に燃える若き兵士が滿ち溢れ
揚子江には新興支那艦隊が游弋して青
天白日の軍艦旗が川風に翻つてゐる、
新支那を護る國軍はかくて日に進む國
民政府の建設と並行して歩一歩力強く
築き上げられてゆくのだ、昨年十二月
九日上海の中央陸軍軍官訓練團は晴れ
の開校式をあげたが、新支那の建軍史
は實にこの日をもつてその第一ページ
を開いたものである、こゝは汪精衛氏
直參の中堅將校を養成するところで、
學生四個大隊の大部分は蔣介石軍から
轉向して來た將校達だったが、汪氏自

ら團長となり事變前の武漢警備司令で
濟南事變には聯隊長として戦つたこと
もあるといふ葉蓬中將を教育長として
烈しい四ヶ月間の訓練によつて和平建
國の理想を胸にたくまきこまれ、今春三
月卒業とともに一部は首都警衛旅團の
中核體として南京に移り、一部は廣
東、福建、開封、武漢等各地部隊のオル
ガナイザー格で全國に分散赴任した。

支那の軍隊組織で日本その他各國の
それと著しく異なつてゐるのは各部隊
に政治將校がゐる兵士に政治教育を施
すことである、この點はソ聯も同様で
國民普通教育が徹底してゐない國柄と
して、軍人の養成にあつては一般軍
事教育のほかに國家意識の涵養、政
治、經濟知識の向上を必要とするので
この點において新支那の軍隊における
政治將校の役割は大きい、全國の軍隊
から誤れる抗日意識を拭ひ去り、和平
反共、建國の新時代精神を完全に把握
せしめねばならぬ、とはいへ過去十數

年間根強く培はれ来た抗日イデオロギ
 ーは一朝一夕に消え去るものではない、不撓不屈の努力をまつてはじめて
 實を結ぶべきものであつて、かゝる執
 拗な闘争を通じてのみ軍隊は名實とも
 に新政府強化の推進力となり得る、か
 うした重大使命を帯びる政治訓練部は
 新政府の最高軍事機關たる軍事委員會
 の下に參謀本部、軍事參議院、軍事訓
 練部と相並んで直屬し陳公博氏自ら部
 長を買つて出て建軍の重點をこゝに置
 いてゐる。南京國府路の國民大會堂に
 今夏八月からかうした「國軍の中核」
 を養成するため「政治訓練班」といふ
 ものが設けられた、新支那各地の部隊
 から選抜された三百餘名の政治將校が
 嚴重な規律の下に「魂の叩き直し」を
 やつてゐるのだ、二十歳を過ぎたばかり
 の中、少尉から佐官級、中には旅團
 長を勤めた人も混つてゐるが、この訓
 練班では一切階級の別を認めず、しか
 も一律に丸坊主新兵さんそのまゝで
 「大亞洲主義」「三民主義」「日本研究」

その他政治、經濟各課目の講義を懸命
 にノートしてゐる。
 かくてこゝに鍛練三ヶ月、新しい時
 代意識を體得した新支那の先驅者たち
 は本月十一日卒業式をあげて各原隊に
 復歸、新たな任務についたが、今後の
 活躍は期して待つべきものがあらう。
 なほ中央軍官學校は首都南京の奮勵
 志社跡に維新政府時代からある綏靖軍
 官學校をその儘吸収して來春早々開校
 することとなり、參謀本部劉培緒次長
 を兼任教育長に任命、學生〇〇名の募
 集を開始したが、武漢、廣東の兩分校
 は南京の本校より一足先に今夏から開
 校、廣東分校の政治訓練班は前述同様
 の猛訓練を終へて本月早々省内各部隊
 に配屬された、南京本校開設の嚆には
 過渡的な政訓班教育はあげて同校の手
 に移り、こゝにはじめて本格的な軍、
 政兩面の教育が行はれることになつて
 ゐる。

二、
 今春四月六日新政府から全國軍隊に

停戰命令が發せられるや、和平反共に
 目覺めた各地軍隊から數千名づゝの大
 部隊が一團となつて續々歸順して來た
 ので、軍事委員會に半年前から「點編
 委員會」を特設してこれが點檢改編に
 あつた結果、つひに十月末に至つて
 總兵力〇〇萬の新銳中央軍が正式に實
 現した、その陣容を大觀すると、まづ
 首都南京を中心とする三角地帯には任
 援道大將の率ゐる蘇浙皖綏軍が新支那
 の心臟部を固め、別に南京には日本の
 近衛師團にも比すべき國民政府警衛旅
 があり、さらにその外郭部隊として謝
 文達、丁錫三、劉福雲、吳廷階將軍ら
 が各要地を制してゐる、武漢と開封に
 は綏靖主任公署が置かれて葉蓬中將と
 故吳佩孚將軍の參謀長劉郁芬中將がそ
 れ／＼主任の要職を占め武漢地區には
 李寶璣、張啓軍、隴海線方面には蘇
 豫邊區綏靖總司令胡毓坤中將麾下の張
 嵐峰、劉啓雄、劉紹崑軍らがある。
 張嵐峰將軍はわが陸士砲兵科出身で
 劉啓雄將軍は南京攻略戦に旅團長とし

て皇軍と戦つたことがある、さらに廣
 東省では彭濟華、曹輝林、李輔群の各
 部隊が南支の護りを固めてゐるほか、
 李宗盛、張威明、路朝元、林之江、蔡
 雲元軍などいづれも中央軍の力強い一
 翼をなしてゐる。

三、

以上が中央軍の現有勢力だが、さら
 に地方軍としては福建省の黃大偉軍、
 宜昌戦後歸順した元鄂北遊撃隊司令張
 儀軍をはじめ各地の和平建國、救國
 軍、廣東省保安隊、それに齊燮元大將
 の率ゐる華北綏靖軍、治安軍、剿共軍
 等を加へると新支那の軍隊は總兵力數
 十萬に上り、いづれも皇軍と緊密に協
 力しつゝ治安維持に挺身してゐる、中
 央軍のうちで最古の歴史を有し兵力裝
 備ともに最も優秀なのは任援道將軍麾
 下の蘇浙皖綏靖軍であらう。
 同軍は最近その警備地域を〇個の戦
 區に分ち徐樸誠、程万軍、饒國樑、徐
 鳳藻、熊育衡、王占林、沈席儒、朱柱
 石、沈玉朝、除雲勛將軍等が江蘇浙江

安徽三省の各要地を押へてゐる、今夏
 以來同綏靖軍は五十餘回の討伐を行ひ
 敵死傷三千數百名、捕虜百名、鹵獲輕
 火器四百挺、同彈藥三千餘發等の戦果
 をあげ、去る九月のわが江北新四軍討
 伐戦には任總司令が親しく前線に司令
 部を進めて皇軍に協力、十月の江南作
 戦には夏明才中佐が壮烈な戦死をとげ
 るなど隨所に華々しい活躍振りを見せ
 てゐる。

なほ同軍には任援道大將の御曹司任
 祖宣大佐(警備總隊々長)陳群内政部
 長の令息陳炎生大佐(南京地區獨立團
 附)梁鴻志監察院長の第二世梁孝成大
 佐(總司令部副官)など名流の子弟が
 多數參加してゐる。

重慶側から轉向する軍部要人は自己
 の指揮する部下に小銃、機關銃等各種
 兵器をあげてやつて來る場合が多いが
 かうした手兵を持たないで單身和平陣
 營に投ずるもの少くなく、不思議に
 この中には大物が多い、その大物中で

の大物は何といつても南京攻略戦當時
 の首都防衛總司令官唐生智の弟唐生明
 中將に止めを刺す。

同中將は唐生智四人兄弟の末弟で年
 齡僅かに三十五歳、黃埔軍官學校卒業
 後張發奎麾下の師團長をつとめたこと
 があり、事變後長沙および常澧警備司
 令を歴任の功により三十二歳の若さで
 中將に進んだ、出世の早い支那軍でも
 かゝる異數の拔擢は兎生智の存在も與
 つて力あるにはあつたらうが、生明氏
 自身相當な人物でなければならぬはず
 である。

有名な長沙大火の責任者鄭悌は生明
 中將にとつて肝膽相照らす友人だつた
 が、しかも彼は中央の命により斷腸の
 思ひをもつて鄭悌を銃殺に處した、こ
 の悲痛な體験が動機となつて彼は抗戦
 の前途に懷疑を持ちはじめつひに今秋
 九月重慶側を脱出して南京に來り投じ
 いまは軍事委員會委員として軍事樞機
 に參畫してゐる、共産新四軍の參謀長
 としきりに長江下流の治安を攪亂

してゐた齋家駒は今夏八月和平陣營に投じた、保定軍官學校卒で北伐に従軍今事變では嘉兒莊の戦ひで白崇禧の作戦參謀としてわが軍を悩ました戦術家である。

重慶空軍最初の和平同志は故譚世昌氏(三〇)であつた。譚氏は重慶空軍大隊附大尉で、去る六月十日愛機ビーチクラフト十七號を驅つて單機成都飛行場を離陸敢然死の脱出を試みて見事成功、わが荒鷲の〇〇前線基地に無事着陸し愛機もろとも和平戦線に参加、當時の日支兩國各新聞を賑はしたものだ、不幸同月二十九日澳門で特殊任務を遂行中、重慶側テロの兇手に仆れた、しかし同氏の愛機は去る双十節當日日本側から正式に國民政府航空署に引渡され、再建支那空軍の一番機として羽搏く晴れの日を待機してゐる。

また湖北省の粵漢沿線咸寧附近に蠢動してゐた遊撃隊司令成渠中將が部下一萬と共に十月三十一日皇軍に歸順した、元小學校教員だが事變後南昌軍官

學校に入つて軍人に轉向、唐生明中將にも一つ輪をかけた出世頭で本年やつと二十七歳の青年中將だ、若さに物をいさせて今後の活躍が俟ばれる。

五、

新支那海軍もまた帝國海軍派遣顧問の指導によつて世界に冠たるわが海軍魂を吹込まれ力強い建設一路をたどつてゐる、各艦艇は大部分事變で沈没または擱浅した支那側艦艇を帝國海軍がわざ／＼修理した上新政府に引渡したもので現在の勢力は砲艦海興(八六〇トン)海綏(三九〇トン)海靖(一〇〇〇トン)砲艇江綏、江靖のほか軽快な特殊砲艇が上海江南ドックで盛んに建造され現在すでに〇〇隻が進水してゐる、海興、海靖の兩艦はわが川崎造船所が清國海軍の注文により建造したものだ、上海の中央海軍學校では明日の中國海軍を擔ふ若き海の子たちが來春五月の卒業を前に、わが寺田少將以下教官〇〇名の指導下に營々と日本式訓練をうけてゐる、また首都南京には〇〇部、

無錫(太湖)閔行(上海)杭州等には各〇〇があり、これら各要衝を根據とする大小艦艇は揚子江、錢塘江等各河川や網の目のやうに走るクリークを縱横に駆けめぐつて、三角地帯と大長江の水の護りは日とともに堅い。

附録

蔣軍に就て

(本篇は内容稍古く其後の變動現況と異なるものあるべきも事變以來の支那軍の全貌を知る便宜上其儘掲載するものなり。)

支那の陸軍は備兵にして、由來軍閥の私兵と稱せられ此等の軍閥は夫々の利害關係に因つて集散離合し、従つて恒久性ある統制的勢力は殆ど見出し得ない情勢であつた。

民國十七年(昭和三年)蔣介石が北伐を完成し、國民黨の實權を掌握するに及び、國民政府は陸海空軍を統率し軍制を列強特に日本に模倣し、從來の弊に鑑み、軍隊の本質を國家防衛の軍

隊に改め、昭和八年六月十七日兵役法を制定公布し、且逐年兵備の改善に努めたけれども、政府の規定する軍制が全國に普及するのは容易な業でなく、従つて其の兵力は莫大であつたが編成裝備は未だ不十分であつた。加ふるに地方軍閥中には未だ反蔣の態度を有するものがあり。昭和十一年六月には兩廣聯合の反蔣運動さへ起つたのであるが蔣の巧妙なる切崩し工作により遂に失敗に終り、爾來蔣介石は各地將領に對する壓迫、懷柔兩工作を以て漸次地方軍の中央化を策し、今次事變直前に於ては、表面上のものもあつたが大體に於て中央の威信が行はるゝ様になつてゐたのである。

第一節 事變前に於ける支那軍變遷の概観

事變當初支那軍は總兵力約二百十萬を有し、事變發生と共に其の大部を北支、中支に出動せしめ、各方面共我が軍の爲め多大の損害を蒙り、其の損害

約八十萬を算するに至つた。殊に中支方面に於ては、中央軍の損害甚大で、著しく戦力を低下した。

茲に於て蔣介石は軍を後退し、態勢を整理すると共に軍の再建を企圖し、銳意敗殘兵を改編改組し、且民衆を強制徴集し、減耗を補充すると共に、新軍を編成すべく最大の努力を拂つた。其の結果兵員の補充も相當に行はれ、且新編及再編師が約二十箇も現出を見るに至つたが、其の内容は極めて貧弱で毎師の兵員平均六千内外に過ぎず、重火器並に火炮等は著しく不足してゐた。

當時に於ける支那軍總兵力は約百六十萬と觀察せられ、其の大部を徐州周邊地區及中央に配置した。そして徐州會戦で約三十萬を失ひ、武漢會戦では約五十萬を失ひ其後も愈々戦力低下の一路を辿りつゝある。

第二節 兵力及裝備

一、兵力

1. 正規軍

正規軍と稱すべきものは事變前約二百萬であつたが、事變以來多大の損害を蒙り逐次補充せられ、現在には約二百四十個師、約百八十萬内外に達した、之を系統別にし事變前後の兵力を比較すれば別表の通りである。

2. 不正規軍

不正規軍は各省少きは數千、多きは十數萬に達し、主として匪賊の防衛に任じ、小銃の外機關銃、火炮を有するものである。

土匪も亦各省に存在し、全國に於ては約四、五十萬に達すべく其の裝備は概ね不正規軍に準ずる。

此等不正規軍及土匪等は大部隊としての勢力はないが、正規軍に劣らざる能力を有し、對外戦に當つては或は正規軍に編入せられ、或は固有の團體として、後方の遊撃に任じてゐる。

3. 支那共產軍

支那に於て共產主義の發展を見たのは、大正十一年頃廣東を追はれた孫文が、「ソ」聯邦に款を通じて大正十三年國民黨内に共產黨の制度を容れ、次で同年蔣介石が赤軍の組織を學んで國民革命軍を編成したのに端を發してゐる。其の後蔣介石は共產主義を忌み、同派幹部を追つたので、各地に潜行せる共產黨員は國際共產黨の指令に基いて自衛軍の組織に著手し、此等が後に至り統制せられて共產軍を組織するに至つたのである。而して其兵力は第八路軍十數萬、新第四軍約四萬と傳へられてゐた

であるが、兵員の素質、裝備の低下並に志氣の頹廢と相俟つて、戦力は著しく低下してゐる實情である。軍需工業力皆無と云つても過言でない支那として、軍需品の大部を外國よりの補給に仰いで居たことは周知の事であるが、廣東喪失の結果、日量九千噸（一列車七百噸）の輸送力を誇つた粵漢線は其の機能を失ひ、僅かに日量百五十噸の輸送力を有する滇越線及二百噸内外と判斷せらるる障路桂林に向ふもの、更に微少なる「ビルマルト」、赤色「ルート」並に我が海軍の封鎖網より潜入する輸入等に俟たねばならぬが、此等を總計するも日量五百噸程度と推測せられてゐた國外よりの輸入軍需品も

今次歐洲戰亂の勃發によつて交戦國就中英、佛よりの輸入は困難となつた爲將來は此等の輸入を米、蘇より仰ぐことゝならう。國內兵器製造能力は近時資源殆ど枯渴せる爲、僅に小口徑銃器類の彈藥を生産し得るに過ぎず、従つて武漢廣東失陥後に於ては毎師所有銃機數の増加は殆ど見るべきものなく、中口徑以上の火炮に至つては全く補給の途なきものゝ如く、各師平均野山砲數は調査五十箇師の中約十箇師が三（四）門を保有する程度で、其の他は保有し非ざるものゝ如く、小口徑銃器數の彈藥製造能力も僅かに遊撃戰の實行を支へる程度に過ぎないといはれてゐる。

支那軍系統別兵力一覽表

系統別	時期	變		現在兵力 (單位萬)
		前	時	
部	事	部	武漢攻略當時	
隊	隊	隊	隊	
		(單位萬)	(單位萬)	

軍省各境邊	軍中央		北支諸軍				山	山	廣	廣
	直	傍	萬福麟	馮占海	商震	宗哲元				
雲南軍	步兵四十一師獨立一旅	步兵四十三師獨立十七旅	步兵三師	步兵一師	騎兵四師獨立四兵	騎兵三師	步兵八師獨立三旅	步兵五師獨立一旅	步兵十師	步兵十二師獨立四師
甘肅軍	八、六〇	一二、三	八、〇	三、〇	一、六	二、〇	八、〇	五、二	八、〇	七、二
陝西軍	步兵四十七師獨立二旅	步兵四十五師獨歩八旅	步兵三師	步兵一師	騎兵三師	騎兵二師	步兵八師獨立四旅	步兵五師	步兵十二師獨立十旅	步兵十二師獨立六師
貴州軍	三九、〇	四、〇	五、〇	一、〇	〇、四	一、〇	五、〇	二、〇	七、〇	五、〇
四川軍	八、〇	八、〇	八、〇	四、〇	一、〇	一、〇	八、〇	四、〇	一、〇	一、〇
雲南軍	一、六	三、〇	三、〇	二、〇	二、〇	二、〇	三、〇	二、〇	七、〇	三、〇
四八、〇										

總計	邊各省軍		
	新軍	青海軍	寧夏軍
步兵二百一十一師、三十九旅、騎兵十三師、八旅、砲兵八旅			
約 二〇五、二	六、〇	三、〇	四、五
約 九二、九	二、〇	二、〇	三、〇
約 一八〇、〇	四八、〇		

英軍裝甲車輛(其一)

○カーデンロイドIII型輕戰車
重 量 四・五噸
砲塔機關銃 一
乘 員 二
裝 甲 八乃至一三吋
登 攀 角 四五度

○ドイツカース輕戰車
砲塔機關銃 一
時 速 五〇杼

○ドイツカース・カーデンロイド
重 量 三・八噸
武 裝 機關銃一
時 速 四八杼

○騎兵用輕戰車時速七〇杼

○巡航戰車ドイツカース・アームストロングD型輕戰車と同様なも裝甲厚し。

○ドイツカース・カーデンロイド
水陸兩用戰車
重 量 三・一噸

M三六型輕戰車
重 量 三・八噸
武 裝 機關銃一
時 速 四八杼

○對戰車用戰車
速 度 地上六五杼 水 上四乃至一〇杼
武 裝 機關銃一
裝 甲 九吋
重 量 四・二噸
時 速 五〇杼
裝 甲 九乃至一一吋

海 軍

米 英 ソ 獨 伊

米國海軍の現勢
太平洋に於ける米國海軍の配
備(開戦前)
米海軍擴張計畫
英最新戰艦キング・ジョージ
五世
伊海軍近況

附 表
米英艦艇表
列國最新艦艇見表
列強海軍力表
同竣工及建造狀態
日獨伊對米海軍比較

列國軍備の概況

米國は東洋に於ける支那事變や、歐洲に於ける國際情勢の不安に刺戟せられ、昨年の議會に於て「軍縮條約がなくなつて以來各國は競つて海軍の擴張に浮身をやつして居るから、米國とも猶豫なく、斷乎たる決意の下に、之に對應する手段を採らねばならぬ」と云ふ見解の下に、其の海軍軍備の計畫として華府及倫敦兩條約に規定する最大限度迄建艦しようとする所謂「ダインソン」案に、更に加ふるに各艦種に對して二〇%宛を追加する所謂「ダインソン」案なるものを通過成立せしめ、更に本年に至り所謂第三次「ダ

インソン」案なるものを計畫せらるゝに至つた。數年後是等の計畫全部が完成した時には、現在米國海軍の有する艦船と合せて、戰艦約二五隻、航空母艦約一〇隻、其他補助艦を合せ總計約二百萬噸に達する大海軍となるものと觀測せられる。

昨年來米國議會に於ては屢々國防充實に關する深刻なる討論が行はれ、以上の海軍擴張に基き、着々造艦計畫を進むる外、米本國沿岸「アラスカ」、「ハワイ」、「パナマ」、運河地帯に對する防備増強の目的を以て航空力の躍進的擴充が強調せられて居るのみならず、之と同時に米國西岸及太平洋諸島の防禦施設を急ぎ、彼の太平洋上の金城鐵壁

たる「ハワイ」眞珠港の基地及防禦施設を始め、「ハワイ」以西に於ける太平洋上の飛び石として重要なる「ウエーキ」、「ミッドウエー」、「ジョンストン」等の島々を始め、「アラスカ」、「アリゾナ」、「フィリピン」方面に於て、防備施設の増強と共に航空基地、艦隊泊地及補給施設の積極地建設計畫が議せられて居る。

以上太平洋上の飛び石たる戰略要點の防備強化の件は、昨年二月二十三日米國下院に於て大議論の末、例の「ダナム」島を除き其の他は全部壓倒的多數を以つて通過して居り、「ダナム」島に關しては其の整備が日本を刺戟し、戰争に導く虞ありとの理由に依り否決せられたが、是には有力なる反對があり本年度亦問題となつて居る。斯くの如く自ら顧みて他國を刺戟すると思はる様な露骨な軍備充實が眞剣に議せられて居る情勢は大に注目すべきことである。

現に米本國より「ハワイ」、「ミッドウエー」、「ダナム」を経て「フィリッ

るものは、大略、戦艦四隻、甲巡四隻、航空母艦一隻、驅逐艦五十隻、潜水艦十五隻位であるに比し、太平洋岸においてはハワイにあるものだけでも大體戦艦八隻、甲巡八隻、乙巡十隻、航空母艦三隻、驅逐艦五十隻、潜水艦十五隻と見られ更に俄にその増強を計畫してゐるといへば如何に極東への配備強化に猛進しつゝあるかよわかる。

その上に極東においてはアジア艦隊としてフリッピンに甲巡一隻、乙巡一隻、航空母艦一隻、驅逐艦十三隻、潜水艦十二隻、飛行艇十五隻その他十隻の海軍兵力を有し、陸軍兵力の點から見てもハワイに約二萬二千の陸兵と飛行機約二百機並にフリッピンに陸力二萬と飛行機約百機を配してゐる模様である。

米國の某紙が掲載した「太平洋防備」なる圖を見れば、コチアクからパナマに至る沿岸一帯の洋上を「内側防禦區域」コチアクとハワイパナマを結ぶ線とダッチ・ハーバー、ミッドウエー、

ジョンストン、パナマを結ぶ線とで圍む海面を「主防禦區域」更にミッドウエー、ジョンストン、カントン、グアム、ウエーキを結ぶ圍内を「外側防禦區域」となし、北方カムチャツカのペドロバプロブスクから南方グアム、ポルネオに至る線をもつて「對日封鎖線」となしてゐる。

米海軍擴張計畫

米海軍整備の基本方針は從來においては一九二二年ワシントン條約及びロンドン海軍條約の規定する保有量の範圍内に於て艦齡内艦艇を整備充實せんとするにあつたが我國の通告により一九三六年末をもつて右兩條約が失効したのに加へて翌年七月支那事變勃發するや米海軍はこゝに本格的な海軍擴張に乘出すに至つた、その第一歩が一九三八年第二次ヴァインソン案の名を以て呼ばれる海軍力の二割擴張法である、本法においては周知の如く從來の條約保有量約百二十六萬トンに對しその約二

割即ち二十九萬トンを増加せんとするものである、右の具體的數字は米海軍の内容を知る上に基礎的數字となるものであるから示すこととする。

Table with 2 columns: Category (主力艦, 航空母艦, etc.) and Quantity (噸, 隻數不明, etc.).

潜水艦 一萬三千噸 九隻
合計増加量 二十九萬五千噸 四十五隻

かくして條約保有量確保主義より海軍擴張主義へと突入した米海軍は一九三九年九月歐洲戦争が勃發するや更に一段の飛躍を試みるに至り「數ヶ國聯合して攻撃し來れる場合と雖も米本土の安全確保を可能ならしめるに足る海軍力の保有」を目標に一割一分擴張を旨とする第三次ヴァインソン案(十六萬噸擴張を内容とする)が議會に提出され議會は一九四〇年六月十一日これに協賛を與へた、而して既存の工業設備の特別利用により向ふ二ヶ年に約十六萬噸の追加建造を開始することになつたのである。然るにどうであらう、右法案の議會通過直後歐洲の戦局急轉しフランスは遂にドイツに降伏し英國敗退の空氣濃厚となるに及んで米國は初めて公然と「大西、太平洋同時作戦の必要」を唱へ、また「兩洋同時作戦に必要なる艦艇を至急整備せざれば自國の

國防危し」と叫ぶに至つた。

即ち一九四〇年六月十八日今度は所謂擴張法案(百卅二萬トンの擴張を内容とする)が議會に提出され議會は急遽これを通過せしめ同案は七月二十日大統領の署名を得米海軍多年の野望たる兩洋海軍の建設に着手することとなつた、而して七割擴張法といふのはそれまで議會を通過して承認されてゐる各擴張案による増加量をも含めた現有勢力の七割を増強する案であり従つて條約保有量に加ふるに二割擴張法による追加建造量並に一割一分擴張法による追加建造量を以つてする合計量に對しその七割に該當する量を更に追加建造せんとするものである。

量内譯

Table with 2 columns: Category (航空母艦, 巡洋艦, etc.) and Quantity (噸, 隻).

主力艦

航空母艦 三十八萬五千噸
巡洋艦 二十萬噸
驅逐艦 四十二萬噸
潜水艦 十五萬噸
補助船舶 七萬噸
合計増加量 百三十二萬五千噸

さて米海軍は僅この三年間に以上の如く三段跳の擴張によつて甚大なる海軍計畫を行ふことになつたが、將來米國が三擴張法によつて保有すべき海軍勢力は約三百四萬九千トンで將に條約海軍量百二十六萬トンの約二倍半、正確に云へばその二・四一倍に當るものである、而して米國政府はこの甚大なる海軍勢力を一九四六年乃至一九四七年までに是が非でも實現せしめんとして今や強力國防完成の合言葉によつて官民一致して大西太平洋兩洋艦隊の大擴張に馬力をかけてゐるのだ、而して茲に注目すべきは新計畫完成後の三百四

萬九千トンは悉く艦齡以内のものであるから艦齡超過の一部が現役に止まる點を考慮に入れて計算すれば米海軍の實勢力は更に大きくなる、今から六、七年後に於て米國が完成すべき海軍實勢力が幾許になるかに就き昨年の議會で上院海軍委員會が内示した數字は三百五十四萬ト、隻數合計七百一隻であつてこの内容は左の如くとなつてゐる

主力艦	百二十八萬一千噸	三十五隻
航空母艦	四十六萬噸	二十隻
巡洋艦	九十五萬六千噸	八十八隻
驅逐艦	六十一萬七千噸	三百七十八隻
潜水艦	二十三萬一千噸	百八十隻
合計	三百五十四萬七千噸	七百一隻

なほスターク作戦部長が去る十二月二十四日のラジオ放送で説明した數字は右と多少異り主力艦三十二隻、航空

母艦十八隻、巡洋艦九十一隻、驅逐艦三百六十五隻、潜水艦百八十五隻となつてゐる、そこで米海軍の現有勢力はどうなつてゐるか云ふに昨年七月現在の實勢力は左の通りと見られる。

主力艦	四十六萬三千噸	十五隻
航空母艦	十三萬五千噸	六隻
巡洋艦	二十三萬九千噸	三十八隻
驅逐艦	二十五萬二千噸	百九十六隻
潜水艦	十萬一千噸	百二隻
合計	百二十九萬一千噸	三百五十七隻

なほスターク作戦部長の右演説では現有勢力は主力艦十五隻、航空母艦六隻、巡洋艦三十七隻、驅逐艦百五十九隻、潜水艦七十隻となつてゐる、前者の數字を基礎として判断するに現有勢力三百五十七隻、百二十九萬一千ト

中より毎年の艦齡超過による艦廢の除籍を見込んで三計畫の目標とする七百一隻、三百五十四萬七千トに達するためには今後七年間に約四百隻、二百三十萬トの新規建造を必要とする、これを一年間に見積れば今後毎年平均約五十七隻、三十三萬トの建造を必要とし従來毎年の平均竣工量約七萬トに比すれば約その五倍と云ふ飛躍的數字に達する、果して米國にその建造能力ありや否やの検討は後述するであらう。

次に米國の新規建造艦艇中特に注目を要するのは超大型戰艦の建造計畫である、現在工事中の新戰艦は三萬五千ト級六隻及び四萬五千ト級四隻合計十隻であつたが最近注文を發せられた戰艦七隻の中には五萬五千ト乃至六萬ト級戰艦が含まれてゐることが明瞭となつた、主要艦種の擴張に對して諸種の補助艦艇を急速に整備することは到底困難であるから米海軍は多數の船舶を買収し本年七月以降十一月

初めまでの四ヶ月間で海軍の獲得したものは百十二隻に達してゐる、これ等は何れも水上機母艦、運送船、糧食船給油船、病院船、潜水母艦等に改造中である、而して米海軍中これ等補給船隊の不足は渡洋作戦を目標とする米海軍の最大弱點と見て差支へない。

なほ米海軍は各種の母艦、補助巡洋艦等に充當するため商船六十五隻を買収する豫定であると傳へられる。

一國の商船隊の優劣は當該國海軍の勢力に直接、間接の影響を與へるものである、最近米國は商船の新造計畫を樹て盛んに舊式船を代換しつゝある點は米國の海軍勢力を見る上に看過し難い點である、元來米國の商船隊はその量において劣り、その質において頗る舊式であつたが國防上の見地から議會は一九三八年の商船法を通過せしめ本法に基いて政府の機關として海軍委員會が新設せられ政府は積極的に商船の改良充實に乘出した本委員會は毎年五十隻、十年間五百隻の商船新造計畫を

決定し一九三八年一月より實施に着手したがこの第一次計畫たる十年間五百隻が一九四七年末迄に完成するとすれば米海軍の補助部隊としての米商船隊の勢力は侮るべからざるものがあらう。

現に一九三八年より一九四〇年十一月迄の期間に於いて建造に着手せる隻數は既に一七九隻に達しその中五四隻は既に竣工してゐる、之等商船の大部分は貨物船、貨客船、油槽船にして然も速力、積載量に重點が置かれてゐる點は戰時米海軍の補助部隊として注目せねばなるまい。

次に項を更めて米國の海軍航空勢力に就いて述べて見たい、米海軍航空勢力擴充目標も亦建艦計畫と同様一九四六―七七年を目標として進んでゐる、即ち現在の海軍飛行機二千數百機を一萬五千機以上に(スターク作戦部長の去る十二月二十四日のラジオ演説では一萬機以上となつてゐる)並びに飛行船四十八隻以下に整備完成するものであ

る。

元來米海軍の飛行機數は歐洲戰爭の勃發直前約二千機であつたものを一割一分海軍擴張法により飛行機三千乃至四千五百、飛行船十八隻迄に増加目標を定めたがドイツ空軍の活躍状況に刺戟され昨年六月十五日議會を通過した海軍航空機擴張法により飛行機一萬機以下、飛行船四十八隻以下と改め且つ海軍航空士並びに現役飛行士の訓練施設一萬六千名分を整備する權能が大統領に賦與された、續いて海軍は所謂兩洋同時作戦の必要を名目とする七割海軍擴張法に基き飛行機一萬五千機とし但し之を増加することが出来ること改めた即ち米海軍航空勢力は一九四〇年から一九四七年迄の間に飛行機約一萬三千を増加せしめんと企てゐる。

商船護送策に關する米大統領の言明 (新聞報)

ル大統領は四月十五日新聞記者團との會見に於て、米國政府の商船護送策

につき左の如く言明した。

「米國海軍は、米國の商船が中立法によつて認定されたる交戦水域へ入らな
い限り、如何なる方面の水域に於ても
これを保護するであらう」
之は紅海、スエズ運河及びエジプト
へ向けて軍需品を輸送する米國商船を
米國海軍が武力を以て護送することを
意味する。而して大統領は米國商船
の保護は、米國の法律が規定せるとこ
ろであると述べた。

大統領は商船護送方法の詳細に就て
も説明しなかつたが、海軍當局では種
種の方法があるとなしてゐる。即ち
一、軍艦による實際の護送。二、特定
水域を指示し軍艦を以て警邏せしめる
三、飛行機による護送。四、商船の武
装などである。但し大統領は米國商
船の武装に就ては未だ何も聞いてゐな
いと語つた。

海軍大募兵開始 (新聞報)

米海軍徵募局は五月十五日、目下豫

定より早く就役しつつある艦艇を以て
編成する新艦隊の兵員として、一擧に
三萬五千名の兵員を來る六月三十日ま
でに徵集する計畫を發表した。この大
量徵兵は前大戦當時の状態も及ばぬ米
海軍空前のもので、應募資格は從來十
七歳より三十五歳までであつたが、今
回は十七歳より五十歳までである。な
ほ當局は同時に米海軍の現役兵力は二
十二萬七千名で豫備兵總數は二萬八千
名であると發表した。

海軍未曾有の兵員不足

(紐育タイムズ)
(一九四一・六・三)

目下米海軍は米國開關以來最初の兵
員不足といふ重大問題に直面してゐる
が、これが原因は國防計畫及び之に關
聯する産業部門に多數の青年が流用さ
れてゐる爲である。米海軍省は此の未
曾有の兵員不足に對處するため去る五
月十五日三萬五千名の大量募兵計畫を
發表、更に同二十八日徵募海兵の資格

制限低下を發表、大々的に新規募兵に
着手したが、今日までに此の募兵に應
じて登録された者は四千名に過ぎず、
豫定の六月三十日の締切を七月末日迄
延期しても殘餘の三萬一千名を募兵す
ることは困難とみられてゐる。米海軍
は兩洋艦隊の擴充に伴ひ迅速な兵員の
補充の必要を痛感してゐるにも拘らず
海軍志願者は減少して居り米海軍の重
大な悩みとなつてゐる。

ノース・カロライナ號

就役 (新聞報)

米國海軍が十八年振りで始めて建造
した主力艦ノース・カロライナ號(三
五、〇〇〇噸)はブルックリン海軍工
廠で建造を急いでゐたが、最初の豫定
を六ヶ月も早めて四月九日遂に竣工就
役した。同艦は米國の兩洋艦隊建艦計
畫の下に建造豫定の主力艦十七隻の中
の最初のものである。

建艦進捗状況 (新聞報)

米海軍省は四月四日建艦進捗状況を

次の如く發表した。

三月中の建艦完成

驅逐艦四隻、潜水艦二隻

建造中乃至豫算計上のもの

主力艦十七隻、航空母艦十二隻、

巡洋艦五十四隻、驅逐艦二百隻、

潜水艦七十八隻

他の發表に依れば、海軍は新たにブ
ルックリン海軍造船所に三千百萬弗で
向ふ廿ヶ月に主力艦建造用大乾ドック
二つを完成するやう契約を済ましてゐ
る。この乾ドックの詳細に就ては發表
されてゐないが、それは主力艦のみな
らず如何なる艦種のものも建造し得る
やう出来てゐると述べてゐる。

英國

英最新戦艦キング・ジ

ヨージ五世

大東亞戰の劈頭マレー沖で我海軍に
爆沈されたプリンス・オブ・ウェール
ズの姉妹艦キング・ジョージ五世號は

長さ二二六メートル、幅三一メートル、
吃水八・五メートルで基準排水量は三
五、〇〇〇トン、十五萬二千馬力のペ
ーソンス式タービンを据あつてゐ
る。

この艦よりも七千トン大きい四萬二
千トンのフッドが遙に少い馬力で三十
二ノットの高速を出した事からすると
キング・ジョージ五世級は樂々と三十
ノット以上出せる勘定になる。

攻撃力の主體となる主砲としては、
今時珍しく三六センチ砲を僅か十門持
つてゐるに過ぎない。そしてこれ等は
艦橋の前面に設けた四聯装および二聯
装の砲塔二基と、艦の後尾に配置した
四聯装砲塔に収めるといふ工合に砲塔
の數を減らして、その代り砲一門當り
の装甲重量を極度に大きくしてゐる。

いつたい、かうして一つの砲塔に三
六センチ級の主砲を四門も据あつける
などは餘程技術が進歩しないと出来な
い相談で、一齊射撃をする場合など如
何に各砲が精密に出来てゐるといつて

も絶對正確に同時發射といふことは困
難であるから、一砲塔四門の齊射は各
砲の彈丸の運速によつて隣りの砲に相
當の激動をおよぼすことになり、従つ
て命中率を悪くする虞れが多い。

しかしこの困難を冒して砲塔の防禦
鋼板を思ひ切つて厚くしたのは、前大
戦で巡洋戰艦のクイン・メリーが獨艦
隊の三八センチ砲の齊射を浴び、砲塔
を貫いた徹甲彈が火藥庫を爆發させた
からである。

ところで、この主砲は、砲身から尻
栓に至るまで全く改良された新式砲で
約九〇〇キロの巨彈を齊射し、着弾距
離は從來の戰艦の三八センチよりも大
きく、破壊威力は以前の四〇センチ(十
六インチ)砲にまさると公表されてゐ
る。

さて、この艦のもつとも特異な點は
對空防禦を思ひ切つて強化した點であ
らう。

縦横各五列に銃身をならべた二十五
聯装といふ素晴らしい世界最初の高角機

銃を、艦の尾端に一基、後部の四聯裝砲塔の上に二基備へてをり、さらに前部の二聯裝砲塔の天蓋に二十聯裝の高角機銃を一基もつてゐる。

この他、一キロの弾丸を毎分八〇〇發以上發射するといふ自慢の八聯裝對空ボムボム砲を、煙突から前部橋へかけて兩側に二基づつ、計四基据ゑつけてゐるから、もしこれ等の銃砲が一齊に火蓋を切るなら、毎分の射撃数は六萬發以上となり、文字通り雨の様な彈丸を注ぎ得る。

ボムボム砲は高度三千メートル位までの敵艦に有効であるが、それ以上の高度をとつて来るものに對しては艦の兩側に二聯裝で各四基づつ配置してある計十六門の一三・二センチの高角砲が、片舷毎分一五〇發以上の射撃を浴びせる。

この高角砲は副砲を兼ね、高速魚雷艇とか海上すれすれに舞ひ下る雷撃機に對しても有効でまた各砲塔を上下二段に並べ相當の餘裕をとつてあり、高

角射撃と廣い範圍の旋回をした場合隣り同士の砲塔が邪魔にならぬやう配置してある。

甲板の下には幾層もの防禦鋼板を張り廻らして爆弾や遠距離から飛んで来る落角の大きい砲弾に備へ、魚雷に對する防禦も、舊式の艦を改装したものではバルヂと稱して水線附近に艦の横へ少し出張つた鋼板張りの防禦緩衝室を設けてゐたが、この艦は速力を犠牲にする様なバルヂは取りつけず、建造のはじめから艦内の舷側附近に縦横の仕切を澤山作り砲弾に對する防禦も兼ねる。

水線附近の裝甲としてはネルソン級よりも厚い四〇センチの鋼板を前後に可成り長く張り廻らし、かうして舷側と甲板の防禦のために總計一萬四千トンの裝甲を施してある。

英國一年間の船舶被害數

十一月十三日アレキサンダー英海相は、開戦以來一ヶ年間に撃沈された商

船(魚船を含む)の隻數と噸數を發表した。左の如し。

船籍	被撃沈隻數	噸數(單位萬)
英國	四〇六	一六一
聯合國	一〇三	四八
中立國	二五三	七七
計	七六二	二八六

英軍裝甲車輛(其二)

戦車	ヴィツカリス・アームストロング中戦車	重裝甲 一八噸
		武裝甲 九乃至二五噸
		武裝裝 三七又は四七噸砲
		砲塔機關銃 一
		其他 機關銃二
		時速 五〇軒
		ヴィツカリスMKIIA中戦車
		重裝 一二噸
		武裝裝 四七噸砲一、機關銃四
		又は此の機關銃の内二を小口径加農二を以て代ふ。
		裝甲 八乃至一五噸
		時速 二六軒

英國海軍充實策

艦計畫

英國は昭和十二年を第一年とする十五億磅(邦貨二百五十五億圓)五ヶ年計畫に依り再軍備に狂奔中であるが、此の甚大なる大計畫の目的は本國、海外領土及植民地に對する國防力の充實は勿論、最近益々多事多端なる國際情勢に鑑み自國の海軍力を以て諸外國に對する外交上の指導力を挽回し又集團保障體制を引續き有効に保たんとするに在ることは明かである。右の十五億磅の海軍擴張費は、最近英國議會に提出されたる海軍豫算により推定すれば更に増額せられつつある模様であつて、此の大計畫の完成期たる昭和十七年頃迄には、少くとも主力艦二三隻、航空

最近に於ける英國海軍艦艇計畫

主 力 艦 種	計 畫 年 度	
	隻數	噸數
一	昭和八年度(一九三三年度)	千
	昭和九年度(一九三四年度)	千
二	昭和十年度(一九三五年度)	千
	昭和十一年度(一九三六年度)	千
三	昭和十二年度(一九三七年度)	千
	昭和十三年度(一九三八年度)	千
四	昭和十四年度(一九三九年度)	千
	昭和十五年度(一九四〇年度)	千

母艦一〇隻其他補助艦艇を合し總計約二百萬噸の大量の建設を完成するものと推定せられるものである。

即ち昨年一月二十七日のスタナップ海軍大臣の言に依れば、英國海軍の甚大なる建艦の状況は、平和時代に於て正に未曾有の大規模のものであつて今年度は實に一週間に平均一隻宛の割合で進水する由であり、之を以て見るも如何に英國が海軍の再軍備に畢生の努力を拂ひつつあり其の目的が奈邊に存するかを推察するに難からぬ次第である。空軍の擴張に關しても、海軍軍備に劣らぬ努力を拂つて居る。由來英國の空軍は統一空軍、即ち陸軍海軍と對立する空軍であつたが、之に伴ふ種々の弊害の爲一昨年より艦隊航空隊を空

軍より獨立せしめ海上の作戦力を一層強化せむと企圖しつつある。右の如き英國海軍及空軍が一朝有事の際、東洋方面に進出する勢力が、どの程度であるかは勿論其の時の情勢に依り定まるものと思はれるが、英の東洋に於ける最大軍港たる新嘉坡の施設に、長日月の努力と巨額の經費を投じて完成したのは云ふ迄もなく、漢洲北岸の「ポーター」島、「ニコバル」島等の海軍及空軍根據地の整備、更に「アフリカ」の南を迂回して東洋に進出する軍隊航路の研究等と相俟つて英國艦隊の極東進攻作戦準備たることは云ふ迄もなく、此亦大に注目を要する事と信ずる。

列國軍備の概況

其の他の艦艇	小計	潜水艦	乙級巡洋艦	甲級巡洋艦	航空母艦	現有力		建造中及未起工	
						隻数	噸数	隻数	噸数
若	一五三九三	一	三	一	一	一	一	一	一
千	三九四二	三	二	三	三	三	三	三	三
若	一七三九四	一	四	一	一	一	一	一	一
千	六九三二	三	二	二	二	二	二	二	二
若	二二三	一	六	三	一	一	一	一	一
千	五六三二	五	二	二	二	二	二	二	二
若	三六八七	一	七	七	二	二	二	二	二
千	二〇一八	三	〇	七	四	四	四	四	四
若	三五七	一	六	七	二	二	二	二	二
千	二二三八	三	二	三	四	四	四	四	四
若	一三三	一	七	一	一	一	一	一	一
千	二五四	三	四	八	二	二	二	二	二
若	二七四	一	六	四	一	一	一	一	一
千	(二七〇)	二	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)

(註) (一) 括弧内は推定に依る。
(二) 竣工せるものは竣工後の噸数に依る。

昭和十五年(一九四〇年)一月に於ける英國海軍現有兵力並に建造中及未起工の艦船(潜水艦以上)

艦種	現有力	建造中及未起工	噸数	
			隻数	噸数
主空母	一四	四	四	四
甲級巡洋艦	一四	一	一	一
乙級巡洋艦	一五	一	一	一
計	三三五	一、三三八	三三五	(六九一)

(註) (一) 昭和十四年(一九三九年)竣工として計上せるものには推定を含む。
(二) 括弧内の数字は推定を含む。
(三) 前表の艦船中には左記自治領海軍を含む。

加奈陀 六隻
新西蘭 乙級巡洋艦 二隻
斐洲 甲級巡洋艦 二隻
乙級巡洋艦 四隻

列國軍備の概況

艦種	區別	頭初の規定量	華府及倫敦條約規定量	
			採用に依る増加量	計
主空母	一五隻	五二五	一三五	一三五
航空母艦	一三五	一三五	一三五	一三五
巡洋艦	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
潜水艦	一、二〇二	一、二〇二	一、二〇二	一、二〇二

ソ聯は最近其の陸軍及空軍が或る高度の水準に達したのと又歐洲に於ける種々の外交上の失敗等に目覺め國力推進の爲海軍力充實の急務なるを自覺

したるが如く、昭和十二年末以來制度、編制、人員、教育等各般の刷新を圖り、名實共に大海軍の建設に努めつつあるが高度の秘密主義の國である關係上其の真相は判然しないが現在約三十三萬噸の艦船を保存し、その三分

の一約一三萬噸以上は潜水艦であるものと推定せられる。而して其の極東軍備は専ら潜水艦を中心とする防禦的軍備に努め、潜水艦七十隻以上を備へて居るものと思はれるが、是等は一朝有事の際東洋海面の制海權確保即ち大陸

と我國との交通及海外通商路の確保等に於て大に警戒を要するものである。航空機に於てはソビエツトは、總計六千機以上を保有し其の内約一五〇〇

機が極東に配備されて居る。右の外「ソビエツト」の海軍は北氷洋を通じて極東に到る航路を探究し既に之を利用して居る外沿海州及「カム

チャツカ」沿岸に海軍及航空基地を着々増設しつつあるが如きは同國の極東に於ける周到なる海軍軍備の整備を物語るもので注意を要する所である。

艦種	區別	既成艦		建造中及未起工	
		隻數	噸數	隻數	噸數
主力	力母	約一三	七千噸	約二	七千噸
航空	空母	約四	三〇九噸	約二	二四〇噸
甲級	巡洋	約九	三〇七噸	約二	一六〇噸
乙級	巡洋	約三	三〇七噸	約一	三五〇噸
驅逐	逐洋	約四	五二〇噸	約一	二五〇噸
水雷	水雷	約二	一三〇噸	約一	一五〇噸
合計	計	約二七六	約三三〇	約六六	約一八二

太平洋方面には右の内驅逐艦(五隻)潜水艦(七〇隻以上)等が配備せられ尙水雷艇(六隻)其他の小艦艇が配備せられてゐる。

獨逸

英獨海軍協定により對英三五%(潜水艦は對等)の獲得に成功して、ヴェ

ルサイエ條約の制限を脱し得た獨逸海軍は、其後着々建艦に着手し、更に英獨協定破棄以後は英艦隊に對し北海を護り、戦時には英國の通商ルート破壊

に添ふべき強力艦隊の建設に努力して居たが、昭和十五年一月の現有兵力は實に左の如くであつた。

昭和十五年(一九四〇年)一月に於ける獨逸海軍現有兵力並に建造中及未起工の艦船(潜水艦以上)

艦種	區別	現有兵力		建造中及未起工	
		隻數	噸數	隻數	噸數
主力	力母	四	七千噸	三	一〇〇噸
航空	空母	一	七千噸	二	三九〇噸
甲級	巡洋	二	二〇〇噸	三	三五〇噸
乙級	巡洋	六	三五〇噸	七	二八〇噸
驅逐	逐洋	二	三三七噸	八	一四〇噸
水雷	水雷	五	二八〇噸	四	二〇〇噸
合計	計	九	一九二	二四	二四一

今大歐洲戰に於ける獨逸海軍の狀況は次項「今大歐洲戰に於ける海上作戰」の通りであるが、其後佛國崩壊、白佛海岸一帯の占據と共に目下頻りに空爆及砲撃を以つて對英上陸作戰を準備し

尙獨逸は逆に八月十七日對英國封鎖を宣言して、英國に出入せんとする各國艦船の航行を奪ひ、我歐洲航路船のアメリカ經由英國出入も殆んど杜絶せんとして居る現況である。

今大歐洲戰に於て新に現出した艦艇で、獨逸は之を相當多數現有又は建造中であるが其詳細は不明である。此の對英逆封鎖の水域は(ブルターニユ半島南岸)を起點として西南に進んで北緯四十五度、西經二十度の邊に至り、この點(ノルウエー、ベルゲン北方沖)より南行ベルギー海岸に達し、更にフランス海岸を走つて起點に歸る線を以て劃された全水域を含む。

今大歐洲戰に於ける獨逸海軍の狀況は次項「今大歐洲戰に於ける海上作戰」の通りであるが、其後佛國崩壊、白佛海岸一帯の占據と共に目下頻りに空爆及砲撃を以つて對英上陸作戰を準備し

尙獨逸は逆に八月十七日對英國封鎖を宣言して、英國に出入せんとする各國艦船の航行を奪ひ、我歐洲航路船のアメリカ經由英國出入も殆んど杜絶せんとして居る現況である。

今大歐洲戰に於て新に現出した艦艇で、獨逸は之を相當多數現有又は建造中であるが其詳細は不明である。此の對英逆封鎖の水域は(ブルターニユ半島南岸)を起點として西南に進んで北緯四十五度、西經二十度の邊に至り、この點(ノルウエー、ベルゲン北方沖)より南行ベルギー海岸に達し、更にフランス海岸を走つて起點に歸る線を以て劃された全水域を含む。

伊太利

イタリア海軍の目的はその地理的位... 人口の稠密及び重要資源たる鐵、石炭、石油等の大部分を海外に仰がなくてはならない弱點があるため精緻なる空軍の威力と相俟つてその海軍力を以て(イ)アドリア海の絶對的制海權、(ロ)地中海の制海權の掌握、(ハ)本國とリビア(引いては伊領東アフリカ)および多島海屬領諸島との連絡の確保を期するにあり、

しかし従來は必然的に佛國と均等なる海軍力を保有することをその根本方針となしたが、エチオピア遠征に際し、英佛、殊に英國海軍と對峙して衝突開戦の危機に直面して以來、英國地中海海軍力と對峙するを目標とするに至つた、蓋し伊英兩國の地中海爭覇戦は兩國にとつて宿命的なものであり、エチオピア攻略を機としてイタリアが地中海を益々自國の生命線とするに至つた以上、一方同じく地中海を重大な

る交通路とする英國との間には將來とも到底兩雄並び立たざるの關係に立つよりないからである。

而して昭和十五年一月に於ける同國海軍の現有兵力及建艦状態は次の如くである。

Table with columns: 艦種, 區別, 現有兵力 (隻数, 噸数), 建造中 (隻数, 噸数). Rows include 主力母艦, 航空母艦, 甲級巡洋艦, 乙級巡洋艦, 驅逐艦, 潜水艦, 合計.

(註)(一) 昭和十四年中に竣工として計上せるものは推定を含む。

本年六月十日参戦後の伊海軍行動は別記の通りであるが、之を概括すると前述の如く其の優勢なる空軍を以て、連續數回マルタ、アレキサンドリア、ジブラルタル等の英海軍根據地に爆撃

を行ひ、又北阿佛領各地を海上より砲撃し、コルシカ島に上陸作戦を企圖する等地中海各方面に互り活動を試みて居るが、海戦としては、七月九日イオニア海に於て英側戰艦三隻、巡洋以下多數と伊側主力艦二隻巡洋艦數隻との間に遭遇戦が行はれたが、兩國側共に其發表區々で其真相は不明である。

伊海軍近況

(一九四〇年九月)

伊國の艦隊は左の艦艇より成る。

- 戰艦 六隻 一六五、二四四噸
重巡洋艦 七隻 七〇、〇〇〇噸
裝甲巡洋艦 一隻 九、二二二噸
輕巡洋艦 一四隻 八〇、九二〇噸
驅逐艦 六二隻 八五、七〇三噸
水雷艇 六五隻 四四、三八〇噸
潜水艦 二八隻 八三、四〇〇噸
航空母艦 一隻 四、八八〇噸
合計

二七四隻 總噸數五四三、七五九
上記第一級の艦の他に、機雷敷設艦、砲艦・電動魚雷艇・掃海艇等三五〇隻 總噸數二二〇、〇〇〇がある。なほ、非常に多數の商船が補助巡洋艦に假裝されてゐる。

基地左の如し。
基地IIラ・スベシア、ネーブルス、タレント、ヴェニス、プリンディシ、ボラ、メツシナ、カステラマレ・ディ、

スタビア。

補助基地(第一級)IIジエノア、トリエスト、オーガスタ(シシリ)、レグホルン、フィウメ。

補助基地(第二級)II伊本國に於けるものIカリヤリ、パレルモ、メンテレリア。

植民地に於けるものIローツ、レロス、トリポリ、マツシユア。

補助基地(第三級)II伊本國に於て最重要なるものIサヴォナ・ラ・マツダレナ(サルヂニア)、ガエタ、チヴィタヴェツキア、シラクユニス並にトラパニ(シシリ島)、バリ、アンコナ、サラ(ダルマチア)。植民地に於けるものIベンガジ、トブルク(リビア)、アツサブ、モガディツシオ、チシマイオ(伊領東アフリカ)。

新鋭を誇る主力艦リツトリオ

(レヴィスタ・デ・マリナ)
(一九四〇年一月二月號)

戦艦リツトリオが其の乗組員の居住

部及び慰安に對して有する快適なる設備は、最新式なものであり、細別すればトキー映畫室・浴場・灌水浴・酒場・休憩室・圖書室・遊戯室・電動製パン所・蒸氣洗濯所等に分れてゐる。大砲の射程は四八、〇〇〇碼、一五吋砲彈の重量二、二〇五封度、各砲塔の重量一、六〇〇噸であり、重要な各位置は裝甲を施してある。該艦の建造費は十億リラである。

○世界列強の海軍力

(一九四一年一月一日現在)

Table with columns: 英帝國, 建造済, 建造中, 合計. Rows include 戰艦, 航空母艦, 巡洋艦, 驅逐艦, 潜水艦, 總計.

日	英	米	國名
摩	エ	ウ	艦
耶	キ	イ	名
一	ゼ	チ	基準排水量
耶	タ	タ	軸馬力
			速力
			砲
			雷

列國最新甲級巡洋艦

獨	伊	佛	米	英	國名
不	リ	ス	ノ	ト	艦名
シャルンホルスト	リットリ	ストラスブルグ	ノースカロライナ	トング・ジョージ	艦名
明ト	オ	グ	イナ	五世	基準排水量
三五、〇〇〇	三五、〇〇〇	三五、〇〇〇	三五、〇〇〇	三五、〇〇〇	軸馬力
					速力
					主砲
四二八	三八	三三〇	四〇	三十六	砲
八門	九門	八門	八門	十二門	雷

列國最新主力艦

巡	航	戰	總	潛	水	驅	巡	航	戰	總	潛	水	驅	巡	航	戰
艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦	艦
八	一	三	シ	一	一	四	イ	二	二	二	二	二	二	二	二	二
八	一	三	ヤ	八	三	〇	ツ	四	〇	九	四	〇	〇	〇	〇	〇
?	二	〇		一	一	?		四	二	二	二	二	二	二	二	二
八	三	三		三	三	四		二	一	一	一	一	一	一	一	一

戰	航	巡	驅	潛	總
艦	艦	艦	艦	艦	艦
日	日	日	日	日	日
獨	獨	獨	獨	獨	獨
伊	伊	伊	伊	伊	伊
一	一	一	一	一	一
〇	〇	〇	〇	〇	〇
五	九	三	七	六	五
八	〇	五	四	二	七
一	八	九	一	一	三
八	五	一	八	二	二

○日獨伊對米海軍主力艦勢力比較表
 (米國ノックス長官發表)
 (一) 一九四一年一月現在に於る噸數比較表、米國一、二五〇、〇〇〇噸、獨伊合同勢力八五〇、〇〇〇噸、日獨伊佛合同勢力二、一四五、〇〇〇噸。
 (二) 一九四一年一月、一九四二年一月、一九四三年一月に於ける米國と日獨伊三國との各艦種別隻數比較表

國名	水上機母艦比較一覽												
	獨	佛	米					英					
艦名	グラフツエツペリン	ビエールン	ワ	エンタープライズ	ヨークタウン	レインジャー	サラトガ	レキシントン	ラングレイ	アイグ	カレチア	グロリア	アークローヤル
排水量	一九、二五〇	二二、一四六	一四、七〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一四、五〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	一一、五〇〇	二二、六〇〇	二二、五〇〇	二二、五〇〇	二二、〇〇〇
速力													
搭載機數	三〇	二一・五	三四	三四	二九・五	三三・五	三三・五	一五・〇	二七・〇	三〇・五	三〇・五	二四・〇	
記		六八 一七五 五五	?	?	八一	一二 二〇 五〇	二八 二〇 五〇	四 一三 〇		一六 一一 〇	一六 一一 〇	五九 一〇五 〇〇	
事		四〇	五〇	一五〇	一五〇	七九	九〇	九〇	三四	七〇	五二	五二	二二

國名	列國最新乙級巡洋艦					
	獨	伊	佛	米	英	日
艦名	ニユルンベルヒ	ガリバルチ	グラアラ	ブルックリン	マンチエスタ	最上
基準排水量	七、〇〇〇	八、八七四	七、〇〇〇	一〇、〇〇〇	九、〇〇〇	八、五〇〇
軸馬力	七二、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇		一〇〇、〇〇〇	七五、〇〇〇	
速力	三二	三五		三五	三三	三三
砲兵	八九六〇	六五八二八五		六五八二八五	八二八五	八二八五
搭載機	九五〇五	〇五二五二五		〇五二五二五	〇五二五	七五
雷	一二				八	一二

獨	伊
ユ	ペ
1	1
1	1
250	5915
1	1
1	1
1300	14780
70	8855
1	1
3	68

列國海軍既成艦艇概要 (基準排水量)

昭和十四年九月三十日調

艦種	國別	主力艦		航空母艦	巡洋艦		駆逐艦
		戦艦	戦艦		A級	B級	
戦艦	日本	22	9	1	11	11	11
戦艦	米	1	1	1	1	1	1
戦艦	英	1	1	1	1	1	1
戦艦	佛	1	1	1	1	1	1
戦艦	伊	1	1	1	1	1	1
戦艦	獨	1	1	1	1	1	1
戦艦	「ソ」	1	1	1	1	1	1
戦艦	支那	1	1	1	1	1	1
航空母艦	日本	1	1	1	1	1	1
航空母艦	米	1	1	1	1	1	1
航空母艦	英	1	1	1	1	1	1
航空母艦	佛	1	1	1	1	1	1
航空母艦	伊	1	1	1	1	1	1
航空母艦	獨	1	1	1	1	1	1
航空母艦	「ソ」	1	1	1	1	1	1
航空母艦	支那	1	1	1	1	1	1
巡洋艦	日本	1	1	1	1	1	1
巡洋艦	米	1	1	1	1	1	1
巡洋艦	英	1	1	1	1	1	1
巡洋艦	佛	1	1	1	1	1	1
巡洋艦	伊	1	1	1	1	1	1
巡洋艦	獨	1	1	1	1	1	1
巡洋艦	「ソ」	1	1	1	1	1	1
巡洋艦	支那	1	1	1	1	1	1
駆逐艦	日本	1	1	1	1	1	1
駆逐艦	米	1	1	1	1	1	1
駆逐艦	英	1	1	1	1	1	1
駆逐艦	佛	1	1	1	1	1	1
駆逐艦	伊	1	1	1	1	1	1
駆逐艦	獨	1	1	1	1	1	1
駆逐艦	「ソ」	1	1	1	1	1	1
駆逐艦	支那	1	1	1	1	1	1

艦種	計	合
潜水艦	91	91
潜水艦	21	21
潜水艦	27	27
潜水艦	29	29
潜水艦	170	170
潜水艦	11	11

- 一、△は水上機母艦を示す
- 二、米國には本表に示せる以外に掃海艦として補助航空母艦として使用中のもの十隻あり
- 三、米驅逐艦中には輕敷設艦四隻、四、六四〇噸を含む
- 四、「ソ」聯邦航空母艦は其の存在疑問なり

歐洲戦争による交戦國の被害 (海軍省海軍軍事情報部発表)

自昭和一五・四・九
至同 五・九

主力艦	英側		獨側	
	喪失	大破	喪失	大破
英發表	111回	111回	111回	111回
獨發表	111回	111回	111回	111回

備考	飛行機	計	艦其他	運送船	空母	潜	驅
佛艦隊運送艦一隻沈没	33	14	5	11	3	5	5
(内數字は加害回數を示す)	33	14	5	11	3	5	5
	33	14	5	11	3	5	5

二、白蘭作戦における被害(英獨兩軍発表)

(自五月十日
至六月四日)

備考	飛行機	計	運送船	商船	その他	英側		獨側	
						喪失	大破	喪失	大破
佛艦七隻給油艦一隻沈没	110 聯合軍	101	六	六	二	一	一	一	一
	約1,000				二	一	一	一	一
	約11,000				二	一	一	一	一

三、北歐戦における英の被害(英発表)

潜水艦	小艦艇	驅逐艦	巡洋艦	北歐作戦開始より五月末日迄の英の被害
三乃至四	約一三	五	二	同上中空爆によるもの
				一は空爆の結果(坐礁と思はる)
				砲火その他によるもの

歐洲戦亂概要 第二篇

作戦第二年度

(昭和十五年—十六年)

其一、オラン港及ダカール沖の小戦

其二、バルカン戦線

ルーマニア、ブルガリア進駐、ユーゴー参戦、英希軍敗退、クレタ島攻略

其三、獨ソ戦線

六月二十二日開戦より十二月七日休戦宣言迄の日曆及主要戦闘

其四、海上作戦

概況、地中海上伊英角逐、北大西洋ビスマルク號勇戦

其五、其他の戦況

アフリカ、西アジア

其一、オラン港及ダカール沖の小戦

フランス屈伏後の英佛關係は頗るデリケートであつて、獨軍非占領地帯を治むるヴィシイ政府の對獨關係及米國關係も一時甚だ複雑を極めフランスは首鼠兩端の状態を續けて居た。

フランスが此の如き曖昧なる態度を取るのには、政府當局及人民の優柔不斷によるとは云へ、一方又目下の同國の立場として恕すべき點も無いではないが、此のフランスに對し躍起となつて陰に陽に之に働きかけ時に壓迫を加へて居たのは英國である。

即ち元フランス軍司令官たりしドゴール將軍の亡命を容れて之に援助を與へ、所謂ドゴール政權を支持して飽く迄フランスの對獨戰爭繼續を宣傳せしめて居た。

英國が更に重大關心を有するのは、フランス海軍特に其の艦艇であつて、たとひ世界第四位以下のフランス海軍

であつたと云へ、之が獨側に利用せらるゝのは正に英國にとり一大危機の招來と云はねばならぬ。

此の如き狀勢下に於て、各地に分散して居たフランス海軍の中埃及アレキサンドリアの佛主力艦一隻巡洋艦一隻は武装解除の後英海軍に接收せられ、又本國方面にあつた主力艦二隻、輕巡二隻、驅逐艦八隻其他總計二百餘隻は英國の各地軍港に遁入中英國に接收せられた。而して英國は獨佛休戰協定中に「將來其の海軍を對英攻撃に使用せず」との誓約を楯とし、其誓約に不信なりとして、更に右以外のフランス艦艇を押收せんとし茲に惹起せられたのがオラン港の海戦とダカールの戦闘である。

一、オラン港の海戦

オラン港は佛領北アフリカのアルゼリアの地中海岸でジブラルタルに近い方に在る軍港である。

昭和十五年七月六日英國海軍は突如其港口に現はれ先づ其の港口に磁氣機

雷を配して之を封鎖したる後、港内の佛國艦隊司令官に對し無條件降伏か自沈を要求し六時間内に其態度明示を要求した。其の回答時限が終るや終らぬ中に佛司令官の拒絶があり、英艦隊は午後五時四十分一齊に砲門を開き、全く突風の如く此の海戦は始められた。

行動の自由を奪はれた上、其汽艦さへ完全に動いて居なかつた佛艦は、忽ち苦戦に陥り主力艦ブルターニュ(二二、一八九噸)は爆沈、同じく主力艦ダンケルク(二六、五〇〇噸)プロヴワンス(二二、一八九噸)は大損傷を蒙つたが、主力艦ストラスブール(二六、五〇〇噸)のみは脱出に成功して本國ツィロン軍港に入り、他に驅逐艦數隻其他若干の小艦も脱出したのである。

更に同八日ダカール港の佛新鋭主力艦リシュリユー號も英國の魚雷及空雷により撃沈せられた、更に同年九月アフリカダカールに於て兩國間に交争が行はれたことは次の如くである。

二、ダカール砲撃及ジブラルタル報

復空襲

昭和十五年九月二十三日早朝、英國主力艦一隻、航空母艦一隻、巡洋艦四隻及驅逐艦五隻より成る一艦隊は商船六隻を従へて、アフリカ西端ヴェルデ岬に近い佛領ダカール港外に現はれ、同地の佛國官憲に對し在ロンドンのドゴール政權への歸屬を命じたが、拒絶されたので、直に砲撃を開始し、此砲撃は二十四日から二十五日迄続けられたが、更に同港西北のリユフィスク海岸に前後六回に亘り上陸を企圖したが之は守備兵の爲め撃退せられ、結局英國側は何等得る處なく同地より撤退し唯一時世界を驚かせ佛國の憤怒を買つたに過ぎぬ結果に終つた。尙此英國艦隊にはドゴール將軍が乗船して居たと傳へられる。

此戰闘に於てダカールでは無電局其他に損害を受け佛潜水艦一隻は撃沈されたが、佛機の爲め英機三機が撃墜されて居る。

又英國の此の海賊的暴撃に憤激した

佛側は其の報復として、二十四日百二十機の佛爆撃機の編隊はジブラルタルを襲撃し午後零時半から約三時間に亘つて集中爆撃を加へ相當の損害を與へかくして此係争は一時終つたのであつた。

ダカールは佛領セネガルに在つてサハラ砂漠を含む廣大なフランス領西アフリカ總督の所在地であり、此方面フランス海軍の根據地であり、之より鐵道は奥地にも通じて居る。

それよりも此地は喜望峯迂回の船舶にとつては、其位置がアフリカ西端のヴェルデ岬の直ぐ傍なので重要な寄港地であり、更に南米大陸と最短距離になることは、從來屢々連絡飛行の目標とせられ、先年伊國航空隊の南米訪問大飛行も此地を経て決行せられた。其他南米大陸への水底電線も此地を經由する等、從來より獨伊樞軸が此地を足溜りとして南米工作に乗り出すと云ふ風説も、英國が此の如き暴撃に出た一理由であらふ。

一、本戰以前の情況

バルカン戰の前驅をなすものは遠くは昭和十五年十月の伊希開戦であり、近くは獨軍のルーマニア進駐(同年十二月)及ブルガリア進駐(十六年三月)である。

其二、バルカン戰線

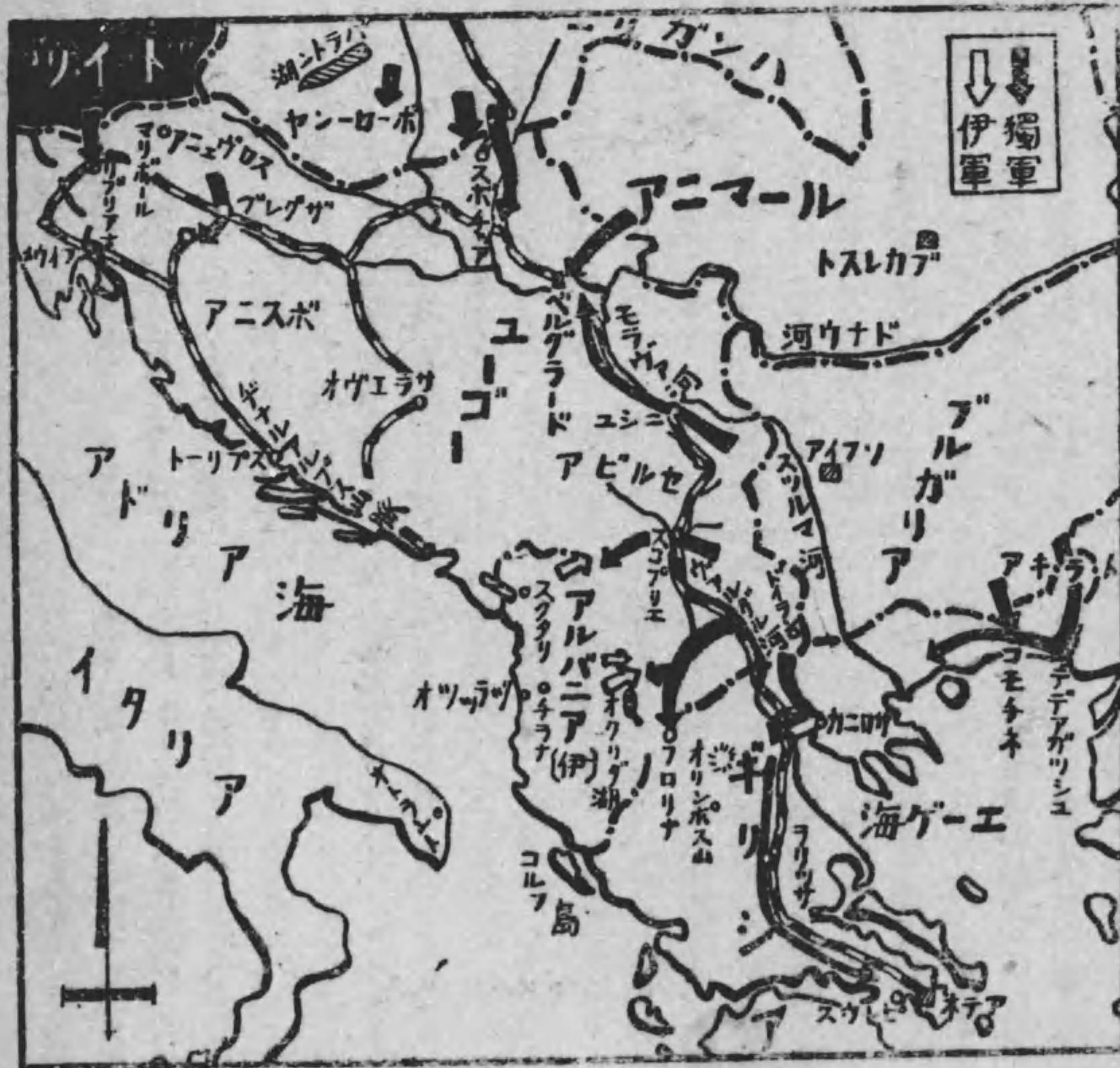
昭和十五年十月二十六日伊國はギリシア人の武装團體がアルバニア國境警備兵を攻撃したる事件に關し希國に最後通牒を發し其期限満了する十二月二十八日希境内に進攻した。

之に對し希軍も抗戦し、英軍亦ギリシア半島の西側ケファロニア港に上陸したと傳へられ、かくてバルカンに於ける樞軸國對英希の第一戰が始められた。

爾後此の戰闘状態は、昭和十六年新春に持ち越されたのであるが、アルバニア、ギリシア國境は有名な峻峻山地であり、戰況進捗せずして一進一退の状況であつた。

此間、ヒットラー、ムツソリニーのブレンネル峰會談あり、又獨伊軍事主

腦者の往來頻々であつたが、獨軍は十二月下旬ルーマニア進駐を開始した。



即ち第一回到約三十萬、後續約三十萬の獨軍は續々ルーマニアに進駐した。之に對し獨ソ間には如何なる了解があつたかは判然しないが、少くもソ聯が之に對し釋然たらざるものありしは覆ふべからざる事實で、之につぐブルガリア進駐、獨ソ開戦は既に此頃より胚胎せられてゐたと見るべく、而して獨軍のブルガリア進駐は三月一日を以て決行せられ、同日ブルガリアは日獨伊三國同盟に加入調印をしたのであつた。ブルガリアに進駐の獨軍の兵力は十二乃至十五師團兵數十八萬乃至二十三萬と云はれた。

以上を戰略的に見ると、ルーマニア進駐には獨軍の石油資源獲得と云ふ准戰略的目的があり、ブルガリア進駐はトルコを経て地中海を越へスエズに威壓を加ふる純戰略的企圖があるとも見られるであらう。

此間ユーゴスラヴィアは獨り残されて孤立ドイツに對抗の態度を持して居たが、其陰にあつて糸を引いてゐた

此の頃からユ軍側は獨逸に休戦を申し入れたがドイツは無條件降伏を建前として居るので實現を見るに至らず、此間セルヴィアの首都にして歴史的地點であり、現ユ軍の残存大據點でもあつたサラエヴォは十六日陥落し、既に戰意を喪へる敗殘守兵數千は武器を投じて降つた。かくなりては最早や如何ともなし難く、これ以上の抵抗の無意義を知つたセルヴィア第二軍司令官は麾下の全軍と共に投降したが、獨逸當局は同日セルヴィア全軍粉砕か投降までは兵火を緩めずとて、休戦などは不信のユーゴ(實は最早獨逸はユーゴとは云はずセルヴィアと稱して居た)として烏澁がましき沙汰である、との決意を表明したので、殘存ユ軍司令官も已むなく十七日、全面的無條件降伏を申出で、戰爭漸く解決を告げた次第である。

上述ユーゴ軍の慘敗が當然ギリシア戰線に至大の影響を及ぼした事は言を俟たぬ所で、さなきだに獨軍の猛勢

のは云ふまでもなく英國であつたが、ドイツの實力の前には敵しようもなく三月末一旦三國同盟に入つたが、英國の魔手は翌二十六日の政變となり手を譲すように對獨斷交をしたかと思ふと忽ち獨伊軍電撃の前に、あへなく降伏之に連なるギリシアも席捲せられたこと後述の如くであるが、其戰闘經過を記すと實に次の如くである。

二、戰闘經過概要

獨軍は四月六日早朝左方はトラキア及びマセドニアの兩方面よりギリシアに侵入すると共にブルガリア、ルーマニア兩國境より一齊にユーゴ領に進撃し、殊にブルガリアより進んだリスト元帥麾下の機甲兵團及び歩兵數箇師團は、困難なる山岳地帯を征服してヴァルダル河を渡河し、又ギリシア方面の獨逸山岳師團並に歩兵師團は急降下爆撃機隊と呼應してギリシアのマデノ線たるメタクサス、ラインを突破し、ユーゴ軍と英希聯合軍とを中斷するに成功した。而して南下の獨軍が左に

折れて八日ユ國中南部の大據點スコプリエを占領した事は、九日對希軍のサラロニカ奪取と共にユ希軍への大打撃であつて、同時に北方に於てはクロアチアの首府ザグレブも奪はれ、一方アルバニアより活動を起せる伊太利軍も隨所に敵を撃破して九日獨伊兩軍の連絡が成り、ユーゴ軍は北佛戰線に於ける英佛軍の如く友軍と斷ち切られて北方へ追ひ立てられ、此の事は同時に英希軍の左翼を著しく脅威する事となり大勢は九日を以て決したのであつた。

此の後の獨逸對ユ作戦は所謂掃蕩戰程度であつて、統一を失へるユーゴ軍は個々別々の軍團又は師團が抵抗を試みるのみで、總軍結束してすら勝味無いのに、各個撃破の姿勢となつては問題とならず、即ち十二日首都ベルグラードは獨軍の突入を受けクライスト將軍麾下の獨軍機械化部隊は續いて堂堂入城して茲に第十三番目の首都占領が實現し、ユ軍主力部隊は完全に潰滅せられ敗殘部隊は山中に遁入した。

を支へ兼ね、所在の要地を奪はれつゝあつたギリシア軍は、忽ちアテネ方面の半島地帯に追ひ込められ、行動を共にしつゝある英國遠征軍と共に生死の境を彷徨した。即ち四月六日ユーゴの對獨軍事行動開始と共にギリシア軍はトラキア及び東部マセドニアの獨軍と衝突したが、獨軍は東トラキア方面及びスツルマ谷方面に希軍を牽制しつゝリスト元帥麾下の機械化大兵團は其の西方ヴァルダル谷より一擧に南下し、右方ユエスコプリエ方面にてユーゴ軍を撃破しつゝ南正面に築かれた所謂メタクサス線のトーチカ堅陣を突破し、潮の如くサラロニカに雪崩れ込んだのであつた。此の方面は人工防備に加ふるに險路惡土で自然の要害をなして居り、ギリシア側も深く之に恃む所あつたのであるが、獨軍の猛攻は斯かる障害を問題とせず、急降下爆撃機と火焰發射機は忽ちトーチカを粉砕し輕戰軍團は其の後を躡進して希軍に立直る隙を與へず之を袋の鼠とした。

此の方面には英國近東軍が夙くから上陸して守備を固めて居り、彼等は希軍を前に押立て督戰的地位にあつて直接には獨軍と交戦せずに居たのである。サラロニカ喪失後次第に後退したギリシア軍は英軍と共に北テッサリアの線に於て踏留まつて獨軍の進攻を防がんとし、殊に英軍は中部ギリシアのオリン波斯山周邊の堅固なる防禦陣地を恃みに之れを據點として半島の頭部に最後の守備線を布いたが、何よりも英軍の撃滅を念願する獨軍は、此のオリン波斯山を迂回して英希聯合軍の主力線に例の強力なる楔を打込み、四月十九日同方面の交通の要衝ラリツサを占領し、更に總崩れの英希軍に優勢なる空軍を以て大爆撃を加へ、續いてオリン波斯山の天嶮を突破して、山頂高くハークンクローイツ旗を掲げた。一方伊太利軍はアルバニアに侵入中の希軍を撃退し、國境を越えて希領に進撃し、希軍の左翼を壓迫した。これにて大勢は決し、以後は追撃、殲滅の一方的戰闘

と化し、獨軍は潮の如くテッサリア平原を南下し、二十二日にはラミア、ヤニナ等の要衝を奪取し、ラリッサ南方の要港にして英軍の脱出乗船地の一とされて居たヴォロス港をも占領した。これより先きギリシア北部のマセドニア及び西北部のエピルス地区の希軍は取残されて死線を彷徨し早晚全滅の運命にあつたが、二十二日夜に至り獨伊兩軍司令部に對し無條件降伏を申出で翌二十三日サロニカにて之が取極に調印した。

此の降伏希軍は約十二箇師團二十萬程の兵力と云はれたが、獨軍の前正面に位する希中央軍は英軍の退却掩護の形で奮戦し、古戰場テルモピレ峠の峻に據つて頑強に抵抗したけれども之は單に抵抗の爲めの抵抗に過ぎず、大勢には何の影響もないものである上に、獨機甲部隊の突進と急降下爆撃機の猛烈の前には徒らに死傷を増す以上の何物にも値せず、間もなく之をも突破せられ、英希軍は全く算を亂してアテ

ネ方面に敗走した。アテネに於ては國王並に政府は二十三日早くもクレタ島に亡命して居り、守備兵も戦意沮喪して居たから、之が蹂躪は獨軍として一撃手一投足の勢に過ぎなかつたけれども、全市歴史的記念物たる同市を破壊するを恐れ、殊に獨軍の狙ふ所は英軍の捕捉であるから之れに向つて主力を注ぎ、ピレウス港其の他所在の港灣海邊より先を争うて乗船脱出せんとする英軍及び輸送船隊に向つて空爆を連続し、又アテネ郊外に於けるギリシア殿軍部隊に一撃を加へた。かくて凡ての豫定行動成るを待ち二十七日朝獨軍は堂々アテネに入城し、市内に於て一兵を軋らさずして第十四番目の首都進駐を行つた。

三、クレタ島攻略

グライダー落下傘部隊の活躍

希本土より驅逐せられた英希軍は多島海中のクレタ島に退却し、スエズ運河の前進基地として同島を保持しあはよくば希本土に捲土重來恢復を圖つた

のであるが、之亦日ならずして獨伊軍に猛攻せられ惨敗を喫したこと次の如くである。獨軍は五月十五日以後、有力なる空軍編隊を以て數次クレタ島に大爆撃を加へたが、間もなく二十日の朝大編隊による大爆撃に次いで空輸部隊はクレタ島北西部に殺到し、落下傘によつて續々スーダ灣附近に着陸し、續いて輸送用グライダーをも無數に用ひて一擧に三千名をマレミ飛行場附近に降下せしめた。

飛行機の急降下爆撃は優に重砲隊の役目を勤めて英陣地を破砕する上に、獨輸送機はパラシュート三個を使用して砲一門宛を下降せしめ順次に砲兵隊を構成した。

二十二日マレミ飛行場は完全に獨軍に占領され、二十三日之れに對する英の反撃は幾分手答はあつたが、間もなく優勢なる獨増援隊の着陸と、獨機甲機の低空機銃掃射に壓せられ、西部地區は三日間に於て全く獨軍に確保せら

れた。

次いで二十五日の獨公報は獨軍大増援部隊が着陸した事を報じたが同日獨伊兩軍は海上より伊國艦隊の護衛下に敵前上陸を企てた。獨軍は中部ヘラクリオン近郊まで迫り、又北西部スーダ灣に攻撃を集中してゐたが、二十八日新銳の獨逸山岳部隊は北部にある島首都カネアに突入し之れを占領した。これが爲め英軍は更に後方へ退却を餘儀なくされ、戦局は此日を以て峠を越し以後は追撃戦、整理戦となり全く一方的戦鬪と化した。之れより英軍は又しても脱出に浮身をやつす事となつたが北岸地方は獨軍の勢力圏で、又南岸は絶壁の爲め船舶の近づく餘地なく、假に近づくも獨空軍の餌食となるのみで旁々海空軍の掩護を受け得ざる英軍はダンケルク以上の苦難を味はされたのである。此のカネア陥落の二十八日有力なる伊軍陸軍部隊は島の東部地方に上陸して英軍の側背を脅したが、同日獨軍は勝に乗じて北海岸の主要地帯ス

ーダ灣一帯を完全に手中に握り、續いて二十九日には中部の要衝ヘラクリオン(カンチア)を其の港灣施設並に飛行場と共に完全に占領更に三十日英軍の殿軍を撃破し敗走するを追うて殘されたる唯一の要衝レチモを奪取し、英軍多數を捕虜とした。三十一日敗殘英軍の掃蕩進捗し、南岸イエラペトラにて獨伊兩軍の連絡が成り、クレタ作戦は樞軸側の完勝に歸し、六月一日英希軍最後の據點にして南岸に於ける唯一の港灣スファキア港は急迫せる獨軍の手中に落ち、ギリシャ戦に於けるペロポネリス半島南部に於ける場合の如く、海上を望みつゝ逃げ遅れたる英兵三千は其儘捕虜となり、これにてクレタ全島獨伊軍の手に歸した。かくしてクレタ上陸作戦は「攻略不可能の島、獨逸軍の前に存在せず」とのゲーリング元帥の意味深長の傲語を其儘是認せざるを得ざる如き形態にて終局を告げたのである。尙本戦鬪に活躍したグライダー落下

傘部隊については本年鑑別項「航空」之部に詳記してある。

○イラン、イラク、シリア方面 (他其一)

バルカン及北阿戦線の活躍、獨ソ開戦に伴ひ西アジア方面に戦線が擴大した。

其の一は佛の崩壊に伴ふ英及ドゴール政權のシリア進入でバルカン大敗におびえた英國は昨年五月大なる抵抗を受くることなく同地を其手に收めた。

之に前後して英國は其東方のイラクに手を延ばし之に對するイラク國民の反英熱も熾烈を極め五月二日開戦となり全回教國民一齊に起つかと思はれたが時機尙早で五月末屈伏の悲運となつた。

モスール其他の油田と樞軸軍のイラン方面への進出關心は當然イランも戦渦中に捲き込まれ英の壓迫は一時盛んであつた獨勢力を驅逐しソ聯又英と共同してイランを南北より狭撃して九月十七日英軍はテヘランへ進入ソ軍又タブリーズを占領、イランもついに屈伏の餘儀なきに到つた。

レンベルグの前面よりノヴォグラード・ヴォリンスク附近を経てキエフに向ひドニエストル河東北方へと進撃した。以上第三週一杯を以てスターリン線に取りついで之れに喰ひ込み、或る部分では之れを突破した獨軍は、機甲部隊の補給基地がスターリン線間近まで前進を了するや、第四週劈頭より忽ちスターリン線背後は、中原の野を目ざして其の楔を突出し、心臓部莫斯科に向つて三方面から大包圍の手を擡げたのである。莫斯科に對する攻め口としては古來三つの門があると言はれた。北方バイブス湖方面からレニングラードを経て南下するもの、中央デユナ、ドニエプル兩河間のグイテプスクよりスモレンスクを貫いて一路直進するもの、南方キエフを制して之れよりウクライナ平原を北上するもの、是れであつて、ナポレオンは此の中央の道を選びグイテプスクの門よりスモレンスクに進出し、以後坦々たる莫斯科一公路、所謂ナポレオン街道を進んだ

ものであつたが、他の二つ、北と南の門を取ることを怠つた爲めロシア軍の側面運動を抑ふる能はず、其の華々しき遠征は龍頭蛇尾の失敗に終つたのだとされて居る。然るに今次の獨軍の作戦は此の三つの門を完全に押へ、然も空軍を以てソ軍の後方連絡を破壊して其の作戦遂行を不能ならしめ、ソ軍の線を數箇に切斷して之れを個々の鐵環内に取入れ大量捕獲を計つて居る。但し此の三つの門の内、獨軍が目下最も大兵力を集中して居るのは矢張り中央の地區でミンスク、グイテプスク地區から所謂鉄狀に突出した獨軍の二大縱隊は第四週の初め早くもスモレンスクに迫り、十六日同要塞に突入し之れを占領した。と同時に北方地區に於てはレニングラード前面の要害イルメン湖に出で、十六日其の北側の據點ノヴォゴロッドを占領し、十八日にはレニングラード附近を奇襲攻撃し飛行場を占領した。更に南方に於いては十五日夜キエフ近郊まで肉薄し、同市西方にて強

力なる赤軍部隊を撃滅した。
一三日 獨軍ミンスク東方二百軒の地點に到達。獨軍グイテプスク占領。獨軍スターリン線百軒突破。ブスコフ方面激戦展開。
一四日 芬軍ラドガ湖兩側より攻撃六〇軒前進。モスクワ街道、レニングラード街道方面に大激戦展開。
一五日 英首相下院に於て英蘇は同盟國なる旨聲明。ブスコフ、ポルコフグイテプスク方面大激戦續く。米紙蘇聯政府のク市遷都準備開始を報ず。獨軍先鋒キエフ市に突入。獨軍車部隊レニングラード南方一六〇軒に迫る。
獨軍南方方面に於てスターリン線突破。
一六日 獨軍ノヴォゴロッド占領。
一七日 獨軍キシネフ、ポロツク占領。
一八日 獨軍スモレンスク占領。
一九日 南部戦線で獨羅聯合軍ドニエストル河渡河。

- 二〇日 レニングラード周邊に激戦展開。
- 二一日 スモレンスク東方に激戦續く。獨空軍夜間モスクワ初空襲。
- 二二日 獨空軍大擧モスクワ空襲、バルト海東部に於て獨蘇海戦行はる。
- 二三日 ウクライナ戦線獨羅洪聯合軍蘇軍追撃中。獨機三九撃墜を蘇聯發表。
- 二四日 ネヴェリ附近蘇軍二萬捕はる。
- 二五日 獨機モスクワ連爆。
- 二七日 獨急進部隊レニングラード四〇軒に迫る。
- 二八日 モギレフ地區蘇軍一萬二千捕虜となる。芬蘭對英國交斷絶。
- 二九日 南部戦線の獨軍スターリン線突破。獨空軍數百機モスクワ猛爆。
- 八・一日 スモレンスク南方にて大激戦の結果蘇軍三萬五千捕虜となる。
- 二日 獨空軍モスクワ空襲。
- 四日 ホルム、スモレンスク地區激戦中。
- 五日 獨機モスクワ連爆、獨軍ホルム

ベイヤ・ツェルコフの二都市占領。
獨總統大本營八月八日特別發表によれば、ルンドシュテット元帥麾下の獨軍部隊はレウ上級大將指揮の空軍部隊と協力して、ウクライナに於て大包圍戦を遂行中であつたが、赤軍の損害は甚大で八日迄の概算でも二十萬名以上上つたといふ。翌九日獨軍司令部は當日を以て終る一週間の東部戦線に於ける戦果を多數の特別コンミュニケの形式を以て發表したが、之に依れば、スモレンスク方面の戦闘は長期の激闘の結果遂に獨軍の完勝に歸し、七月二十二日以来獨機は毎夜モスクワを空襲、重要軍事施設を有効に爆撃し多大の損害を與へたといふ。蘇聯情報局は八月十三日夜、蘇聯軍がスモレンスクを數日前放棄したる旨發表した。
獨軍司令部八月十四日發表に依れば獨軍先鋒快速部隊は十三日以来ブグ河下流東方に進出、ウクライナ最大の鐵礦及び冶金工業中心地たるクリウオイ

ログに對し熾烈な攻撃を開始、十四日午後遂に同市を占領した。十八日、赤軍司令部はニコラエフ及びクリウオイログの二都市放棄を承認した。なほ蘇聯政府は「十六日モスクワに於て英蘇通商協定成立し、之が調印を了した」旨發表した。
獨軍司令部八月十九日正午特別發表に依ると、南部ウクライナ戦線に於て獨・伊・羅・洪聯合軍は緊密な協同作戦の下に追撃戦を行つた結果、ドニエプル河西部地域全部(ウクライナ)を樞軸側の手中に收めるに到つた。
總統大本營八月二十一日發表に依れば、南部戦線の獨軍部隊はドニエプル河口に向け進撃を續け、要衝ヘルソンを占領、また北部戦線の獨軍部隊はナルヴァ並にノヴォゴロッドを占領、獨軍は要衝キングダイセツプを占領した。二十五日、蘇聯情報局は蘇聯軍がノヴォゴロッドを撤退せる旨發表した。獨軍司令部二十六日發表に依るとフォン、クライスト將軍麾下の機甲部隊は二十五日ドニ

エブル河中流西岸最大の要衝であるドニエプル發電所の所在地下ニエプロベトロフスク市を占領した。なほ、要衝ルガを占領せる旨、同日獨軍司令部は發表した。獨軍司令部二十七日發表に依れば、獨空軍はモスクワ西方及びレニングラード地區の鐵道交通線を破壊し多大の効果を収めたといふ。

ハンガリア軍當局八月二十七日發表は、ウクライナ戰線の獨・共聯合軍は數箇所の地點に於てドニエブル河下流の渡河作戦に成功した。

六日 スモレンスク地區戰綫に獨軍大勝蘇軍捕虜三一萬、鹵獲又は破壊戰車三二〇五臺、飛行機一〇九八機、砲三二二〇門、七月十二日以後の東部戰々果、蘇軍捕虜八九萬五千、破壊又は鹵獲戰車一三三四五臺、砲一〇三八八門、飛行機九〇八二機。ウオロシロフ蘇元帥焦土戰術を強調。

七日 獨南部戰綫にて蘇軍四〇箇師包圍。

八日 南部戰綫の戰果、蘇軍捕虜十萬

二千、鹵獲裝甲自動車三一七臺、砲八五八臺、トラック五二五八臺、列車多數。

九日 蘇機ベルリン初空襲。

一〇日 プリベツト濕地帶要衝コロステン占領。

一日 ウクライナ戰綫獨軍オデッサへ猛進、北部戰綫ソルジ、ウマン方面に激戰開始。

二日 獨快速部隊オデッサ包圍完成、獨機モスクワ空襲續行。

三日 オデッサ方面蘇軍黒海へ退却開始。

四日 ウクライナ方面蘇軍ドニエプル渡河退却中。

五日 レニングラード攻略を目指す獨芬兩軍カレリア地峽の蘇軍陣地強襲、獨軍キルヴ、エリセヴァー兩市占領。

蘇聯首相、駐蘇英米兩大使より英米の援蘇、モスクワ會談開催に關するメッセージ受理、同會見に於て近く右會談をモスクワに開催する旨言明

一六日 獨芬兩軍ラドガ湖西岸全域占領。獨總統大本營、全東部戰綫の獨軍の作戦は計畫通り成功裡に進行中と發表。獨軍黒海に面する重要軍港ニコラエフ占領。

一八日 ウクライナ南部地區の獨軍、退却中の蘇軍をドニエブル下流へ追撃中。

一九日 總統大本營、獨軍のドニエブル河西岸全ウクライナ地域占領を發表。

獨空軍、レニングラード周邊の鐵道猛爆。

二一日 東部戰綫北方の獨軍、ノヴゴロド及ナルヴァ占領、レニングラード市危機迫る。

獨軍ドニエブル河口要地ヘルソン占領。

獨ソ戰は八月廿一日を以て滿二ヶ月を經過したが、この間獨軍の進出は南ではウクライナの大部分を席卷しドニエブル河の線さへも突破せんとする形勢を示し、北方ではレニングラードを

(八月廿一日)

獨軍司令部發表

通過を要求せんとしてゐるのではないかとの觀測が行はれてゐた。

「對ソ開戦以來既に二ヶ月、この間獨軍は超人的成功を収めその戰綫を原位置より六百乃至八百キロの地點にまで押し進めた、過去二ヶ月間に優勢なソ聯軍を徹底的に撃破ソ聯軍は統一を失ひ、莫大な數の武器を放棄して退却した、特に注目に價するはソ聯の多數の裝甲車、戰車、航空機が獨軍により鹵獲或は破壊されたことである、二ヶ月間の對ソ戰の獨軍戰果は次の通りである。

- 一、破壊乃至鹵獲した戰車、銃砲及び飛行機、戰車一四、〇〇〇、各種銃砲一四、〇〇〇、飛行機一一、〇〇〇
- 一、捕虜一二〇〇、〇〇〇

獨軍司令部屢次の發表によれば死傷者の數は捕虜の數を遙に凌ぐもので、ソ聯軍は約五百萬の損失を出したと推察される、尙ほ同期間に獨軍並に同盟

陥れんとする態勢である、戰況大要左の通りである。

一、獨ソ双方ともに二ヶ月間の戰闘で敵に與へた損害を發表したが、獨側の數字によれば赤軍の損害は、捕虜百二十萬を含めて五百萬、戰車一萬四千大砲一萬四千、飛行機一萬二千。これに對しソ聯側は獨軍の損害を戦死者百萬を含めて二百萬と稱してゐる、獨軍司令部は正式にノヴゴロド、キンギセツプ、ナルヴァ等三都市の占領を發表したが以上は何れもレニングラード防衛上の第一線の守備陣を形成するものとされ、北方フィンランドからの獨軍南下部隊の肉薄と相俟つて同市の地位は愈々危殆に瀕した模様で、赤軍側でも同方面の指揮官たるウオロシロフ將軍は同市が重大な危機に瀕した事を見て一般市民に對して最後まで同市防衛のため協力を要請したが、これに對し獨側では同市の陥落は既に決定的だとして赤軍がワルシャワその他の愚を繰返さぬ機警告を發してゐる。一、ウク

ライナ戰綫では獨軍の先鋒部隊が數箇所ドニエブル河の線に達したことは確實と見られ、一報道では獨軍一部隊はドニエプロベトロフスクの南方で同河の渡河に成功したとも傳へられる。

一、ドニエブル河の堰堤が果して破壊されたか否かに關しては獨ソ双方から未だ確報がないが、この堰堤の決潰に關してはその下流地域では同河の氾濫で獨軍の進出を阻止し得るかも知れないが、その上流は却つて河巾を狭くして獨軍の渡河を容易ならしむる結果を招く恐れがあるとしてゐる。一、一報道によると獨軍は最近東部戰綫に多數の軍馬の集結を開始したと云はれるがこれは冬期に入り機械化部隊の活躍が困難となつた場合に備へるためのものと見られる。一、アンカラよりの報道によると獨軍の二ヶ師團及び多數の空軍がブルガリアに集結されてゐると傳へられるが、この結果獨側はコーカサス進軍を考慮しトルコに對しダーダネルス海峽の通過乃至は獨軍のトルコ領